土ヲ諳ズル者ヲ召シテ郷ノ名ヲ問ヒ、繪師ヲ召シテ其地形ヲ圖セシメ、幄舍分配ノ時ハ、山城國ヲシテ饌饗ヲ儲ケシムルヲ例トス、行幸ノ當日ニハ、先ヅ節旗ヲ進メ、文武百官乘輿ニ從フ、幼主ノ時ハ、母后同輿ノ儀アリ、節下節旗ノ下ノ大臣以下騎馬ノ陪從、皆唐鞍ヲ用ヰ、女御代以下供奉ノ女官、車ヲ連ネテ衣ヲ出ス等、行裝大ニ他ノ行幸ニ異ナリ、上ハ院宮ヨリ下ハ庶人ニ至ルマデ、或ハ棧敷ヲ設ケ、或ハ路頭ニ群集シテ之ヲ拜觀ス、御禊ノ地亦一定セズ、平城天皇ハ、初メ葛野川ニ於テシ、後再ビ近江國大津ニ於テシ給ヒ、嵯峨天皇ハ松崎川ニ幸シ、淳和天皇ハ佐比河ニ幸ス、仁明天皇以後ハ鴨河ニ於テセラル、東山天皇ノ貞享以後ハ、河上ノ行幸ヲ廢シテ、清涼殿ノ東庭ニ於テ之ヲ行ヒ給フコト、ナレリ、又撿挍行事以下內外祭儀ニ預ル職員等ノ解除ニハ、九月ニ荒見河ニ於テ祓禊アリ此祓畢テ後、齋場ヲト定スル例ナリ、後世ハ紙屋川ニテ行フ、又八月ヨリ十月マデハ、晦日每ニ大祓アリ、十一月晦日ニ至リテ、在京諸司ノ解齋大祓ヲ行ヒ、十二月上旬ニ至リ、齋郡ノ解齋大祓ヲ行フ、

卯日平明、神祇官幣帛ヲ祈年祭案上ノ神祇ニ班チ、夜ニ及ビテ天皇廻立殿ニ行幸アリ、沐浴ノ後祭服ヲ著ケテ悠紀ノ正殿ニ御ス、小忌大忌小忌大忌ハ、即チ小齋大齋ナリ、職員ト定ノ時、トニ合フヲ小齋トシ、其他ヲ大齋トス、小齋ノ人ハ、特ニ齋戒ヲ嚴ニシ、小忌衣ヲ著テ神膳等ヲ奉仕スレドモ、大齋ノ人ハ、天皇沐浴ノ後ハ、大嘗宮及ビ廻立殿ニ入ルコトヲ得ズ、ノ群官參入ノ後、宮內官人、吉野ノ國栖ヲ率ヰテ古風ヲ奏シ、悠紀ノ國司歌人ヲ率ヰテ國風ヲ奏シ、出雲、美濃、但馬等ノ語部ハ古詞ヲ奏シ、隼人司ハ、隼人ヲ率ヰテ風俗ノ歌舞ヲ奏ス、次ニ天皇親ラ神饌清酒ヲ神祇ニ供ジ、亦自ラ御饌ヲ喫シ給フ、既ニシテ廻立殿ニ還御シ、更ニ沐浴シテ祭服ヲ改メ、主基ノ正殿ニ御ス、國栖以下ノ奏、及ビ薦享ノ式、悠紀ニ同ジ、辰日ハ悠紀ノ節會ニシテ、御膳及ビ白黑酒ヲ天皇ニ供ジ、臣下ニモ亦饗膳ヲ賜フ、悠紀國司ヨリ多米都物鮮味等ヲ獻ジ、又插頭和琴等ヲ獻ズ、壽詞ノ奏アリ、標山ヲ立ツル事アリ、壽詞ノ奏トハ、中臣ノ天神壽詞ヲ奏スルヲ謂フ、古ハ此時忌部ノ神璽ヲ奉ル事アリシガ、此禮早ク絕エタリ、標山ハ悠紀主基兩國司ノ列立スベキ標木ニシテ、山形ヲ作リ、種々ノ裝飾ヲ施セルモノニテ、卯日齋場ヨリ供神物ト共ニ之ヲ輓ク、是亦東山天皇貞享以後ハ廢絕セリ、巳日ハ主基ノ節會ニシテ、壽詞ノ奏ナク、白黑酒ヲ供ズル事ナシ、其他ハ大略辰日ニ同ジ、但辰日ニモ、悠紀節會ノ後ニ、主基ノ節會ノ略儀アリ、而シテ巳日ニモ、亦主基節會ノ前ニ悠紀節會ノ略儀アリ、故ニ辰巳兩日、悠紀主基兩節會アルナリ、而シテ巳日ニハ、主基節會畢リテ後、豐樂殿ノ後房淸暑堂ニ臨御シ、終夜神宴御遊アリ、之ヲ淸暑堂御神樂ト云フ、後世他殿ニテ節會ヲ行フ時ハ、便宜ノ所ヲ淸暑堂代トシテ行ハレタリ、午日ニハ豐明節會アリ、悠紀主基兩國司、及ビ群臣ヲ豐樂殿ニ會シテ宴ヲ賜フ、吉野國栖歌笛ヲ奏シ、久米舞アリ、吉志舞アリ、五節舞アリ、宣命使宣命ヲ讀ミ、群臣祿ヲ賜ヒテ退出ス、其他御膳、獻酒等ノ次第、他ノ節會ニ異ナルコトナシ、未日ニハ、神祇官幷ニ諸司六位以下ノ官人、及ビ齋國ノ郡司役夫等ノ敍位賜祿ノ事アリ、但他ノ日ニ於テセシコトモ少カラズ、殊ニ其他ノ人々及ビ女官ノ敍位賜祿等ハ、或ハ卯日以前ニ行フコトアリ、或ハ未日以後ニ行フコトアリ、又古ハ兩齋國ノ租庸ヲ免ズル事アリ、其地ノ貢獻多端ニシテ、負荷甚ダ重キヲ以テナリ、蓋大嘗祭ノ用途ハ、當初ハ兩齋國ヲ始メ、山城及ビ河內以下ノ五國、紀伊以下ノ三國等ノ如ク、特ニ其國郡ヲ定メテ負擔セシメシガ、後ニハ一般ニ諸國ニ課シテ、段米、段錢ヲ徵發スルアリ、又成功ヲ募リテ其足ラザルヲ補フコトモアリシナリ、德川氏ノ時ニ至リテハ、一切ノ用途ヲ擧テ、幕府ヨリ之ヲ支辨セリ、其他大嘗宮以下諸殿ノ裝飾、儀仗、調度、祭具雜器、及ビ職員ノ齋服、歌詠本文等ニ至リテハ、事多端ニ涉レルヲ以テ、今一々解說スルニ遑アラズ、

抑大嘗祭ハ前ニモ略陳セルガ如ク、其義全ク新嘗祭ニ同ジキヲ以テ、古ハ大嘗ヲモ新嘗ト

名稱

書シ、新嘗ヲモ大嘗ト書シテ、其區別明ナラズ、故ニ清寧天皇二年十一月ノ大嘗、皇極天皇元年十一月ノ新嘗ノ如キハ、其ニ即位ノ大嘗ノ如クナレドモ、其實果シテ如何ナリシカ、之ヲ知ルベカラズ、天武天皇ニ至リ二年十一月ニ、即位ノ大嘗アリテ、其五年及ビ六年ニ新嘗ノ事アリ、是ニ至リテ大嘗新嘗ノ區別稍明ナリ、ザレバ天武天皇以前ナルハ、都テ新嘗祭篇ニ載セ、此篇ニハ專ラ天武天皇以後ノ大嘗ヲノミ收メタリ、（此等ノ事ハ新嘗祭篇ニ詳ナリ就テ看ルベシ、）而シテ貞觀儀式ノ制、受禪ノ天皇ハ、其即位七月以前ニ在ラバ當年大嘗ヲ行ヒ、八月以後ナラバ、明年ニ行フベキ事ト定メタリ、サレド古來變例ナキニアラズ、淳仁天皇ハ、八月ニ即位シ、其十一月ニ之ヲ行ヒ、後白河天皇、後伏見天皇ハ、共ニ十月ニ即位シ、其十一月ニ之ヲ行ヒ給ヘリ、是レ竝ニ即位後、時ヲ經ズシテ直ニ行ヒ給ヒシ例ナリ、之ニ反シテ即位後種々ノ事情ニ由リテ延引セシアリ、持統元明、平城、嵯峨、文德、朱雀、三條、安德、順德、四條、後土御門、櫻町等ノ天皇是ナリ、又先帝ノ崩後ヲ承ケ給フ所謂諒闇登極ノ天皇ハ、必ズ諒闇期滿ノ後ニ大嘗ヲ行ヒ給フ例ニテ、平城、文德等ノ天皇是ナリ、而シテ國郡ト定及ビ御禊等ヲ行フ後、故アリテ翌年ニ延引スル時ハ、御禊ハ必ズ復ビ之ヲ行ヘドモ、國郡ト定ハ再ビ行フ事アリ、或ハ行ハザル事モアリテ一樣ナラズ、其他一帝ニシテ、再ビ大嘗ヲ行ヒ給ヒシアリ、稱德天皇是ナリ、或ハ全ク大嘗ヲ行ヒ給ハザリシアリ、崇光天皇是ナリ、後世兵亂相踵ギ、朝廷ノ典禮大ニ衰フルニ及ビテ、此大典モ亦舊制ノ如ク行フコト能ハズ、後土御門天皇ノ文正以後ハ、永ク中絕セシガ、東山天皇ノ貞享四年ニ至リテ再興セラレシニ、中御門天皇ノ時復タ行ハレズ、櫻町天皇ノ元文三年、更ニ復興セラレテヨリ以來、永ク歷朝不刊ノ大典ト爲レリ、

【類聚名義抄】大嘗　オホムベ

【釋日本紀】（秘訓二十）大嘗　オホニヘ　私記說

【古事記上】爾速須佐之男命、（略）中亦其於聞看大嘗之殿、屎麻理散、

【古事記傳八】大嘗、書紀には新嘗とのみあり、同じことなり、續紀廿六（二十五丁）には大新嘗ともあり、何れも意富爾閉（オホニヘ）と訓べし、（略）中さて後世には、踐祚大嘗を大嘗と云、每年のを新嘗と分て云へども、古は通し云て同事なり、

【日本書紀十五清寧】二年十一月、依大嘗供奉之料、遣於播磨國司山部連先祖伊與來目部小楯、

【日本書紀通證二十】大嘗、天武紀訓於保屡倍、仁德紀苞苴訓同、而古事記作大贄、其義可見、蓋大嘗之日、始出于此、而古者不必別大嘗新嘗、故顯宗紀作新嘗、

【天智天皇外記】二年戊辰十一月二十四日癸卯、行大嘗祭、王者一世一度大祭始于此、（日本決釋）

【續日本紀二十稱德】六天平神護元年十一月庚辰、詔曰、（略）中大嘗乃政事乎取以奉供（爲之念）行天奈毛位冠賜久宣、（略）中又詔曰、今勅久、今日方大新嘗、乃猶（爲比能）豐明聞行日仁在、（下略）

【大日本史神祇四】按大嘗、蓋大新嘗之約、續日本紀宣命有大新嘗之語、可以證也、

【八雲御抄三】大嘗會は、おほんべと云、

【古今和歌集二十大歌所】眞金ふくきびの中山おびにせるほそ谷川の音のさやけさ

此歌は承和の御べのきびの國の歌

【古今餘材抄二】おほむべは大嘗也、おはなめともいへり、（略）中御べと書るは誤也、

【古今集遠鏡六】千秋云、おほんべは、大嘗のにを音便にんといひ、べを濁るは、上をんといへば也、

【名目抄】（臨時）大嘗會

【下學集（態藝）】大嘗會（天子即位之年、以其新米獻伊勢大神宮、謂之大嘗會、十一月卯日也、）

【神道名目類聚抄（祭祀五）】大嘗祭（オホムベノマツリ）　大嘗會（ダイジヤウエ）

【鹽尻四】大嘗會　大嘗會（證記祭統曰、外祭則郊社是也、內祭則大嘗禘是也云々、我國大嘗會本之者也、）

〔空穗物語忠こそ〕このおびをさすこと、大ぞ。やうぞ。ことしのないえんになんさしつる。〇下略

〔代始和抄〕大嘗會事

大嘗會は、一代一度の大神事なり、令書には、おほむべと訓せり、毎年に行はるゝをば是を新嘗會といふ、新嘗の二字、日本紀にはにひなめとよめり、嘗はなむる也、新穀をなめんとして、まづ神祇にこれを供ずるを嘗の祭といふ、和漢の義その心おなじ、大嘗も新嘗も、共に十一月中の卯の日也、さだまれる例也、〇中略御卽位は漢朝の禮儀をまなぶものなり、大嘗會は神代の風儀をうつすもの也、

大嘗會の式をば、前行の大臣作進するものなり、

〔大嘗會儀式具釋〕大嘗會ト云ハ、其年ノ新穀ヲ天子ミヅカラ天神地祇ヘ供ジ、天子モ亦キコシメシタマフ義也、大ハ大小ノ義ニハ非ズ、尊稱也、大嘗ト云ハ御嘗ノ義也、訓ジテオホンベト云、又新穀ヲ供ズルガ故ニ、新嘗トモ云抑大嘗ノ字ハ、古事記ニ天照大御神聞召者大嘗トアル是初ナリ、卽是ヲ日本紀神代上ニハ新嘗ト記セリ、サレド是ハミヅカラキコシメスノミニテ祭ニハ非ズ、其後日本紀神代下ニハ天稚彦之新嘗トアルモ亦同ジ、人代ニ至リテハ、日本紀仁德天皇四十年ニ、當新嘗之月、以宴會日賜酒ト見エ、古事記履中記云、坐難波宮之時、坐大嘗而爲豐明之時、於大御酒宇良宜而大御寢也ナドヽ見エタレドモ、何樣ニ行ハレタルヤ知ベカラズ、日本紀清寧天皇二年十一月ニ、依大嘗供奉之料遣於播磨國司山部連先祖伊與來目部小楯ト見エタリ、其播磨國ハ齋國ナルト見エタレバ、大嘗ノ儀ハ正シク此時ヨリ初マルトヤイフベカラン、マタ顯宗天皇二年十一月ニ、播磨國司伊與來目部ノ小楯於明石郡親辨新嘗供物ト見エ、天武天皇五年九月ニ、爲新嘗卜國郡也齋忌則尾張國山田郡、次丹波國訶沙郡ナドヽモ見エタレバ、昔ハ大嘗トモイヒ、又新嘗トモ云テ、サシテ差別モ見エズ、其後大寶元年ノ令ニ至リテハ、スベテ大嘗ト云テ、其中ニ毎年行ハルヽハ事小ニシテ、御一世ニ一度ヅヽ行ハルヽハ事大ナルヲ、其ニ新嘗トハ云ハザリシ、令ヨリ後ノ國史貞觀延喜等ノ書ニ至リテハ、御一世ニ一度ヅヽノ事大ナルバカリヲ大嘗ト云テ、毎年ノハ新嘗ト云ヒ別ル事ニ成テ、今世マデモカクノ如シ

〇按ズルニ、本書大嘗新嘗ノ辨ニハ誤アリ、是ハ新嘗祭篇ニ詳ナレバ就キテ看ルベシ、

〔令義解神祇〕凡天皇卽位、總祭天神地祇、謂卽位之後仲冬乃祭、下條所ㇾ謂大嘗者、毎世一年、國司行ㇾ事、

〔延喜式四時祭〕凡踐祚大嘗祭爲大祀、

〔儀式一〕踐祚大嘗祭儀

天皇卽位之年七月以前卽位、當年行ㇾ事、八月以後、明年行ㇾ事、謂ニ受譲卽位一非ㇾ謂ニ諒闇登極一、

〔三代實錄陽成三十一〕元慶元年十月卅日丁酉、所司大祓於朱雀門、緣欲供奉大嘗會也、十一月戊戌朔、頒告百官五畿、豫禁凶事、凡天皇受譲踐祚、七月以前卽位者、當年行事、八月以後者、明年行事、

〔延喜式七踐祚大嘗祭〕凡踐祚大嘗、七月以前卽位者、當年行事、八月以後、明年行事、

〔北山抄一五〕大嘗會事

天皇卽位之年七月以前卽位、當年行ㇾ事、八月以後、明年行ㇾ事、謂卽位儀乎、

〔延喜式十一太政官〕凡踐祚之初有大嘗祭、〇中略大臣奉勅召神祇官、卜定悠紀主基國郡、卜竝封之奏可訖、卽下知依例准擬、又定撿校行事、八月遣使兩國、卜抜穗田及齋場雜色人、令行事、幷仰諸國造供神器、九月造齋場、織神服、備供神物、十月遣諸國大祓及差奉幣使發遣、卽天皇臨幸川上爲禊、十一月爲散齋月、自朔至晦月內致齋三箇日、自丑至卯前祭七日造大嘗宮、寅日以前內外廐事整齊已畢、卯日旦神祇官班幣帛於諸神、小齋人率所司供擬大嘗宮服御物、諸衞立仗、司陳威儀物、如元日儀、兩國供物發自齋場向大嘗宮、神祇官引神御物入收大嘗宮、所司各供其職、

凡〇中略辰日祭事畢、鎭祭大嘗宮、卽令壞却車駕臨豐樂院、群官入就位、中臣奏天神壽詞、辨大夫奏獻

物數史須給諸司兩國應御膳給饗五位以上及六位奏國風亦如常儀巳日應御膳給饗奏國風並同辰日但亦奏和舞田舞午日召五位已上及六位同前日叙位兩國司及諸氏人等又奏久米舞吉志舞幷大歌五節舞供奉解齋和舞訖賜祿皇太子上給祿諸司六位已下給祿兩國主典已下叙位及未日參議一人行事辨大夫宣命遣使兩齋國解齋晦日在京諸司集祓如二季儀亦見二儀式一

國郡卜定

〔塵添壒嚢抄五〕悠紀主基事

和訶集事書ニ、大嘗會ノ悠紀方主基方アルハ何事ゾ悠紀主基共ニト食（ウラバミ）ノ心アレ共、先悠紀ハ神事ニ潔齋スル義也、サレバ日本紀ニハ齋忌ト書テ、ユキトヨメリ、潔齋ノ故也、主基トハ次ト云心也、大嘗會ノ時、神祇官ニ仰テ、御門新嘗シテ聞食ス時ノ國ハ、何クカ可レ能カルト御トアルニ、神ノ御心ニ叶ヒテ、其國ヲトト食（ウラバミ）トハ云、墨ヲ以テ龜ノ形ヲ畫テ是ヲ燒クニ、ヤケテ行方ヲトトニ合ストハ云也、其方ノ米ヲ新嘗ニ用ラルレバト食トハ申也、〇中略近比ハ只悠紀ハ近江國バカリ、主基ハ丹波ト備中ト打替々々勤ムル也〇中略昔ハ其國不レ定、今三箇國ヲ定様ナルハ、近來ノ事ナルベシ、此トヲ龜トト云也、

〔玉勝間八〕大嘗ゆきすきの國

大嘗の悠紀主基は、かならず京より東と西なる國を定めらるゝやうに見えたれども、さしもあらざるにや、神龜元年の度は、由機備前國須岐播磨國也、天平神護元年の度は、由機美濃國須岐越前國なりき、

〔代始和抄〕大嘗會事

大嘗會には悠紀主基の國郡の定あり、悠紀は齋忌といふ心なり、神齋の事也、主基は次といふ文字をすきとよめり、次の神齋といふ心也、次といへばとて天地懸隔の心にはあらず、たとへば左右前後なといふ程の事也、大嘗會神膳の儀兩度あるに依て、後の度のをばすきといふなり、悠紀主基者相繼于湯貴同可齋忌之故用次字、

主基字和訓なり、神事潔齋の心のみ也、

國郡卜定は、二月より九月にいたるまで八ヶ月の中は、毎月其例あり、皆即位以後の事也、但後白河院は久壽二年九月十三日國郡卜定、十月廿六日即位の事あり、後伏見院永仁六年八月廿五日卜定、十月十五日即位の事有、此兩度は即位以前まづ國郡卜定あり、尋常ならずといへども共に以て佳例たり、多分は四月中に行はるゝ事也、國は上古は定れる事なし、延喜以後近江をもて悠紀とし、丹波備中をもてかはるがはる主基とす、但後冷泉院は播磨をもて主基とす、郡は卜定に依也、其儀大臣陣に著て、國郡の名を書て、神祇官に給て卜定せしむ、執筆の參議これを清書して奏聞のゝち、辨に給て官に下知せしむる也、

〔大嘗會便蒙上〕先國郡卜定といふことあり、是は悠紀主基の國郡を何の國何の郡とうらなひ定めらるゝ儀式也、悠紀とは、日本紀の私記にいはひきよなはるの辭といへり、されどいつさといふ詞にもあらんか、主基とは、次といふ義にて、悠紀に次でものいみする意也、扨悠紀主基にあたりたる兩國の國司、其年の大嘗の事を奉行し、且大嘗の時に奉らるゝ御飯白黒の御酒等も、悠紀にあたりたる國の悠紀に當りたる郡、主基にあたりたる國の主基に當りたる郡、兩郡の稻を用ゐらるゝ事也、故に前びろにうらなひ定めらるゝ事也、是は八月の内にて日を撰みて定めらる、

〔柱史抄下帝王〕悠紀主基叙位宣命用杖例狀

國史曰、古語云悠紀是齋忌之國、主基次之國云々、日本紀私記云、師說、湯者潔齋之儀也、今云由紀者是湯之義也云々、主基者是其次也、然則湯者伊波比支與麻波留之詞也

〔釋日本紀十五遠義〕齋忌、次、

私記曰、古稱須支、師說次於齋忌也、今稱主基者訛也、先師說曰、謂悠紀者湯貴也、是則浴湯齋忌之義也、主基者相繼于湯貴同可齋忌之故用次字、

〔玉勝間一〕悠紀主基

大嘗の悠紀主基の主基の事、書紀の私記に、師説次於齋忌也といへるより、今に至るまで人皆此意とのみ心得ためれど、ひがこと也、かの説は、天武紀に、齋忌此云踰既、次此云須岐とあるによれるなれども、齋忌こそ此字の意なれ、次は借字にして、此字の意にはあらず、古はすべて言だに同じければ、字は意にはかゝはらず借て書るに、次を須岐ともいへるから、言の同じきまゝに借て書ならへるを、そのまゝに書れたる物也、次の意にあらずといふゆゑは、悠紀と主基とは、何事も二方全く同じさまにして、一事もいさゝかのおとりまさりあることなければ、次といふべきよしさらになし、天武紀なるは借字なること疑ひなき物をや、主基は禊（ミソギ）の曾岐（ソキ）と同言にして、濯（すゝ）といふことなり、みそぎも身濯（ミソヽキ）にて、そゝぐとすゝぐと同じきを共につゞめてるぞかし、

〔儀式二〕踐祚大嘗祭儀

天皇卽位之年○略中大臣奉勅召神祇官、密封令ト定悠紀主基國郡、奏畫訖卽下知其國（官符在別卷、國司、官符并牒事、急者駅傳、自餘附在京使并雜掌、下同、凡送諸）

〔儀式四〕踐祚大嘗祭儀

須下諸司諸國官符宣旨例

太政官符其國司

應供奉悠紀事（主基亦同）

右得神祇官解偁、應供奉大嘗會悠紀彼國其郡ト定如件者、國宜承知、符到奉行、

史位姓名

辨位姓名

年月日下皆同

太政官符五畿內七道諸國司

其國悠紀（其國主基）

右被大臣宣偁、前件兩國、今年應供奉大嘗會、宜仰諸國、件兩國所誂事、早速令行、勿致拘留者、諸國承知、依宣行之、

〔江家次第十五踐祚〕大嘗會

ト定悠紀主基國郡事

或先被勘ト定日時（天慶九年例）

又仰外記、令召設神祇官（或仰辨）

大臣以下著左仗、藏人仰可令ト申件國郡由、

或先公卿等定申某國

大臣奉仰著外座（第一大臣座）、仰官人、令敷膝突、召外記問神祇官參否（像仰辨者、可問辨、）

又仰辨官、令敷座於軒廊、

掃部寮敷座、主殿主水設水火、大膳奉坏、

仰外記、令進硯紙等、外記獻之（硯筥入紙四枚）

仰外記、令召神祇官、神祇官引寮官、參入自日華門著軒廊座、

大臣自書兩國郡名（每郡四枚）

天慶九年右大臣（小野宮藤原實頼）○書近江四郡備中二郡、令藏人辨奏之

承平元年左大臣（貞信公藤原忠平）著陣、令大辨書之、依爲攝政歟、

每國二郡書之

一枚
近江國　坂田郡
一枚
近江國　愛知郡
一枚
備中國　英賀郡
一枚
備中國　下道郡

書畢後召外記令封之、不加懸紙、外記具小刀參入封之、

大臣取之入筥　外記退出

大臣召神祇官第一人名、四位召官如恒其人稱唯進就膝突、

大臣乍筥給之、

神祇官取之復座、卜訖返上復座、封下注乙不合若丙合、若不合皆注不合者、大臣又召外記令進紙書之令封令卜如初、

大臣召外記令開之見了、留前神祇官退出、

大臣召外記令撤視筥

近例或外記便置參議座、是不可然歟、猶持出後更進也、

大臣召外記令進例文幷折堺紙、外記進之例文進大臣入筥、入往代例文二卷補任二卷今度可行事」

人人交名一紙折堺、進參議座、

太臣目參議、參議進候、

大臣給卜文幷風記等、入筥參議取筥復座書之、參議書畢入筥返上之、

大臣見了、令藏人奏之、入筥、乍居座令奏之、

奏下了、大臣先召大外記給勘按行事文、入筥例文等同入之、不合卜形

次又召辨給卜文、執手給之

大臣所書之卜形、或相添下辨云々、或亦只下參議所書、

次退出

後日外記、返上不合卜形等於大臣云々、

悠紀　近江

滋賀　栗太　甲賀　野洲　蒲生　神埼　愛智　犬上　坂田　淺井　伊賀　高嶋

主基　丹波　丹波備中代充之

桑田　船井　多紀　氷上　天田　何鹿

備中

都宇　窪屋　賀夜　下道　淺口　小田　後月　哲多　英賀

寛平近江愛智、丹波多紀、　天慶備中近江野洲、下道、
承平近江神埼、丹波氷上、
天祿近江坂田、丹波氷上、　寛和備中近江野洲、下道、
永觀近江高島、丹波天田、
長和近江甲賀、備中下道、　長元近江愛智、丹波氷上、
延久近江坂田、丹波多紀、　寛治近江甲賀、備中英賀、

〔神祇官年中行事臨時〕大嘗會

國郡卜定、中臣二人、卜部兩三人參陣、吏生兩三人、

〔大嘗會儀式具釋〕國郡卜定次第

諸卿著仗座」

康保近江野洲、播磨飾磨、
寛弘近江坂田、丹波天田、
治曆近江愛智、備中英賀、

諸卿トハ當日出仕ノ公卿ナリ、仗座トハ陣座トモ云ニ同ジ、是ハ紫宸殿ノ南階ノ左右ニ、近衞ノ官人警衞ノ爲ニ兵仗ヲ帶シテ陣列スル所ナリ、東ハ左近ノ陣左仗トモ云、西ハ右近ノ陣右仗トモ云、其兩陣ノ後ニ當リテ、廊ノ座ニ著ヲ陣座ニ著ト云、儀式ニ依テ或ハ左仗ニ著、或ハ右仗ニ著、國郡ト定ノ陣座ハ本儀式左仗ナルガ、江次第ニハ大臣以下著左仗トアリ、然レドモ今ノ禁中ニハ、西廊バカリアリテ東廊ナシ、仍テ右近ノ陣座ノミナレバ、陣座ノ儀皆右仗ニテ行ハルヽナリ、昔ハ參議以上悉著座セシカドモ、中古以來ハ諸事アラカジメ定リテ、唯儀式バカリニ著座スルコトナレバ、集會シテモ益ナク、且座モセマキニ依テ六七許人出仕スルナリ、〇中略著座ノ樣ハ、中納言以上ハ陣座ノ西邊ニ東面北上、參議ハ陣座ノ南邊ニ北面東上、

職事來仰二仰詞一

職事トハ、昔ハ諸官ノ當官ノ事ヲ云シヲ、中古以來ハ藏人ノ事ヲ云コトニナレリ、藏人ニモ藏人頭、五位藏人、六位藏人ナドアリ、此所ハ五位ノ藏人也、來トハ陣座ニ來ルナリ、仰詞ハ卽勅ニテ、其詞ハ大嘗會ノ國郡ヲトヒ申サシムベシト云ナリ、職事出來リテ內大臣ノ右ノ方ノ後ヨリ內大臣ニコレヲ申ス、

上卿移二著端座一

上卿トハ、上ハ上下ノ義ニハ非ズ、ツカフル義也、公卿若干ノ中ニテ一人專ラ其日ノ事ヲ掌ル人ヲ上卿ト云、俗ニイハヾ當番ノ公卿ト云ガ如シ、今日ノ上卿ハ卽內大臣也、端座ハ又外座トモ云、陣座ノ東北ノ端ナリ、內大臣モ初ハ西邊ノ最北ノ座ニ在テ、大中納言ト一列ニ著座セラルル、仰詞ヲ承テヨリ座ヲ起、陣座ノ西ヘ下リテ、大中納言ノ後ヲ經テ南ニ行、宣仁門ヲ入テ、參議ノ後ヲ經テ東ニ行、左ニ折テ北ニ行陣座ノ最北ニ當リテ東方ヨリ西面シテ座ニック、膝ヲ直ス時左ヘ捻テ南面ニ著座セラル、卽初著座セラレシ座ノ向ナリ、是ハ一上ノ座ナル故、一上ナル人ハ初ヨリ此座ニ著ス、一上ニ非ザル人ハ、仰詞ヲ承テ後ニ此座ニ移リ著ナリ、大臣タル人上卿ナレバ、其移リ著トテ座ヲ起レシヨリ端座著座セラレテ、座定マルマデノ間ハ、參議平伏ス、大中納言ハ拘ラズ、今度モ上卿內大臣ナル故ニ此儀ノ如シ、

次上卿令二官人一敷二膝突一

官人ハ陣官人ナリ、下皆同ジ、〇中略膝突ハ半疊ノ薄緣ナリ、白緣アリ黃緣アリ、大嘗會ニ用キラレシ膝突ハ、皆白緣ナリ、左ニ見エタル職事、辨、外記、中臣等ノ著タメニ、上卿ノ座ノ左ノ方ノ前ニコレヲ敷ナリ、勿論陣ノ座ノ中ニハ非ズ、

次上卿令二官人一召二大外記一、大外記參二膝突一、〇略中次少外記置二硯紙於上卿座前一、〇略中次上卿問二神祇官參否一、〇略中外記申二候由一、〇略中次上卿仰二可レ持二參硯由一、〇略中次少外記置二硯紙於上卿座前一、〇略中上卿書二國郡名一、

此事蓋昔ハ數國數郡ノ名ヲ書立テ、其中ニテトヒシコトナレドモ、延喜以後ニ至リテハ既ニ定リアリテ、悠紀ハ必近江國、主基ハ丹波國ト備中國トヲ更ニ充テヽ、一枚ニ一郡ヅヽ、一ケ國ニテ二郡ヅヽヲ書ナリ、假令バ一枚ハ近江國滋賀郡、一枚ハ近江國栗太郡、又一枚ハ丹波國桑田郡、一枚ハ丹波國船井郡ナドヽ、合紙四枚ニ書ナリ、〇中略

次上卿召二外記一、仰可レ持二參筥一由、外記持二參置一上卿前一、〇略中次上卿入ト申於二筥仰一外記一令レ封レ之、外記封畢進二上卿一、〇略中次上卿書二封字一入レ筥、〇略中次上卿令二官人一召二辨、辨參二膝突一、〇略中次上卿仰可レ敷二神祇官座一由、〇略中次掃部寮敷二座於軒廊南面東上一主殿主水儲二水火、大膳奉レ杯、〇略中

軒廊、今ノハ紫宸殿ノ西階ノ下ヨリ西廊陣座マデノ間ニ、東西ニワタシタル廊ナリ、殿ノ軒下ニアル故ニ軒廊ト云、今度此座ハ軒廊ノ北邊東第一ノ柱ノ外ヨリ、東第三ノ柱ノ內マデニ、白緣ノ軾（ヒザツキ）五枚ヲ敷ク、左ニ見エタル神祇官人ノ著ク料也、主殿寮ハ薪炭ノ事ヲ掌ル故ニ、入角ノ火鉢二ツニ炭火幷ハヽカノキ、庭櫻ノ薪ヲ添テ、今度五枚ノ軾ノ內、東ヨリ第四第五ノ軾ノ前

ニ、中央ヨリ少シ右ノ方ヘ寄テコレヲ置、是ハ龜ヲ灼ク料ナリ、○略中主水司ハ水ヲ入テ、東ヨリ第四第五ノ軾ノ前、火器ノ左ノ方ニコレヲ置、是ハ灼タル龜ニ水ヲ引ワザアリ、其料ナリ、○略中

次上卿召二官人一、召二外記一、仰可レ召二神祇官由一、

是ハ神祇官人ヲ陣座ヘ召ニハ非ズ、神祇官人軒廊ニ著座スベキ由ヲ外記ニ仰スルナリ、故ニ貞享○山東ノ次第ニハ、仰二神祇官一可レ著レ座由一トアリ、

次神祇官著座

今度○元文三年權大副吉田三位雄卿、少副長矩伊勢大宮司、權少副兼成吉田淡路守、權少副敬芳鈴鹿周防守、權大祐章茂鈴鹿豐後守、以上五人、束帶日蔭心葉ヲカケ、當日巳刻吉田ヨリ行列參內清和門ヨリ下乘シテ入リ宣仁門ノ外ニ留マリ、著座スベキ由ノ仰ヲ承テ宣仁門ヨリ入、軒廊ト陣座トノ間ヲ斜ニ北ノ方ヘ行テ、軒廊ノ北ノ方ヨリ著座ス、南面東上、但江次第ニ見エタルハ、國郡ト定軒廊御ト共ニ日華門ヨリ入、東廊ナレバナリ、今ハ西廊ナレドモ、是ニ准セバ月華門ヨリ入ベシ、宣仁門ヨリ入コト所見アルニヤ、

次上卿召二中臣一賜レ筥、仰可二ト申由一、中臣授二筥於ト部一、

中臣ハ神祇官伴部ニテ、祝詞ヲ讀ミ、其外ノ神事ニテハ其職ノ沙汰ニ及ズ、唯中臣氏ナル故ニ、今中臣氏ナレバナリ、ト部モ同ジク神祇官ノ伴部ニテ、龜ヲ灼テ事ヲトシ、又ハ解除其外ノ神事ニモ預リ勤ムル者也、必ト部氏ナル故ニ、今ニテハ其職ノ沙汰ニ及ズ、只ト部氏ナレバト部ノ役ニ充用ユル也、今度ハ權大副及兼成敬芳章茂勤ム、並ニト部氏ナリ、長矩上卿ノ召ニ應ジテ、軒廊ノ座ヨリ起テ陣座ニ向ヒ、上卿ノ前ニ至ル、上卿ト串ノ入タル筥ヲ授ケテトヒ申スベキ由ヲ仰ス、長矩筥ヲ受テ退キ、軒廊ニ至リ權大副ニ授ケテ、本ノ座ニ復ス、○略中

次ト部ト訖、書ト合レ授二中臣一、中臣返進ト串筥、

今度此龜ト、ノ態ハ敬芳章茂兩人ニテコレヲ勤ム、預メシヤレタル龜甲ノ至リテ薄キ長サ八寸ナルガ、頭ヲ三角、尻ヲ二角ニ、象棋ノ駒ノ形ノ如ク切成シタルヲ四枚、錦ノ切ニ包ミ、葛筥ニ入テコレヲ具ス、而シテ櫨大副其龜甲ヲ取上テ、筆ヲ以テ先中央ニ下ノ端ヨリ上ノ端ヘ竪條ヲ畫ス、次ニ墨ヲ點ジテ、其竪條ノ中央ヨリ一寸三四分下ニ當リテ、中央ヨリ右端マデ橫條ヲ畫ス、次ニ墨ヲ點ゼズシテ、竪條ノ中央ヨリ一寸三四分上、初メ畫セシ橫條ヨリハ二寸六七分上ニ當リテ、中央ヨリ左ノ端マデ橫條ヲ畫ス、如此四枚ナガラニ墨ヲ畫シテ、錦ノ切ニ包ミ筥ニ入テ、右ノ方ヘ押遣ル、兼成取テ又右ノ方ヘ押遣ル、長矩取テ又右ノ方ヘ押ヤル、敬芳其龜甲二枚ヲ取出シテ我前ニ置、二枚ハ筥ニ殘シテ右ノ方ヘ押ヤル、章茂二枚ヲ取出シテ我前ニ置ク、而シテ敬芳モ章茂モ同時ニハヽカヲ燃テ、龜甲一枚ヲ挾竹ニ挾ミテ、是ヲ灼ク、灼了リテ龜甲ニ水ヲ引ク、次ニ又敬芳章茂一枚ヅヽコレヲ灼テ、水ヲ引クコト初ノ如シ、而シテ章茂灼タル龜甲二枚ヲ筥ニ入、左ノ方ヘ押ヤル、敬芳モ亦灼タル龜甲二枚ヲ筥ニ加入テ押遣ル、次ニ兼成次ニ長矩、初ノ如ク次第ニ左ヘ押ヤリテ、權大副ノ前ノ右ノ方ニ至ル、權大副先敬芳ガ灼タル龜甲一枚ヲ取出シテ、我前ノ少シ左ヘ寄セテコレヲ置、是ヲ左ノ一ト云、次ニ同人ガ灼タル一枚ヲ、左ノ一ノ左ニ竝ベ置、コレヲ右一ト云、次ニ同人ガ灼タル一枚ヲ右一ノ右ニ竝ベ置、是ヲ右二ト云筥ハ右二ノ右ニアリ、是ヨリ前ニ權大副ト串ノ封ヲ開キ見テ更ニ封ジ置キ、龜甲ヲ竝ベテ後ニト串ヲ取テ左ノ手ニ持チ、右ノ手ニ筆ヲ取テ左一ヲ委シク見テ、ト串ノ封ノ下ニト合ヲ書其書樣ハト串ノ國郡ノ名四通ヲ甲乙丙丁ト定置テ、假令バ甲合、乙不合、丙合、丁不合ナドヽ書ナリ、書畢リテ

由ヲ仰ス、長矩筥ヲ受テ退キ、軒廊ニ至リ權大副ニ授ケテ、本ノ座ニ復ス、○略中

次ト部ト訖、書ト合レ授二中臣一、中臣返進ト串筥、

今度此龜ト、ノ態ハ敬芳章茂兩人ニテコレヲ勤ム、預メシヤレタル龜甲ノ至リテ薄キ長サ八寸ナルガ、頭ヲ三角、尻ヲ二角ニ、象棋ノ駒ノ形ノ如ク切成シタルヲ四枚、錦ノ切ニ包ミ、葛筥ニ入テコレヲ具ス、而シテ櫨大副其龜甲ヲ取上テ、筆ヲ以テ先中央ニ下ノ端ヨリ上ノ端ヘ竪條ヲ畫ス、次ニ墨ヲ點ジテ、其竪條ノ中央ヨリ一寸三四分下ニ當リテ、中央ヨリ右端マデ橫條ヲ畫ス、次ニ墨ヲ點ゼズシテ、竪條ノ中央ヨリ一寸三四分上、初メ畫セシ橫條ヨリハ二寸六七分上ニ當リテ、中央ヨリ左ノ端マデ橫條ヲ畫ス、如此四枚ナガラニ墨ヲ畫シテ、錦ノ切ニ包ミ筥ニ入テ、右ノ方ヘ押遣ル、兼成取テ又右ノ方ヘ押遣ル、長矩取テ又右ノ方ヘ押ヤル、敬芳其龜甲二枚ヲ取出シテ我前ニ置、二枚ハ筥ニ殘シテ右ノ方ヘ押ヤル、章茂二枚ヲ取出シテ我前ニ置ク、而シテ敬芳モ章茂モ同時ニハヽカヲ燃テ、龜甲一枚ヲ挾竹ニ挾ミテ、是ヲ灼ク、灼了リテ龜甲ニ水ヲ引ク、次ニ又敬芳章茂一枚ヅヽコレヲ灼テ、水ヲ引クコト初ノ如シ、而シテ章茂灼タル龜甲二枚ヲ筥ニ入、左ノ方ヘ押ヤル、敬芳モ亦灼タル龜甲二枚ヲ筥ニ加入テ押遣ル、次ニ兼成次ニ長矩、初ノ如ク次第ニ左ヘ押ヤリテ、權大副ノ前ノ右ノ方ニ至ル、權大副先敬芳ガ灼タル龜甲一枚ヲ取出シテ、我前ノ少シ左ヘ寄セテコレヲ置、是ヲ左ノ一ト云、次ニ同人ガ灼タル一枚ヲ、左ノ一ノ左ニ竝ベ置、コレヲ右一ト云、次ニ同人ガ灼タル一枚ヲ右一ノ右ニ竝ベ置、是ヲ右二ト云筥ハ右二ノ右ニアリ、是ヨリ前ニ權大副ト串ノ封ヲ開キ見テ更ニ封ジ置キ、龜甲ヲ竝ベテ後ニト串ヲ取テ左ノ手ニ持チ、右ノ手ニ筆ヲ取テ左一ヲ委シク見テ、ト串ノ封ノ下ニト合ヲ書其書樣ハト串ノ國郡ノ名四通ヲ甲乙丙丁ト定置テ、假令バ甲合、乙不合、丙合、丁不合ナドヽ書ナリ、書畢リテ

宮ニ入レ長矩ニ授ク、長矩上卿ノ前ニ持參シテ是ヲ返進ス、今度悠紀ハ近江國滋賀郡、主基ハ丹波國桑田郡トニ合フ、

次上卿令官人召外記賜宮仰可開封由、○中略外記開之、○中略次上卿一々披見、畢仰神祇官可退出由、○中略次神祇官退出、○中略次上卿令官人召辨仰可撤座由、○中略次諸司官人撤所初設座幷雜具、○中略次上卿召外記賜硯、外記取之置參議座前、次上卿目參議參議參進、○中略次上卿賜卜串、參議取之復座、書卜合之國郡畢進上卿、○中略次上卿見畢入宮、○中略

江次第ナドニハ、初上卿ヨリ宮ニ入テ參議ニ賜ヒ、參議書畢リテ宮ニ入返上スト見ユ、今ノ儀ト同ジカラズ、

次上卿令官人召職事、職事參膝突、○中略次上卿令奏之、先內奏聞畢返賜、

宮ヲ賜ハト合ヲ入レタル宮ヲ職事ニ渡シ賜フナリ、內覽トハ凡何ニテモ皇帝ニ奏スル文ハ、內覽トテ先關白ニ覽セシメ、其上ニテ奏覽スル事ナリ、此處モ職事先卜合ノ入タル宮ヲ殿上ノ間ニ持參シ關白ニ進ツル、關白內覽畢リテ職事ニ返賜フ、職事卽又御前ニ持參シテ奏覽ス、御覽畢リテ職事ニ返賜フ、職事卽陣座ニ持參シテ上卿ニ進ツルナリ、

此序職事仰撿校及行事等、（註ニ折紙ニ書ヲ）之、○中略次上卿令官人召辨賜卜合文、辨結申、○中略

結申ハカタチマヴスト讀ム、除目結政ナドノ時、數通アル文ヲ一ツニ束ネテコレヲ結固ムルヲ結（カタ）ヌルト云、今此卜合ノ文ハ一通ノミナレバ、賴要受テコレヲ帖ミ固ムルノミ、故ニ古キ儀式ニハ、此所ヲ結申ト云事イマダ見及バズ、

上卿仰詞

仰詞ハ催廻ラスベキヨシヲ仰スルナリ、先ニ奏聞セルト合ノ如ク、悠紀主基ノ國郡ヘ下知セヨトノ義ナリ、

【續日本紀四元明】和銅元年十一月己卯、大嘗、遠江○扶桑略紀、一代要記、竝作近江、但馬二國供奉其事、

【類聚國史八神祇】平城天皇大同二年二月辛酉、將有大嘗之事、伊勢國爲由貴、備前國爲須貴、

嵯峨天皇大同四年四月辛丑、參河國爲悠紀、美作國爲主基、

【續日本後紀仁明】天長十年三月己酉、卜定大嘗會事、以近江國高嶋郡爲悠紀、備中國下道郡爲主基、

【文德實錄三】仁壽元年四月癸丑、定悠紀主基等國、伊勢國爲悠紀、播磨國爲主基、竝卜之所食也、

【三代實錄二清和】貞觀元年四月十五日庚子、是日神祇官卜、以參河國播豆郡爲悠紀、美作國英多郡爲主基、

【三代實錄三十陽成】元慶元年四月十九日庚寅、卜定悠紀美濃國席田郡、主基備中國都宇郡、竝卜食、

【三代實錄四十五光孝】元慶八年三月廿二日癸未、喚神祇官於左仗頭、○中略定大嘗會國、悠紀伊勢國員辨郡、主基備前國和氣郡、竝卜食、

【日本紀略一醍醐】寬平九年七月十四日丁亥、今日政也、以近江國依智郡爲悠紀、丹波國多紀郡爲主基、

【貞信公記】承平元年五月八日、出陣定大嘗會國郡撿校行事、但卜郡不卜國、是依寬平例所行也、見神祇官文簿、

頭書　攝政著陣定大嘗會事、但不卜合、依有前例也、

【日本紀略五冷泉】安和元年三月二日乙酉、右大臣○藤原師尹　參入、被定大嘗會國郡、悠紀近江國、主基播磨國、八日辛卯、大嘗會國郡卜定、去二日大略定兩國、今日被卜定郡、近江國野洲、播磨國飾磨、

【日本紀略六圓融】天祿元年三月五日丙午、於太政大臣○藤原實賴　職曹司、被定大嘗會悠紀主基國、近江丹波、又被卜兩國郡、

【小右記】寬弘九年○長和元年七月廿二日戊子、今日於殿上問予、丹波守匡衡卒、有前例乎、已是主基國也、如何者、答云、國司雖卒去、不可被改、國歟定其國、卜定郡司、亦有何改易乎、相府案無所據、歸宿尋見前

例、藤原高堪、承平二年正月任近江守、悠紀國同年十月卒伴保平、承平二年十一月廿六日任、後日左
宰相中將云、右府示右宰相中將云、主基國司卒去、彼國可被改他國也云々、嗚濟事也、
〔日本紀略十三後一條〕長和五年四月七日庚辰、卜定大嘗會國郡、悠紀近江國甲賀郡、主基備中國下道郡、
〔小右記〕長和五年四月七日庚辰、傳聞被定悠紀主基國之由、悠紀近江、主基備中、卜定於郡、右大臣〇藤原光
云々、八日辛巳、昨日卜定作法、問造大納言〇藤原御許、返狀云、卜定事似不覺、就中不定行事、欲被
奏御卜、然而依彼此示定書被奏了、此間退出、不見後事者、頭中將資平云、昨日右大臣申刻參入、兼不
被戒神祇官攝政〇藤原氣色不宜、多不快御詞、以頭辨經通被傳示悠紀主基國事於右府、悠紀近江、中、
右府被申可卜之郡事、被報云、可卜天慶卜定郡、但今卜之時、每國書二箇郡者也、今一郡撰有嘉字之
郡、上達部相議可被竝卜也、兼可令催諸卿、思忘不催、而上達部參入、相共可被定也、仍卜定、悠紀甲賀
道郡、但卜定了、以頭辨被奏也、卜定了、更以左大辨令書、大外記文義問卜定郡、頭辨云、備中上道文義
云、上道者備前郡名也、備中有下道郡、頭辨驚而招出左大辨道方、相議摩上字改書下字、大臣大辨內
內改書如何、思慮不宜事歟、書誤郡名、往古不聞耳、

〔中右記〕天仁元年八月三日庚辰、依有仗議、未時許參內、先左大臣〇源俊房被參會了、此外公卿七八人參
會、大嘗會國郡卜定也、藏人頭修理權大夫爲房來、膝突仰云、國郡卜定可行、則起座了、爰左大臣頗有
被傾氣、近代指國被仰下、所令卜郡也、而只國郡共被仰國之後、只所卜定郡也如何、人々被申云、重令尋申給、可憚歟、又招返頭爲房、被尋問之處、近江丹
後者、大略爲房朝臣思失事歟、次以官人召辨、權右中辨爲隆參被示、可令敷座之由、權辨起座、仰令掃部寮敷座於
庭中、東西行、置水火、召外記、少外記祐隆參入、可召神祇官由被仰、神祇官人參著、權大副卜部兼宗、少副大中
臣輔清、權少副卜部兼政、權大祐伊岐致元、五位少史卜部兼定、次召外記、被仰可進紙硯之由、外記祐隆持參硯筥、入白紙、置左大臣前歸入了、爰左大
臣自書國郡名、悠紀二通、主基二通、次召外記、筥幷可封之具、可持參之由被仰、外記祐隆持參筥、入件文四通、以
外記令封、外記進了、左大臣封目二書付封字直、入筥、右方悠紀二通、左方主基二通、共中基廣也、是爲令分知悠紀主基也、但左方二可被置悠紀也、然
而爲口傳右方置悠紀也、是相違歟、有所謂歟、召輔清、雖第二之卜者歟、順御卜之時、召官人、詞、四位、官朝臣、五位、名朝臣、六位、仍召輔清也、但軒廊
人、仍勢之事時所召中臣氏人也、仍召輔清也、但軒廊御卜之時、召官人、詞、四位、官朝臣、五位、名朝臣、六位、仍召輔清也、但軒廊
而今日名許也、召輔清五位也、猶可被加朝臣字歟、然輔清來膝突、然
左大臣下給筥、入筥、輔清持筥歸本座、爰少史兼定燒龜甲、頗不得心歟、致元燒之、兼政卜之、致元執筆
書付合否、如本入筥、輔清起座持參、召外記、祐隆參上令開之、見了左大臣神祇官可罷出由被仰、軒廊御卜
臣自書國郡名、悠紀二通、主基二通、次召外記、筥幷可封之具可持參之由被仰、外記祐隆持參筥、入件文四通、以
外記令封、外記進了、左大臣封目二書付封字直、入筥、右方悠紀二通、左方主基二通、共中基廣也、是爲令分知悠紀主基也、但左方二可被置悠紀也、然
而爲口傳右方置悠紀也、是相違歟、有所謂歟、召輔清、雖第二之卜者歟、順御卜之時、召官人、詞、四位、官朝臣、五位、名朝臣、六位、仍召輔清也、但軒廊
而今日名許也、召輔清五位也、猶可被加朝臣字歟、然輔清來膝突、然
左大臣下給筥、入筥、輔清持筥歸本座、爰少史兼定燒龜甲、頗不得心歟、致元燒之、兼政卜之、致元執筆
書付合否、如本入筥、輔清起座持參、召外記、祐隆參上令開之、見了左大臣神祇官可罷出由被仰、軒廊御卜
之時可罷出之由、多被仰外記也、可用件議歟、神祇官人等退歸了、大臣召外記、例文可持參由被仰、入筥持參了、次返給硯筥、
令置宰相上﨟座前、大臣目左大辨、大辨起座著上﨟座了、左大辨召外記、令進折堺紙、白紙大臣命左大
辨令書卜合國郡名、悠紀主基次令書撿挍、又書行事、書了奉大臣、大臣相加入卜合文、撿挍文、行事
官文三通於筥、令藏人頭爲房令奏聞、攝政殿御于直廬也、則返給、召辨權右中辨爲隆參上、下給卜合文、結申起
座、次召外記下給撿挍行事文、入筥之、次又例文筥等下給、取重歸出之、次又取重硯筥退出了、定文等在別紙、于時
酉刻、

〔本朝世紀〕康治元年七月廿七日戊午、左大臣、權大納言源雅定卿、藤原宗輔卿、同伊通卿、權中納言藤
原宗能卿、同成通卿、同公敎卿、同重通卿、參議藤原公行卿、參仗座、卜定大嘗會國郡、悠紀近江國野洲
上郡、主基丹波國氷
〔百練抄十後鳥羽〕元暦元年八月十日丙寅、大嘗會國郡卜定也、近江甲賀郡、丹波多紀郡、
〔山槐記〕元暦元年八月十日丙寅、今日有大嘗會國郡卜定事、後聞、秉燭左大臣、源宰相中將、右大辨、兼光
參陣閑院、又攝政被參內、悠紀近江國甲賀郡主基丹波國多紀郡、右大辨執筆云々、〇中略後日尋取卜定
定文、行事文等、續之、

合

悠紀

近江國

甲賀郡
主基
丹波國
多紀郡
元暦元年八月十日
〔玉蘂〕建暦二年四月廿三日、權左中辨經高朝臣來傳院宣曰、大嘗會下宣國已去年定沙汰了、而丹波國、殊以國衰民疲、每事不合期、仍可被改之由思食、而改近江國候條如何、余申云、自中古以來、多被用近江丹波、猶任例可被用歟、但上古存指吉例者、被改備中何事有哉、可被問例於外記也、廿八日、此日大嘗會國郡卜定也、上卿右大臣道光卿、隆範朝臣等參入云々、悠紀近江國、主基丹波國、去年於國口被用他郡云々、
〔萬一記〕正安三年四月十日、早旦向坊城前中納言〇後定亭、即被謁訪條々事、〇中略
國郡事
近江者每度事也、今一方者、備中丹波相替、先度丹波也、仍今度備中勿論也、不可及伺申、郡者當座外記可致沙汰、〇略
仰官外記事〇中略
來廿五日可有大嘗會國郡卜定、任例可致沙汰之狀如件
四位大外記殿
大夫史殿〇中略
來——日可有大嘗會國郡卜定、可令參陣給者、依天氣——
謹上　——宰相殿

十三日早旦向坊城前中納言亭、〇中略國郡卜定宣下事、四箇日事等、藏人方可申沙汰也、凡雖爲辨方沙汰、藏人方致沙汰者也、然而自兼日相尋ハ、官外記觸藏人方、只能程ニ爲何樣哉、可承存ナド、內々可尋沙汰也、官方沙汰トテ不可見放、諸事以不闕如可爲先、宣下事等可問答官、廿三日早旦參院、〇伏見付前平宰相仲綱奏條々事、
大嘗會條々
國郡卜定上卿事〇後嵯峨
仰被聞食、
國郡事
奏云、仁治〇後嵯峨國郡卜定、近江甲賀郡、備中英賀郡、文應〇龜山同卜定、近江甲賀郡、備中國英賀郡、
仰云、今度可被用仁治例、
廿五日早旦參院、〇略中大嘗會國郡卜定、御卽位女叙位、以何先可被行哉、伺申入之處、可示合執筆之旨有勅定、殿下〇藤原兼基被申云、御卽位事雖可被行、以神事可爲先、仍可被行國郡卜定之由被仰下之、此兩事予〇藤原宣房所奉行也、秉燭以後人々參集、土御門大納言、令掌燈于陣哉之由被相尋之、次土御門大納言雅房、花山院新中納言、師信、已上奧座、右宰相中將實躬、著仗座、次予經參議座後、脫沓昇奧座、不懸於膝、長經公、卿座下後、宣下云、大嘗會國郡令卜定ヨ、上卿氣色、次起座、著沓退去、不見歸、故實也、次大納言移著端座、次大納言召悠紀行事右中辨定資朝臣、仰御卜座事、辨仰史、史仰掃部寮令鋪之、次大納言召外記、仰神祇官人可參之由、次神祇官人權大副卜部兼秀、同兼益、同兼淳、同兼顯、中臣權大副永宣等著座、諸司置御卜櫃幷炭、次召外記、仰祝紙可持參之由、卽持參置上卿前、次大納言取紙令書國郡名、合四通、一紙一郡、外祝紙四通也、近江洲野甲郡也、等備中等郡也、次上卿召神祇官人於軾給筥、入ニ卜文ニ官人復座、卜訖返上之、納言召外記、被開之覽了留前、神祇官人等退出、〇略中

合

近江國

野洲郡

備中國

英賀郡

正安三年四月廿五日

大嘗會事、被ㇾ用ニ仁治例一、國郡卜定上卿二條左右兩府被ㇾ申ニ子細一、仍土御門大納言勤仕之、大納言勤仕例文應也、彼時上卿二條大納言良教卿、左衞門督基具卿、左宰相中將伊賴卿、新宰相高定卿也、撿按新大納言師繼卿、參議經俊卿等不ㇾ參、今度自然叶ニ彼例一、撿按堀川大納言具守卿、參議有房卿等不參也、尤可ㇾ爲ニ佳例一、

〔園太曆〕貞和六年〇觀應元年四月廿九日、抑今日大嘗會國郡卜定也、兼日不ㇾ及ニ沙汰一、每事不ㇾ具、公卿人數代々數輩也、而近日出仕人不ㇾ幾、仍種々有ニ沙汰一、四條大納言、今出川宰相中將等領狀、其外無人云々、春宮大夫〇實夏藤原爲ㇾ支ニ公務一闕ニ如參陣一也、凡卑上卿之時爲ニ位次參仕一、頗雖ㇾ非ニ無斟酌一、更不ㇾ可ㇾ謂ニ事也一、仍可ㇾ參由仰了、其儀可ニ尋記一、〇略中

大嘗會國郡卜定

悠紀

近江國野洲郡卜乙卜合

甲賀郡卜丙合

主基

丹波國多紀郡卜乙卜合

冰上郡卜丙合

卜者中臣官人召ニ座上一、不ㇾ參、正慶例、

神祇權大副卜部兼員

兼豐

兼前

二年六月十四日、抑昨日被ニ尋下一間事、所存載ニ折紙一、付ニ按察卿一了、

大嘗會國郡卜定間事、大同以來延引蹤跡七八箇度歟、其內被ニ行一件儀一者、建曆〇順德一代例也、推ニ此事一、若養和〇安德近例不快之間、爲ニ異一件例一、重有ニ卜定一歟、而天福文曆又被ニ違建曆例之處一、三箇度相違、皆以非ニ吉例一之上者、今度只任ニ承平〇雀朱以來先蹤一被ニ略ニ卜定儀一、自ニ行事所始一有ニ御沙汰之條有ニ何事一之哉、兼又延引之時、行事所始五六月大略雖ㇾ爲ニ先規一、卜定七八月吉例多存之上者、就ニ卜定一准ニ據件比沙汰一不ㇾ可ㇾ有ニ相違哉一、但卜食國役舍屋以下、若兼日沙汰可ㇾ爲ニ大切一者、延縮之沙汰可ㇾ被ニ仰合一官底歟、此上事須ニ在時宜一矣、

大嘗會間兩條〇略中

一卜定幷行事所始六月例

崇德院保安四年六月十六日卜定、同月廿九日行事所始、

觀應二年六月十一日

十六日、今日都護消息次示云、大嘗會國郡卜定儀不可有之、來八月自行事所始可有ニ沙汰一之旨被仰出云々、

〔薩戒記〕永享二年四月廿二日壬辰、明日大嘗會國郡卜定參陣事、去二日頭右大辨送ニ御教書一、其狀云、來廿三日可ㇾ有ニ大嘗會國郡卜定一、可ㇾ令ニ參陣一給之由、攝政殿〇藤原持基御消息所ㇾ候也、仍執達如ㇾ件、

四月二日　中山宰相中將殿（○定親）

右大辨忠長

同五日、催促請文、然而于今不亂之構試之故也、今日又催促之、仍送請文、其狀如此、

來廿三日可有大嘗會國郡卜定、可令參陣之狀謹所請如件、（○件一本作此）

四月五日　參議、、

廿三日癸巳今夜有大嘗會國郡卜定事、予（○藤原定親）可參陣之由、頭右大辨忠長朝臣、依院（○後小松）御點傳攝政消息、仍秉燭後著束帶、（如常）參內、于時雨脚如沃、及深更右大臣（○藤原房嗣）參入、先被奏轉任慶、次有著陣事、忠長朝臣候申文、此程右府、萬里小路大納言、（時房）西園寺大納言、（公名）撿挍、勸修寺中納言、（經成）同、予、新宰相（賢尹）等著仗座、（撿挍宰相宗繼卿不參、不知由緒、）次忠長朝臣就右府座下、仰大嘗會國郡可卜定之由、（其詞豫於殿上示合勸修寺中納言予等、予曰、治承吉田大納言仰詞、以近江國甲賀郡、丹波國多紀郡氷上郡令卜申ヨ云云、中山內府雖此事云、予案之、大嘗會悠紀主基國郡卜先仰テ後ニ、如此可仰歟、若守寬治爲房記仰歟、件度先有沙汰、三月以前踐祚之時、近例四月必被卜定、卜近江國甲賀郡野洲郡卜仰ハ有其謂事也、先不合口其事只仰被口近江國卜仰瀧涼歟者、件度不論理之當不當、令守寬治例給歟、然者今又被用彼例何事有乎、但件度若不及思慮、令守寬治例給、不可被用之者、就中山內府雖被加大嘗會國郡四字、又可宜歟、納言云、治承所爲若有所思歟、已兩度不仰件字、何事之有哉者、大丞諾之、後日予問之、注送云、以近江國坂田郡野洲郡、丹波國多紀郡冰上郡令卜申興者、）右府移著外座、令敷軾、令官人召外記、（大外記師世朝臣參上）問神祇官參否、即仰硯可進之由、（治承中御門左府先召辨仰座事、其後更召外記召硯歟、）少外記中原康富持參之置右府前、右府書國郡各四通、（治承先召外記、被仰神祇官可令入之由、後被書之也、）置硯傍、令官人召外記、召筥納國郡文四通、賜外記、令封之、書封字於封目上被置前、次召官人召左中辨資親朝臣、（悠紀行事辨也、治承中御門左府召外記、問神祇官之後、召辨被仰座事也、）被仰可令敷座之由、即敷座於軒廊、次令官人召外記、被仰神祇官可著座之由、神祇大副兼勝朝臣、少副兼祐朝臣、（已上四位）中臣某等入宣仁門著座、（治承召外記仰神祇官可入之由、次被書國郡文、此間神祇官著座云々）右府召中臣、（只被召也）中臣參進賜文筥、復座傳上之、此間置卜口并水火等、各卜了封上書合否字、中臣持參返上、右府召外記賜筥、令披封見之、了遣置卜合二通於筥、取不合文二通入懷中、此後仰外記可被出神祇官歟、今日不然、右府仰外記令置硯筥於予前、被目予、□□□居昇第一座、（予第二參議也）右府又□□□也、予揖起座、（先押遣硯於座下）參進、小揖指笏賜卜文二通、（入筥）復座、乍持筥揖置筥於座前、拔笏置右膝下、以左手擡筥、以右手引上硯於筥右方、以筥置硯筥左方、（作法等如叙目時）摺墨染筆卷返紙白紙也、是上卿被書卜文之餘紙也、□□先所悠紀、先例或紙屋紙云云、國郡卜形披置硯筥左方、書寫之了、取卜形卷之置前、又取主基卜形被置之、書寫之同前、卜國文書樣（○中略）卷之置前、次取卜形文二通入筥、取所書之卜國文入其右方、以左手擡筥、以右手推下硯筥、以筥於硯筥跡、取笏退足、指笏取筥、揖起參進跪上卿前、小揖置筥取廻進之、上卿取笏氣色、仍予卽歸座、先是忠長朝臣宣下撿挍幷行事等、以詞仰之、（○中略）予且獻卜合淸書了、次右府以官人召忠長朝臣被奏卜國文、（○中略）則被返下、

〔後法興院記〕文正元年四月廿二日癸亥、是日被行國郡卜定、上卿左大臣（○足利義政）參勤云々、自申刻被始行云々、後聞今日二條關白（○持通）著衣冠參內云云、上卿之儀見物之、　廿三日甲子、早旦參武家、（進大刀）昨日上卿御參仕目出御禮也、傳聞昨日卜定之國郡近江坂田、備中下道、

〔蔭涼軒日錄〕文正元年四月十九日、來廿二日國郡卜定御參內、御神事自明日被始之云々、但此參內之前、奉行披露事、可閣之由今晨被仰出也、仍愚老閣僧事披露也、　廿二日、今日國郡卜定御參內、但大嘗會御評定始云、以御神事故不參、閣僧事也、八皷刻御參內云、　廿三日、前日國郡卜定御參內御禮、今晨御大刀被獻也、此日陰雨昨日快晴、悉御快然云、以龜卜收江州酒田郡、備中下道郡年貢獻之、具于大嘗會御供也、尤先規也、當領主爲恨也、

〔季連宿禰記〕貞享四年八月十三日己未、依使者參頭中將基勝朝臣、（大外記同道）頭中被命云、來廿三日可有國郡卜定、可令催沙汰云々、申承之由、　十五日辛酉、依使者參頭中將基勝朝臣、來廿三日國郡卜定、火鉢二口（悠紀一口、主基一口、）主殿寮可調進之由可下知之由有命、承之後召主殿大允伴友治下知之、件火鉢其體不分明、兼日有沙汰、以行事官重基調進神寶之中圖、今度可調進之由議定了、一口之

料足白銀三拾目之由兼日所申也、

十六日壬戌、國郡卜定、神祇官人座構圖一枚、今日頭中將被レ渡二大外記一、予（不レ見レ之、件座構者、官方沙汰歟、然而大外記掃部頭被レ帯レ之歟、）問、依二座方調進之儀一被二沙汰一歟、先規可レ考、　十八日甲子、參二頭中將基勝朝臣一、被レ命云、來廿三日就二大嘗會國郡卜定一、波々嘉木調進之事、被二仰出一、行事官重基之間、可レ下二知其旨一云々、（昨日、召二亮仲一、被二仰下一云々、猶遣二使者一示二重基一了、）

波々嘉木、櫻木壹尺許ニ切テ、楊枝ノフトミノ如クニ破テ、百本許卜定、兼日可レ調二波吉田家一云云、

波々嘉木ヲかばかきト唱フ由、吉田申之由亮仲所レ語也、

廿日丙寅、依レ使者參二頭中將基勝朝臣一、被レ命條々記左、

一明日申刻、攝政殿（一條殿　冬經）里亭可レ有二國郡卜定一、依二明日國郡卜定一也、其儀月障女房重輕服輩等出二家內一、如二恒宮中御神事一、夜云々、參陣人々堂上地下輩等各一夜齋云々、神祇官輩者可レ爲二各別一、日數不レ知レ之、

廿三日己巳、今日大嘗會國郡卜定也、辰刻著二朝衣冷一參陣、諸司各參集、巳下刻許被レ始レ行、（上卿內大臣殿御參之時、被レ經二床子座前一、兩局候二座前一如レ例、）其儀一如二御次第一歟、管見之趣、以二朱加一之、申初刻許事了、（中略）今日事畢各解二神事一、（中略）今日歸路于直參二攝政殿幷近衛殿一、

今日無異無事被二遂行一之條奉レ賀レ申、

國郡卜定官方調進（後日以二御訪一書二加之一）

行事官調進

一波々賀木百卅本

大藏省調進

一陣疊（新調）　一小板敷疊（同）

主殿寮佐伯

一陣班幔二條

同（伴）

一火櫃二口　一炭斗一口　一炭

（大嘗會記錄）百十四代東山院貞享四年、（中略）先郡國ノ卜定アリ、（中略）八月十四日吉田家ノ家臣鈴鹿修理亮中臣治之ヲ遣、堺ノ藥屋、卜定龜甲ヲ求メシム、（是中古ノ例ナリ、上古ハ國主ノ奉ラルヽ所ナリ、）波々賀ノ木ハ行事官重基調進、（上古ハ芳野ノ笛吹ノ宮ヨリ調進トアリ、櫻木、幅一分餘、長サ五六寸竹鉸醒シ竹ノ皮ツキノ木ナリ、昔炭ナクシテ波々賀ニテ甲ヲヤキヌ、）（中略）次神祇權大佑卜部連直、（東帶歩行）次周防守卜部連屋、（同上）等各跡ニ隨フ、神人者不及記、角テ事ノ儀式始マレリ、內辨ハ近衛內大臣家熙公、外辨ニハ今出川大納言伊季卿、萬里小路大納言淳房卿、廣幡新源中納言豐忠卿、東坊城參議式部權大輔長詮卿、中山參議左中將篤親卿（就筆派之）各著陣、行事兩辨（勘解由小路左中辨韶光、朝臣葉室藏人右中辨輕重、）等事儀アリテ、掃部寮ハ敷座、主水司儲水、主殿寮儲火、次內辨ノ召有テ、著座アルベキ由ヲ大外記管領ニツグル時、管領卜部兼連朝臣、先軒廊二ノ間ニ著座、（東上南面、）次藤波神祇權大輔大中臣德忠、（帶劍）次宮主兼林、次權大祐連直、卜部連屋等列座セリ、次件ノコリヲ公文氏辰持出テ管領ノ座ノ前ニ置ク、次ニ上卿ヨリ宮ヲ中臣起座シテ取テ兼連ニ授テ復座、是則ト串四ツアリ、其後管領兼連、コリノ紐ヲ解キ、龜ノ甲ヲ取出シ、包物ノ錦ノ上ニ竝ベ置キ、一枚ヅツ取テ左ノ手ニ持チ、右ノ手ニテ筆ヲ取テ事ノ義ヲ書シ、又如元竝オカル、四枚共ニ同之、此時ニ權大佑連直、座ヲ立テ管領ノ後ノ方ニ進ム、其時管領コリノ蓋ニ（甲二枚、ハカノ木、屋シ竹、竹鉸、手文等ノ物ヲ入ラル、是主基方ナリ、）各調度ヲ入テ連直ニ授ラルヽ、取是後元ノ座ニ復ラル、次ニ一揖二拜有テ、祈念ノ祝詞ヲ微音

ニ讀メリ、手文ニ書之、手ノ中ニクレリ、龜ノ甲ヲアブラレ竹鋏ニテハサミ、兆時或ハ油多出テ形不見時ハ、灰水ヲカケ醒シ竹ニテ拂ハル、水一滴ヲソヽギ、如元竝ベオキ又一枚ニ各取入テ持チ、起座如初管領後ノ方ニ進テ管領ニ授ク、此時兼連四枚共ニ其兆所ノ形ヲ見テ卜定有テ、其趣ヲト文ニ丙合乙合悉ク書テ以中臣上卿ニ奉ラル、上卿又以職事奏聞、先進攝政、次奏聞、次管領如最初調度ヲ取納テコリヘ入、龜ノ甲四箇モ如元包錦、コリニ入テ紐ヲ結ビ、封ヲ付ヲ前ニオカルヽ時ニ、又氏辰取之退、次大外記進テ管領ニ一揖、又答揖有テ、次第ニ自下臈退下、

傳聞、悠紀ハ近江國ニテ志賀郡ノ兩郡主基ハ隨時備中、或播磨、或ハ丹波等、其外ノ國ヲモ用ラルル由舊記ニ見ユ、然ニ中古ヨリハ近江ト備中ト又近江ト丹波トヲカハルヽ〳〵ニ用ラルヽノ由、考ルニ文正ノ時ハ近江ト備中ト也、サルヨリ此度ハ丹波國ニテ桑田ノ兩郡ヲト定アリシニ、ト食ノ面ハ近江國ニテ志賀郡山中村、丹波國桑田郡竝川村此二國二箇所ノ稻ヲ用ラルヽ也、

拔穗使ノ御沙汰ト聞ユ、

文正年中○後土御門　國郡ト定ノ上卿ハ近衞政家公ナリシガ、其時笏幷笏紙マデ殘リテ、此度内大臣家熙公持參アリシハ、日出度御事顯ニケルト也、

【續百一錄】元文三年八月廿六日、來廿八日就國郡ト定從廿七日曉至廿八日暮御神事候、○中略

來廿八日國郡ト定ニ付御非役之御方樣高遣戶諸大夫間より者御昇降被成間敷候事、

一庭上江御往來ノ節、平唐門之内江者侍分一兩人之外者被召連間敷候事、尤下部者、平唐門之外ニ可被殘候事、

一所々警固有之候、其内江者召具被入間敷候事、

一召具之輩萬端猥ケ間敷義無之樣ニ、堅可被仰付候事、

一御參役之御方樣江者、大嘗會御傳奏御奉行より御觸可有之候、其旨御守被成候樣ニ被扱候事、

右之旨、番々江無漏脫可申傳旨、

【大江俊冬記】天明七年四月廿八日、國郡ト定、貞享以來雖爲八月、自今可爲四月被仰出事、前以傳聞畢、

【行厚記】文政元年四月廿四日、大嘗會國郡ト定陣儀也、催卯半刻云々、○中略

國郡ト定次第

刻限諸卿著仗座、次職事仰仰詞、次上卿移著端座、次上卿令官人敷軾、次上卿令官人召大外記、大外記來軾、次上卿問神祇官參否、外記申候由、次上卿仰可持參筥之由、次外記置硯紙於上卿座前、次上卿書國郡名四通、次上卿召外記、仰可被持參置座前、次上卿入ト串於筥、仰可封之由、外記於軾封畢、入筥進上卿、次上卿書封字入筥、次上卿令官人召辨、辨來軾、次上卿仰可敷神祇官座之由、次掃部寮敷座於軒廊西上北面主殿寮儲火、主水司儲水、次上卿令官人召外記、仰神祇官可著座之由、次神祇官著座、次上卿召中臣賜筥、仰可卜申之由、中臣取筥退授ト部、次ト部ト畢書ト合、書畢授中臣、次中臣返進ト串筥、次上卿令官人召外記賜筥、仰可開封之由、外記開之進上卿、次上卿一々披見入筥、仰神祇官可退出之由、次神祇官退出、次上卿令官人召辨、仰可撤座之由、次掃部寮撤座、次上卿召外記賜硯、外記取之置參議座前、次上卿目參議、參議參進、次上卿賜ト串、參議書畢進上卿、次上卿見畢入筥、次上卿令官人召職事、職事來軾、次上卿賜筥仰可奏聞之由、職事奏聞畢返賜○略中次上卿令官人召辨賜ト合文、辨取之結申、上卿仰仰詞、○略中次令官人撤軾、次諸卿退出、

【大祀放求】嘉永元年三月廿一日、予重服中、國郡ト定催沙汰伺書差出事、廿五日、大祀傳奏御用召、出會被示條々如左、

一來月廿四日巳刻、國郡ト定被仰出間、如文政催沙汰旨事、

一過日予重服中、國郡ト定催沙汰之事、如何被仰下旨被申渡事、

四月十三日、國郡ト定之圖附奉行事、〇中略大嘗會國郡ト定下行之事、別帳分者未傳奏より無沙汰間諸司參勤身下行調進物之事、三催差含取計可申事、傳奏示命由傳達、十六日、大嘗會國郡ト定下行之事、先右下行分計早々草帳可差出、〇中略國郡ト定請文交名傳奏へ付事、

〔輔世卿記〕嘉永元年四月十日癸丑、依御招入來、小野筑前守、右者大嘗會國郡ト定、來廿四日巳刻ト被仰出候御觸モ有之候得共、爲御心得御内々御達、右ニ付ト定ノ内、中仕切幔、明和ノ度ニハ設撤却等ノ儀、主殿寮ノ所役ニ相見得候得共、天明以來之處ニ相見得不申、如何覺悟被致候哉、以圖面御尋之所、此間總テ取調、尤明和度ニハ掃部寮談合ノ議ニ付、少書留モ有之候得共、其後之所相見得不申、乍併折角御尋ノ儀故、今一應取調可申上、夫迄御圖面拜借相願被貸遣候、且ト定ノ節調進物、未御沙汰無御座候、尤心懸居候得共、表向御達ノ儀被相伺候處、右等ノ儀相伺候上、近日御調進可被成旨御返答ノ所、畏退出也、十四日丁巳、御使小野主殿助ヘ片岡數馬、右者以御剪紙、文政度國郡ト定ノ節、火爐水器以下神祇官座方等、從最始被設候哉、又ハ次第通ニテ從史有仰之後設之、又可撤之由有仰後撤之候哉否之事、早々被取調候樣、右御承知被成度旨被仰遣候所、委細承候旨也、廿四日丁卯、今日國郡ト定、家君〇小槻以寧依御重服中、分配參勤之史、村田右大夫春芳ヘ御與奪也、

〔實久卿記〕嘉永元年四月廿四日丁卯、此日大嘗會國郡ト定也、付勾當掌侍申恭賀賜祝酒殿下〇慶司政通令參給、申承雜事、參仕公卿内大臣輔、廣橋大納言光、中山大納言忠、德大寺大納言公、右大辨宰相愛、宰相中將實、軒廊御ト、不及見ト合國郡、近江國甲賀郡、丹波國桑田郡、

〔大嘗會書類〕嘉永元年四月廿四日、國郡ト定也、催辰刻

一正辰刻出仕、於非藏人口以差次藏人、先自分出仕御屆申之事、〇中略

一辰半刻前諸具候旨、以六位言上候事、

一陣之座床子等之敷設、豫取整之上、御裝束被仰出、猶亦取調具候旨言上候事、

一神祇官之座敷設之事、六位邦昌ヱ夫々被示之事、

但敷設雖如御次第、一應敷設之處、神祇官ヨリ内見之儀申願、即内見有之事、

一巳刻被始陣

上卿自敷政門令參進給、諸卿自化德門參進、先是右中辨恭光朝臣、少外記邦昌、大史春芳、著床子、（致禮如例）

一史所役

上卿召辨、仰可敷神祇官座由、辨退著床子、被爲目、受之先著横切、直進寄奉仰詞、其詞云、

可有大嘗會國郡ト定、令敷神祇官座、

奉之復横切、直起座、立本床子之艮、示掃部寮（兼而寮所役、主水司等へモ爲申傳置、）寮藤利政（候之事示置、尤其次主殿）徵唯退、撤却之節同樣之事、仰詞、

御トノ座撤セヨ

一ト合文被下之儀

辨退著床子、受目著横切、其儘進寄賜文取之、復横切被見、（無掛紙）奉仰詞結之、起一揖、復本座、其詞ニ云、トノ趣ニマカセ官符ヲタマヘ、

次第事記、上卿以下自敷政門御退出、致禮如恒、于時申刻、

一文殿之硯水滴ニ無水、愛長朝臣御當惑之旨、以六位如何ヤ御尋也、實以忘却之旨恐入、御理邦昌ヨリモ申述之處、御執筆之事、猶思召相伺候上ト仰也、

一先例自殿下御菓子被下之處、今度無其儀、後壽朝臣供奉ニ付、自厚生ニ内々尋問之處、御先例御承

知無之、猶聞繕之上トノ噂也云々、

神祇官參上之儀

外記奉レ上レ宣向二日華門一召レ之、其儀外記向二上首一卿爲二堂上之間先進著座一、上卿召二中臣一賜レ卜申、其儀上卿問二中臣之位名於上首一給、上首答申之後、聊令二顧面一給之時、中臣逃足敬屈、微唯進軾賜之、傳二卜部良芳一、卽復座、卜畢返上之儀一如レ始、外記仰二神祇官一退出、

合

悠紀

近江國

甲賀郡

主基

丹波國

桑田郡

嘉永元年四月廿四日

定檢挍行事

〔儀式〕〔一〕踐祚大嘗祭儀

天皇卽位之年、大臣奉レ勅召二神祇官一、密封令レ卜二定悠紀主基國郡一、〇中略次以二大中納言二人、參議一人一爲一悠紀主基兩所檢挍一、行事四位各一人、五位三人、辨在二此中一、兼二雜役一、并國忌不レ參二預諸節會一、諸司判官已上四人、史在二此中一、其判官已上奏、主典已下五人、左右史生各一人、在二此中一、其諸所等奏申亦同、官掌一人、使部直丁各一人、

〔北山抄五〕大嘗會事

大臣奉勅〇中略召例文幷折紙等、令二參議書一會檢挍一、大中納言參議各一人、兩所行事、各四位一人、五位三人、辨在二此中一、諸司判官以上四人、史在二此中一、主典以下五人、相二加御卜一、合、辨官奏、奉覽畢返給、卽以二御卜一給レ辨、下知官符以二檢挍行事一文一給外記一令二告仰一、〇中略

行事辨以下監二臨畫所、細工所、北野等一事、度々有二此事一、〇中略

寅卯日間、檢挍以下巡二檢大嘗宮幷豐樂院一事、承平天慶非二檢挍一公卿共向、

〔代始和抄〕大嘗會事

大嘗會は、悠紀主基の國司その事を行ふに依て、國司の除目、ならびに叙位等の事あり、又檢挍行事の辨を定らる、檢挍は三人、大納言、中納言、參議、行事の辨は、悠紀主基に各一人、中少辨なり、其外史八省の丞等あり、

〔大嘗會儀式具釋〕〔二〕國郡卜定次第

此序職事、仰二檢挍及行事等一、〔註二折紙一賜レ之〕

檢挍ハ、其本蓋大嘗一會ノ事ノ違例違式アルヲ檢挍シテ正ス名ナルベシ、本ヨリ一會ノ事ニアヅカリ勤ムル事、貞觀儀式以下ニ見エタリ、但今ニテハ定メラルヽバカリニテ、ザシテ勤ムル事見エズ、大嘗ノ當日ニハ出仕モセズ、辰巳兩日ノ節會ニハ出仕ノ公卿ノ一列ニアレドモ、本ヨリ小忌ヲモ著ズ、唯揷頭ヲ獻ツル時ト、行酒ノ時、事ニ預カルノミ、其人ハ大納言ノ中ニテ一人、中納言ノ中ニテ一人、參議ノ中ニテ一人定ムル例ナリ、行事ハ字ノ如ク、大嘗一會ノ事ヲ專ニ奉ハリ行フ職ナリ、其人ハ昔ハ悠紀主基各四位一人、五位三人、辨此中ニアリ、諸司判官以上四人、史此中ニアリ、主典以下五人、左右史生各一人ヅヽ此中ニアリ、官掌一人使部直丁各一人、合十五人ヲ定ムルヨシ見エタリ、中古以後ハ悠紀主基各八人ヅヽ、其中ニ必辨史アリ、此序トハ職事ト合ノ國郡ヲ奏聞セル序ニ、檢挍行事等ヲ定ムベキノヨシ仰セ出サル、其仰ヲ折紙ニ註シテ之ヲ賜ヒ、職事ヨリ之ヲ大臣ニ進ル也、

次上卿披見、〇略中上卿仰詞、
仰詞ハ催廻ラスベキヨシヲ仰スルナリ、先ニ奏聞セルト合ノ如ク、悠紀主基ノ國郡ヘ下知セヨトノ義ナリ、
次上卿令官人召外記、仰可進例文由、
例文ハ撿校行事ノ例文ナリ、故ニ貞享ノ次第ニハ、仰可進撿校行事例文由トアリ、江次第ニ往代例文トアルハ是ニテ、先跡ノ撿校行事ニ定メラレタル人名ヲ書タル文ナリ、其例ニ准ジテ今度ノ撿校行事ヲ定ムルガ故ニ、外記ニ仰セテ進ラシム、如此舊例ハ何ニテモ外記コレヲ知ル官ナレバナリ、
次外記持參例文、〔筥〕置上卿前、〇略中次上卿目參議、參議參進、次上卿賜撿校行事折紙及例文、令書定文、〇略中參議書訖進上卿、
書訖ハ定文ヲ書ナリ、其體左ノ如キ歟、

撿校

權大納言藤原朝臣（私云、三條季卿、）
參議藤原朝臣（私云、飛鳥井雅香卿、）
悠紀行事
左大史從四位上小槻宿禰盈春
兵庫頭從五位上源朝臣賢兼
木工頭從五位下賀茂縣主廉頭
治部少丞正六位下宗岡宿禰重行
主基行事
權中納言藤原朝臣（私云、萬里小路秀房卿、）
權右中辨正五位上藤原朝臣賴要
右大史從五位上藤原朝臣景春
少監物正六位下和氣朝臣員倫
民部少丞正六位下小槻宿禰方敎

掃部頭正五位上中原朝臣師守
大炊頭正五位下藤原朝臣庸德
右大史從五位下安倍朝臣盛行
宮內大丞正六位下中原朝臣成壽
如右書訖リテ上卿ニ進ル、昔ノ撿校ハトヲ以テ定メラルヽ歟、今ハ其儀見エズ、行事ハ江次第ニ見エタルハ、今度行事スベキ人々ノ交名一紙ヲ、外記ヨリ參議ニ進リ、參議コレニ從ヒテ書ナリ、今ハ其儀モ見エズ、撿校行事共ニ此陣座ニテ初テ定ムル分ナレドモ、本ヨリアラカジメ定メ置テ、今日ハ唯儀式マデナレバ、參議モ初ヨリ今度ノ撿校行事ノ人ヲ知ルガ故ニ、自分ノ風記又ハ記慮等ヲ以テ直ニ書クナルベシ、其折紙例文等モ同ジクコレヲ返進ス、
次上卿悉披見畢、召職事奏聞、〔先內覽〕畢返賜、〇略中
催廻ラストハ、撿校行事ニ定メラレシ人ノ許へ此由ヲ申廻ラスヲ云、總テ如此キ事ヲ催ト云、
〇略中
外記稱唯退下、〇略中次上卿召外記、仰可撤視例文之由、外記撤之、〇略中次諸卿退出、
〔文德實錄三〕〔三代實錄三十、陽成〕仁壽元年四月甲子、定大嘗會行事司、
元慶元年四月廿六日丁酉、是日預定大嘗會撿校辨悠紀主基行事、以正三位行中納言兼右近衛大將皇太后宮大夫藤原朝臣良世、參議從三位行左衛門督大江朝臣音人、參議從三位行民部卿兼播磨權守藤原朝臣冬緒、參議正四位下行左大辨兼近江權守源朝臣舒、撿校大嘗會事、從四位上行右京大夫兼美濃守源朝臣覺、式部大輔正五位上兼美濃權守橘朝臣廣相、從五位上守左少辨巨勢朝臣文雄、左衛門權佐從五位上兼行美濃權介藤原朝臣維範、從五位下行肥後介藤原朝臣智泉、從五位下行美濃介藤原朝臣時長、并六位四人、行悠紀事、從四位上行右近衛中將兼備
左小辨正五位上藤原朝臣清胤
主稅頭從五位上藤原朝臣光祐
式部少丞正六位下卜部宿禰兼矩
大藏少丞從六位下藤原朝臣利平

中守源朝臣直、從五位上守右中辨藤原朝臣保則、從五位下行備中介藤原朝臣清瀨、權介源朝臣元、散位伴宿禰春雄、外從五位下行竪博士兼但馬介阿保朝臣今雄、幷六位四人、行主基事、

〔類聚符宣抄〕太政官史生大石忠利

天慶九年八月八日

右大納言藤原師輔卿宣、件忠利奉仕大嘗會主基行事所主典代之間、宜自去五月十六日、准見仕給上日者、

月　日

史生槻本忠茂

右大納言藤原師輔卿宣、件忠茂從三月七日奉仕大嘗會悠紀細工所、宜准見仕給上日者、

天慶九年十二月廿一日

〔日本紀略五冷泉〕安和元年三月八日辛卯、大嘗會國郡卜定、〇中略又被定撿校已下行事等、

〔類聚符宣抄〕太政官史生肥田惟延

康保五年〇安和元年八月十一日

權大納言藤原伊尹卿宣、件惟延奉仕大嘗會悠紀行事所主典代之間、自去四月二日、宜准見仕給上日者、

月　日

〔小右記〕寬弘九年〇長和元年八月十二日丁未、右中辨〇大江景理權左中辨〇藤原重尹來相逢、今日右大辨〇藤原朝經左中辨著吉服、件兩人先日依爲大嘗會行事、著吉服、未有左右之間、猶不改本裝束歟、右大辨至今不可行會事、大辨爲物行事不聞、亦悠紀行事以左中辨爲行事、主基以右〇略辨爲行事歟、重尹轉權左中辨、是本主基行事也、爲之如何、今朝召史是氏、仰可勘代々大嘗會行事辨史等之由、但尋見安和

少外記出雲有時奉

少外記坂上望城奉

少外記三統宿禰公忠奉

例、悠紀行事右中辨濟時、右少辨輔正、前例各辨一人也、而有二人、如何、或云、濟時有所勞之間、被加右少辨輔正云々、以右辨爲悠紀行事、今如件例不可論左右歟、十四日己酉、早旦史是氏、進大嘗會行事辨勘文、悠紀所右中辨菅原朝臣資忠、寬和二年右中辨源朝臣昌、寬平九年右中辨平朝臣季長、仁和四年主基所左少辨藤原朝臣佐世、仁和四年、仰云、悠紀主基兩方有右中辨行事例云々、仰可令尋勘之由、〇中略頼任朝臣傳左相府〇藤原道長命云、大嘗會行事辨事、早可被奏定也、辨必不依左右、以右辨爲悠紀、以左辨爲主基之例間存者、其例等云々、不能遑記、但左中辨經通、悠紀權左中辨重尹、主基可爲行事歟者、右中辨景信案內、大嘗會行事辨、答可奏驚之由、小時歸出云、傳勅云、悠紀行事經通朝臣、主基重尹朝臣如元者、即仰左少辨積善了、

〔吉記〕壽永元年六月三日壬寅、召使盛安持來大嘗會撿校宣旨一見了、可返之由示之云々、而如此宣旨皆留家、不可返之由、未知先例、書寫可返之由返答了猶留之、

參議左大辨兼近江權守藤原經房朝臣

正二位行大納言兼左近衞大將藤原朝臣實定宣、奉勅宣、令件人爲大嘗會撿校者、

養和二年五月廿七日

少外記三善弘康奉

〔山槐記〕元暦元年八月十日丙寅、翌日召使持來撿校定文、件文書樣書白紙、非二紙屋紙一、

撿校

權大納言藤原朝臣

參議藤原朝臣

元暦元年八月十日

權中納言藤原朝臣

披見返給之、大納言者予第五也、〇忠親藤原中納言者兼房、第一也、參議者兼光第八也、撿校多者一大納言勤仕

歟第一源大納言定房申穢氣之由、第二皇后宮大夫實房輕服、第三中御門大納言宗家重服至于去月、然而未出仕第四權大納言雅申有憚神事之由、何事哉不審第五予、第六八條大納言賴盛無其儀歟、第七右大將通頁所勞、予近日脚痛更發、尤難出仕、然而上首皆如此、先入定文、猶難出仕者、後日可辭事歟之由頭中將通資朝臣示送、答可在御計之由了、仍被定入歟、

〔萬一記〕正安三年四月廿五日、宣撿按行事等、其儀著軾仰云、大納言源朝臣、權中納言藤原朝臣、參議源朝臣、宜爲撿按、悠紀主基行事所、高檀紙書之下上卿撿按同書折紙下之、書樣在左、上卿氣色、次予○藤原宣房氣色起座、次外記置硯於參議前、加續紙一、先是高倉宰相經守著座、次令左宰相中將實躬書之、國次行事、書畢進上卿、次上卿召予奏之、予著膝突取之奏聞、歸著軾返下定文、次上卿召外記、下撿按行事文、召辨下國郡文、辨下吏、次上卿以下退出、

書樣

撿按

大納言源朝臣具、大納言源朝臣爾入也（具守雅房）□書片字、抑堀川大納言稱二神事難治一申二子細一、然而所被二宣下一也、

新中納言藤原朝臣師、新中納言藤原朝臣歟輩也、神事自行事所始可レ始之由被レ示、

參議源朝臣左大辨宰相有房卿也、書給、仍守二彼例一、有房卿爲二御使一下二向關東一、可レ爲二他參議一歟由、予先日申入之、然而大辨宰相常儀也、參議神事或當月始也、仍猶可レ爲二左大辨一歟由被レ申二子細一、勅定之趣同前也、

悠紀行事　右中辨正四位下藤原朝臣定資、內匠頭從四位下和氣朝臣吉成、左大史正五位下小槻宿禰伊綱、大監物從五位上安倍朝臣範秀、左少史正六位上中原朝臣景範、中務少丞正六位上宗岡宿禰行貞、少監物正六位上藤原朝臣定氏、民部少丞正六位上藤原朝臣景藤、

主基行事　主計頭正四位下賀茂朝臣在重、右少辨正五位下平朝臣惟輔、兵庫頭正五位下丹波朝臣忠守、大藏少輔從五位上安倍朝臣惟俊、左大史正六位上安倍朝臣盛廣、式部少丞正六位上紀朝

臣行親、大藏少丞正六位上中臣朝臣季定、宮內少丞正六位上源朝臣泰重、

以上折高檀紙書也、兩通書也、不レ書二年號月日一也、先例雖レ書レ之、是者可レ宣下事也、而書二折紙一下レ之、然者不レ可レ書二年號月日一之由所レ存也、且示二合坊城前中納言一畢、

〔吉續記〕正安三年十一月十日乙巳、權大納言被レ示云、撿按事難治之由申切了、此上予所望事、定有二沙汰一歟之由被レ命、十一日丙午、撿按事權大納言被レ示云、撿按事罷向土御門大納言許委申處、重々難治之由申之、居女房申入了、十五日庚戌、傳奏宣房申、撿按事罷向土御門大納言許委申處、重々難治之由申之、居猶不愈、難從二神事一、及誓狀一難叶之由申之、此趣奏聞、被レ仰、殿大納言○二條基子時年十五、年少之間、插頭臺難舁之間、難治之由殿下○二條基被レ申、十六日辛亥、自二御所一女房奉書到來、撿按事都及二闕如一、可レ用意之由被二仰下一、卒爾仰天、而且畏存、可レ叶二承久佳例之由申入了、頃之被二仰下一云、自二法皇山○龜御方一被レ仰、大炊御門大納言、○宗家可レ隨二彼左右之由重夜仰下一、勅定變々迷惑者也、法皇有二御障碍一歟倩案就二撿按闕如一誠可レ爲二無念一歟、以二天運與一祖神御計一也、

〔薩戒記〕永享二年四月廿三日癸巳、今夜有二大嘗會國郡卜定事一、○略中

先是忠長朝臣宣下撿按幷行事等、以二詞仰之一、後自二懷中一取出折紙、後日大丞注云、以權大納言藤原朝臣、權中納言藤原朝臣、參議藤原朝臣、參議藤原豐朝臣爲二兩方行事一、自餘四位已下任二先例一令二定申一者、如此也、今夜於二殿上一示二合予之時、大納言已下欲レ注二名字一云云、又辨等可レ加歟云云、不レ可レ然、無二先例之由予示レ之、仍止也、奉二右府一○藤原房嗣是予書二卜合文之間也、上卿則召二例文一、一度可レ被レ令レ書之歟而無二其氣色一、仍予且獻二卜合清書一了、次右府以レ官召二忠長朝臣一、被レ奏二卜國文一、入レ笥、先例多奏二卜國文一、返給之時被仰下撿按行事等事、其時上卿更召二例文一、折堺等也、此次第叶レ理之由見二治承中山殿御記一、或又參議書二卜國文之間、職事仰撿按以下事、其時上卿召二外記一、召二例文一、外記持二參之一、個置二折堺於參議前一、書二卜國文一了、即又令レ書之、參議以二件定文等一加入一紙返二上上卿一、上卿一度參間之例也、今日此後可レ然歟、而違レ期了、如何、又或參議書二卜國文一了、且持參之次、被レ授二撿按行事等一、小卿取之加二入卜國文笥一、一度奏聞之上、卿更召二例文一、又例也、所詮此間次第先達所爲區區、而今日儀一向別樣也、可レ尋二可不一、則被返下、次右府被氣色于予、此事如何、先召二外記一可レ召二例文一歟、仍予不レ思得暫思惟、人々又屬目、右府被仰云、大嘗會撿按幷行事定文者予申云、此間若可レ給二土代折

紙歟、右府諾、自懷中取出土代所下之折紙給之、予口進口入懷中復座、此事雖不可然、奉口使定之時、或磨墨口書候時臨期給也、或未磨墨以前召參議給也、其先例也、而於今儀者、卜國文清書之時已摺墨了、更不可摺之、已取筆欲書之時給口者、甚可有事煩、仍密々奉尋之處、無左右給之、似參議推新行甚不可然、人々定口口口凡今日上卿一向無言、適被示候事徹言間、迷惑之餘也、不可爲例、此後予見硯無折堺、仍召官人、無言一度召、仰云、外記折堺持參議如此也、仰云、外記折堺持ヲ參レト仰與、卽少外記康富持參白紙非宿折堺一卷、續二枚行事文料也、又不續之、予置笏取之置座前、先取不續紙返之、副笏伺氣色、右府無口集之詞、只有目許、仍予見折紙書之、先書撿校文卷之置座前、次卷返續紙書行事文、

〔季連宿禰記〕貞享四年八月廿三日己巳、今日大嘗會國郡卜定也、〇中略

國郡卜定次第〇中略

此序職事仰撿校及行事等注二折紙一賜レ之

此折紙、後日大外記師庸朝臣被語曰、宿紙之折紙也、撿校行事辨許載之、自餘之行事者、可被量定之由職事所仰也云々、

上卿披見畢懷中折紙、〇中略次上卿令官人召外記、仰可進撿校行事折紙及土代例文、

卿座前、次上卿目參議、參議參進、上卿賜撿校行事折紙及土代例文爲一物歟之由予存之、然而後日大外記被語之旨、非一物也、自外記局所出歟、何物歟可考、今度雖被載御次第、土代無其實云々、

參議書訖進上卿、次上卿悉披見、畢召職事、奏聞、先進二攝政一如例職事奏聞了返賜、次上卿召外記賜之、作入レ筥賜レ之仰可催廻由、外記賜之稱唯退下、次上卿召外記仰可撤硯例文由、次外記撤硯例文、次諸卿退出、

〔敬義宿禰記〕天明七年十一月三日、近代大嘗會之節、撿校之人々、卯日參勤之義無之、如何之間、北山抄等ニモ、撿校卯日大嘗宮巡撿等之儀有之、今度卯日參勤有之、於大忌幄可被供奉之間、右ニ付下

行等煩無之哉被尋之、予申格別下行之煩、不可有之乎、

〔大嘗會書類〕嘉永元大嘗會撿校宣旨寫

正二位行權大納言源朝臣基豊

內大臣宣、奉勅件人、宜爲大嘗會撿校者、

嘉永元年四月廿四日　　少外記兼兵部大丞少內記中原朝臣邦昌奉〇中略

大嘗會撿校幷悠紀主基行事等定文寫

大嘗會撿校

權大納言源朝臣

參議藤原朝臣

嘉永元年四月廿四日

悠紀行事

右中辨正四位上藤原朝臣恭光

右大史正五位下高橋朝臣春芳

兵庫頭從五位下源朝臣任賢

宮內少丞正六位下紀朝臣重就

主基行事

大藏權少輔從四位下菅原朝臣光愛

右大史從五位上紀朝臣厚生

中務少丞從五位下中原朝臣職孚

刑部少丞從六位下中原朝臣定靜

權中納言藤原朝臣

兵部權大輔從四位上藤原朝臣俊璋

大監物正五位下紀朝臣正恒

大學權助正六位上藤原朝臣重房

掃部大允正六位下藤原朝臣利政

左少辨正五位上藤原朝臣光愛

宮內大丞從五位上藤原朝臣求遠

式部少丞正六位下平朝臣胤典

中務少丞從六位上源朝臣常邦

嘉永元年四月廿四日

〔代始和抄〕大嘗會事

卜食の行事所は、大内の諸司の中に卜食の所を用ゐ、所々の預主典代、繪所、木の道の工等、諸道の輩、その事にあたがはずといふ事なし、一々をるすにいとまあらず、

〔儀式一〕踐祚大嘗祭儀

檢校納言已下召神祇官令卜悠紀主基行事所幷小忌院等卜訖行事史申大臣奏訖卽仰陰陽寮擇吉日著之（先是權取便所爲行事所）卽應借行鋪設宣旨下宮內省（宣旨在別卷下皆同）其設座檢校西面北上行事四位已下南面東上主典東面北上諸所預幷國司北面東上（國司帶三位及參議設薦四位五位同席六位亦絕席在末）才伎長上諸司史生等在四位五位後北面東上其座兩所共同其始行事日時令陰陽寮定之次可進紙筆墨狀下中務省可進硯十枚狀下宮內省次可鬱給行事以下百度（モヽト）狀下所司但其代令當國墳之次奏聞可請正稅稻一萬束卜食郡調庸幷雜物之狀（凡會所請雜物奏正稅稻幷綿布絲錢米等類行事幷國司五位以上署名自餘輕微之物不署直奏）卽下知兩國次奏聞可兩所用印之狀仰大學寮令進字樣召內匠寮以木彫作其文曰悠紀所印主基所印並用小篆字卽用印之狀下知五畿內七道諸國次可買進甕（ミカ）狀下知左右京職次仰左右京令進估價帳幷價長等名簿次依檢校宣仰中務省令進大舍人四人仰式部省令進諸司史生十人散位位子等卅人仰民部省令進拔出丁四人次錄請火長四人衛士八人之狀辨大夫付內侍奏聞訖喚所司仰之次所預出納所五位二人六位已下六人齋場預五位五人六位以下八人（隸標倉代）幷小忌所五位四人六位以下六人細工所（隸畫繪所）幷五位三人六位以下二人和舞所五位二人六位以下八人女工所五位二人六位以下四人樂所五位四人六位以下八人風俗樂所五位二人六位以下二人大炊所（隸給所）六位以下六人（用諸司主典以下）其食法行事主典已上日白米一升五合史生大舍人官掌使部國書生一升二合雜工二升其從者行事五位已上三人判官主典代二人所所五位已上二人人別黑米八合爲令繕御帳帷幷御鏡緒等請內豎幷左右近衛兵衛等奏進於內裏次進請左右近衛府樂人幷雅樂寮歌女等奏次牒送借諸寺樂人樂器之狀次應行會料正稅之狀下知諸國次應運進會所雜物之狀下知諸國次應卜定齋場之狀牒送山城國（○中略）次卜定採大嘗宮材木萱幷御琴料材柏等山野卽下知卜食國次應交易雜物之狀牒送諸國（○中略）次內侍就女工所行事次可下大殿御衾幷雜物符下大藏宮內等省

〔儀式四〕踐祚大嘗祭儀

須下諸司諸國官符宣旨例

左辨官下宮內

疊卅枚　長筵廿枚　長疊十枚　薦十枚

右其所諸所預等座料彼所所請如件者、

年月日

大臣宣宣借收、

太政官符民部大藏宮內三省

民部

海老鰭槽一隻

大藏

絁三匹（卜部三人各四屯造酒料）各一匹（調綿十三屯六兩卜部三人各二端造酒童女一人一屯六兩）調布六端三丈四尺（卜部各二端造酒童女一人二端四尺酒

辨姓名奉

波女二人各絲二分三銖、縫殿料五色薄絁倭文各五尺、木綿麻各三斤、已上四種拔穢使卜部料

宮内

鋤二具、小鋤二具、鎌二具、鑺二口已上拔穢使料筥一合、瓫四口、理四口、瓮二口、甑廿五口、小坏二口、波佐布二口、宮坏廿口、酒垂二口、阿波大廿口、短女坏廿口、高坏廿口、足擧取次廿口、壺廿口、多志良加二口、陶確二口、都婆波砑二口、贄土師物韓竈一口、瓮二口、堝二口、高盤廿口、御刀子口柄、御疊五枚、短疊三枚、薦八枚、

右得神祇官解偁、供奉大嘗會其所調度、依例所請如件者、省宜承知、依件充之、

太政官符宮内省

御刀子一柄、阿爲刀子卅柄、東刀子卅柄

右得神祇官解偁、大嘗會其所用度、依例所請如件者、省宜承知、依件充之、

〔三代實錄三十一〕元慶元年五月二日壬寅、賜悠紀主基行事所印各一面、

〔類聚符宣抄一〕史生佐伯藤岑悠紀所　清岑高道主基所

以前右大臣〇藤原經宣、件等人宜、令直彼所者、

大外記嶋田朝臣良臣奉

元慶元年五月十一日

〔類聚符宣抄一〕右大臣〇源多宣、大嘗會記文、隨悠紀主基行事所請宛行者、

少外記大藏善行奉

元慶八年四月廿七日

〔類聚符宣抄一〕史生上毛野有統

右大納言藤原朝臣良世宣、件人宜、令直大嘗會悠紀御書所者、

元慶八年五月廿六日

〔類聚符宣抄一〕史生葛原部廣雄悠紀所　史生波多部正世主基所

少外記□□□□□

右左大臣〇源融宣、件人造畢記文之間、宜令直彼所者、

大外記大藏善行奉

仁和元年三月廿一日

〔小右記〕寛弘八年八月十八日己未、左中辨來云、大嘗會事、官底無前例使者、件事是儀式二三四卷取出、件卷々令見畢、寫取引合他書等、若無相違、就式文可行之由相示了、廿三日甲子、參內、於陣頭左右辨進悠紀主基所請申印文、各印文一面、用途料正稅稻一萬束文、於官東廳始行事所、日時文、今日申刻定主典代文、各四枚、右中辨進主基所定主典代文、行事所始文、主典代文等、各見了下給、印稻等文二通以左中辨令奏、廿四日乙丑、右中辨來申、大嘗會雜事之內、欲令書印字樣書博士城外之由、寮申者、件字樣大博士爲忠朝臣知之云々、仍以爲忠朝臣令書也、更有何事乎、九月七日丁丑、右中辨來言主基事之次、持來元慶大嘗會記文、以采女正時原春風令書古文字樣、給內匠寮令彫木印者、彼時若書博士他行歟、今般書博士等城外、仍小臣思慮、以明經博士爲忠朝臣令書字樣、頗合先賢之高慮耳、十日庚辰、悠紀主基所申無物之由、可給近江丹波掾各十人、但令勘前例可令奏聞者、仰左中辨、卽大外記敦頼朝臣勘申三代例、不見給悠紀主基所之由、只引除目勘申也、所疑者之中有人給等歟、令仰官令勘申、依可見彼間文書也、十三日癸未、右大辨云、左衞門督云、作物所愁文、悠紀標所被充書所人、主基標所被充作物所人、而今般乍兩被定書所人可示事由者、余答云、先日有此事、卽答可尋之由、而無所指見者、今有此事、如何辨云又々尋見、相遲奉仕歟者、兩方辨各所取別不被尋前例如何、作物所所愁申叶前跡、被改定、又有何事、一日作物所進同愁文、然而先日有左金吾消息、隨又々被示、可有何事、一日可有左右也、仍不仰子細耳、九年〇長和元年六月廿七日癸亥、左中辨來云、依穢作立相違頭辨云、一日左相府云、始行大嘗會之官符未成云々如何、中納言云、有給宣旨之例者、相府云隨宜可行者、此事最可爲奇、大嘗會中絕、〇去年、冷泉天皇ノ崩御ニヨリテ停止ス、又更始行之例只在承平、彼時給官符、以何例所陳乎、依前例作官符度外記了、重今只待政可請印、抑亦隨當時定可有左右歟、且以此旨示可觸頭辨之由了、予過穢之

後可ㇾ示ニ子細ㇾ者也、

〔本朝世紀〕康治元年八月十六日丙子、今日大嘗會行事所始也、以ニ大膳職ㇾ爲ニ悠紀行事所ㇾ、以ニ民部省ㇾ爲ニ主基行事所ㇾ、十九日己卯、大嘗會官符被ニ請印ㇾ、權大納言藤原宗輔卿參ニ仗座ㇾ、行ニ内印事ㇾ、大嘗會官符等、少納言藤原成通卿參ニ仗座ㇾ、行ニ内印事ㇾ、隆職宿禰六位史則員史生以下參著、諸國召物、諸司所課、多成ニ牒、又請印卽分付了、十一日庚午、巳刻行水解除、參ニ著行事所ㇾ、大夫史幷右大史章貞大史三善章貞持來始ニ悠紀繪所ㇾ日時勘文ㇾ、見了返出了、卽今日於ニ行事所ㇾ令ニ書始ㇾ、御屏風一帖、○略

陰陽寮

擇申可ㇾ被始ニ大嘗會悠紀繪所ㇾ日時

今月十三日辛未　時申二點

仁安三年九月十三日○以下署名略

陰陽寮

擇申可ㇾ被行ニ大嘗會悠紀所雜事ㇾ日時

始ニ女工所ㇾ日時

十月三日辛卯　時午二點　若申

始ニ風俗所ㇾ日時

十一月二日己未　時午二點　若申

陰陽寮

擇申可ㇾ被始ニ大嘗會悠紀幷主基小忌所ㇾ日時

十月六日甲午　時未二點　若申

十七日乙亥、參ニ行事所ㇾ、悠紀大夫史以下所々行事道々細工多以參集、次第所作終日沙汰、廿九日丁亥、參ニ行事所ㇾ、○略大夫史同參著、御調度塗調螺鈿地小々居具、又蒔繪物宗茂書繪樣、四尺御屏風同墨畫、凝ニ御挿頭臺風流ㇾ、銅細工劒造召付之、十月三日辛未、行事所渡始、所作物長絹一匹、糸一勾、紅花一斤、苅安等云々、是寬治式目也、次内侍被退出了、自ニ今夕ㇾ可ㇾ被ニ宿侍ㇾ也、而織物綾以下幷染草等未ニ濟調之上ㇾ、寬治元年十月五日内侍參入始ニ所作ㇾ、卽退出、其月中旬以後令ニ移住ㇾ云々、且准ニ彼吉例ㇾ、主基内侍少納言同今夕參入云々、其後出否可ㇾ尋ニ知之ㇾ、每事沙汰畢、下官大夫史等退出、五日癸巳向ニ行事所ㇾ、諸國召物多以辨濟、道々細工就ニ職掌ㇾ勤仕、晩頭參ニ殿下ㇾ、條々奉ニ宣下ㇾ、趣又申上退出、

仁安三年十月五日宣旨

宮城東西、幷朱雀大路至ニ于七條ㇾ、掃ニ除泥途ㇾ、殊可ㇾ令ニ修固ㇾ、兼又京裏之制具載ニ式條ㇾ、今開ニ鑿溝渠ㇾ、煩ニ往來ㇾ、侵ニ奪道路ㇾ、耕ニ作田畝ㇾ、論ニ之政途ㇾ、可ㇾ謂ニ違濫ㇾ、宜ニ令ニ左右京職檢非違使永加ニ糺斷ㇾ、從ニ停止ㇾ者、

藏人頭權右中辨平信範奉

件宣旨奉ニ檢校左大將ㇾ、卽返給、下官下ニ知官了、　十六日甲辰、女工所内侍、自ニ今夕ㇾ渡住、

〔山槐記〕元曆元年八月廿日丙子、今日大嘗會行事所始也、予爲ニ檢校ㇾ、仍今朝沐浴不ㇾ及ニ解除ㇾ、爲ニ令ㇾ勤ニ申日時ㇾ、未始刻參ニ内、閤院、前駈二人盛房邸長等也、盛房輕服日數内也、然而除服已了、仍相ニ具之ㇾ、直著ニ端座ㇾ、令ニ敷軾ㇾ、召ニ頭左中辨光雅朝臣悠紀行事ㇾ、仰云、大嘗會行事所始日時、辨退歸卽持ニ來勘文ㇾ、○有懸紙略ニ頭辨ㇾ、昨日内々示送曰、日時先例或載ニ二時ㇾ、或載ニ一時ㇾ、仁安有ニ沙汰ㇾ、可ニ承存ㇾ云々、今日尋ニ其子細ㇾ、示曰、寬治載ニ二時ㇾ、天仁載ニ一時ㇾ之處、故久我内大臣雅通公任寬治例可ㇾ載ニ二時ㇾ之由被ㇾ示、仍勘改也者、予問云、今度被ニ用ㇾ何年例ㇾ哉、答曰、被ニ用ㇾ天仁例ㇾ歟者、予又問云、今日於ニ陣覽ㇾ文何々哉、辨云、主典代文許也者、舊例或加ニ他文ㇾ、仍所ニ問也ㇾ、又問云、主典代文隨ニ召歟、進ニ天獻ㇾ之歟、辨云、先例不定歟、但元注ニ風記ㇾ、申上、令ニ參議書下ㇾ、而近代雖ニ無其儀ㇾ、進ニ天獻ㇾ之歟者、○略申申

終刻兩辨(共取笏、權辨相具、頭辨無青侍、共侍一人云云、)率來、予著直衣(冠)出客亭之後、頭辨副文於笏著座、揖卽進來予座前、置笏授文於予、予取之置座前板、解結緒返置、披懸紙推文於右方、一々取之披見、

一通請印四面文、悠紀主基各文印一面、木印一面、兩方辨史加署、

一通請正税稻二萬束文、兩方各一萬束、兩方辨史加署、

一通請借數三千二百四十一解文、兩方辨史加署、

一通請正税穀頴二萬九千五百五十束文、一方辨史加署、

一通請錢米文、一方辨史加署、

一通請雜物文、一方辨史加署、

一通可被行悠紀主基所雜事日時、可造日時、(今月廿二日、卯時、若辰時、)可被始用印日時、(同日、午時、若未時、)可移卜食行事所日時、(同日、未時、若申時、)

一通可被立悠紀主基所小忌院幷鎭日時、立日時、(九月廿八日、巳時、若申時、)鎭日時、(十月三日、未時、若申時、)

一通悠紀所可爲行事所諸司、(陰陽寮、左近衞府、乙丙下令、)可爲小忌院諸司、(宮内省、大膳職、西院、乙丙下令、)可爲小忌幷諸司、(神祇官、雅樂寮、乙丙下令、)

神祇官人三人、權大夫卜部兼貞、宮主權大祐同兼基、權少祐大中臣有能加署、

一通悠紀所可採大嘗宮料材山、(山城國愛宕郡栗栖野、伊賀國名張山、乙丙下令、)可採萱野、(近江國蒲上郡蒲生野、攝津國島下郡宿野、乙丙下令、)可採鷄尾琴料山、(大和國吉野郡吉野山、近江國高島郡□倉山、乙丙下令、)可採柏山野、(近江國高島郡美屋野、河內國交野郡柏原、乙丙下令、)

加署同前

已上十通籠懸紙一枚、內(卜文二通卷籠、日時二通卷籠、正税稻以下五通卷籠、如此各籠之、若先例歟、尤不審、)結申、如元結之返授辨、辨欲結申、予止之省略也、示可被奏之由、予又云、奏聞之後直可被下也、又々此內有上宣文歟、辨云、皆令奏也、予曰、先例分明歟、但可依例也、〇(中略)

權辨又副文書於笏直來予座前、(先是謁頭辨、問在便所、)授文於予、予披見之、

一通請正税穀頴二萬九千五百五十束文、一方辨史加署、

一通請錢米文、一方辨史加署、米書樣不似悠紀方、悠紀者米二百斛、白百斛、黑百斛、加此書之、主基者白米百斛、黑米百斛、如此相竝書之、

一通請雜物文、一方辨史加署、書樣如悠紀、

一通主基所可爲行事所諸司、(大膳職、東院、左近衞府、乙丙下令、)可爲小忌幷諸司、(大炊寮、穀倉所、乙丙下令、一本)可爲小忌院諸司、(大炊寮、左近衞府、乙丙下令、)

神祇官人三人、大副卜部兼友、權少祐大中臣有能、皇后宮宮主直是淸加署、

一通主基所可採大嘗會料材木山、(山城國宇治郡、丹波國桑田郡、乙丙下令、)可採萱野、(山城國宇治郡栗野、攝津國島上郡水成野、乙丙下令、)可採鷄尾琴料材木山、(丹波國□□郡□□山、乙丙下令、)可採柏山、(山城國□□郡、丹波國□□郡、乙丙下令、)

加署同前

已上五通籠懸紙一枚、內結申兩方辨史加署文三通、日時勘文二通、悠紀辨覽之、仍其外各別文五通所覽也、如元結之返辨、辨欲結申、予又止之、〇(中略)予問行事所始次第、答曰、官東廳顚倒無實、仍立幄(間數如本數也)北第二間東上南面敷撿挍三人座、其南東西相對敷辨座、(悠紀東、主基西、)其南同相對敷史座、其南橫切東西行敷主典代座、其南同東西行敷史生座、主典代座東頭西面敷悠紀官掌座、同西頭東面敷主基官掌座、史生座西頭敷召使座、南砌敷使部座、主基史座下南敷陰陽寮座、同辨座後敷神祇官人座、頭辨入東方著座、光長入東面南第二間、(可有戸間也)經座末著西座、是承保元年隆方朝臣用此路也、而天仁雅兼卿爲主基辨、入東廊戸自西面著之、寬治例之由執之云々、其後人々所爲大略用西面歟、然而用隆方例、了兩方著座、了諸司兼居饗、(大膳、大炊、造酒勤之、分行事所之後、國司勤之、)先一獻、次成吉書、召硯筆墨等下宣旨、(此書不覽)(上卿自行事所下知、)次二獻、下文等事、次三獻申了退出、頃之稱可參殿下〇(藤原基通)之由退、抑予示頭辨曰、主基方可奏之文、悠紀辨可奏給歟、至于內覽者、各不可有妨歟者、頭辨曰、辨官皆奏文事也、何可然哉、予曰、權辨爲地下之故也、寬弘左中辨朝經殿上辨也、右中辨重尹爲地下辨、小野右府被命旨如此、但今爲幼主、〇(後鳥羽)不可及御成敗、只存其旨許歟、又有限可奏文可有其儀也、頭辨說此事同可示權辨事也、而忘却者也、廿二日戊寅、巳時許、權右中辨光長朝臣以左大史能光示送曰、只今參院幷殿下間、印字樣且所覽也者、勘文二通籠懸紙一枚入覽筥、〇(中略)辨曰、此印字以吉時於東廳行事所今日可令彫也、而隆職宿禰內々申云、近代內匠寮皆爲銅細工、彫木事不得其骨、仍兼令佛師彫也者、又曰、文印者、印行

事所文書等也、木印者、如件之材木點定之時印彼木也、近代無點材木事、仍此印不中用歟、然而猶同
彫之、文印者小木印者大也者、（件印共云之云○中略楊木彫）
今日移行事所儀可尋注、去廿日行事始者於官東廳行之、兩方行事官共著之、所司設饌至今日造印
了、請印之後兩方行事出官東門、相分各著行卜定之行事所、（悠紀陰陽寮、主基一本御書所、卜食國設鋪設居饌儛也、）
一昨權辨曰、近奉諸司大略無實、左近府爲先度之行事所有憚、大炊寮去年亂逆之間皆被壞取畢、柱
許如形立仍點一本御書所、而隆職宿禰曰、先例未被用此所、隨可點諸司云々、此所非諸司、頗有恪惜
之氣、此有被用皇居之時、仍痛損亡歟、然而無他所、又齋宮齋院始入諸司、多又入御此所、雖謂入諸司、
不用之哉、仍所點也、
於行事所勘日時等定所々預幷繪師雜工、今日不覽之、

悠紀方文書

一通（可被鎭謝大嘗會悠紀主基卜食國行事幷日時、廿二日、時辰若申、）
一通（可被行大嘗會八月上下旬大祓日時、八日、時未若申、九月十七日、時午若申、）
一通（可被行大嘗會二日時次大祓日時、廿八日、時申、）
一通（可被行大嘗會悠紀主基荒見川祓井齋場所雜事二日時、荒見川祓、九月廿四日、點齋場所、午剋若申、）
一通大嘗會悠紀定所々預事
小忌所　內藏頭藤原朝臣高佐、主稅權助三善朝臣行衡、玄蕃頭惟宗朝臣清直、主水正清原眞
人良業、
齋場所　大學頭菅原朝臣在茂、皇太后宮亮藤原朝臣行雅、勘解由次官平朝臣親國、左馬助藤
原朝臣爲成、
細工所　太皇太后宮權大進高階朝臣忠業、散位惟宗朝臣定賢、

出納所　助教中原朝臣師直、主計助中原朝臣師茂、
繪所　文章博士藤原朝臣光範
風俗所　右馬頭源朝臣資時
和舞所　隼人正橘朝臣清定
女工所　縫殿頭賀茂朝臣宣憲
元暦元年八月廿二日
一通大嘗會悠紀所定所々預事
小忌所　主計允大江季遠、掃部允藤原邦隆、大學屬紀俊久、
齋場所　宮內丞藤原貞季、右衞門尉小野忠經、中務錄紀良貞、民部錄中原宗康、
細工所　中務丞惟宗時賢、大炊允中原成清、
出納所　少監物源賴成、主計允中原貞賢、
風俗所　兵部丞藤原兼宣、左近將監狛則近、右近將監多近久、
和儛所　右近將曹秦信光
女工所　縫殿允藤原國親、大膳屬藤井貞永、
大炊幷人給所　大炊屬藤井吉遠
標所　內舍人源良季
元暦元年八月廿二日
一通大嘗會悠紀所定所々主典代事
小忌所　左史生中原康貞、右史生大江忠兼、民部史生大江資宗、
齋場所　左史生紀良直、右史生中原季景、勘解由史生藤井國末、

細工所　左史生惟宗久經、勘解由史生中原國弘、
出納所　左史生秦久仲
風俗所　左史生大江盛元、左近府生大石久直、
繪所　左史生中原景弘、大藏史生佐伯季景、
和儛所　右史生中原良盛
女工所　左史生菅野兼久

元暦元年八月廿二日

一通大嘗會悠紀所定"繪師竝雜工事

繪所
墨畫　修理進藤原有宗
淡　內匠少允中原光永
作繪　中原吉久
張手　豐原永久
細工所
御挿頭　木道安藝介中原安信、木工散位中原貞時、漆工右衞門少志源良直、決入工中原貞仲、
蒔繪工右衞門少志紀助正、磨物工紀末次、
御器　鍛冶工源貞次
金物　武藏介紀清則
鋺工　武藏介葛原貞則
鑄物師　西市令史大春日守正

綾織　散位佐伯爲光
薄師　原守安
平文師　散位清原貞光
打物　右京少屬中原清永
繧繝工　紀守保
玉工　中原貞次
轆轤工　大春日守正

元暦元年八月廿二日

○按ズルニ、此下主基方ノ文書アレド、大略悠紀ニ同ジケレバ略ス、

〔萬一記〕正安三年五月十一日、參院、付"頭辨奏"條々事、官申、大嘗會主典代見參料、民部大藏少錄無"其仁之間、所望輩任"永仁正應例"可"被任之由申之、仍奏聞處、此間可"被"行"小除目"可"申沙汰"其時可"被"任之由被"仰"下之、十二日、大嘗會行事所始、御"敎書書樣事、

撿挍許

來廿日可"在"大嘗會行事所始"可"令"參陣"給者、依"天氣"言上如"件、

進上

或ハ撿挍左大將口刻可"被"參"存"其旨"可"被"催也、

來廿日可"在"大嘗會行事所始"任"例可"被"致"沙汰之狀如"件、

悠紀主基辨許ヘハ、撿挍左大將口刻可"被"參、可"令"存知"給"ト可"書也、六位許ヘハ任例可"被"申沙汰"ト可"書也、仰トハ不"可"書也、

廿六日、今日大嘗會行事所始也、參"殿下"尋"申御參有無之處、於"日時勘文內覽"者、可"被"略之旨被"仰"下

也、次參內、酉刻檢校堀川大納言具守參仕、辨遲參之間責催、秉燭之間催整、先檢校大納言花山院新中納言師信著仗座、上卿召悠紀行事右中辨定資朝臣、奏聞之、（於內覽者被免之間、予示擧、定資朝臣於鬼間付女房奏之、）即被返下、上卿下、辨、辨覽堀川大納言、大納言入官筥、以定資朝臣奏聞之、（於內覽者被免之間、予示擧、定資朝臣於鬼間付女房奏之、）即被返下、上卿下、辨、辨下、史、次悠紀辨覽悠紀主典代文於上卿、即被返下、辨、辨下、史、次主基行事右少辨惟輔覽主基主典代文於上卿、卽被返下、辨、辨下、史、此後上卿以下退出、日時可定申事、職事或不仰或仰之、仁治不仰之、寬元仰也、仍兼示堀川大納言處、可守仁治例之由被示之、仍不仰之、如此事依上卿所存定例也、仁治次第、堀川大納言被相尋之間注遣也、官東廳儀追可尋記、七月十八日、早旦參院以二條中納言奏條々事、（略○中）

寄檢非違使事

申云、仁安辨申沙汰之重方朝臣記分明也、然而藏人方近年致沙汰、且宣下事也、可爲藏人方沙汰歟、可差進可然之仁由可仰大理歟、仰云、早可仰大理、

廿七日、參內、大嘗會悠紀主基兩所官符請印也、先爲內文請印、檢校大納言通重卿未刻參內、而官符遲々之間及夜陰、仍再三遣使責催之處、官符三百餘枚之間令遲々、非緩怠儀之由大史伊綱申之、兼不致沙汰之條彼違失也、爰及子刻悠紀官符到來、主基官符辨料遲々之由申之仍上卿且著陣著奧座、招予之間參進、被奏事由、（其詞云、內文候、）次予奏聞、次還向仰聞食由、（氣色也、）次上卿移著端座、此間主基官符猶未到、悠紀許奏聞不可然、可相待歟之由上卿以使被命、尤可然之由予答之、重再三仰遣官之處到來、上卿起座就弓場、予出逢奏之、（入筥、悠紀主基鹿官符也、）於鬼間付內侍奏之、（於內覽者、可爲御免歟之由兼申入之處、可爲如然之由殿下被仰也、）次被返下、上卿歸著仗座、其後請印、（陣儀不見也、）少納言信雅將監用代、六位史少外記等參之、上卿少納言等藏人方催也、官外記同相觸也、次請印政也、於結政被行也、上卿少納言等參向也、仁治七年被行之、內文外文等請印同日也、上卿檢校大納言被參之仍今度被用彼例、內文奏聞後予歸逢屋、于時夜已爲丑刻、八月十四日、來十七日荒見河祓也、仍寄檢非違使事、慥所宣下也、（略○中）

正安三年八月十四日宣旨

檢非違使左衛門少尉藤原季氏、大志中原章房、

宜令行大嘗會悠紀所事

檢非違使左衛門少尉中原季兼、少志中原章有、

宜令行同主基所事、

藏人兵部少輔藤原宣房奉

廿五日、大嘗會女工所勾當宣下也、宣旨書樣、

正安三年八月廿五日宣旨

掌侍從五位下藤原尹子

宜爲大嘗會悠紀所女工所勾當

掌侍正六位上藤原信子

宜爲大嘗會主基所女工所勾當

藏人兵部少輔藤原宣房奉

〔後深心院關白記〕永和元年五月廿三日壬午、俊任來云、大嘗會行事處始日時定、上卿檢校三條大納言公豐卿輕服之間、（叔父姨親上人圓寂、）被仰他人之處、檢校事未無領狀之仁、非檢校人上卿例被尋兩局處、卽茂勘例、（注先例不詳之由載請文、）幷兼治大納言可有沙汰哉可計申者、余申云、仁安例不庶幾、早被改補檢校大納言可有沙汰乎、廿五日甲申、俊任申送云、（付書狀於綱尹朝臣、仰詞如此、仰詞注別紙、）大嘗會行事所始日時定上卿事、檢校中納言參陣奉行雖無先規、已及闕如之上者、以新儀有沙汰之條可爲何樣哉、余○道嗣藤原申云、就闕如被用新儀之段者、宜在時宜矣、卅日己丑、大嘗會行事所始日時定、上卿洞院中納言公

定卿撿校納言也行事云々、撿校大納言參行流例也、而依レ爲二輕服一中納言參行新儀也、　六月廿七日丙辰、

傳聞今日造二立大嘗會行事所一云、

〔季連宿禰記〕貞享四年八月廿日丙寅、大嘗會行事所始日時勘文者留レ官、只日時之趣以二口狀一可レ示二遣重基一云々、

儀沙汰之事、　廿六日壬申、依二使者一參二頭中將一、申二承之由一、基勝朝臣被レ命云、大嘗會行事所始、依二密々儀一、於二行事官重基許一可レ有二其事一、辨史等不レ及二行向一、只調進物之內聊可二造始一、此分可二沙汰一云々、又宣旨等不レ及二沙汰一之間、勘文者留レ官、只日時之趣以二口狀一可レ示二遣重基一云々、

〔大嘗會雜事錄〕明和八年之度　知音卿御記

一行事所始於二行事官敷地一有レ之、兩行事辨予大外記等各出仕云々、但貞享以來如レ此云々、

兩行事史ヨリ、上首ハ座次依二□□稱所勞一兼日不參由、一會傳奏被レ命ニ付、如レ此交名ニ不參之由注レ之也、

〔爲秀記〕天明七年五月廿五日

一幸德井陰陽權助入來也、唯今頭辨殿より被レ招、非藏人口江參候處、明日行事所始ニ付、依二古例一勘盃之役被二仰付一候間、早々御請申上候樣と被二仰出一候、尤明日辰刻束帶ニ而、官東廳エ向テ參仕可レ申之旨被二仰渡一、且又勤方萬端承度候ハヾ、行事官江向テ參、とくと可二承置一之旨御申故參候由物語故、則畫圖等爲二見申一、尙明日辨殿參向之上、休息之節とくと御尋、勤方御示合セ被レ成可レ然存候由申之、

一多村造酒令史入來、唯今大外記より被レ招、被二申渡一候ハヽ、明日官東廳代行事所始ニ付、勘盃之節取瓶子候樣被二仰付一候也、依二古例一被二仰付一候由也、下略

一先日被二相渡一候御次第ニ、主典代一人勘盃、同一人取二瓶子一ト有レ之候處、主典代より願書出、主典代

迄ハ一員之義ニ御座候間、乍レ恐勘盃ハ他官江被二仰付一可レ被二下旨一、且又辨史同樣ニ、主典代江も饗被二仰付一可レ被二下旨一願被二申候處一、尤ニ候由ニ而、夫故依二舊例一勘盃ハ陰陽寮造酒司被二仰付一候由也、饗も舊例辨史同樣ニ有レ之候ヘドモ、此方ニ而取計被二仰付一、別段ニ御下行も無レ之、殊ニ明日之今日ニ而難二調思召一候故、饗之儀ハ此度ハ何角被二略候一故、不レ被レ及二御沙汰一候由也、

一夕景官務より招ニ付、山名播磨守爲二名代一出頭之處、明日行事所始之節、勘盃主典代相勤候由御次第ニ御座候得共、依二古例一陰陽寮造酒司江被二仰付一候間、此段得二御意一候樣、奉行より被二命候間申渡候一、尤御次第別ニ書改可レ被二下候一得共、右人體之相違計リニ而、外ニ相替リ候義無レ之候間、別段ニ不レ被二下候旨一ニ御座候由也、

右之通天明度所見有レ之候得共、文政度者難二相分一候、

行事官

〔行厚記〕文政元年五月廿八日、大嘗會行事所始日時定、幷小除目臨時叙位等也、○略中昨日辨殿ヘ相窺置候儀、官務ヲ以被レ示候條々如左、

東廳代之儀、今度次第ハ不レ被二出候一、天明度之通相心得可レ申事、

但座之設、天明度之通ニ候得共、此度ハ幄之內一面ニ弘筵ヲ敷滿、其上ニ程ヲ計テ半帖ヲ被レ設候事、

幔仕切、天明度トハ少シ違アル事、

勘盃ノ事、天明度ハ辨史別盃ニ候得共、此度ハ悠紀辨ヨリ主基辨ヘ、主基辨ヨリ主基史ヘ、予依爲二上臈一也主基史ヨリ悠紀史ヘ巡流ノ事、尤乍レ座可レ授盃事、專如二新嘗祭一、西含座勘盃ノ通ニ可二相心得一事、

日時勘文之事、一獻之後、悠紀辨ヨリ行厚ヘ被二氣色一候間、予可二奉仕之事、

兩行事辨覽主典代文了出床子座下賜官務了起座直ニ東廳代ニ可被參向之間史以下主典代等相從可參向事、

右之條々官務ヨリ被傳達候事

巳半刻被始陣、〇中略上卿直ニ著端座、令官人敷軾、次召悠紀行事辨仰仰詞辨承仰出床子座目左大史、左大史目左少史秀壽復座、上卿召外記筥以職事奏聞了召辨賜勘文仰仰詞辨退出床子座下賜左大史、次上卿召外記令撤空筥、次悠紀行事辨目左大史、左大史目予、予受目揖テ起座代文進辨、著横切床子、辨披見參陣之後復座、次主基行事辨目左大史、左大史目予、予受目揖テ起座參進（兼ヲ取副主典代文於笏）進主典代文了著横切床子、辨披見了參陣之後復座、辨出床子座下賜左大史、（主典無文）奏聞上云、此間撿按中納言重能卿起座御退出、（自化德門）上卿猶在座被行除目執筆參議豐季卿參陣、悠紀主基之辨史起座之後、右少辨隆光右少史三善亮績等著床子座、次悠紀主基行事辨起座、次予左少史等起座、辨以下直ニ參向東廳代、（行事官也）〇中略官主典代各相從、〇中略官東廳代之儀、

幄內敷滿弘筵、其上設黃端半帖爲座、東上南面、敷撿校三人座、其南東西相對敷辨座、（悠紀主基東西）其南同相對敷史座、其南横切東西行敷主典代座、先悠紀主基行事辨著座、次ニ予著座、（東面揖如恒）次ニ左少史著座、（西面次主典代各著座、辨史座前豫設）先一獻（陰陽助保勅盃、造酒司史生藤原久信取瓶子）悠紀辨呑了受酒擬主基辨、兩辨相互ニ膝行進寄、主基辨受盃復座、呑了擬史、予披膝受之、置笏（左脇）乍座聊相向受盃居直リ呑了予受目起座出當間、更ニ自第三間參進候辨前、（南方）辨仰仰詞、（其詞云、可レ有ニ大嘗會雜事ニ、予承之退出、到ニ幔門外ニ取筥、入ニ日時勘文ニ、（豫令ニ日時勘申サシメ、）如ニ本雜色持ニ候之ニ、）更參進進辨辨披見了懷中勘文返賜空筥、予取筥退出、返與雜色了復座、次二獻（其儀同ニ一獻）次三獻（其儀同ニ二獻）次主典代各起座、（負ヒ先下ヲ蔽ニ）次左少史起座、次予起座、經本路出ニ幔外、次主基辨、次悠紀辨起座、辨以下再入ニ休所、（暫テ兩辨御起座、次予以下歸宅了、）（于時未許也）

〔文政度大嘗會調進物記〕行事所始

一彩色瓶子　一口
一盃土器　六枚
一酒具臺　一脚
一清酒
右調進

瓶子取造酒令史代、造酒司史生上首以參勤仕候事、

〔壬生家記〕文政元年五月廿五日、大嘗會行事官始、辨史饌儛、天明之度者、

著

飯　汁　生物　干物　菓子二種

此度者菓子一品加追物候旨、大膳職より申出候、且又人車記ニ、辨者樣器ト有候間、餘日無之候得共、右之通私心得ヲ以傳奏相口候事、

〔輔世卿記〕嘉永元年五月十四日丙戌、家君（〇小槻以寧）御出門、〇中略頭辨樣御面會、御賴之條々左之通り、

一行事所始、陰陽寮何方より被催候哉御尋之處、天明文政共何方より御催ニ候哉委細難相分候得共、何分官方御注進交名ニ被加御注進ニ候間、於此度者御兩局觸狀ニ被加御催之御覺悟候旨御返答之處御尤ニ御承知也、〇中略

一文政度勸盃、主基之辨少々御心得違ニ而、陰陽寮呑酒畢而進辨ヘ候所、今度天明度御定之通、獻盃之方ニ御治定候間、造酒司をして令盛酒、主基之辨ニ進メ候頃、陰陽寮可退旨被示之、尤文政度者、主基之辨勸修寺樣より、陰陽寮へ進退之事御申含ニ候得共、此度者官之東廳代之儀故、總而御當局より事之由御達可有之旨也、

拔穗使

十六日戊子、家君御出門、右者非藏人口より御例席へ御通、大嘗會傳奏奉行御面會ニ而、昨夜坊城頭辨樣へ御內談被仰入候、小野大藏少錄來十八日行事所始內々憚日ニ相當之處、全忘却御請申上候、如何御取計可被成哉、(中略)右之次第甚不埒之至候得共、何分最早行事所始迄御日限も無之義故、何卒被相宥、東廳代參向臨時所勞不參之儀ニ而も御含ニ若相成間敷哉、則近例天明七年悠紀方主典代之內、右史生代、峯木工大允紀親賀臨期依所勞、非官掌庭田加賀守紀政紹語合、願濟東廳代參向、主典代之文ニ被載候、又明和八年迄者東廳代參向之內、座次差支之面々ハ、當日不參之例度々ニ候、又祥忌之人之名、神事文所々被載候例、延寶七年七月御當局御先代季連宿禰御實父祥忌之日、神宮文書御擧奏之例等在之候間、右等之御准例ヲ以、主典代之文ニ者被載之、參向者當朝依臨期所勞不參之樣ニ而も御取計可被成哉御談之處、御返答ニ者、至極御尤ニハ思召候得共、何分外之儀とも違ひ、傳奏御奉行限り御含ニ而御指圖も難被成候間、內々關白樣(政通○鷹司)へ御伺之上御差圖可有之故、本人より殊之次第有體ニ相認、御理書爲差出、御當局よりも御取計方內々御伺書被添、早々御差出可有之旨御達也、　十八日庚寅、家君御出門、右者行事所始日時定幷小除目等ニ付御參陣、(中略)巳半刻計、日時定陣儀初ル、引續小除目陣儀也、(中略)今日行事所始、兩行事辨樣巳下午刻前東廳代行事官亭へ御參向、午半刻許事相濟候也、

〔儀式　二〕踐祚大嘗祭儀

天皇卽位之年、(中略)八月下旬、(中略)神祇官卜定拔穗使、申官發遣、(稻實卜部一人、禰宜卜部一人、)到國率國司於齋郡大祓、(齋郡司、幷百姓亦預焉、○中略)祓畢賜直會酒肴、次使與國司共卜定稻實殿地、卽以木綿繫賢木立地四角、次卜定御田六段、(田稱大田、稻稱撰子稻、)卽使及國司向御田、以木綿繫賢木立田四角、令夫四人守之、次卜定物部人十五人、(男六人、女九人、)造酒童女一人、(以當郡大少領女未嫁卜食充之、神語佐可都古、)稻實公一人、大酒波一人、大多米酒波一人、粉走二人、相作四人、燒灰一人、採薪四人、歌人廿人、歌女廿人、(歌人歌女、並不卜、)次賜使明衣料絹二匹、綿八屯、布二端、(人別絹一匹、綿四屯、布一端、用國物、)次鎭稻實殿地、其料各五色薄絁各五尺、倭文五尺、木綿麻各三斤、鍬二口、斧鎌各二柄、(已上官所充、)庸布二段、綿二屯、絲二絇、軾料絹二匹、米酒各一斗、堅魚鰒各一連、海藻一斤、稻四束、(已上用國物、)鎭畢使執齋鉏鎌芟除草木、始堀柱穴、其院方十六丈、以柴爲垣、(高四尺、以楉結之四節、)門在東方、編葦楉爲扉、(高八尺、廣一丈、)院四角插賢木、其內搆作雜殿、入門二許丈、縱三間使政所屋一宇、(長二丈四尺、廣一丈二尺、)其北橫五間拔穗使宿屋一宇、(南戶長二丈四尺、廣一丈二尺、東三間爲稻實卜部宿所、西二間爲禰宜卜部宿所、)其西橫三間屋一宇、(南戶長廣同上、東三間爲物部男宿所、西二間爲稻實公宿所、)其西橫三間造酒童女宿屋一宇、(南戶長二丈二尺、廣一丈二尺、)其南少西、縱八間八神殿、(東戶長二丈四尺、廣七尺八寸、柱高八尺、與使政所屋相對、)其南少東、高萱御倉一宇、(北戶方一丈、)其東橫三間稻實殿一宇、(北戶長二丈四尺、廣一丈二尺、)其東橫三間物部女等宿屋一宇、(北戶長廣同上、)其制也、八神殿者爲片廂、葺以青草、內安竹棚、(高四尺、)其上敷席爲神座、蔀廻以葦、開東戶、懸葦簾、高萱御倉者葺蔀以青草、開北戶、以葦爲扉、內作竹棚、其上敷薦以安御稻、稻實殿者葺蔀以青草、戶亦用草、使宿屋者葺以青草、蔀之以葦、開南戶、使政所屋者葺蔀同宿屋、開東戶、造酒童女宿屋者葺蔀以青草、開南戶、以葦爲扉、稻實公物部男宿屋葺蔀以青草、開南戶、以葦爲扉、物部女宿屋葺蔀以青草、開北戶、以葦爲扉、並以黑木搆作倒葺、九月、(中略)是月拔穗使在國率國郡司物部人擔夫三百人、就水湄而解除、訖至御田拔取御稻、造酒童女先之、稻實公次之、酒波次之、物部男女次之、擔夫次之、總拔得御稻若干束、(以四把爲束、)乾之齋院、就中以先拔四束、別納高萱御倉、(當日稻實公所負稻也、)自餘爲白黑二酒料、次使率物部人始入齋殿、次祭八神、(中略)次以韓櫃七合、(各長二尺六寸、廣一尺八寸、深一尺二寸、)實御稻十四束、(別二束爲合、)一合爲荷、裹之以薦、居宮形、(足高一尺四寸、)籠若干合、(隨稻多少、籠口徑各二尺、深各一尺五寸、)各別實御稻一束、二合爲荷、(別荷有四脚、以木綿賢木挿籠上、其擔丁外更有攀相副者、下鋪設亦同、)一夫擔之、以若是子弟廻立於內及蓋等、訖閇齋場門、上道向都、其行列健兒四人各執著木綿賢木、(後陣健兒亦同、)左右列立、子弟四人執著木綿賢木、(後陣子弟亦同、)次之禰宜卜部當途而列、稻實公著木綿鬘次之、御稻韓櫃幷籠次之、(每十荷子弟一人執白木領之、)物部男五人次之、當郡鋪設當途而列、(疊薦各卌枚、席長薦各七十枚、簀五十枚、)子弟四人健兒四人次之、造酒童女駕輿當途、(擔丁四人、)物部女九人次之、書生一人次之、郡司次

之、國司次之、已上乘(私馬)、稻實卜部次之、下旬至京齋場、官人幷國司、持麻幷鹽湯、迎南門、灑御稻幷雜物、訖納院外權屋、預先作備、次賜明衣、造酒童女、布二端、綿一屯、六兩、酒波女二人、布一端三丈、(人別三丈六尺)

【儀式三】踐祚大嘗祭儀

十月上旬、○中略各拔穗御稻幷雜物、遷納內院、

【儀式四】踐祚大嘗祭儀

預下諸司諸國官符宣旨例

太政官符大藏宮內等省

大藏省

五色薄絁五尺、倭文五尺、木綿大三斤、麻大三斤、

宮內省

鋪二具、小鋪二具、鎌二具、鍬二口、

右得神祇官解偁、爲供奉大嘗會、遣悠紀國拔穗使卜部等用度、依例所請如件者、省宜承知、依件充之、

【延喜式七踐祚大嘗祭】凡拔穗田者、國別六段、(用百姓所營田、其位代、以正稅給之)

八月上旬、申官、差宮主一人、卜部三人、發遣兩國各二人、其一人、號稱實卜部、一人、號禰宜卜部、到國各於齋郡大祓、(馬一匹、大刀一口、弓一枝、鹿皮一枚、庸布一段、木綿一斤、堅魚鰒各四斤、海藻滑海藻各四斤、米酒各四斗、鹽四升、當郡備、又鄉別刀子一柄、笥一隻、鋒一口、麻一斤、稻一束、訖卜)定田及齋場雜色人等、(歌人歌女不卜)造酒兒一人、(神語曰、佐可、都古、以當郡大少領女未嫁卜食者充之)御酒波一人、篩粉一人、其作二人、多明酒波一人、(已上並女)稻實公一人、燒灰一人、採薪四人、歌人廿人、歌女廿人、訖鎭齋場、其幣五色薄絁各五尺、木綿麻各三斤、倭文五尺、鍬二口、斧小斧鎌各二柄、卜部二人明衣料、絁二匹、調布二端、綿八屯、造酒兒酒波等調布三端一丈四尺、綿一屯半、縫絲一兩一分二銖、並用大藏物、(但鎭祭所須酒者、等當國供之)所作八神殿一宇、(長二丈、廣一丈四尺、)稻實齋屋一宇、(長二丈、廣八尺、)使衙屋一宇、(長四丈、廣二丈二尺、)稻實公等屋一宇、造酒兒等屋一宇、(長各

二丈、廣一丈二尺、)並以黑木及草構葺、壁蔀以草、掘井一處、(當以片屋、)院內方十六丈、以柴爲雜、編木爲扉、即於齋院、祭神八座、(御巫祭神、高御魂神、庭高日神、大宮女神、事代主神、阿須波神、波比伎神、)其幣座別絹四尺、五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿一兩、絲一絢、綿一屯、布一段、鍬一口、稻一束、米酒各四升、鰒堅魚、海藻各二斤、腊鹽各二升、並用國物、凡拔穗者、卜部率國郡司以下及雜色人等、臨田拔之、先造酒兒、次稻實公、次御酒波、次雜色人、次庶民、共拔訖於齋院、乾收、先割取初拔四束、(四把爲束、)擬供御飯、自餘皆擬黑白二酒、總盛以籠、籠別一束、以二籠爲一荷、荷別著足、蓋以編茅、插賢木著木綿訖令駈使丁荷、每十荷子弟一人領之、卜部及國郡司率雜色人以下、前後撿校運送、其行列者、御飯稻在前、自餘物次之、稻實公著木綿鬘引道、九月下旬到京、所卜定齋場院之外、預作假屋、暫收御稻、

【延喜式七踐祚大嘗祭】凡齋郡之齋院、祭神八前、卜部二人、(兩國各給二明衣幷被、)凡大嘗祭畢、差禰宜卜部二人、造兩齋國祭御膳神八座、即爲解齋、明日燒却齋場、其供神物者、以當國物充之、

【神祇官年中行事臨時】大嘗會

拔穗使(六七月中下旬比差進之、)

四人、(悠紀二人、主基二人、)

件使以卜部伊岐氏人差進之、

神部八人、(一方副神部四人、)

【代始和抄】大嘗會事

拔穗の使は、九月に神祇官人兩國に下向して、齋郡の稻の初穗を拔て神膳に備へむとす、おのおの和歌を作りて、これをうたひて穗を拔なり、

【日本紀略八花山】寬和元年十月十五日乙卯、今日近江國拔穗使、率八省八女參場所、

〔小右記〕寛弘八年九月廿七日丁酉、右中辨持來丹波國解郡解等、答先申「左府（藤原道長）隨彼被」命之趣、可」付「左中辨」之由、國解趣拔穗使致「非法濫行、責」取種々物等」之事也、依」穢以「資平」令」傳云々、乘晩又辨來云、申「左府」、命云、奪取雜物可」被」糺返」極不便事也、早可」令」奏聞」、廿八日戊戌、頭辨下」宣旨」、是丹波國解文、（拔穗使濫行事也、非法事加」制止」、又可」糺」返責取雜物」、）

長和元年八月十七日壬子、左大臣自」殿上」向」仗頭」、欲」定「申大嘗會事」、（略）中近江國申、被」停「拔穗使」、注」申漏田三町被」卜定」後國司拔進事」、諸卿申云、去年卜「定稻實公歌男女等」、但神祇官國司相共臨「田頭」可」拔備」、又可」祭「八神」、可」造「其座」、國司一人不」可」專「其事」、拔穗使數日經過事、依」卜定稻實公歌男歌女」而去年卜定了、不」可」經「數日」、只臨「來月上中旬間」隨「國司申」罷」向彼所」、卜定田祭「八神」、可」無「經過煩」之由可」被」仰下」歟、（略）申至「近江國拔穗使事」、來月中旬許可」遣件使」、從類供給等事、可」被」從儉約」之由也、

〔本朝世紀〕康治元年十一月二日庚寅、悠紀主基兩國拔穗使、率「六男八女稻實公等」參「入齋場所」、

〔兵範記〕仁安三年七月廿七日丙戌、行水解除、參「行事所」、召「陰陽頭」令」勘「申來月次第日時」、（略）中

陰陽寮

擇申可」被」立「大嘗會拔穗使」日時

九月十七日乙丑　時午二點

仁安三年七月廿七日

權大允賀茂修平

主計頭賀茂在憲

九月十九日丁丑、行水解除、先參「殿下」、內覽拔穗使條々申狀、

齋郡々司神事用途、幷使供給等疎略事、雜事支配田內、國司免除用途不」叶事、

十月八日丙申、參內、晩頭退出之間、拔穗使卜部兼貞來臨、齋郡不」叶、假屋未」造、供給不」足、神事未」備、所部庄園權勢强威之間、徒過「數日」、度々雖」申「上」、其事不」行之故、自地歸京云々、國司成房（藤原成範子）所行條

條、取「具文書」、細々出詞、卽馳「參院（後白河）」、別當被」候、且依」仰付「件人」、委奏聞了、直可」催「沙汰」事、可」仰「國司」之趣奉」仰退出、十三日辛丑、早旦參院、拔穗使驛家雜事不」叶、中間歸京、殊被」召」仰、又不」勤「雜事」之所、已國領莊園被」付「撿非違使」、盛安了、卜部兼貞日中可」向「齋郡」由被」仰含了、次參「行事所」、雜事之間、有」召歸參、拔穗雜事對捍所々、重給「注文」、下「知盛安」了、入「夜歸華、廿二日庚戌、悠紀拔穗使宮主卜部兼衡、昨日御禊役了、下「向齋郡」之次、來示云、齋郡每事不」調、次第神態未」勤一事、廿八日入洛不」可」叶者、卽參院申「此由」、次爲「御使」參「殿下」、御返事云、主基拔穗使、廿八日可「入洛」之由被「定仰」了、今朝已依「卜食國」歟、悠紀使延引（來月三日）、主基拔穗入洛（廿八日）前後參著可」被」問「先例」歟、下官申云、寬治元年十月廿九日悠紀拔穗使神事不」調、十一月三日入洛、主基拔穗令」遲留路次、十一月二日入洛之由所見候、重仰云、准「件例」尤可」有「沙汰」歟、但可」被」尋「問人々」之由有」仰、向「太政大臣（藤原忠雅）」、次向「左府（藤原經宗）」、次向「內府（藤原亨花山院）」、各一同被」申云、悠紀拔穗使、依「神事不」調延引之條、合「寬治吉例」、於今者主基使雖」出「彼國」、遲留路次、來月二日入洛之由被「仰下」了、及「深更」直歸「華、廿三日辛亥、早旦參「院」、奏聞殿下已下公卿申狀、次依「仰召「主基行事辨重方」、備中拔穗使雖」出「彼國」、各一兩日遲留路次、來月二日可「入洛」之由、被「仰下」子細畢、次右少辨以「仰旨」下「知本官」、又播磨備前、攝津之驛家等各一宿雜事可」勤仕之由仰遣國司許畢、

廿七日乙卯、拔穗使來月二日可「入洛」、可」行「向粟田山」、又可」掃除「路次」之由仰「寄撿非違使二人」了、

十一月一日戊午、早旦參「院」、次參「殿下」、今朝左兵衞督成範卿大炊御門京極家燒亡、是卜食國司親父、偏彼卿沙汰也、可」愼可」恐、明日拔穗使可」入洛」其間童女八女六男稻實公子弟等裝「束齋場所」、儲「大嘗宮點地雜事」、依「彼火災」遭「尋、難」召之處、相「儲他所之間、不」可「闕怠」之由武衞所申也、凡今度卜食國勤每事懈怠、既「遇「火事」、疎略之愼、彌可「怖畏者歟、行事所史生、幷撿非違使左衞門尉盛康志基廣明朝早罷向粟田山、任「日時勘文、午時可」令」入「洛彼使等」之由下知畢、外記史生二人同下知畢、二日己未、拔穗使入洛、又大嘗宮點地也、早旦行水解除、先詣「撿挍左大將（藤原師長）」、執「申雜事」、悠紀國司家燒亡事、怖

畏由殊示給、又申子細、次參行事所、大夫史以下併參會諸事沙汰、申刻引率參齋場所、先巡檢神服院內院等作事、四面木柴垣、黑木屋皆造營畢、次著廳座、卜食國鋪設、如內院神服院棟上日、但母屋西一間、敷紫緣疊爲童女座（北面、下官座南也）、同母屋南自西二三四間、敷同疊爲禰宜卜部座（對五位史、稻實卜部六位史、書生對座主典代）、南廂自西三四間、敷布緣疊爲八女座、同第五間、敷同疊爲稻實公座、東第一間切懸下敷六男座、下官以下行事官卜部國司六男等座、皆居饌、當所出納備之、皆用机、下官前（備器、八女六男居折敷、自餘皆深草）、童女前不居饌、廳前庭西第三間當東西柱去砌二許丈立卜部標（禰宜西、稻實東、禰宜黑木棚、安置鹽湯幷賢木、悠紀方寄檢非違使左衛尉橘盛安、志中原基廣、今朝向粟田口、又外記史生二人同差遣了、主基行事辨同著廳行事、晩頭主基行事拔穗使、自宮城西大路已參上、行事官出合致次第沙汰、秉燭之後悠紀使入洛、自二條末西行、自洞院東大路北行、自一條西行、至于齋場所南鳥居前列立、

行列次第

先子弟四人、捧榊榁、警蹕先行、（前々著退紅襖袴、今度雖調備燒亡之由國司申了、）次鈴負一人（布衣乘馬）、次拔稻四十荷（以四把納一籠、以二籠爲一荷、又納一籠、）次鋤鎌以下雜物、難勘筆端、每十荷子弟二人、捧榁領之、次童女乘白木輿、有荷丁、三面垂白木幸櫃、次造酒兒、次八女、次六男、次卜食郡司國司、代書生、次神部二人（以上四人衣冠）、次禰宜卜部、宮主兼衡、稻實卜部紀伊樀守兼貞、次外記史生中原俊貞（今一人可尋）、次撿非違使二人（以上揔皆參會）、次國司代書生入南門、自屏垣東來立廳前庭中、今拔穗使參來之由申給卜申、齋場所主典近元、官□□取笏許揖、次近元答云々合參目、六位史、史目下進ヨ、卽起座、近元貞友等列南門左右、以賢木鹽湯灑行列、童女下輿加行列、次卜部二人、稻實公著庭前標、童女八女六男列、立稻實公後、列立定了、卜部二人著母屋第二三間座、國司代著同四間座、童女著母屋一間座、八女著廂座、稻實公著其末座、六男著東座、次盃酌三獻、下官盞至大夫史以下官掌卜部二人書生等別行酒、次居汁、次食了、禰宜卜部以雜物解文覽下官、下官見畢下主典代、主典代成外題、卜部二人相共起座、令撿納於倉代、（件解文拔穗以下供神物目錄已同、今年依寬治例、令史生成也、）次卜部以下歸著、

〔山槐記〕元暦元年八月廿六日壬午、早旦悠紀行事、史國通○中略副進拔穗使差文、

神祇官

差進悠紀所拔穗使事

稻實卜部宮主從五位□行權大祐卜部宿禰兼基

禰宜卜部從五位下卜部宿禰兼守

神部肆人

右依官宣、差件等人充使、爲被發遣、依例差進如件、謹解、

元暦元年八月廿日　正六位上行權少史齋部宿禰友□

正四位下行伯仲資王

此差文者、來廿三日持向辨里亭云々、件文未覽上卿、

〔業資王記〕建暦元年九月廿三日壬申、拔穗使事、以兼高可差遣之由被仰下、今度卜合云々、

裏書

拔穗使

悠紀

稻實卜部宮主正五位上兼久

禰宜從五位下行權少副兼高卜合

主紀

稻實從四位下行權少副兼茂氏長

禰宜從五位上行權少副兼直奉行勞

今度兼茂、兼直、兼久等三人先定了、今一人兼衡、兼經兼高子遠望之間、被行御卜歟、兼衡雖爲舊勞故實之者、依被憚前官歟、十月一日己卯、拔穗使等今日進發云々、

〔百練抄十五後嵯峨〕仁治三年十月十五日甲子、悠紀拔穗使上洛、訴申齋郡狼籍事、仰武家有沙汰、十一月六日、兩方拔穗使入洛也、悠紀方人馬懈怠之間、及深更參著齋場所、

〔園太暦〕觀應元年九月廿四日丙子、抑左少辨時經爲勅使入來、有勅問事、申詞續左、

丹波國河關所役、大嘗會拔穗使下向假屋以下事、如國司信顯申者、當役當所代々致其沙汰云々、兼停進院宣以下、非正文之條雖非無示充、遷替國司被成下院宣、國衙不帶正文條、強非巨細哉、所詮期日相迫之上者、於此事者、不論關所停否、令遵行之條、可爲何樣候哉、別若召武家使者可被仰談歟、不然者被付他料足可爲一儀兩樣之間、可在時宜矣、

〔季連宿禰記〕貞享四年十月一日丙午、近江國志賀郡大嘗會拔穗稻、禁中侍不知名今日向志賀郡取之云々、卽今日件稻先行事官重基許納之、重基拔穗調進物等有之云々、拔穗使儀作法等一向不及沙汰、只堅固密々儀也、其儀追可尋記、丹州桑田郡之分、來四日取之云々、是等今日重基來所語也、拔穗使神祇官輩等參向無之云々、略中

大嘗會拔穗使調進物後日以御訪帳寫加之

行事官調進

一長辛櫃四合　棒四本　一荷辛櫃八合　棒四本　一緘緒晒布六匹　長辛櫃一荷　辛櫃料　一荷籠八ツ　棒四本

一引臼二　一春臼二　一杵六本　一鋤二丁

一鍬二丁　一菜刀二　一土鍋二　一疊面二枚　薦二枚

一桶二　一續紙二枚

以上

四日己酉、丹州桑田郡拔穗稻、禁裏侍不知名今日向丹州取之云々、神祇官輩等不及參向、只堅固内々儀也云々、五日庚戌、後聞丹波拔穗稻使歸京、件稻今日渡行事官重基之宅地云々、

〔大嘗會私記〕貞享四年略中此冬大嘗會執行アルベキトテ諸司ヲ催サル略中拔穗使ハ略ニテ、吉田ヨリ大隅宇右衞門ニ、禁裏ヨリ青侍一人指添ヒ、十月朔日ニ近江志賀ノ郡山中行先ニテ、モミ壹石、ヌキ穗籠ヘ入、二荷取來トナリ、十月四日丹波桑田郡竝河ヘ右ノ使ユク、一說ニ佐伯ト云、モミ幷拔穗上ノ如シ、古ノ拔穗使ハ大儀ノ事ニテ、大使八人、轅ヘ小使八人、退紅二十人、是ハ拔穗三荷ヅヽ、十二人シテ荷フ、其餘八人ハ手ガハリ也、猿女二人、巫女二人、稻君翁二人、童男童女十二人、神歌ヲウタフ由ナリ、是ハ持明院家勘玉ヨシ、管領ハ珠輿ニ乘玉ヒ、大忌衣ヲ著ストナリ、珠輿ハ天羽車ニ似タリ、右簡略ニテ上下五百人計ナリ、文正年中ニハ上下壹萬人バカリト也、

〔壬生家記〕明和元年大嘗會門下諸司訴訟屆等留牒

奉願口上

大嘗會御當日調進物之内、不足之品、別紙以書付及言上候通、略中雨覆三通、此度調進被仰付候樣偏奉願上候已上、

八月　　行事官

官務殿

口上覺

大嘗會拔穗使調進之内

長辛櫃　四合

荷辛櫃　八合

荷目籠　八ツ

右者國郡より御稻到著之節、御用被ㇾ持居ㇾ候分、寬延之度雨天ニ而御稻ニ少々水入リ候而難ㇾ澁仕候間、右辛櫃幷籠等之雨覆、此度調進仕度奉ㇾ存候事、

八月　　行事官

〔厚敷記〕天明七年八月廿七日、柳原殿ヨリ庭上江辰半刻出仕候樣申來ニ付出仕、山名家ヘハ官務ヨリ申來候由、

神祇官

差進悠紀所抜穗使事

稻實卜部宮主從五位上行神祇權少副卜部良久

禰宜卜部從五位上行神祇權大祐卜部光康

神部肆人

右依官宣、差件等人充使、爲被發遣、

天明七年八月廿七日　　正六位上行少史紀朝臣助長

伯從四位上資延王

九月十五日、柳原殿ヨリ使來、今日晝迄之內ニ可參旨申來、卽參上之處、抜穗進發歸京、近江國風土記事等、明卯半刻迄ニ覽筥持參可有之事也、　十六日、卯半刻柳原殿亭江參上、〇略中　辨殿被下、三通、仰詞ニ上卿之モトヘミセシメヨ、夫ヨリ花山院大納言殿亭江參上、〇略中　愛德卿三通共披見被返賜、予披見、仰詞云奏聞、其後直ニ可被下旨可示辨、退出、夫ヨリ辨殿江參上、右ノ仰詞ヲ申、辨殿勘文二通懷中、近江國風土記事ハ日野殿ヘミセシメヨ、依而日野家ヘ持參之處、內々ニ而被請、空筥被返、夫ヨリ庭上江參仕奏聞了、

〔壬生家記〕文政元年九月廿日、大嘗會抜穗次第

前一日抜穗使到國稻實卜部一人、禰宜卜部一人、神部肆人、以吉日到齋郡齋場所、先是在廳官人代官等祓承供給、次兩使率國郡司代以下雜色人等就水湄而大祓、齋郡司、非百姓亦預焉、其儀神部到川邊著軾讀祓詞、訖持麻祓兩使、次在廳官人代官以下至從事百姓等悉祓之、次賜直會酒肴、次兩使與國司代共卜定稻實殿地、卽以木綿繫賢木之四角、次卜定御田六段、訖、田稱大田、稻稱選子稻、次兩使及國司代向御田、次木綿繫賢木立田四角、四方曳廻標繩垂木綿、令夫等守之、次卜定雜色人等、謂於卜家之、次賜兩使明衣幷被料、絹二匹　次鎭稻實殿、鎭畢執齋鉏鎌艾除草木、始堀柱穴、其院四角插賢木、曳廻標繩垂木綿、所謂齋院也、又稱齋場、其制也、以黑木構作之、爲片廂、葺以青草、內安竹棚、高四尺、葺廻以葦、曳廻標繩垂木綿、殿四角插賢木、繫木綿、使政所屋一宇、稻實齋屋一宇、當日刻限、於齋場辨備諸事、裝束鋪設訖、在廳官人代官等申時刻至且辨備訖之由、次兩使率神部等參齋院、次兩使率神部等著政所屋、馳使丁持籠置齋殿前、其儀政所屋北上東面稻實卜部著座、次禰宜卜部著座、西上北面神部四人著座、造酒兒稻實公酒波雜色人駈使丁庶民男女謂抜穗之人集會候前庭、次稻實卜部召神部、詞曰、カムナヲ、第一神部稱唯參進座前、仰曰、解除仕マツレ、ヒラヒヒ神部稱唯退、次神部著軾、向巽方讀祓詞、訖執大麻臨大田祓之、次祓籠、次祓造酒兒以下庶民等訖、次禰宜卜部召神部、神部稱唯來跪、仰曰、神座供神物、詞曰、神座ミテグラ奉レ、神部稱唯、次神部四人起座、敷神座於齋殿竹棚上、其次第以東爲上、座別席一枚、御歲神、高御魂神、庭高日神、大御食神、大宮女神、事代主神、阿須波神、波比伎神、右所祭八座、座別絹四尺、五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿壹兩、絲一絢、綿一壺、米酒各四升、饌堅魚海藻各二斤、腊鹽各二升、竝用國物、一人持鍬稻束等、一人持荒筥盛絹絁倭文木綿絲綿布等、一人持葉椀盛米酒饌堅魚海藻腊鹽等、右供神物座別神部供之、次稻實卜部參進神前著軾、當第一禰宜卜部參進神前著軾、當第八各申祝詞、次稻實卜部復座、次禰宜卜部進政所屋軾、向巽八度拜、八開手、祈申訖、次禰宜卜部復座、次稻實卜部召神部、神部稱唯參進、仰曰、大田撰子稻乎令抜與、神部稱唯仰稻實公、次

造酒兒以下臨大田拔取御稻、先造酒兒、次稻實公、次酒波、次雜色人、次庶民、其拔訖於齋院乾收、先割取初拔四束（四把ヲ束）擬供御飯、自餘皆擬黑白二酒、右所拔得御稻總盛以籠、以二籠爲一荷、荷別著足、蓋以編茅、插賢木、著木綿訖、令駈使丁荷之、次神部四人起座參進齋殿、撤神座供神物等、次雨使撿察御稻束數訖退出、次神部退出、次國郡司代以下雜色等退出、

〔壬生家記〕文政元年八月十四日、今日拔穗使發遣ニ付、伯家次第、

大祐尹昌著座、次伯著座、大祐公文所勤座、次伯目許、公文所參座前、仰差文持參之儀、此間伯仰ニ家司硯持參儀ト次、公文所差文持參、入ニ覽筥ニ、伯加署、家司撤硯、次伯目許、大祐伯座前參、拔穗使發遣差文、悠紀主基辨亭可持參由奉、大祐差文持退、大祐差文入覽筥、先悠紀勘修寺殿江持參、雜掌單狩衣著用出會落手、次主基廣橋殿同樣、

九月十七日

兩國拔穗御道具

一長唐櫃四合（榜四本、繩布八筋）　一荷唐櫃四荷（榜四本、繩布八筋）　一荷目籠四荷（榜四本）　一鍬貳丁

一鋤貳丁　一柴刀貳丁　一疊表貳枚　一薦二枚

一雨覆貳拾枚　一雨覆箱貳荷（榜二本）

以上

九月

右拔穗使御道具目錄吉田殿家司入來相渡候事、

廿二日　行事官

覽

一竹三拾本　一箕三ッ　一筵五拾枚

右大嘗會御稻御用也、慥ニ請取申處如件、　行事官印

九月

廿六日、今日兩國御稻到著、副使山田阿波介、社門より入倉代江、各納置、悠紀東方、主基西方江相納置候事、

一吉田殿副使より相渡御稻幷御籾等目錄

悠紀方

一日籠二荷、拔穗四把入、

一辛櫃四合、籾壹石四斗入、但增籾二斗共、

一長辛櫃二合、籾壹石六斗入、

以上

主基方（○悠紀方ニ同ジケレバ略ス）

〔春芳記〕嘉永元年八月十四日、差文伯亭江持參、公文所家司披見、兩辨亭江大祐持參、家司中門外江出向申次、差文覽筥納、辨披見了空返退出、伯亭江持參、家司披見、兩辨亭江大祐持參、祭主加署、再主基同上、廿二日、午刻斜、裏松殿ヨリ御消息幷神祇官賜差文、如左、

悠紀所拔穗使神祇官差文如此、早可被下知之狀如件、

八月廿二日　左中辨

右大史殿

差文

神祇官

差進悠紀所拔穗使之事

稻實卜部宮主從四位下行少副卜部朝臣良祥
禰宜卜部從四位上行權少副卜部朝臣連胤
神部肆人

右依官宣差件人充使、爲被發遣依例差進如件、謹解、

嘉永元年八月二十二日　　從五位下行大祐紀朝臣以昌

從四位上行伯

正三位行大副大中臣朝臣敎忠○主基、同文ナレバ略ス、

【輔世卿記】嘉永元年九月五日乙亥、御使行事官ヘ竹中右近、右者拔穗使參向之名前幷右參向之節勅使ト被稱候哉、且右ニ付内見參向之義有之候哉、右御承知被成度候間、御尋被遣候處、不分明ニ付、尚關白亭ニ而承合セ、御返答可申上旨也、十二日壬午、家君○小槻以寧御出門、右者坊城頭辨樣ヘ御出之處、拔穗使行事官調進之御道具、何日頃行事官より相渡候哉、以書付尋來候ニ付、先例相渡候日限、幷今度相渡候日限等御取調之事御達也、且行事官ヘ到著之稻賀茂ヘ相渡受取候日限手續等も御取調之事御賴之處、何も御承知、右者先例行事官より直ニ傳奏御奉行ヘ相伺候由故、御當局ニ而ハ委細不相分候間、尚行事官ヘ御達シ、明朝行事官より直ニ御返答可申上旨、御斷之處御承知也、十月三日癸卯、入來行事官、右者兩國拔穗使歸京、請取候旨御屆被申上候處御承知、

【延喜式七踐祚大嘗祭】凡大祓使者、八月上旬卜定差遣、左右京一人、五畿内一人、近江伊勢二箇國一人、

【延喜式四十左右京】凡踐祚大嘗大祓所須、馬一匹、劒九口、鍬九口、鹿皮九張、紙四百五十張、木綿六十三枚、苧小九斤、稻九束、米鹽各九斗、鮭九隻、堅魚鰒海藻各九連、柏九把、食薦九枚、【條別均分買備之、其價錢、但馬申官請受、】官人率坊令坊長姓、於羅城外東西相對分列、【左京西面北上、右京東面北上、】朝使者坐中央南向、訖卽解除、

大祓使

【北山抄五】大嘗會事

八月上旬、遣大祓使、【左右京一人、五畿内一人、七道各一人、○中略一下旬別卜定、】更又遣大祓使、【左右京一人、五畿内一人、近江伊勢一人、神祇官式如之、而儀式伊賀加之、可依彼式歟、符案如此儀式、】

【神祇官年中行事臨時】大嘗會

八月上旬大祓使

左右京職五木内七道、一道各一人、神部二人、件使中臣卜部伊岐氏差進之、

八月下旬大祓

左右京一人忌部同一人、五木内一人、

【續日本紀一文武】二年十一月癸亥、○七日遣使諸國大祓、己卯、○二十三日遣使於五畿七道諸國、○中略爲行來十一月大嘗會也、

【續日本紀二十一】天平寶字二年八月乙卯、遣使大祓天下諸國、欲行大嘗故也、

【三代實錄三清和】貞觀元年九月十日壬戌、大祓於朱雀門前、爲行大嘗會事也、依式八月上旬可行、而以諒闇之内、延及于今日、

【三代實錄三十二陽成】元慶元年八月廿五日癸巳、分遣大中臣氏人於五畿七道諸國、祓除境内穢惡、爲供奉大嘗會也、

【三代實錄四十六光孝】元慶八年八月十六日甲辰、分遣大中臣氏人等左右京五畿内七道諸國、解除、以十一月可修大嘗會也、

【日本紀略一醍醐】寬平九年八月廿八日辛未、遣祓使於五畿七道諸國、○中略爲行來十一月大嘗會也、

【小右記】長和元年八月六日辛丑、左中辨持來發遣大祓使之日時勘文、今月八日、上時正午、仰可令作官符之由、辨云、彼日臨時奉幣日也、可無政爲之如何、答云、彼造官符十一日考定有政歟、其次捺印同日發遣有何事乎、○中略如式者上旬發遣者、去年遣兩度祓使、至今般有臨時儀、不知去年祓事依大嘗會延引事、

殊所被發遣也、雖及中旬、不可謂遲、式歟、下旬大祓、幷奉幣使等事、可似重疊歟、可候案內於相國之由相含訖、七日壬寅、左中辨來云、尋出當月下旬大祓之符案、即持來符案、其文云、太政官符、近江、伊勢、伊賀等國司、右得神祇官解、�something、備後國幷大神宮等定件人、依例申送、如件者、國宜承知、依件行之、符到奉行、年月日、驛鈴一口、三今如、件符案者、依大嘗會事、以祓清國也、大神宮等猶可被行、下旬大祓歟者、予答云、如符案、尤可被祓清、又辨云、神祇式載近江伊勢二箇國、儀式載三箇國、然可依三箇國歟、就中符案載三箇國、未得其意、予答云、路次伊賀伊勢也、但尋常往還路用近江、仍祓清三箇國歟、就中符案載三箇國、然可依三國例、又往還伊勢之路、用伊賀近江等之故歟、十七日壬子、予著南座、〇略　中下旬大祓依可遣事同令奏聞、件使依大嘗會事、可被淨大神宮者、必可遣之使也、召外記、仰可奉大祓官符之由、即盛覽筥進之、見了返給、

〔兵範記〕仁安三年七月廿七日丙戌、參行事所、召陰陽頭、令勘申來月次第日時、隆職宿禰相共評定、且隨先例也、

陰陽寮

擇申可被行大嘗會八月上下旬大祓日時

權大允賀茂朝臣修平

主計頭賀茂在憲

八月三日壬辰　時未二點

廿七日丙辰　時申二點

仁安三年七月廿七日

〔山槐記〕元暦元年八月廿六日壬午、國通云、來廿八日可被發上旬大祓、件官符請印可有政、仍申二位中納言之處、未著行、政九月有憚者、中納言有障者、可申案內之由行事辨所被申也者、予〇藤原忠親答曰、如此請印、多中納言之撿按所奉行歟、此事非他事、已可爲政者、依初度可被行晴儀歟、又九月著座猶有例歟、又依別勅者、不可被憚、月之吉凶哉、猶以此間可申辨也、將又件官符內印六、慥不覺悟者、吏又向辨許、卽歸來曰、件官符爲內印、然者中納言定被參歟、又示給之間尤可然事也、抑去十日於撿非遣使義經宅、故出羽守信兼子息三人、或被殺害、或自殺件穢及院中歟之由有疑、仍昨日雖可有御幸日吉、忽以延引、然者又光雅其後參院也、承此子細之後不參、進退惟谷、此間事申頭中將通資許了、未承左右爲如何、予答曰、此事極大事也、被用穢者、天下江所可淨哉、然者又嚴重神事、此間被行之條尤有恐難默止、廿七日癸未、頭辨曰、信兼子息等殺害穢事、日來無沙汰、〇略　明日大嘗會上旬大祓、又每月大祓同可被行也、件進退且可申合下官之由有仰、九月有例者、又可延引歟者、又大夫史隆職申云、有穢氣之時、爲祓清其事、被行大祓者別事也、此大祓者不似彼儀成官符爲令潔齋五畿七道所被發遣也、而京內穢中差遣符使、專不叶物議歟者、九月大祓者久壽例也、但件度自九月沙汰起雖勿論、取例之事又何可不准哉者、予曰可爲穢歟慥可被仰下、其間又雖有疑、無慥事者不可及沙汰之處、兩樣仰實難計申事也、然而粗仰趣此間難被行神事之由歟、隨又隆職宿禰申旨非無其謂、穢氣混合之條漸以遍滿、於今者勿論歟者、頭辨曰、依是等仰趣先明日大祓者延引之由仰下了、九月十七日癸卯、今日又發遣大嘗會上旬大祓使、吉時午　申點者二八月上句、下定使遣左右京五畿內七道也、而去月十日有國郡卜定、同廿日始行事所、仍同廿八日可被行此祓之處又依天下穢及今日也、使差文兼日辨覽上卿事也、於主基者辨以史覽了、慥紀未覽如何、件使官符今日有內印事云々、後聞二位中納言〔兼房、申撿挍〕參陣、先著奧座、令藏人左近將監仲國被奏內文候之由、奉仰之後移端座、一方官符未渡外記之間、良久少外記三善〔攝政　坐里亭〕卽歸來、納言就御所奏聞、返給復陣、外記隨上卿目、持官符出宣仁門代、次納言召近衞將監被仰印事、次掃部寮立案、兼置印樞、不可然也、于時及乘燭、少納言重綱將監等參上印了退出、官符百餘枚云々、事了上卿退出、此內文先例多撿挍中納言所行也、

〔業資王記〕建暦二年五月廿九日甲戌、大嘗會大祓五畿七道使差文加署了、自官有其催云々、今度使交名如去年、令差進了、是各不達前途之故也、八月卅日癸卯、大嘗會大祓官符到來、去廿四日官符五畿七道如例

歟、抑去比號月次大祓、七道官符數通重疊可被下也、此條不載式條之上、先例不覺悟之旨、以公文史生清賴、觸此子細於官、返官符了、行事所失錯歟、不可々々、

〔萬一記〕正安三年八月廿六日、參內、今日大嘗會八月下旬大祓定也、仍有內文請印、依奉行也、及子刻上卿花山院新中納言(師信)參陣、召予、予參進、中納言候奧座、仍昇陣座(踏疊緣)居之、中納言云內文、次奏聞、(於內覽御免之由、中納言示之、仍如然之由答申、)次歸出、氣色後仰云、捺印、上卿氣色、次退去、次上卿移著端、召外記召官符、就弓場奏之、予取之於鬼間、以內侍奏、次返下、次退出、少納言信雅參陣、請印以後不奏例也、廿九日、大嘗會兩條事內々奏之、

大祓女工所勾當參向出車事

申入云、仁治三年十月廿九日、故吉田中納言(經房、于時五位職事、奉行之、)記云、內侍出車悠紀(頭辨)主基(右少辨)等各獻車、予下知六位之處、無領狀人云々、仍獻辨車、可為藏人方沙汰之由雖相觸、先例官方沙汰由返答畢、仍辨各致沙汰云々、而惟輔云、仁安家記云、藏人方沙汰云々、此上可為何樣哉、仰云、任仁治例可為辨車者、仍仰權右中辨光定朝臣之處、雖申子細、重仰之處申領狀、而主基行事右少辨惟輔參仕、仰此趣之處、仁安藏人方沙汰之條分明、大祓辨可參行、間差合歟之由猶申子細、仍奏聞之處、女工所始以前者、藏人方沙汰、女工所始以後者、官方沙汰歟之由被仰下、仍今度所相催六位也、此後引見仁安記之處、女工所始以前藏人方、女工所始以後官方沙汰也、

今日大嘗會八月下旬大祓也、仍女工所勾當參向朱雀門、彼內侍出車、藏人藤正經獻之、備前內侍(諸大夫業尹息)悠紀內侍有故障不參向、仍主基內侍(少將內侍刑部卿為信朝臣息)一人參向、悠紀掌侍不參替、他內侍參向、可為何樣哉、撿挍宰相不參之時、他參議參行常例也、若可被准歟之由申入之處、掌侍事不可似參議、悠紀內侍今度可略之由被仰下、撿挍左大辨宰相(有房)參行也、兩行事辨光定朝臣惟輔等參向云々、參議參雖為官方沙汰、予又所相觸也、

〔儀式二〕踐祚大嘗祭儀

八月下旬(中略)○、發遣奉天神地祇幣使、(大神宮諸王五位已上一人、中臣長一人、齋部一人、山城大和攝津各一人、河內和泉一人、七道各一人、中臣齋部二氏相半差之、)

〔延喜式七踐祚大嘗祭〕凡大祓使發訖、卽差遣供幣帛於天神地祇使、大神宮諸王五位以上一人、中臣一人、忌部一人、卜部一人、五畿內一人、七道各一人、(中臣忌部兩氏供之、)其幣法、大所各絹五尺、五色薄絁各一尺、絲一絇、綿一屯、木綿二兩、麻五兩、小所各絹三尺、絲一絇、綿一屯、木綿二兩、麻五兩、裹薦總九十枚、竝以大藏物充之、(大所小所、竝諸社預祈年祭者、)繩七十了、夫五十二人、枌五十二枚、

〔北山抄五〕大嘗會事

八月下旬(中略)○、發遣奉幣天神地祇使、(大神宮、諸王五位以上一人、中臣忌部各一人、山城大和攝津一人、河內和泉一人、七道各一人、中臣忌部相半差定、於神祇官發遣、仍不廢務、又無宣命、上卿行內印事、不參彼官、只召官人令請官符也、件幣料或充大藏省物、而近例官符依裁下、可用當國正稅之由、不充省物、)

〔神祇官年中行事臨時〕大嘗會大奉幣

宮中京中京職使一道各一人、中臣忌部卜部伊岐氏等差進之、

〔三代實錄三十二陽成〕元慶元年九月廿五日癸亥、分遣中臣齋部兩氏人於五畿七道諸國、班幣境內天神地祇三千一百三十二神、緣供奉大嘗會也、

〔日本紀略一醍醐〕寬平九年八月廿八日辛未、奉幣於諸社、為行來十一月大嘗會也、

〔本朝世紀〕寬治元年九月七日丙辰、政幷內印、依大嘗會諸國大奉幣、幷同拔穗使官符等也、今日被立件使等云云、

〔中右記〕天仁元年九月廿日、今日大嘗會大奉幣云云、左兵衞督被行內文云云、

〔本朝世紀〕康治元年十月二日辛酉、依大嘗會事、被立天神地祇大奉幣使、權大納言藤宗輔卿參行之、於神祇官被立之、上卿不參、左少辨源師能參仕、散位資長王為使、中臣卜部忌部等如常、

〔兵範記〕仁安三年九月四日壬戌、下知大外記賴業眞人、大夫史隆職宿禰、令催諸司、未刻大嘗會撿挍

權中納言實國卿參著仗座、被奏可定申大嘗會五畿七道大奉幣日時由、勅可之後仰右少辨重方、（主基行事也、下官爲行、除目事候院之間、被仰下云々、）召日時勘文、次內覽、（辨持參、）奏聞返給、卽被下辨云云、七日乙丑、發遣五畿七道諸國大奉幣使、（略、）中下官率奉行史章貞參神祇官、發遣五畿七道諸國幣使、入東院棟門著膳殿座、其儀北第一間壁下敷下官座第二間以西東敷長帖、爲史史生官掌座、門西相對敷同帖、爲神祇官中臣以下使々座、西壁下厨子前備置幣物、次史生持官符笥置下官前、先以東海道官符召給伊勢使王、是依奉入大神宮也、次五畿七道等使々次第召之、給官符祝詞等、道別官符一通祝詞一通也、次神祇大祐忌部明友謁諸道使等仰子細、注留目錄於本官、次下官退出、

件大奉幣幣物、以大藏省切下文付諸國、日來催促、當日官掌於本官裏納、渡本官也、

五畿內諸國司神六百五十八前

東海道七百三十一前

東山道三百八十二前

北陸道三百五十二前

使官符

左右京職一通、五畿內一通、東海道一通、東山道一通、凡內案一通、加二字伊勢使一通、（中臣以下阿波荒妙、御衣一通、門戶座一通、參河神服使一通、門內案一通、加二字）

八日丙寅、裏書、

右大史章貞來云、神祇伯顯廣王被申云、大奉幣使官符中、悠紀奉行左右京職五畿內被載神部、東海東山北陸道等神部不載、已違例也、若被注落乎、早可被加載者、先尋問大夫史之處、寬治有沙汰、不被載件官符神部、今度准彼例也云々、且以此旨答神祇官處、又被申云、寬治不被載、若失禮歟、可承不被加之由緒、加之今度主基四通、存式被加載專不可違、主基七通可一同之故也者、兩方申狀如此、下官答云、可申上撿挍、又歸來云、左大將（藤原師長）仰云、官申狀深可信受、但七通相違、主基加之條、猶可問隆職宿禰由有仰、卽尋問之處、主基執行史不知、寬治例加神部已失也、全不可依主基所行、加之寬治以往代々無神部加例、皆引勘了由所申也、仍申上撿挍了云々、早可仰神祇官由示含了、抑日時有限下給官符了、于今不發遣極無便、早可令進發由重仰了、後日隆職宿禰云、主基奉行史中原盛直、不申合官符申成上、自由文尤無便候、左少辨不被子細歟、如此之間兩方不同云々、

〔仲資王記〕建曆元年十月九日丁亥、大嘗會大奉幣官符（左京五畿七道）被下云々、但四姓使大神宮奉幣、今度無沙汰歟之由兼茂申之、如式者勿論事歟、

〔萬一記〕正安三年八月廿二日、參院奏條々、（略、）中

大奉幣事

奏云、仁治九月被發遣、今度所載風記、九月十日也、然者十日可被發遣歟、但諸國守護地頭役不可勤仕之間、永仁關東下知、仍永仁被略也、今度去頃被仰武家畢、未申彼左右、被行之條可爲何樣哉、伯申云、先被發遣者、帶官符可申關東者、仰云、來月十日早可被發遣、但關東未申左右、猶可仰合俱、

九月五日、早旦參院、以相國奏大嘗會條々、

大奉幣定事

予（藤原宣房）申入云、天仁元年九月九日、行事辨爲隆、參殿下覽大奉幣日時、向撿挍亭宣下、仁安三年九月一日、左衞門督實國參陣、（略、）中大嘗會大奉幣日時令勘之、仁治三年於陣不被勘日時、兼日奉行史召勘文覽辨、仁治以後同前云々、先例如此、今度定日次可爲來八日、件日神宮事可有其沙汰云々、於陣有定者、可爲佳例歟、可爲何樣哉、仰云、任仁治例可申沙汰者、仍其趣卽仰悠紀辨光定朝臣畢、

十日、參內、今日被發遣大嘗會大奉幣、秉燭以後花山院新中納言（師信、撿挍、）參陣、以官人召予、予出陣、上卿

由奉幣

著與座、予參進、上卿云、內文、予氣色、次起座、次奏聞、次歸出、仰云、捺印、上卿氣色、次予起座、上卿移著端座（陣事此以後不見及）也　上卿進弓場奏內文、予取之奏聞、（主上（後二條）於中門密々御見物、殿下爲御供、御祇候、仍官符等進殿下、殿下令取給、御奏聞已後、被返下也、）次返下上卿、次請印、少納言信雅參陣、將監外記沙汰也、次有請印政、上卿少納言以下參衙如例、慥紀行事辨光定朝臣向神祇官行之、

〔後深心院關白記〕永和三年三月六日甲申、昨日勅問事、忩可申所存之旨頭辨示之間、今日付申詞於頭辨了（仰詞幷申詞注裏）　仰詞如此、

大嘗會大奉幣米事於宮中洛中諸神者爲公方被付別料足、有其沙汰了、至諸國大小社者近代被成官符於神祇官許歟、隨而去年終不及發遣之儀哉、縱又雖遂其節、以諸國正稅可交易之趣、被載官符之處、今度如大嘗會米、一國平均宛催之條御不審之間、被尋官幷伯二位、業定王資方朝臣請文等如此、此上如何樣可有沙汰乎、

申詞如此

大嘗會大奉幣米事、可用諸國正稅之由被載官符之上、業定王資方朝臣等請文不申異議然者非諸國平均之沙汰者乎、於發遣之有無者、被尋究可被經御沙汰乎、

〔氏經卿神事記〕寬正七年（○文正元年）十二月八日、占部吉田神主代官申云、大奉幣事可令告知之處、吉田神主爲大嘗會拔穗、江州ニ下向畢、仍令失念、不及件告知之條、以外失錯也、雖然既官幣奉送上者、以次可有奉納由再三令懇訴之間、外宮有奉納否之由相尋、外宮者云、無告知、件神事不知案內之由被申不行云々、仍外宮ニ先立、神事ヲ行、無例之旨返答然者明日令逗留、外宮可申行、無當宮相違者可喜存之由申、大奉幣官幣者正殿ニ奉納之例也、仍禰宜七ヶ日令參籠、可遂昇殿之間、不可叶之由依申下向畢、

〔大嘗會便蒙上〕由奉幣（ゆへい）といふ事あり、由とは大嘗會を行はるべきよし也、奉幣とは幣帛を神に奉らせ給ふ義にて、是はことし此月（○元文三年十一月）下の卯の日に大嘗會を行はるべきよしを、伊勢、石清水、賀茂の三社へ勅使を以て告らるゝ也、此儀は霜月上旬の內にて日をえらばるゝ、ことしは三日を用ゐらる、是には陣座の儀、神祇官代の儀と、紫宸殿の西廊右近の陣の座に著て、三社の使を定め仰せ、又內記に仰せて三社の宣命を作らしめて奏聞し、是を清書せしめなをする儀也、此儀畢りてすぐに神祇官代の儀あり、神祇官代には、京の東山神樂岡の八神殿（吉田の社の近所にあり、今の人或は誤りて八神殿を吉田の社と思ふ者あり、）の邊を用ゐ、其儀先行事の辨史以下此所にて三社の幣物をつゝみ、上卿も陣の座の儀畢りてすぐに此所に來り、三社の宣命を三社の使々に渡し、すなはち御幣も此所よりたつ事也、是は昔は神祇官の官舍にて行はれし事なれども、今は神祇官なきが故に、神樂岡の八神殿はむかし神祇官にありし物なれば也、

〔北山抄五〕大嘗會事

可行大嘗會之由被申伊勢事（仁和四年十一月件使、安和元年又有此例、或御禊以前被立云々、）

〔柱史抄下臨時〕大嘗會由被告申三社事（伊、石、賀、）

當日上卿著陣召內記、內記持參宣命草奏之、次第如恒、天皇幸八省進發伊勢使（幼主之時攝政參著八省院）之後、於陣上上卿石賀二社使被立也、（無行幸之時、伊勢幣於東廊立之、石清水賀茂使於北廊被立、）

〔大嘗會儀式具釋五〕大嘗會由奉幣次第

上卿著仗座、次參議著橫切座、職事來仰日時使等事、次上卿令移著端座、次上卿令官人敷膝突、次上卿以官人召辨、辨參膝突、上卿仰日時事、次辨進日時勘文、上卿披見、辨退出、次上卿以官人召外記、仰可持參例文硯由、次外記持參例文筥（歷名帳一卷、舊例文一卷、使交名二通、折紙一枚等入之、）置上卿前、次外記持參硯置參議座上、次上卿披見例文等、訖目參議、

例文等トハ、例文使交名等ナリ、其歷名帳ナドハ披見スルニ及バズ、是ハ外記ノ進ツレル使交名ノ中ニ、若上卿ノ意ニ應ゼザルアル歟、又ハ奏聞セル時、叡慮ニ合ハザルナド有テ改定ムル時ノ爲ニ、歷名帳ヲ奉ルナリ、今ハ諸事アラカジメ定置テ、當日ニハ儀式マデニ行ハルヽ故、此使交名ノ面モ初ヨリ定置タルマヽナレバ、當日ニ至リテ改定ムル事ナシ、仍テ歷名帳ハ云ニ及バズ、例文トテモ實ハ用ナシ、唯例ニ從フテコレヲ進ムルノミ、

次參議移著座上、次上卿見合例文交名等、分書定文、畢進上卿、次上卿披見定文、取出例文等、入日時勘文定文於筥、令職事奏之、奏聞畢返賜、次上卿披見日時勘文定文等、結申、職事仰仰詞、

是ハ日時使人共ニ、奏シノマヽニスベキ由ヲ上卿ニ仰スルナリ、モシ叡慮ニ合ハザル所アラバ本ヨリ仰出サルベシ、但上ニ云ル如ク、アラカジメ定置タル事ナレバ、今ノ世奏シノマヽナラズト云事ナシ、然レドモ日時使人共ニ、此ニ至リテ初テ定マレル分ナリ、其伊勢使ハ王定通王、但今ノ世用ユベキ王氏ナキガ故ニ、阿波守光枝治小佐ヲ以テ王代トス、定通ト云者ナケレドモ、宣命ニハ定通王ト是ヲ載ス、中臣神祇少副長矩伊勢大宮司ナキガ故ニ、右衞門少尉中原武住高屋ヲ以テ忌部代トス、親門ト云者ナク、又武住從六位上ナレドモ、忌部モ中臣ト同ジク五位ヲ用ユル例ナルガ故ニ、宣命ニハ從五位下忌部宿禰親門ト是ヲ載ス、此外ニト部モ一人參向ス、是延喜式以下ニ見エテ今モ然リ、但使ノ限ニ非ズ、又宣命ニモ載セズ、伊勢使ノ王代ハ、兵庫頭兼賢川越ヲ充ベキ其家ノ例ナリ、然ルヲ今度光枝ヲ充ラレシ事、一會傳奏庭田前大納言重孝卿ノ失錯ニシテ、一會畢リシ以後其沙汰ニ及ベリ、

次上卿以官人召外記、外記參膝突、次上卿加入例文等於筥賜之、外記披見日時勘文定文結申、上卿仰仰詞、此序仰伊勢使事、外記稱唯退出、

伊勢使事トハ、伊勢使ニ定メラレタル人々ヘ催廻スベキ由ヲ仰スルナリ、本ヨリアラカジメ定メラレテ、三社共ニ其使々各承得シアル事ナレドモ、中ニハ伊勢ハ專ナレバ、儀式ニモ是ヲ仰スルナルベシ、

次參議還著本座、此間外記撤硯、次職事就膝突仰宣命事、次職事下內藏寮請奏、內藏寮ハ錦綾ヲ掌ルニ依テ、令ヨリ後ハ幣帛ヲモ掌ル官トナレリ、請奏ハ何ニテモ請申ス奏文ヲ云、此所ハ三社ノ幣帛ヲ申請フ請奏ナリ、

上卿披見職事退出、次上卿以官人召辨下之、辨結申、次辨進神祇官請奏、上卿披見令辨奏之、奏聞畢返賜下之辨結申、

是奉幣使發遣ニ依テ、幄幔ノ類ノ所用ノ物ヲ請フ請奏ナリ、

次上卿以官人召內記、仰宣命事、次外記參小庭、申使王御馬事、次內記持參宣命草、上卿披見畢賜內記、次上卿參弓場代、令職事奏聞之、此序奏使王御馬事、次職事奏聞畢返賜、仰可令清書由、次上卿還著仗座、仰可清書由於內記、次內記進清書、

伊勢宣命之體

天皇我詔旨良萬止掛畏岐伊勢乃度會乃下津磐根爾大宮柱廣敷立氐高天原爾千木高知氐稱辭定奉留、天照坐須皇大神乃廣前爾、恐美恐毛申給者久申久、朕寡昧乎以氐天日嗣高御座乃業乎承傳倍、去享保二十年十一月三日爾卽位氐、食國乃御宇須始爾依氐先奉給遣禮奈止毛、有難行事乎天兩箇乃春仁、乎延多利、由是氐今年乃今月乃下乃卯日爾大嘗祭乎式乃隨乃政止之被行倍岐奈利、此狀乎告申久吉日良辰乎擇定氐、王從五位上定通王、中臣正五位下行神祇少副大中臣朝臣長矩等乎差使氐、忌部從五位下齋部宿禰親門加弱肩爾太手繦取懸氐、禮代乃大幣乎持齋者利令捧持氐內外乃宮爾奉出給布、掛畏岐皇大神乎久安久聞食氐、天下阜豐爾海內靜寧爾、天皇朝廷乎寶

位無動愈增留護賜比、天地日月止共留常磐留堅磐留夜守晝守留惠幸賜倍止恐美恐美毛申賜者久申、

元文三年十一月三日

石清水宣命之體

天皇我詔旨止掛麻毛久畏岐石清水留御坐勢留八幡宮乃廣前留、恐美恐美毛申給者久止申久、朕菲薄乃德乎以寶祚乎受計、去享保二十年十一月三日留卽位氏、食國乃御宇須始留依氏先奉給邊幾禮奈連幾止毛、有難行事天兩箇乃春秋乎延多利由是氏今年乃今月乃下乃卯日留大嘗祭乎式乃隨乃政止之被行倍岐奈利、此狀乎告申久吉日良辰乎擇定氏、從二位行權大納言源朝臣長忠、正五位下行圖書頭丹波朝臣尙秀等乎差使氏、禮代御幣乎令捧持氏奉出給布、掛畏岐八幡宮平久安久聞食氏、退邇無事久上下有序氏、天皇朝廷乎寶位無動久常磐堅磐留夜護日護留護幸給比、萬邦豊饒兆民安穩留惠助賜倍止恐美恐美毛申賜者久申、

元文三年十一月三日

賀茂宣命之體

天皇我詔旨止羅麻掛畏岐賀茂乃御祖乃皇大神、別雷乃皇大神乃廣前留、恐美恐美毛申賜者久申久、朕菲薄乃朕神鑒乃祐乎得氏帝業乃緒乎承計、去享保二十年十一月三日留卽位氏、食國乃御宇須始留依氏先奉給邊幾禮奈連幾止毛、有難行事天兩箇乃春秋乎延多利由是氏今年乃今月乃下乃卯日留大嘗祭乎式乃隨乃政止之被行倍岐奈利、此狀乎告申久吉日良辰乎擇定氏、正三位行權中納言兼右衞門督藤原朝臣榮親、左兵衞權佐從五位上藤原朝臣光香等乎差使氏、禮代乃御幣乎令捧持氏奉出給布、掛畏岐皇大神平久安久聞食氏、天皇朝廷乎寶位無動久常磐堅磐留夜守日守留護幸賜比、四海八紘萬天無事久無故久、今毛往前毛世尊久民穩留恤助護給倍止恐美恐美毛申賜者久申、

元文三年十一月三日

右今度ノ宣命如此シ、昔ノ宣命ハ年號官位等ノ外ハ、止ム事ナキニ非ザレバ字音ヲ用ユル事ナシ、近世妄ニ西土ノ熟語ヲ取テ、字音ヲ用ユル者古體ニ合ハズ、

上卿披見畢賜內記、次上卿參弓場代、令職事奏之、奏聞畢返賜此序仰使王御馬事聞召由、上卿不著仗座、自弓場代直參神祇官代、

神祇官代儀

辨史以下著北廳代座、有幣裏事、上卿參神祇官代、辨外記史出立南門外、上卿向上首揖、次上卿入南門著座（西方東面）次使々入南門著座（東方南北對座）次上卿以召使召外記、外記參膝突、上卿問使々參否、外記申參由、此序仰可賜使王御馬由、次上卿以召使召外記、辨參膝突、上卿問幣物具否、辨申具由、次使仰可持參宣命於內記由、內記持筥進立、次上卿召使蹲踞便所、內記持宣命筥置上卿前退著座、次上卿遣、次上卿以召使召使王、使王參膝突、上卿賜宣命、使王取之退出、次自下薦起座（內記取筥退）列立便所、上卿向上首揖、次上卿還著南門座、次上卿以召使召使仰可持參宣命於內記由、內記置宣命於上卿前、次上卿目石清水使、使參進膝突、上卿授宣命、使取之還於南門外、授宣命於次宣、次上卿目賀茂使、使參進膝突、上卿授宣命、其儀如石清水、次上卿退出、辨以下出立南門、儀如初、○（略）節

〔伯家部類〕元文三大嘗會由奉幣御諄辭

掛毛畏幾伊世兩宮乃廣前留恐美恐美毛申氏申佐久、朕以薄德氏天之日嗣傳賜事波非薄賢佐須、偏留是神助奈利、已往卯之年已留卽位世利、然者大嘗會之事速留行流可幾之所、故无久志氏年月於經多利、今茲元文三年中乃卯大嘗會於執行□須、依是幣使於差使須、掛毛畏支皇大神平介久安介久聞食氏、寶祚無動久食國乃天下毛無事泰平留守給比幸給江止恐美恐美毛申氏申佐久、

〔日本後紀十七平城〕大同三年十一月辛卯、〇十四日奉幣帛於伊勢大神宮、以行大嘗事也、是夜御朝堂院、行大嘗之事、

〔類聚國史八神祇〕弘仁十四年十一月癸丑、〇三日天皇〇淳和御大極殿、奉獻幣帛帛伊勢大神宮、爲御大嘗也、

〔續日本後紀二仁明〕天長十年十一月庚申、〇八日爲行大嘗會事、奉伊勢大神宮幣帛、

〔文德實錄三〕仁壽元年十月庚申、〇廿二日遣使者向伊勢大神宮、告以大嘗祭事、

〔三代實錄三淸和〕貞觀元年九月十日壬戌、〇神嘗奉幣前日遣使奉幣於伊勢大神宮、

〔三代實錄三十二陽成〕元慶元年十一月二日己亥、遣使於伊勢大神宮奉幣、十八日乙卯、夜天皇御豐樂院、自供大嘗祭、

〔三代實錄四十六光孝〕元慶八年十一月十日丁卯、遣散位從四位下良末王、奉幣於伊勢大神宮告以可修大嘗會、天皇御朝堂院小安殿發使焉、

〔日本紀略五桓武冷泉〕安和元年十一月廿一日庚子、行幸八省院、被遣伊勢奉幣使、

〔日本紀略九後一條〕寬和二年十一月一日乙丑、於八省院奉幣、三社幣使、伊賀、石、

〔日本紀略十三後一條〕長和五年十一月四日甲辰、奉幣三社、伊賀、石、被告大嘗會事、仍攝政〇藤原道長參八省院、

〔本朝世紀〕治曆四年十一月十日己卯、被定大嘗會御祈三社奉幣使事、伊賀、石、上卿大納言信長、

寬治元年十一月八日丙辰、被立大嘗會三社由奉幣使、伊賀、石、仍民部卿經信參入奏宣命草、開下申、次攝政殿以下諸卿參入八省、被立、使、

天皇我詔旨止掛畏支其皇大神乃廣前仁恐見恐見毛申賜ぱく申寸、高天原仁事始給比之皇御孫乃尊仁事寄奉給へる豐葦原乃水穗乃國乃天乃日嗣高御座乃次乎受賜比氏、今月乃中卯日爾國寄流大嘗會聞食卒爲爾依氏其狀申賜比、官位姓名等乎差使氏宇豆乃大幣乎令捧持氏奉出給布、此狀乎平

久聞食氏天皇朝廷乎寶位無動久常磐堅磐爾護日護爾護幸奉給比、天下無事爾海内樂業氏、四時調和志、五穀豐饒爾令有給へ恐見恐見毛申賜ぱく申、

寬治元年十一月八日

〔台記〕康治元年十一月三日辛卯、今日大嘗會由被告伊勢國、攝政殿參向大極殿、上卿權大納言宗輔卿云々、

〔本朝世紀〕康治元年十一月三日辛卯、權大納言藤原宗輔卿參仗座、被立三社奉幣使、蓋被告大嘗會由也、伊賀、石清水、賀茂、當日有定、此日以參議季成卿爲賀茂使、伊勢使散位行兼王給左馬寮御馬、散位源季忠朝臣爲石清水使、

〔兵範記〕仁安三年十一月四日辛酉、晩頭左大將〇藤原師長參著仗座、下官〇平信範仰云、大嘗會由三社奉幣令勘申日時使等ヲ、〇中略次右大辨實綱卿書使定文奉上卿、上卿入加勘文筥、下官內覽奏聞、內覽參次返下上卿、上卿召外記下給畢、次下官下伊勢幣料、內藏寮請奏、上卿返給、下官結申、次於床子下史了、

六日癸亥、率分所明後日三社幣料物付諸國切下文於官掌、卽催促了、八日乙丑、奉幣於諸社、被申大嘗會由於三社也、早旦行水解除、先參殿下申奉幣事、次參內、示御浴事、幣料繧繝、內侍早可送事仰藏人能賴、又宣命紙事仰出納、此間上卿幷殿下未令參內給、及午刻參入省、暫相待之間、伊豫內侍同馬道西座北向右大史三善章貞著其西座東向先是內藏屬菅野季康幷史生兩人、昇居幣物辛櫃於下官座前、次召齋部官人、與藏司史生指幣物尺寸、令女官裏調之、先內宮御料、其式法如例、內侍監臨觸手、次藏屬捧之奉安東母屋巽薦上、次外宮御料、次第同前、內侍歸參內、下官退座、令史生守護御幣、次仰史章貞官掌宗職、相共於中和院南築垣、下幄、令裏調八幡賀茂幣物、悉立嘉喜門東西、八幡西、加茂下東上、小安殿儀、南面除第一間馬道外皆立布障子、馬道間以東敷長筵、馬道東掖間壁下東北西三方、立

廻大宋屏風三帖（南面不立）其中敷繧繝緣帖三枚爲攝政御座（南向其西立布障子二本（北南立也、馬道中間敷綠緣帖二枚爲扈從公卿座、屏風東敷御拜座如例、昭慶門東掖廊公卿幷辨官上官等座如常、東廊座同前、但掃部司失錯、兼敷步廊南面東福門掖（臨期敷改東廊了、裝束司失也、未刻攝政令參八省給、權中納言宗家、資長、參議親範（賀茂）右大辨實綱卿等扈從藏人左衞門佐經房、同治部少輔兼光等同候御共、殿下經廊北幔外入昭慶門、直令著小安殿座給、上卿左大將同時入嘉喜門（被參）著同門西掖座、次上卿召外記（被問使々參否、次召下官（被尋幣物事、此次申神祇官幣料請奏、日來不申、已懈怠也、此間殿下召御手水、主水司儲之（御手洗掬手巾紙、藏人權佐經房兼光等役之、置柳筥居立高坏）先例四位侍臣爲陪膳、此間公卿（被）候馬道座、次召下官（被尋仰事具否、次解御劒移著屏風東牛帖座令拜給（異向云々、向御幣云々也、兩段再拜了召使下官傳仰外記、外記召之、使々三人入昭訓門列立小安殿南庭、次齋部卜部一々參上、取幣立本列、次殿下召下官召中臣、下官脫沓參進御座邊奉仰出（辰巳間召神祇祐永親經布障子外歸馬道著沓、永親參上、近被召寄御座前奉仰退下、率御幣進發、此間上卿被移著東廊座、少內記經長持宣命筥扈從下官外記史等相隨下官著座、內記獻筥、外記史一同著座、次上卿召（使二音）召使王、使王參上給宣命退去、次上卿歸著北廊座、內記又置宣命筥、上卿被目左衞門督實國（自餘早參被候座）金吾進寄給宣命復本座、更起著沓出嘉喜門、衞士捧幣前行、金吾下給宣命次官民部大夫久明進發、次上卿被目平宰相、宰相揖起座、進居上卿座邊（中數揖、上卿被給宣命、相公取副笏揖復本座、揖更起座著沓立還、揖退去出門、衞士六人捧賀茂幣前行、相公給宣命於次官民部大夫範安進發、此間殿下於本座帶劒率諸卿令退出給、次上卿退出、于時秉燭、仍下官以下無北庭出立儀、於禁中上卿參著仗座令藏人權佐被奏宣命草、無辭別云々、次奏清書了、此次被奏伊勢使御馬申由、仰聞食云々、

〔伏見院御記〕正應元年十一月十三日甲午、三社（伊勢、石清水、賀茂）奉幣、檢挍權大納言藤原朝臣家教著陣奏宣命草、參議源朝臣經資於神祇官賜宣命、聞伊勢幣發遣之由著束帶出南殿奉拜、頭中將爲兼朝臣獻笏、

〔後深心院關白記〕永和元年十一月六日壬戌、後任來有勅問事、仰詞申詞等注裏、

宣命草、後光奏之、覽了返給、則奏清書、使石清水權中納言藤原朝臣、賀茂、參議源朝臣、經資於神祇官賜宣命、聞伊勢幣發遣之由著束帶出南殿奉拜、頭中將爲兼朝臣獻笏、

〔後深心院關白記〕永和元年十一月六日壬戌、後任來有勅問事、仰詞申詞等注裏、

仰詞如此

大嘗會條々

三社奉幣事、爲國家之重事之上者、尤可被發遣哉、但使々以下依不被沙汰出停止之條、宜在時儀矣、

余申詞如此

大嘗會條々

三社奉幣事、爲國家之重事之上者、尤可被發遣哉、但使々以下依不被沙汰出停止之條、宜在時儀矣、

〔季連宿禰記〕貞享四年九月二日丁丑、大嘗會由奉幣准據例（以御即位由奉幣准據例、以延喜式等旨願申也）申

方有訴訟之事、申狀二通（左官掌氏長一通者、以之大藏省弘之一通者、以之）今日令付大嘗會傳奏庭田

中納言重而可有議定之由有命、十月十九日甲子、三社奉幣神祇官代主殿寮幔可調進哉否之由、

已前主殿職方申之、依之今日令尋申頭中將之處、陣幷神祇官代幔、可用古物之由頭中將有命、仍其

旨令下知主殿寮、廿一日丙寅、來月三社由奉幣、三社共自神祇官發遣也、載幣物八足案、石清水賀

茂下上料者、如伊勢幣案寸法可用意之由可仰木工寮云々（內外宮案二脚、八幡一脚、賀茂下上一脚、以上八足案、四脚也）奉幣使官

符之事、石清水賀茂之分、以近年跡可用意哉、但石清水賀茂等者、古案無所見、可爲如何哉之由、已前

尋申頭中將之處、今日頭中將被示云、此事窺申攝政殿（藤原冬經）之處、攝政殿仰云、古案無所見者、八幡

賀茂之分者不可用意、於伊勢官符者如例可用意云々、十一月六日辛巳、今日大嘗會由奉幣發遣

刻限也（○中略）

神祇官

勘申大嘗會由奉幣石清水賀茂兩社幣帛事

石清水社三前　賀茂別雷社一前　賀茂御祖社二前

絹各五尺　五色薄絁各一尺　絲各一絢　綿各一屯

木綿各二兩　麻各五兩　杓三枝　衛士三人

右依官宣所勘申如件

貞享四年十一月六日　　從五位下行大祐紀朝臣重基

正四位下行伯雅光王

〔貞享四年大嘗會由奉幣記〕十一月八日、戌刻許神祇權大副德忠朝臣下著于五禰宜末彥神主之里亭、九日甲申夕（雨降及午刻許奉幣使被參于外宮（可爲外宮已刻、內宮午刻之由雖有下知、依雨降刻限延引）中臣從五位上行神祇權大副大中臣德忠朝臣（十八歲）王從五位下兼字王（代川越忌部從五位下忌部宿禰親守（代粟津治部、各束帶）宮司大司從四位下行神祇權少副長春朝臣（束帶）先于官使到二鳥居外南傍卓立北面、官使各於一鳥居下乘、御神馬二匹（白青著）自二鳥居內御馬飼內人率之（白張）次御幣韓櫃一合（白布）之衛士相隨、次中臣、（中臣使爲地下、則其列在王使之下、次王、次忌部、到二鳥居之外南面列立、對于宮司揖拜、祇承宮掌參候、次灑御鹽（獻大麻、役人二人白張）進到一殿（舊例雨儀者就御輿宿、今禰宜一常和二常有三繼彥、五末彥、六今般中臣以爲殿上人、在王使之上、雨儀者就一殿）引卒權官列立殿內、東面北上、物忌父等（衣冠）列立禰宜之北、南面列前立居高案二脚、玉串大內人代伊光（父弘光依老耄伊光代之、衣冠）候殿內坤方東面（有鋪設）官使入自西口列立于殿內、西面北上、對拜如常、先以御幣御韓櫃（昇居高案下、次官使宮司用手水（中臣依爲祭主家督、手水役人重代權官）二人（古倘持杓、眞固持紙、並著衣冠）役之、自餘者祇承役之）次衛士開御韓櫃蓋、次忌部進倚高案下、取御幣物及送文居案上、復本列、次大物忌父益弘取送文、獻一禰宜、禰宜次第相揖拜見、到十禰宜授益弘、次大物忌父益弘弘房貞秀等奉解神宮之上裏、以尺矩撿知御幣物、且以送文讀合、次中臣著木綿鬘復本列（執宣命取副笏、先是祭主目代持之）

王使者不著鬘、忌部者取懸木綿鬘、太纓倚案下、拜御幣（其儀如常）次宮司著木綿鬘、取玉串、直進卓立于三鳥居前、參道南傍、次一禰宜已下次第相揖、取玉串各進發揖、宮司到第四御門前、分頭調列（各下著座）玉串門下（當例雨儀者就齋王候殿讀宣命、今時此殿亡、故就此門）中臣相率宮司著座、先是物忌父等昇居幣案於瑞雛門下、忌部相隨、御幣西面著座、官使者北面西上著座、玉串御門東間、宮司者御門中間北面著座、禰宜者宮司之西北面東上著座（門內狹隘、故中折著座、末座東面）物忌父候禰宜之後、既而中臣起座跪案前之鋪設（天和二年公卿勅使神宮勘進之行事云、凡座石疊爲神拜用二鋪設一、可二思慮一乎云々、正保天和公卿勅使共雨儀而不レ用二鋪設一者也）奉讀宣命、其儀以宣命取副笏、進出版位、兩段再拜、跪座、措笏於右傍、披宣命、以兩手取合兩端、捧而披之、被奉讀宣（此間官使宮司禰宜以下悉平伏）讀畢、卷收之、執笏取副宣命、拜揖而左廻復本座、次一禰宜有名召物忌父等（今按古例非齋王御玉串者、不納瑞雛門、今日雖雨儀、宮司以下玉串猶可納玉串門乎、次二禰宜常有神主、大物忌父益弘以下數輩、物忌父起座開瑞雛御門、昇高案而奉納幣帛於東寶殿、畢退出復本座、次大物忌父兄部益弘跪一禰宜前、言御神拜訖、座、即使以下各八度拜拍手、訖退出到遙拜所別宮遙拜（如常）次解却木綿鬘緒等、懸賢木枝、禰宜拜辭歸宿館（勤盃禰宜者到候一殿）官使宮司自北口就一殿（其座東壁際中臣、次王、次忌部、各北上四面）次宮司就南壁下北面勸盃、禰宜就西壁下東面（對忌部）鋪設大紋高麗端疊（按舊例三位者大紋高麗、四位以下者小紋高麗之例也）肴物用結机著座以前居置之、陪膳中臣者、手水權官兼勤之、自餘者祇承役之、中臣勸盃者、九禰宜貞並、宮司勸盃者十禰宜貞盈也、酒三獻用瓶子、訖撤膳各起座退出於殿前、相揖勸盃禰宜自一鳥居被參內宮了、

奉送

五色綾　五疋　　白綾　壹疋

五色絹　五疋　　帛　壹疋

兩面錦　壹段　　麻　壹斤

木綿　壹斤

右大嘗會由奉幣料所奉送如件

貞享四年十一月六日　　調布　壹段

左官掌紀朝臣氏辰

未刻許雨止勅使各到内宮、一鳥居下乘、御神馬二匹（栗毛、黒毛、著四手、）御幣韓櫃（衛士相副）前進中臣已下行列一同、于外宮、到二鳥居外列立、官使北面（南傍）、宮司南面（北傍）相對拜揖、祇承宮掌（衣冠）參候、獻御鹽湯大麻（役人二人著衣冠）、官使宮司進到玉串所、禰宜一經盛、二守宗、三經在、九經晃、十永親（各東）引率權官列立玉串所、南面西上（宮止雨、用晴儀）、官使宮司著禰宜列立之西南面東上有拜禮、先是物忌父等立高案二脚於玉串所東傍、大物忌父已下列立案後西面、玉串大内人定彦士公（衣冠）著座南傍北面設有鋪手水役人候其左、先昇居御幣韓櫃於高案前、衛士開御韓櫃蓋、忌部執御幣及送文居置案上、復本列、次官使宮司各用手水、（中臣手水者、重代權官二人奏長守重役之、自餘者御鹽湯役人役之、）次政所執送文進一禰宜、一禰宜取之拜戴、揖二禰宜而拜覽、禰宜次第相揖至十禰宜復授政所、政所以送文置案上、物忌父等撿知御幣、此際官使各著木綿鬘復本列、就中忌部者著木綿鬘及木綿繩、進倚高案下拜御幣、卓立（其儀如常）、次物忌父等奉昇幣案、進發、次宮司著鬘木綿（不取玉串）、經禰宜列立之前相揖進發、卓立于第四門前西傍東面、次禰宜進到揖宮司於第四門内分頭列立調列就石壺、北面東上如常（禰宜行事失錯乎）、次官使進發、次官使宮司到中重著版位、各一拜而著座、北面西上如例（無鋪設）、宮司者著相副著座西方、御神馬二匹者牽立玉串御門前（各西頭）、物忌父等者祇候東傍西面、既而中臣起座進中庭之版位（新構之、元錦設）、奉拜而被奉讀宣命、其儀一同于外宮、官使以下各平伏讀畢復座、次奉納官幣、物忌父等自案上納御韓櫃而奉昇之、官使已下各八度拜拍手伏拜訖退出、禰宜者自西御門退出、列立遙拜所之東砌、勅使宮司者自南御門退出、經禰宜列立之前相揖而就遙拜所、禰宜亦隨就、各遙拜別宮、拍手、禰宜幷官使歸齋館、官使解木綿鬘木綿纒等而就一殿、勘盃、禰宜隨候、其座、中臣以下使使南面東上、宮司者對中臣北面著座、勘盃禰宜座東方、西面北上、中臣勘盃者九禰宜經晃、宮司勘盃者十禰宜永親也、鋪設中臣者鬚筵上敷小紋高麗端半疊、自餘者鬚筵也、饌膳用供饌有飯著座以後居之、手水役人一烏居邊禰宜各參候拜揖、次官使駕輿歸寄宿、

〔壬生家記〕明和元年大嘗會門下諸司訴訟屆書等留牒

奉願口上

今度就大嘗會由奉幣之節、外宮御幣物左官掌調進之事、貞享元文寛延等之度々調進仕候間、今度も如先例被仰付被下候樣奉願候、此旨宜御沙汰奉願候以上、

申八月　　左官掌大炊大允紀氏富

官務殿〇（略）中

奉願口上

今度就大嘗會由奉幣之節、内宮御幣物大藏省調進之事、貞享元文寛延之度々調進之仕候、此度も如先例被仰付被下候樣奉願候、此段宜御沙汰奉願候以上、

八月　　大藏省

官務殿〇（略）中

乍恐奉願候口上書

一當冬就大嘗會、先例之通伊勢江御奉幣之御用有之候ハヽ、衛士兩人參向仕候、依之御下行先年者一人ニ五石宛兩人拜領仕、尤御幣持之人足幷馬等之御朱印無之候故爲人馬料一人ニ壹石五斗宛兩人拜領仕候、然ル處近年御幣物道中何角御念入雜用前々より者多掛り候ニ付、〇（略）中寛延年中大嘗會御奉幣之節、去年御卽位由奉幣之節、御加增之儀御願申上候處、願延引仕御帳

も相濟、不及御沙汰、重而相願候樣被爲仰付候故、一人五石宛被下置參向仕候處、遠路參向之御用ニ候得者、入用多甚難儀仕候、其上神祇官發遣之節、御幣持之白丁、其外御幣櫃雨氣之御雨具等用意仕、勿論勢州御著迄、道中之御外包具、日蓋雨具、其外彼是御入用多、尤於勢州御幣櫃屋人足多仕、白丁等も多入申候事ニ御座候得共、別ニ御入用料不被下置候故、私共頂戴仕候御下行之內ニ而相勤申候、殊更當時諸事高直ニ罷成、困窮之私共ニ御座候得者、是等之儀甚難儀仕候、右之趣被爲聞召分、御大禮之砌御憐愍ヲ以、御加增被爲成下候樣ニ奉願上候、遷宮奉幣之節衞士兩人江拾石五斗宛頂戴仕候、何卒右之樣ニ被下置候ハヾ難有可奉存候、此段宜御沙汰奉願上候以上、

明和元申年八月

衞士口重數馬
同藤井若狹椽

官務殿○中略

奉願口上

大嘗會由奉幣之節、神祇官代江史生參向御下行米、此迄頂戴不仕候、今度參向之史生江御下行米何卒被下置候ハヾ難有仕合奉存候、此段奉願候條、宜御沙汰奉願候以上、

八月

大藏省

官務殿

〔以寧卿記〕文政大嘗會一會文書部類

神祇官請奏料紙剛紙在懸紙、

請　石清水賀茂兩社幣料之事

石清水社三前賀茂別雷社一前鴨御祖社二前、

絹各五尺、五色薄絁各一尺、絲各一絇、綿各一屯、木綿各二兩、麻各五兩、枋三枚、衞士三人、

右大嘗會由奉幣之料所請如件、

文政元年十一月八日

正六位下行大祐紀朝臣尹昌

內藏寮請奏料紙已下同上、

請　伊勢皇大神宮幷豐受宮幣料事

錦一匹、兩面一匹、五色綾五匹、白綾一匹、五色帛伍匹、木綿小二斤、庸布貳端、柳筥二合、明櫃二合、

右大嘗會由奉幣之料、依例所請如件、

文政元年十一月七日

正六位上行少屬大國宿禰守長

正六位上行少允大國宿禰守榮

官符本紙大熨斗紙以二同紙一爲二懸紙一、

太政官符伊勢國

應レ預二奉幣一兩大神宮幣帛一事

使正三位行神祇權大副大中臣朝臣光忠

右內大臣宣、奉レ勅爲二奉幣兩大神宮幣帛一差二件人一宛一使發遣如レ件、國宜承知依レ例行レ之、符到奉行、

右少辨正五位下藤原朝臣隆光判　正五位上行主殿頭兼左大史竿博士小槻宿禰判奉

文政元年十一月八日

〔大嘗會書類〕嘉永元申年十一月九日、大嘗會由奉幣發遣神祇官代儀備忘、

一辨參向、此已前少史參向、此時午刻過辨侍ヲ以レ被レ尋二諸司具否一、卽申二具由一、次被レ著二幣裏座一、辨史北上四面

史生官掌東上北面忌部南面著座、起座者爲レ先下二蔔一御幣於二案上一之時辨已下平伏、

一北廳代座已下、辨御點撿有レ之畢被レ入二御休所一、

一上卿御參向、未刻辨外記史於南門外出立、上卿御一揖、辨答揖、外記史平伏、上卿入南門著座給、次石清水使參進一揖、辨已下答揖、次南門著座、次賀茂使參進如前、中略次上卿御起座著北廳代座給、四上北面次中臣座、次辨、次外記史內記等如圖著座、次內記置宣命筥上卿座前、訖內記著座、次上卿仰辨令催御幣發遣、辨仰史膝ヲ直シ承之、次召使江氣色ス、召使史ノ座ノ右ノ後ロエ來申之、御幣發遣、伊勢、石清水、賀茂次第發遣、上卿已下平伏、次上卿令召使召中臣、中臣著座、次上卿御目、中臣起座參軾、上卿賜宣命、中臣取之退出、次內記取筥退、次自下簡起座、次列立便所、南門廊ノ西、北上東面上卿御一揖、辨答揖、外記史平伏、上卿還著南門座給、中略次石清水使於南門壇上授宣命於次官、次使進發、使一揖、辨已下答揖、次賀茂使如前、次上卿御一揖退出、辨答揖、外記史平伏、畢退出、申刻過

由加物使

神祇官

差進大嘗會由奉幣伊勢大神宮使之事

中臣正三位行大副大中臣朝臣敎忠

忌部正五位下忌部宿禰則能

卜部從五位上卜部朝臣光烈

神部肆人

右依官宣所差進如件

嘉永元年十一月九日

從四位上行伯資敬○此下有石清水賀茂差文、今略、

〔延喜式七踐祚大嘗祭〕凡應供神御雜器者、神語曰由加物所司具注所須物數、預前申官、八月上旬差宮內省史生、遣五國監造、河內和泉兩國一人、尾張參河一人、備前一人、到國先祓後始造作、其幣國別五色帛各一丈、

從五位下行大祐紀朝臣以昌

木綿麻各六斤十兩、鍬四口、熊皮二張、並以大藏物充之、

河內國所造薦筒廿合、大手洗瓮十八口、坩十八口、小手洗瓮九口、短女坏十六口、湯瓮十六口、小盤十六口、片盤廿八口、高盤百廿口、鹽坏十六口、粥盤八口、前下大盤五十六口、酒盞八口、盞廿口、多加須伎八十口、比良須伎八十口、比良加卅口、

和泉國所造薦筒九口、池由加一口、由加十口、鉢一口、燈坏六口、燈盤六口、油坩二口、叩盆六口、

尾張國所造甕八口、缶五十口、筥坏卅口、瓼八口、

陶臼八口、飾瓼八口、高盤卅口、坩十二口、都婆波十二口、瓮十口、短女坏卅二口、酒盞十二口、酒垂八口、

參河國所造等呂須伎卅口、都婆波卅二口、大十六口、中十六口、多志良加八口、山坏小坏各六十口、已豆伎匝各六十口、

備前國所造瓼卅口、水瓮卅口、都婆波六十口、大卅口、小卅口、缶卅口、置蓋卅口、酒垂卅口、匝卅口、筥坩卅口、短女坏卅口、山坏卅口、片盤卅口、酒盞卅口、小坩卅口、陶臼卅口、已豆伎卅口、

○按ズルニ、儀式ニハ、此外ニ參河國ニテ酒盞十二口、備前國ニテ盞十二口ヲ作ルコト見ユ

〔日本諸手船神祇五〕由加物

釋詁、吾神宮○伊勢祭祀亦有由加物、按由加悠紀也、加紀音通、悠紀由介與宇介同、食義也、所謂悠紀主基之訓義、亦不異乎此、

〔延喜式三十宮內一〕凡踐祚大嘗會年、省遣史生三人、催五國供神御料雜器、河內和泉兩國一人、尾張參濃國一人、備前國一人、

〔儀式一〕踐祚大嘗祭儀

九月上旬○略中神祇官差遣卜部三人、申官差遣紀伊淡路阿波等國監作由加物、

〔延喜式七踐祚大嘗祭〕凡應供神御由加物器料者、神語號雜贄、同爲由加物、九月上旬申官差卜部三人、遣三國、先大

祓後行事、料馬一匹、大刀一口、弓一張、箭廿隻、鍬一口、鹿皮一張、庸布一段、木綿八兩、麻一斤、鰒堅魚海藻滑海藻各二斤、鹽二升、米酒各二斗、（已上當郡所輸）馬一匹、大刀一口、弓一張、箭廿隻、鍬一口、鹿皮一張、庸布一段、木綿麻各一斤、堅魚鰒各四斤、海藻滑海藻各四斤、（○儀式作二斤）酒米各四斗、鹽四升、（已上阿波國麻殖郡所輸）其供神幣物幷作具及潛女衣料、（人別布一丈四尺）竝以大藏物充、但粮以當國正稅給、人別日米二升、（紀伊七日、阿波十日、）其物造了、卜部監送齋場、分付兩國、但阿波國獻麁布木綿付神祇官、

紀伊國所獻薄鰒四連、生鰒生螺各六籠、都志毛古毛各六籠、螺貝燒鹽十顆、並令賀多潛女十人量程採備、其幣五色薄絁各一尺、木綿麻各五兩、葉薦一枚、潛女所須鑿十具、刀子二枚、

淡路國所造瓮廿口、（各受二一斗五升）比良加一百口、（各受一斗）坩二百口、（各受一斗）其幣五色薄絁各三尺、倭文三尺、木綿麻各一斤、葉薦一枚、作具鑊斧小斧各二具、鎌二張、造訖使、當國凡直氏一人著木綿鬘、執賢木引導、

阿波國所獻鹿布一端、木綿六斤、年魚十五缶、蒜英根合漬十五缶、乾羊蹄、蹲鴟、橘子各十五籠、（已上忌部所作）鰒卅五編、鰒鮨十五坩、細螺、棘甲贏、石華等並廿坩、（已上那賀潜女十人所作）其幣五色薄絁各六尺、倭文六尺、木綿麻各二斤、葉薦一枚、作具鑊斧小斧各四具、鎌四張、鑿十二具、刀子四枚、鉏二枚、火鑽三枚、並令忌部及潜女等量程造備、

凡紀伊淡路阿波三國造由加物使向京之日、路次之國掃道路祇承、

〔神祇官年中行事臨時〕大嘗會

阿波國荒妙神服使一人、由加物使一人、戶座童使一人、神部二人、

淡路國由加物使一人、神部二人、

紀伊國由加物使一人、神部二人、然之上沙汰、

〔儀式四〕踐祚大嘗祭儀

預下諸司諸國官符宣旨例

太政官符諸國司

紀伊國

海部郡薄鰒二連　生鮑三籠　生螺三籠　都志毛三籠　古毛三籠　螺貝燒鹽五壺

右六種國所造備、

米七斗　人別日二升

右潜女五人七箇日食、以正稅充之、

五色薄絁各五寸　倭文五寸　木綿二兩二分　麻二兩二分　鑿五柄　刀子一柄　水桶布二段一丈三尺

右幣帛、幷潜女等料所給分、（○此下阿波淡路二國有造備品目、今略、）

以前得神祇官解偁、供奉大嘗會、其所由加物、依例所請如件者、國宜承知、依數造備進上、

太政官符諸國

應造新器

河内國

御飯筒廿合　水平十合　水片坫廿口　大御手洗十八口　小御手洗九口　足下坏十六口

御鹽坏十六口　後盤八口　前下大盤十六口　片粥盤八口　大片坫卅六口　御手湯釜十六口　片盤五十六口　御酒坏八口　間坏廿口　大高坏卅口　次材八十口　次材高坏八十口　大比良加卅口（○此間有和泉尾張參河備前雜物、今略、）

己上御料（○中略）

以前得神祇官解偁、爲供奉大嘗會、應須雜物幷潔祓具如上件者、國承知、一事以上依例行之、事有期會、不得闕怠、

太政官符宮内大藏兩省
宮内
鑺三口、斧三柄、鎌三柄、鑿十一柄（有二柄、常柄九、）刀子三柄（阿爲二、東刀一、）鉋一柄、錐一柄、小斧三柄、
大藏
五色薄絁倭文各五尺、木綿麻各大一斤十兩二分、商布五段、折薦一枚、直
右得神祇官解偁、爲供奉大嘗會、其所造紀伊淡路阿波等國由加物幣帛、並潛女等用度、依例所請如件者、省宜承知、依件充之、
（兵範記）仁安三年九月四日壬戌、今日神祇官進差文、三善大史章貞持來之、見了返給了、不及覽、上卿云々、〇中略
一枚由加物使等
紀伊國　伊岐致友　神部二人
淡路國　伊岐致親　神部二人
阿波國少史伊岐致頼　神部二人
（山槐記）元暦元年八月卅日丙戌、權右中辨光長朝臣、令主基行事史能光覽文書九通、
一通　紀伊國由加物使同差文
九月廿二日戊申、午時悠紀史國通持來神祇官差文、請奏等入筥、
一通　紀伊國由加物使差文
（儀式、二）踐祚大嘗祭儀
九月上旬、神祇官差神服社神主一人爲神服使、申官、賜驛鈴一口、遣參河國、喚集神戸、下定織神服長二人、織女六人、工手二人、
〇按ズルニ、神服社ハ參河國赤日子神社ニシテ、神服部ノ祖神ヲ祭レル所ナリ、

神服使

（儀式、三）踐祚大嘗祭儀
十月上旬、神服使率服長織女工手等十人、持神服部所輸調絲十絇到來、悠紀主基各五人、次各祭八神、名號其料各五色薄絁各一尺、絁三丈二尺、座別四尺、木綿二斤、絲綿各八斤、座別一斤、商布八段、鍬八口、麻四斤、酒一缶、米五斗、鰒堅魚各一連、雜腊一籠、海藻一連、鹽二升、雜菓子一斗、凡料布二段、〇中略、中旬、〇中略、各神服使幷國司齋場預率服長織女等、鎮神服院地、其料各五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿五兩、麻一斤五兩、鍬四口、米酒各一斗、堅魚鰒海藻各一連、坏四口、瓶四口、其調度服、板七枚、長各八尺、廣二尺、厚二寸、簀二十口、席三枚、薦七枚、茵四枚、服覆庸布一段、知岐黒綿一屯、使一人、長二丈、織女六人、各一丈六尺、巾料各三尺三寸、襌料各五尺、緌料各五尺、即兩國相共造神服院、〔一云、院有二四屋一、國造二屋一、〕先造酒壷女執鋤初堀四角柱穴、工夫終之、其制也、開門東北兩方、北門掖横五間、神服殿一宇、南尺、廣一丈、長三丈五尺、南垣下、横五間屋一宇、與服殿相對、西三間隔壁爲神服女宿所、東二間爲服部宿所、並北戸、長三丈五尺、廣一丈二尺、已上二字悠紀造之、屋一宇、北月、已上主基造之、並構以黒木、葺以萱、以葉柴葺之、
（儀式、四）踐祚大嘗祭儀
預下諸司諸國官符宣旨例
太政官符參河國司
應進上服部女三人服長一人神調絲五絇使其位神服某甲
右爲供奉大嘗會、其所差件人、充使所喚、如件、國宜承知、使賚調絲、依例進上、
太政官符宮内大藏省兵庫寮
宮内省
鑺二柄、刀子二柄、鉋二柄、鋸二柄、
大藏省

鐵一廷鹿皮一枚、折薦二枚、直木綿一斤十兩二分、
兵庫寮
篦半連
右得ニ神祇官解偁一、供ニ奉大嘗會神服等供奉、和御服用途料、依レ例所請如レ件、省察承知依レ件充之、
〔小右記〕長和元年七月五日辛未、拔穗事、神服
定申之由、於ニ相府一使仰ニ左中辨了一、八月十七日壬子、左大臣殿〇藤原道長自ニ殿上一向ニ仗頭一、欲レ定ニ申大嘗會
事一、〇中略仍下官〇藤原實資以ニ近江阿波國解一、并神祇官勘申式文等一奉ニ左府一、又三河國申神服料絲事、雖レ無ニ
國解事一、依ニ一同一可レ被ニ定申一也、件仰詞告彼是文書等見下了、各々不レ申、亦相議可レ申也云々〇中略阿波國
申、雇妙御服去年織進了、不レ可レ重織事申請子細在ニ解狀一、又三河國絲事、大略同ニ阿波一、中納言俊賢云、件
兩國所レ申可レ然、不レ似ニ近江者一、〇此時近江國、拔穗使ヲ停メ、進セントス乞フ、相府有ニ被レ同之氣一、予申云、阿波雇妙御服三
河神服絲等、以ニ當年織物一可レ被ニ充用一歟、以レ去年觸汗穢〇去年十月皇崩、物ニ被ニ充用一如何、相府云、去年物當年
物等間可レ被ニ充用一乎否、依レ此一定可レ有ニ左右一歟、彼是同下官之所レ申、俊賢卿亦同、下官復云、隨國司申有ニ
事定一也、事旨依レ式可レ被レ行也、不レ可レ及ニ詮議一者、違ニ初定詞一、諸卿定ニ申依レ式可一レ遣レ使由了、
〔吳範記〕仁安三年九月四日壬戌、今日神祇官進ニ差文一、三善大史章貞持ニ來之一、見了返給了、不レ及ニ覽上卿一
云々、
一枚　大嘗會神服使
正六位上神服政景　神部二人
一枚　荒妙御衣使
正六位上少史伊岐致頼　神部二人
十三日辛未、右大史三善章貞持ニ來始紀所一日時勘文一、〇中略

陰陽寮
擇申可レ被ニ織ニ天羽衣一日時
十一月七日甲子　時巳二點　若未
仁安三年十月廿七日
十一月七日甲子、今日令ニ織ニ始天羽衣一、件神服使、去月晦任ニ日時一歸京、今日又任ニ勘文一、於ニ神服院一令ニ始織一
也、史生行事辨及史等不レ及ニ參向一云々、
〔百練抄九安德〕壽永元年十一月十一日、諸卿定ニ申大嘗會參河神服使空歸洛事、
〔山槐記〕元暦元年八月廿二日戊寅、予問云、阿波國荒妙神服事、平家在ニ四國一、仍往返不レ通、又鎭西不レ通、
有ニ限事等一如何、辨曰、此事尤可レ有ニ沙汰一事也、未レ及ニ文書沙汰之間未レ注レ出、委注出可レ經ニ御覽一也者、
〔三長記〕建暦元年九月六日乙卯、參河神服阿波荒妙御衣、三箇國由加物、戶座量使差文等上了、
〔宮主秘事口傳〕荒妙和妙御服者、兼日官方催促也、爰正慶〇光嚴大祀之時、號ニ參河國無沙汰一、不レ備レ進、只
竹籠許置レ案、希代之珍事、臨期之違亂也、但當官者只昇立之所役許也、曾不レ申ニ沙汰事一也、然而忽大祀
之違亂周章之間、兼豐于時勤ニ宮主代一井主基大使代一相談兼彥兼員等宿禰之處、只今難出來之上者、以レ紙爲ニ其代一令
昇立一畢、暦應〇光明文和〇後光嚴大祀之時、雖レ非ニ當道之最一、存ニ君之忠一、兼日依レ申奉行令ニ備進一其形一畢、雖レ向ニ後
內々兼日可レ和談事也、

古事類苑

神祇部十九

大嘗祭二

在京齋場　一〇五三
大嘗宮　一〇六七
御禊雜事　一〇八三
御禊儀　一一二一

古事類苑

神祇部十九

大嘗祭二

在京齋場

【代始和抄】大嘗會事

荒見河のはらへとて、紙屋河にて上卿以下參向して祓の事あり、其後悠紀主基の齋場所、偉鑒門をさりて、北八十二丈を點じてその所とす、○中略齋場所の額、御屏風の色紙形は、行成大納言の子孫相傳して書進す、

【玉勝間十二】大嘗會の齋場

中臣の壽詞の中に、大嘗會の齋場とある、○中略齋場は別に北野に於て其地を卜定めて構造らるゝことにて、大嘗宮とは別也、九月下旬悠紀主基二國より齋參れる諸の物も人も、なづ齋場に詣て、そこにてくさ〴〵の事有て、十一月祭の當日に至て、齋場より大嘗宮に運奉る、その行列なども儀式に委見えたり、

【儀式】踐祚大嘗祭儀

天皇卽位之年、○中略應レ卜二定齋場一之狀牒二送山城國一、至二於其日一、撿校以下率二神祇官一到二北野一卜二定其地一、其儀神祇官悠紀主基兩國司幷山城國郡司等就二荒見河一陳二置祓物一、各五色薄絁各一尺、木綿二斤、米二升、酒一斗、薄鰒堅魚海藻各一連、食薦二枚、干柏六把、並國辨備、訖行事以下雜色人以上、共就二祓場一（悠紀在レ東、主基在レ西、行事以下在レ上、主基在レ下、）大祓（悠紀先發二祓訖一、次主基、）訖各就二幄下一（卜二定齋場一、悠紀同行二野中一、執二其塊一將歸レ之、）其料物各酒一斗、米四

升、木綿麻各一斤、鰒堅魚海藻各一連、腊一斤、卜訖立標四角、立贄木、著木綿、方四十八丈爲限、卽令山城國葛野愛宕兩郡司守之、○略、中次卜定小忌院、訖宮主卜部率行事幷小忌官人以下鎭小忌院、其料各五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿麻各一斤、綿二屯、商布四段、鍬五口、米五升、酒一斗、薄鰒海藻各一連、卜部軾料調布二端、並用國物、次卜定御井所、方一丈二尺、若當處舊井、次定所所屋、若當所舊屋不足者、卜食者、卽使修理用之、次鎭調備供御幷小忌食之院、其料各五色薄紗各一尺、倭文一尺、木綿麻各一斤、綿二屯、商布四段、鍬五口、米五升、酒一斗、薄鰒海藻各一連、卜部軾料布二端、並用國物、次卜定諸所、謂出納細工等所、○中略、次齋場預官人等、點定齋場內外院服院幷雜殿地、外院方四十丈、內院十二丈、服院十丈、其內院悠紀在外院東、主基在外院西、服院在兩內院中間、南去五許丈、始構造齋場雜屋、其外院南門北卅許丈、橫七間廳一宇、西南戶長五丈六尺、廣一丈六尺、南面有庇、廂其東橫五間人給屋一宇、東三間爲室、西二間並爲室、四側戶、其庇亦隔壁、西戶、其南縱七間料理屋一宇、西戶、長五丈六尺、廣一丈六尺、東西面有庇、與人給屋西廂相當、其南縱九間倉代屋一宇、長四丈七尺、廣一丈六尺、東西面有庇、其南縱九間倉代屋一宇、長廣庇並同上、其東縱九間倉代屋一宇、長廣同上、東門北掖北去十三許丈、縱五間官人宿屋一宇、西二間爲物部女宿所、南戶、東三間爲物部男宿所、南戶、長三丈五尺、廣一丈四尺、其南橫五間屋一宇、西二間爲造酒童女宿所、東戶、長廣同上、酒屋以西橫七間大炊屋一宇、南北有庇、長五丈六尺、廣一丈六尺、其南縱七間造筥形幷漬菜屋一宇、東西戶、東西面有庇、其南縱七間納雜物屋一宇、西東戶、丈六尺、廣一丈六尺、其南四許丈少西、縱七間納拔穗御稻屋一宇、東西戶、長廣庇並同上、西門北掖有大多米院、東門院門北掖橫三間酒屋一宇、南戶、長二丈四尺、廣一丈六尺、南面有庇、南掖橫三間麴室一宇、東側戶、長廣同酒屋、兩屋西頭縱三間大炊屋一宇、東戶、長廣同麴室、西門南掖造標屋一宇、廣方四丈、高三丈八尺、四面有庇、其南橫五間屋一宇、東三間爲神服長宿所、西三間爲神服女宿所、並南戶、長廣同上、爲御井在院外東北角荒見川東、童女井在其東、

〔儀式 二〕踐祚大嘗祭儀

神祇官卜定拔穗使、申官發遣、○略、中下旬月○九至京齋場、○略、中次鎭稻實殿地、其料各五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿麻各一斤、綿二屯、商布四段、鍬二口、米四升、酒一斗、薄鰒海藻各一連、雜菓子四升、凡料布二端、並用國物、鎭畢、造酒童女先執齋鉏掃地、幷掘院垣四角柱穴、先艮、次巽、次乾、次坤、役夫終之、次稻實卜部率造酒童女各五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿麻各一斤、鍬二口、米五斗、酒一缶、鰒堅魚各二連、雜魚腊一籠、海藻二連、鹽一升、雜菓子一斗、稻二束、軾料絁一匹、布一端、綿二屯、祭畢造酒童女先執齋斧伐樹、工匠次之、役夫次之、訖歸來、自後遣工幷夫等伐運、次始堀備小忌食院、凡酒甕穴、幷始釀酒、次於同院大被其料各五色薄絁各二尺、木綿麻各二斤、酒米各一斗、薄鰒堅魚各一連、海藻二連、鍬二口、軾料布二端、並用國物、次始作內院雜殿、造酒童女執齋鉏、掘稻實殿四角柱穴、物部次之、役夫終之、其東門南掖、縱八間神座殿一宇、長二丈四尺、廣七尺八寸、柱高七尺、西面有庇、北掖高萱片葺御倉一宇、徑八尺、高九尺、其西橫三間稻實殿一宇、南戶、長二丈四尺、廣一丈二尺、柱高八尺、其南縱三間倉代殿一宇、其南縱三間御贄殿一宇、並西戶、長二丈四尺、廣一丈二尺、柱高七尺、其南橫三間鋪設殿一宇、其西橫三間黑酒殿一宇、其西橫三間白酒殿一宇、並南戶、其南縱三間麴室一宇、其南縱三間倉代殿一宇、其南縱三間御贄殿一宇、並東戶、其南橫三間臼殿一宇、東側戶、長廣並同稻實殿、其制也、神坐殿者構以黑木、板爲扉、稻實殿亦如之、黑酒殿者、構以黑木、葺蔀用萱、薦爲壁代、白酒殿者構以白木、自餘同黑酒殿、其倉代大炊麴室臼鋪設等殿、並同御贄殿、次國司率禰宜、造酒童女及當郡司、役夫等、向卜食野、卽祭野神、其料各五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿一斤、米酒各一斗、鍬一口、堅魚海藻各一連、祭畢造酒童女先執齋鎌艾之、役夫等終之、訖歸來、自後令役夫艾運、

〔延喜式 七踐祚大嘗 祭〕凡在京齋場者預分設雨處、悠紀在左、主基在右、兩國所送拔穗稻到京、卽先鎭祭其地、訖造酒兒先執齋鍬始掃地、幷掘院四角柱堺、卜部率國郡司以下及役夫等、入卜食山、採材、卽祭

山神、記、造酒兒先取齋斧始伐木、然後諸工下手、（梁大嘗宮材准此）又卜部率郡司以下雜色人等入卜食野苅草、（苅大嘗宮草准此）即祭野神、記、造酒兒先苅、次諸人下手、其齋場者、分爲内外兩院、以柴爲籬、編木爲門、内院所造八神殿一宇、稻實屋一宇、黒酒白酒屋各一宇、倉代屋一宇、贊屋一宇、臼屋一宇、大炊屋一宇、麹室一宇、外院所造多明酒屋一宇、倉代屋一宇、供御料理屋一宇、多明料理屋三宇、麹室一宇、（已上舍屋皆長廣稱宜）麹室一宇、以黒木及草構葺、以草爲壁、（但麹室裏以長薦其酒屋麹室席爲承塵、曝布爲裏、其井二處、卜記御井者、造酒兒始掘、造酒兒井者、稻實卜部始掘、其二院營造既訖、收御稻於稻實屋、但御飯稻造棚別置、祭御膳八神於内院、（其幣准上）

凡北野齋場雜舍、事畢壞却、

〔儀式四〕踐祚大嘗祭儀

須下諸司諸國官符宣旨例

其所牒山城國司

應卜定齋場事

其月其日刻解除、其刻卜

牒、爲卜定件地、撿校納言以下雜色人以上、率卜郡等、可向宮城北野國也、察狀、差祇承國司百姓等、候荒見河邊、勿違闕、故牒、

大嘗會其所牒京職

應雇夫等事

功錢若干文

牒、爲掃齋場應雇進如件、職察之狀、早雇進不得違闕、

〔小右記〕寛弘八年九月十日庚辰、今日卯刻始齋場所、參内、左大臣、内大臣、大納言齊信、中納言俊賢、隆家、行成、時光、參議經房、實成參入、○中略悠紀主基所行事辨等云、齋場所時刻始了、無停滯者、又申刻可立小忌屋者、十九日己丑、兼隆朝臣來云、今日返給怠狀、是汝往已也者、去十六日參内之次、可奏聞之由、觸頭辨又申左相國、兼隆朝臣者、主基齋場所預、今有公家勘事、不能從事、仍所令奏聞、彼日内返給怠狀、兼隆遲參及今日云々、

〔經信卿記〕治曆四年十一月十一日、自右衛門督御許被示云、按察大納言被送云、今日可廻見齋場所云々、○中略大嘗會撿校三人、相共向齋場所巡見、行事辨史等不參、問申按察、被答云、雖示此由、不參會歟、巡行之後各々分散、今日主基人三四人所參也、

〔本朝世紀〕寛治元年十一月十六日甲子、今日攝政殿下巡撿北野齋場所、

〔中右記〕寛治元年十一月十九日丁卯、今日破却北野齋場所云々、

天仁元年十一月十八日、今日殿下御覽祭場所也、○中略未時許渡御祭場所、（御冠御直衣）予、左宰相中將、忠殿上人五六輩連車扈從、於北野邊右大將、右衛門督被參加、御覽廻悠紀主基兩所祭場所、八女出來謳歌、行事辨等祇候、

〔本朝世紀〕康治元年九月十四日癸卯、北野齋場所棟上也、十一月十二日庚子、攝政被巡撿齋場所幷大嘗宮内大臣以下相從、

〔兵範記〕仁安元年十月十五日乙酉、今日齋場所内院神服院棟上、左中、左少、相向行事云々、大夫史云、行事辨近例頗不被向行、今度一同議定參向云々、是亦非僻事歟云々、三年七月廿七日丙戌、行水解除、參行事所、召陰陽頭令勘申來月次第日時、○中略

點齋場所地日時

同○八月廿三日壬子　時未二點　若酉

鎭謝日時

廿七日○八月　丙辰　時午二點　若申

立屋日時

木作日時

同日丙辰　時午二點　若申

立柱上棟日時

九月四日壬戌　時午二點　若酉

立柱次第先東、次西、次北、次南、

仁安三年七月廿七日

權大允賀茂修平

主計頭賀茂在憲

九月四日壬戌、今日齋場所棟上、七月廿七日勘日時、即下知卜食國郡悠紀方史預以下參向行之、主基行事辨以下參向云々、八日丙寅、大夫史以下引率向北邊齋場所悠紀方國司等未催得所都十三宇、屋纔三四宇、上棟造營、殘數屋併上假棟、雖稱近例、猶可謂違式也、國司目代家職在廳官人等參入懈怠之由仰含子細了、行事史生信職定友猶可張行旨又下知了、十月十六日甲辰、內院幷神服院點地荒見河祓也、已刻先著行事所、差遣行事所主典代盛久、盛安、官掌宗職於齋場所、先是彼所主典代信元、貞友早參行事所、午時下官引率史以下向齋場所、於南鳥居外下車、經屏垣西著廳屋、

件座六間二面、西南有庇、母屋西一間、副西敷高麗疊一枚爲下官座、東面北母屋際敷紫緣疊四枚爲五位六位史主典代等座、西上南面南母屋際敷同疊二枚爲神祇官座、西上北面座末母屋西在官掌座、橫切西面南廂有神祇史生座、西上東面東切懸下半板敷使部座、北上西面官掌座以下皆用布綠帖、下官以下座前居肴物、二種物□□机卜食國調進之

各座定一獻、國人持參盃酌、次差官掌遣荒見河、又以主典代牒主基方、次起座出西鳥居、主基右少辨重方以下出合相向、次各乘車經一條西、自右近馬場南方北行、於北野鳥居下下車、同東門前向御殿深揖、次北行經林中著祓幄、大藏省木工寮立五丈幄二宇、各南北妻、北悠紀、南主基、掃部寮鋪設、其儀每事如齋場所點地且、神祇祓大中臣能隆居下官贖物、俗折敷高一本、同史生以下居五位六位史寄人等前、俗案次卜部兼成著膝突、神祇官令史取大麻傳能隆、能隆持來下官前、下官取大麻末摩之、能隆猶持申、次令史取寄大麻、引寄、又五位六位史以下令史返大麻、次祝詞、中臣官人又不候、能隆一人兼勤、主基幷贖物役且先例也、兩方祓畢各退歸、於北野鳥居下各乘車馬、歸齋場所、於西鳥居外又下車、主典代等召神祇祐史生令進丈尺繩等、次點定內院地齋場所、西鳥居去北三丈、去西一丈二尺、方十三丈打杭繩哉、次點定神服院、當內院中央去南五丈、東西五丈、南北十丈、悠紀主基兩內院中絕一丈八尺、次主典代取中央壤各二裹、四裏也、內院服院皆注銘、神次神祇官鎭謝畢指榊、主典代立簡、

主基方次第作法同前、但神祇官悠紀役了向主基、次下官以下歸著廳屋兼居饗、各座定、主典代貞友內院神服院等壤四裹、盛折敷置下官前、次下官目神祇祐能隆、能隆取壤渡座傳給卜部卜定了、此間一獻、國人持參盃酌、下官盞傳大夫史、次二獻同前、次居汁、次立箸、次三獻、次食汁、次卜定、卜形幷壤置元折敷、能隆持來、能隆復座、下官披見卜形、內院神服院一通見了留座前、次召主典代返給壤、仰云、下卜食國、次神祇官人等遣主基齋場所、次下官以下起座分散兩院卜形、

神祇官

卜大嘗會悠紀齋場所內院地事

山城國葛野郡野地如何

問以此處爲齋場所內院地吉哉、卜乙下合、

推之吉也

仁安三年十月十六日

卜部龜卜長上正六位上卜部宿禰兼濟

中臣從五位上權少祐大中臣能隆

神祇官

卜大嘗會齋場所神服院地事

山城國葛野郡野地如何

問以此處爲齋場所神服院地吉哉、卜乙下合、

推之吉也

仁安三年十月十六日（署名同上文、故略、）

件勘文二通覽撿按、可返下齋場所、　廿七日乙卯、先向内院、修理大工國長著衣冠、引率木工等、吉時申時先上神殿棟、（中略）次向神服院、主基行事相共集會各棟上、（中略）悠紀齋場所額板八枚、去十八日於廳屋造始、日來終功、畫師加彩色、爲史生使、昨日遣皇后宮權大夫朝方卿許、南大額一枚、今日被書獻、即令打南鳥居了、其文四字也、悠紀齋場、其額寸法、文字可塗胡粉、長一尺七寸、廣八寸五分、此外四方有色々彩色如常、殘七枚後日追可書進之由彼卿被申、且先例也、　十一月四日辛酉、皇后宮權大夫朝方卿書進齋場所額六枚、（中略）即付彼所主典代、仰可令打由、標額一枚未書進、

額文字

悠紀齋場二　悠紀内院二　神服院一　大多明院一（此院額古今有無不定、就中寛治無之、仍今度不可被打由、隆職宿禰執申、仍雖書進無益由下知了、行事主典代申云、是標額料也、而令書獻此院、仍標料又可造云云、）

十三日庚午、早旦參齋場所、皇太后宮女房可歷覽之由、別當内々被告示之故也、先巡撿屋々作事幷掃除等、次著行事所屋、大夫史六位史主典代等參會、童女八女稻實公等召著此屋、六男子弟令候砌邊、見物男女尊卑貴賤濟々焉、頃之女車來座、口上皇（後白河）網代御車也、皇后（後白河后平滋子）御同車、別當（時、）右宰相中將（宗、）扈從、（各直衣、）左衞門佐信基、伯耆守親宗同候、（衣冠、）北面下臈五六人候御車共、此外女房五車先入南鳥居、御車以下被立行事所屋南庭、（廳屋也、）次前庭昇立臼二基、入御稻、次八女取杵、各四人詞曲舂之、此間稻實公行事童女猶在南庭、公卿以下祗候庭芝、上下感興、漸及數刻、次御車廻北方歷覽所々屋々、次出御西鳥居、歷覽内院、次神服院、次入御主基東鳥居、於廳屋南庭又有舂稻事、其儀如悠紀方、次第御覽、出御南鳥居還御了、

〔方角禁忌撰〕大嘗會齋場所屋事、後堀河院御即位之時、泰忠撰申之、而在親難申云、北方者王相方也、不可犯土云々、泰忠陳申云、代々皇居皆大内也、被立齋場所屋之時、有御方違之由所不見也云々、爰猪隈大殿（藤原家實）仰云、避偉鑒門西之事二丈之由見御記、然者避正方一辰之由被仰之、兩人感之退出畢、有道談之、

〔平戸記〕仁治三年十一月十二日庚寅、傳聞今日雜人欲壞取齋場所屋之間、彼是鬪亂、被疵之者十餘人、此中三人被殺害了、齋場所觸穢云々、然而無其沙汰、如何、不便不便、

〔中務内侍日記〕十一月は大じやうゑとて、しも月（弘安十一年）八日女工所はじめとて、ゆうきしゆきにてつくるがいまだいでこねば、ゆうきには神ぎくわんをもちゐらるとかや、しゆきには陰陽れうなり、八日、月さしいづるほどに、こうたうと一くるまにてゆく、夕づく夜のさびしき影、うちのゝはる〴〵と霜がれの野べに、さはる物なくみえたるもなか〳〵にをかしきに、（中略）さて月入てのちかへる、女工所にかねて十二日とてありしかど、おそくつくりいだすに、十七日より入に、雪うちゝりて冬ごもりたる空のけしきのすごきに、陰陽れうのなかなるに、やしろのみぞひとつにみいだしたる、こうたうは、神ぎくわんのつかさの東に、女工所のやたてたるに侍る、これには陰陽れうのうちにいぬゐのすみなり、とくせんをとらぬおとゝい女官にはつかさとて代代のくわんと名のりてれいどもひきぎやうじくわんに、たゝみせめいだしてしく、さとよりびやう風、さを、厨子やうのてうどゝもめしよせてしつらひつる、さる程に日くれぬ、さとより人ま

ゐりてづしたてさをつらせなどす、思ひもよらぬほどに御幸〈後宇多〉ありときゝ、こうたうの所よりこれへ入らせおはしますはれがましくなる女房たちいくらもくおし入て、いかにいかになどおほせらるゝ、さをなるはかま、ひきおとしてきつ、やがていらせおはしまして、衣のかけやう思ひ所あり、幸にこそかけたれとおほせごとありて、しつらひやさしなどぎよかんにあづかる、こよひおとなしき人まゐらずば、いかにくはぢがましからましとおぼゆ、木丁などもたてめぐらしつゝ、よくく御覽ありて還御なりぬ、めんぼくもはぢがましさもおとるかたなくこそおぼえ侍れ、さても夜もあけぬれば、くわんよりぎやうじくわんとて、いりさぶらはんことうけ給はらんと申、大じやうゑのいなのみのおきな、いんこや女とかや、色々のものゝ、しやうぞくの衣、色々のそめ草花くれなゐなどまゐらせたり、かたのごとくなれば、女官このぢやうにてはみち行がたきしだいども奉行の辨なかかぬにふれ申せば、國々へ下知し侍れどもいまださたせず、せめふせ侍らんなど申、ぎやうじくわんと女官といさかふ、おそろしながらをかし、廿一日〈中略〉さる程にぎやうじくわん色々のそめ草まゐらせたれば、女官づかさにうけとらす、しるしぶみにまかせて御ちやうのかたびら、いなのみのおきな、いんこや女の裝束の衣うけとらするに、そめくさどもりやうのこくしのもとへつみつかはす、また奉行の辨なかかぬとざまのもよほしもしきりかけて、御けうそつかはす、行事くわんぢきにうけとらせ給へとていできたれば、さぶらひどもをいだしてあひしらはするに、心えぬことゞもあれば、女工所のねうばうをはしにいだして、みすのきはへかの行事くわんをめしよせて、きぬのすんはうなどこまかにあひしらはせたれば、心えてよろこぶといへども、そめくさの色々みえずして、御所の御りきしやを申て、ところぐくへつけてかたのごとくせめいだしつゝ、ころもをとりかさねて、花の色々くれなゐの色々をひとへによせて、てうせさせてのちに、そのいろくしなぐくにわかちぬはせては

どなくさたしいでたれば、行事の辨よりはじめて悦ぶ、いまだ夜の中に行事くわんならびに奉行の辨、めんくに裝束うけとらす、

〔實躬卿記〕正安三年十一月十九日甲寅、今日爲齋場所御覽行幸、〈後二條〉未刻出御、八葉御車懸御下簾、如法密儀也、且近例如此、法皇、上皇、遊義門院〈後宇多后姈子〉御同車、御車寄堀河大納言〈具守、直衣下括、〉殿上人公秀朝臣、〈二藍薄物、依禁制也、狩衣、青裏衣、紅單衣、紫奴袴、〉童〈萠木平狩衣、香村濃帷、〉舍人〈水干、口色々、菊水文、葛袴摺腰際、〉通氏朝臣、〈二藍狩衣、薄物萠木衣、牛色奴袴、〉童〈朽葉地、口帷、〉北面時景、六位藤重頼、同俊口、源致憲、大江景朝、御隨身秦重躬、〈山花田黄御綾衣、黄單衣、〉同久勝〈褐衣、紅衣、〉返相國參會齋場所、歷覽之後廻立殿御覽、酉刻還御、

〔花園院御記〕元弘二年十一月十一日丁丑、内々爲覽女工所有御幸、申刻出御、按察寄御車、北面以下供奉、先於悠紀女工所鳥居下立楊、豐仁親王下車、次朕下車、次上皇〈後伏見〉御下車、按察冷泉前中納言大藏卿等參會、日野大納言房光朝臣等追參會、女房等又參會、又於主基女工所御歷覽如前、〈中略〉今度毎年遲々之間、於女工裁縫物、先於行事所調之間、女工所冷然也、遲々之間自今日居之云々、十二日戊寅、今日爲齋場所御覽御事也、申刻出御、烏帽御直衣也、朕同之、豐仁親王〈直衣上括、乘車後、公重自齋場所南鳥居遣入之、〉卿爲冬房保等朝臣供奉、至齋場所立御車於廳屋前、〈東西〉供奉人等候御車南、資名卿參會在此、悠紀行事幷定頼朝臣遲參之間、先令行次第事、以女口稻唱歌稻欠解於御車前獻歌詞、主基又如前、今度御車西面立之、次第如前、

〔壬生家記〕文政元年八月廿六日、今日兩國御稻到著、　十月二日、今日御稻上加茂〈江〉相渡、幷御道具之事、

兩國御稻御道具

一長辛櫃二合〈棒二本、緘布四筋〉　一荷辛櫃八合〈棒四本、緘布八筋〉

一荷目籠二荷〈棒四本〉　一雨覆箱二荷〈大二枚、小十二枚、棒二本〉

一挽臼二ッ　一舂臼二ッ
一續紙二枚　一筵二十枚
以上
十月
右一社より、宰領人足召連參相渡之事、
六日、御稻仕立出來に付、上加茂より相渡候事、
悠紀方
一黑米壹石八斗三合
內
中白五斗　御酒料
黑米二斗八升　餘米
三升五合　減
外ニ
七升三合　籾交
主基方
一黑米壹石八斗二升
內
中白五斗　御酒料
黑米二斗五升　餘米
八升　減

一杵六本　一桶二ッ
行事官

三杵九斗五升　御飯料
三升八合　こぼれ

七升　糠粉米

三杵九斗五升　御飯料
四升　こぼれ

外ニ
三升八合　籾交
以上
十月
七日、兩國御稻配分之事、
目錄
悠紀近江國滋賀郡之分
拔穗五十筋　白米貳斗
主基丹波國桑田郡之分
拔穗五十筋　白米貳斗
合拔穗百筋、白米四斗、
十月
右內膳司江相渡候事
目錄
悠紀近江國滋賀郡之分
白米四斗八升　三杵米四斗八升
主基丹波國桑田郡之分
白米四斗八升　三杵米四斗八升
合白米九斗六升三杵九斗六升、

壹斗七升　糠粉米

加茂一社總代梅辻大和守
岡本備後守

行事官

十月
右造酒司江相渡候事
目錄
悠紀近江國滋賀郡之分
白米二斗
主基丹波國桑田郡之分
白米二斗
合白米四斗
十月
右大膳職江相渡候事
目錄
悠紀近江國滋賀郡之分
白米一升
主基丹波國桑田郡之分
白米一升
合白米二升
右主水司江相渡候事
右渡方相濟候ニ付、先例之通傳奏奉行衆江屆候事、
〔輔世卿記〕嘉永元年十月十三日癸丑、入來行事官、右者悠紀主基御米仕立出來候ニ付、今日賀茂より請取候ニ付、御屆申上候、

行事官

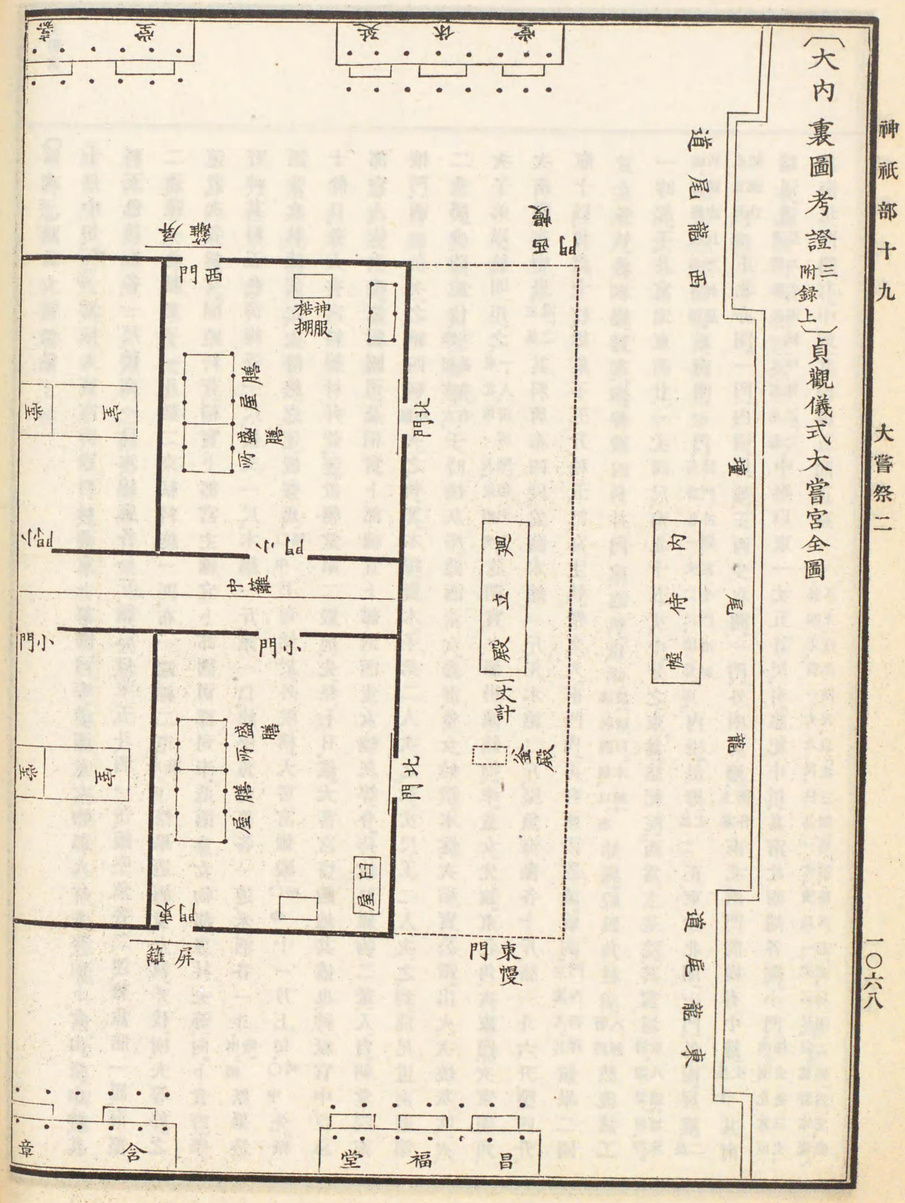
行事官

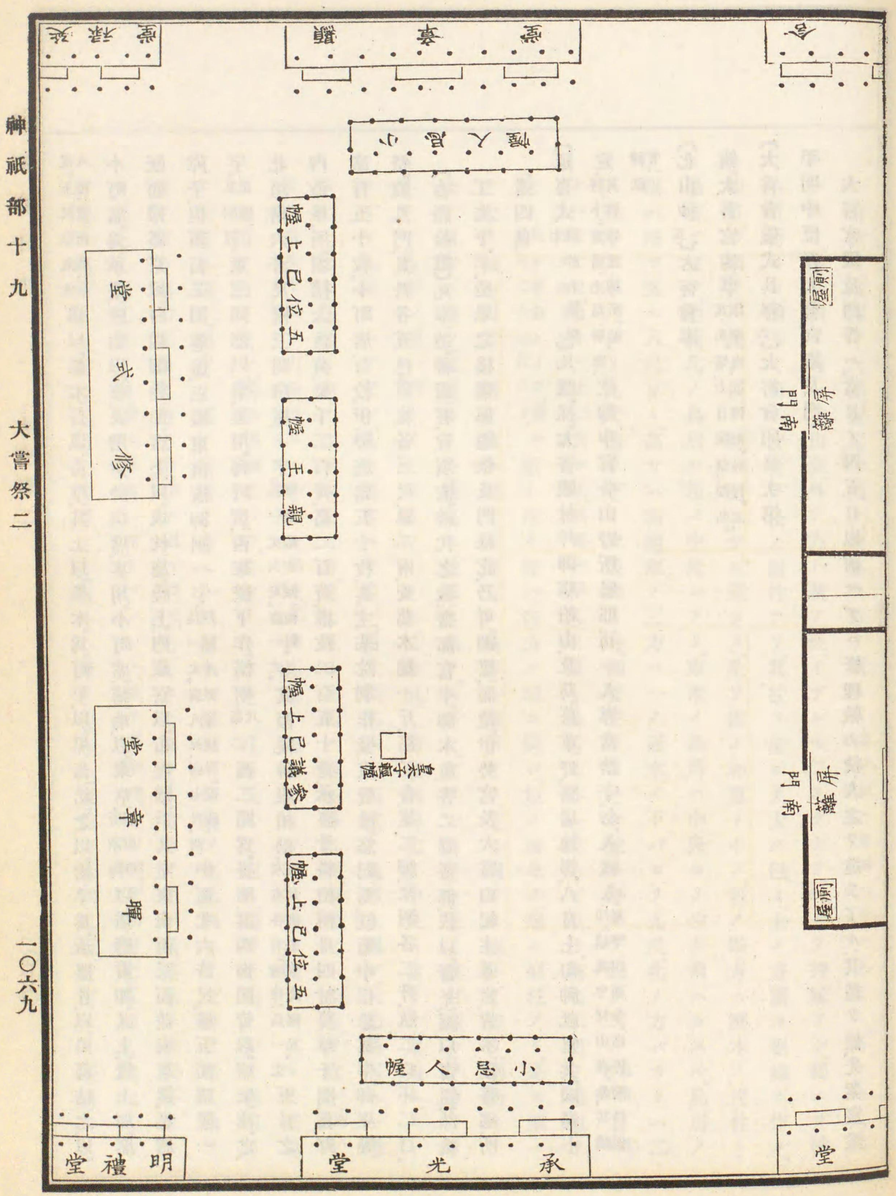
大嘗宮

〔儀式三〕踐祚大嘗祭儀

十月中旬〇略中爲採大嘗宮御殿料材、禰宜卜部國司率造酒童女物部人幷夫等、向卜食山祭山神、其料五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿麻各一斤、鍬二口、米五斗、酒一缶、鰒堅魚各二連、雜魚腊一籠、海藻二連、鹽一斗、雜菓子一斗、稲二束、軾料絁一匹、布一端、綿二屯、用國物祭畢造酒童女執斧伐樹、夫等紲之運置、次各爲艾同殿料萱、稲實卜部宮主禰宜卜部國司郡司率造酒童女物部男幷夫等、向卜食野祭神、其料五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿一斤、鍬一口、鰒堅魚海藻各一連、米酒各一斗、用國物祭畢造酒童女執鎌艾之、夫等紲之運置齋場〇略中下旬始於外院構大嘗宮雜殿〇略中十一月上旬〇略中先祭十餘日、各大嘗宮料雜材幷萱、運置朝堂第二殿前、先祭七日、鎮大嘗宮齋殿地、其儀也、神祇官中臣忌部官人、依次率悠紀國司及稲實卜部禰宜卜部造酒童女燒灰等、分持鎮料雜物二輿、入自朝堂院南掖門、酒一缶次之、鍬四柄裹布次之、執著木綿賢木子弟二人次之、執丈尺工二人次之、到龍尾道南庭第二堂間、少時跪侍、悠紀主基各在左右、于時燒灰率造酒童女參進、童女始鑽木燧、次稲實公鑽出火、次燒灰吹火、次子弟以松明炬之、東北角一人、東南角一人、訖稲實卜部辨備鎮物、率童女先鎮東北角、次東門、次東南角、次南門、次中央、主基准之其料庸布四段安藝木綿一斤、凡木綿二斤、堅魚海藻各十斤、腊一斗六升、鹽四升、瓶十口、食薦十枚、雜菓子五升、柏五把、宮主執祭文、入南門內再拜兩段、訖讀祝詞、主基入門內再拜鎮畢二國童女各執著木綿賢木、捌神殿四角幷門處、訖執齋鍬國別四柄、以布綿結以木綿、始堀殿四角柱堀各八鍬然後諸工一時起手、其宮地東西廿一丈四尺、南北十五丈、中分之東爲悠紀院、西爲主基院、其宮垣搒柴爲垣、押重垣末插搒椎枝考古語拾遺比乃和裏、正南開一門、高廣各一丈二尺、裸爲耳、諸門亦同、其小門准減、內樹屏籬長丈二正東少北開一門、外樹屏籬長丈五尺、悠紀國作、正北亦開一門、內樹屏籬、主基國作、南北兩門間縱有中籬長丈十其南端通道、道南籬長一丈、道北籬長九丈、兩國中分造之、中籬以東一丈五許尺、有悠紀中垣、其南北兩端各開小門、與南北宮垣相去各三丈、其南北門間有中垣、其南縱五間正殿一宇、長四丈、廣一丈六尺、柱高一丈、椽長一丈三尺、以葛野席覆屋、以葛上、校高四尺、以北三間爲室、南戸蓆席、以南二間爲堂、裏其

〔大内裏圖考證（三附録上）〕貞觀儀式大嘗宮全圖





置五尺堅魚木八枝、著搏風、構以黒木、葺以青草、其上以黒木爲町形、以黒葛結之、以小町席爲承塵、壁蔀以草、表用伊勢斑席、裏用小町席、鋪地以束草、所謂阿都加草、以播磨簀加其上、簀上加席、既而掃部寮以白端御疊加席上、以坂枕施疊上、內藏寮以布幌懸戶、其堂東南西三面並表葦簾、裏席障子、但西面二間卷簾、正殿東南横御厠一宇、長一丈、廣八尺、高七尺、西戶、壁井扉等制同正殿、中垣北六許尺、横五間膳屋一宇、其制同正殿、東三間蔀以柴、裏用葛野席、西東壁下作楉棚、高二尺、西二間爲盛所、其西南間皆以席柴蔀之、北垣南六許尺、横三間臼屋一宇、長一丈六尺、廣一丈、與盛殿東頭相對、其西縱神服柏棚、左右各有四柱、長一丈五尺、廣五尺、高四尺、五日之內造畢、所須楉六百荷、柴千二百荷、葛二百荷、椎枝二百五十荷、承塵骨料檜榑卅四材、葺草千圍、葛野席百五十枚、小町席百枚、伊勢斑席五十枚、其主基院制作裝束皆准悠紀焉、既而中臣忌部率御巫等祭殿及門、其料各五色薄絁各三尺、絲二兩、安藝木綿一斤、筥二合、案二脚、米酒各二升、瓶二口、坏二口、

〔古語拾遺〕凡奉造神殿者、皆須依神代之職、齋部官率御木麁香二鄕齋部、伐以齋斧、堀以齋鉏、然後工夫下手、造畢之後齋部殿祭及門祭訖、乃可御座、而造伊勢宮及大嘗由紀主基宮、皆不預齋部、所遺四也、

〔延喜式 七 踐祚大嘗祭〕凡應採大嘗殿材幷御膳柏山、及苅葺草野、齋場地等、八月上旬神祇官共國司卜定、將卜齋場、先爲解除、其料物當國所輸、訖卽申官令山野所屬郡司一人專當禁守、勿入穢人、採鎭魂琴材山准此、其鵄尾琴四面、令內匠寮造送神祇官、

〔北山抄 五〕大嘗會事

鎭大嘗宮地事式、先祭七日鎭祭、卽始作事也、近例勘日行之、

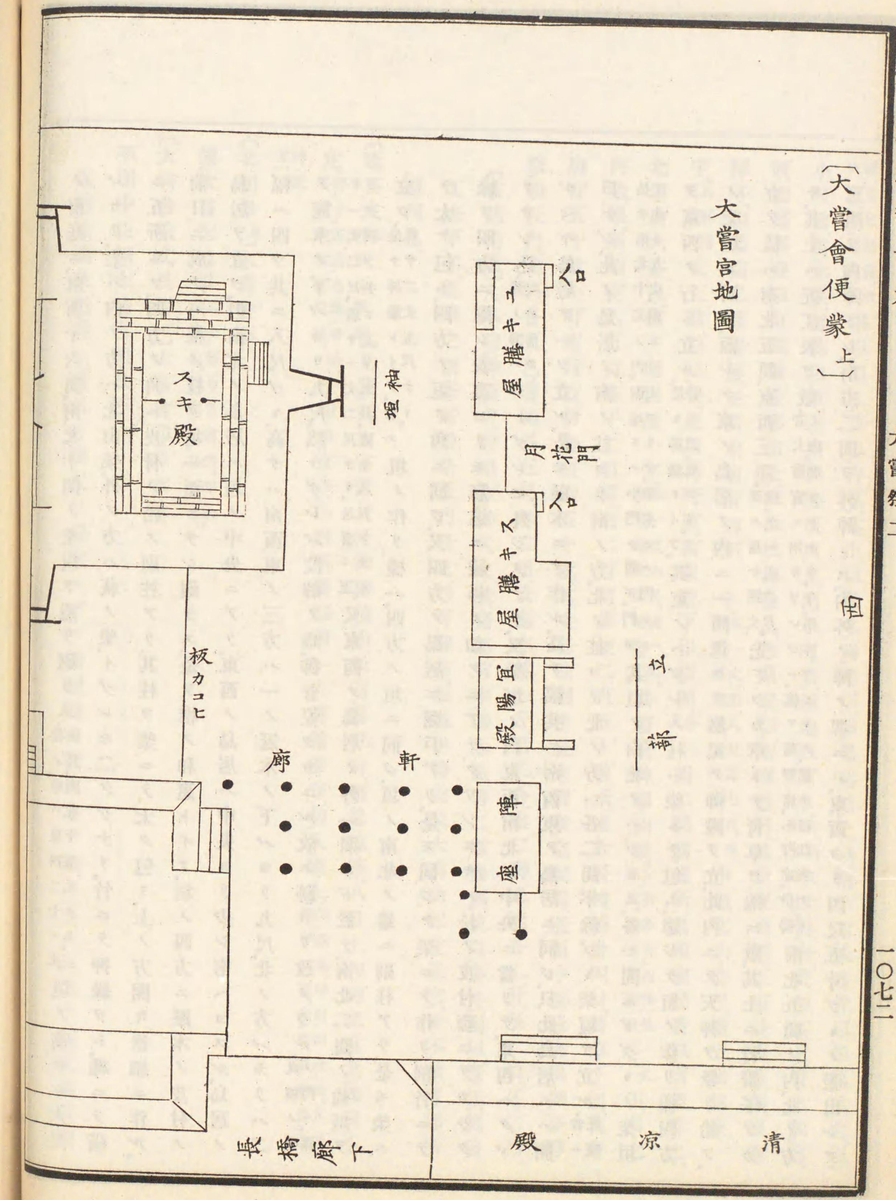
〔大嘗會儀式具釋 六〕大嘗會卯日次第

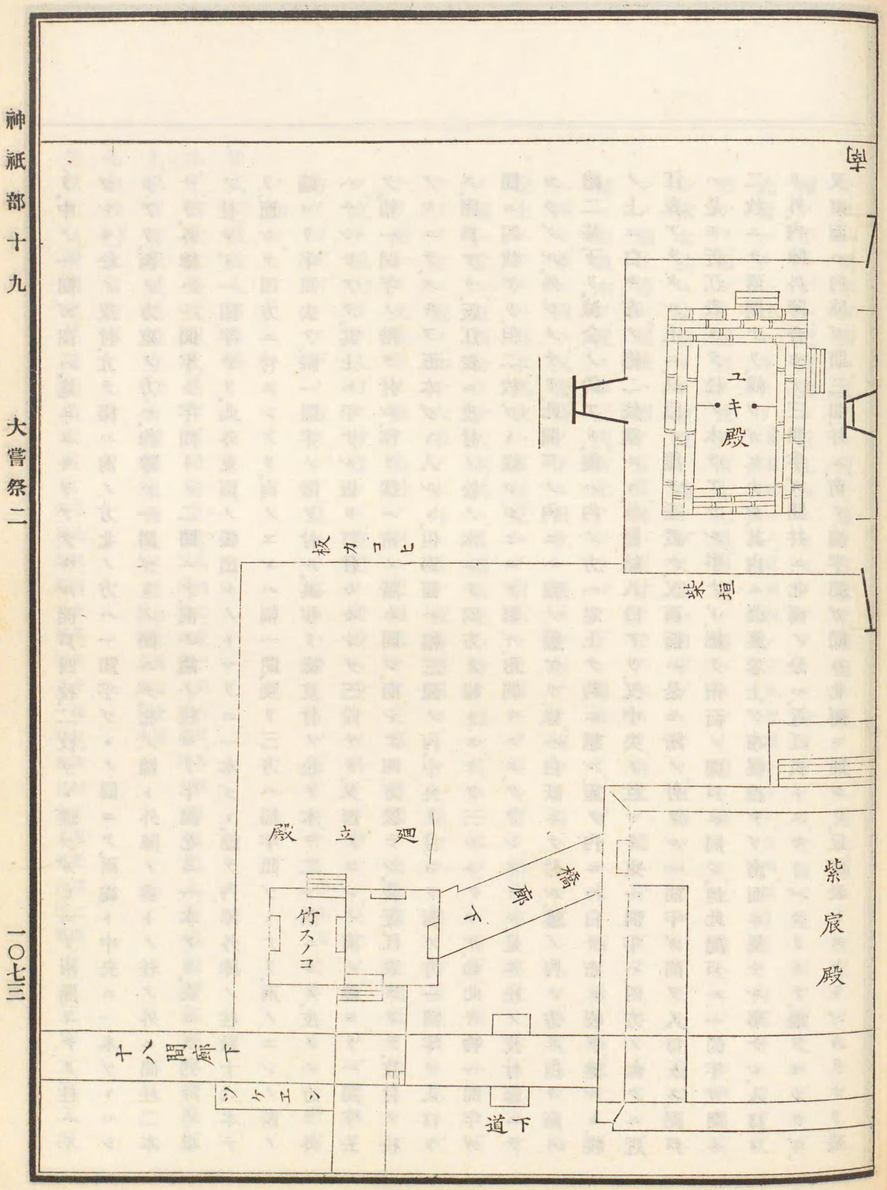
平明中臣祭大嘗宮殿及門

大嘗宮殿及門等ハ、當日ノ四五日以前マデニ修理職ノ役人之ヲ造リ了ル、其造リ樣、先紫宸殿ノ南庭ニ、東西十六間、南北十間ノ柴垣ヲ造リ廻ラス、昔ノ垣ハ東西二十一丈四尺、南北十五丈ナリ、垣ノ高サハ六尺バカリ、柴ハ內ノ方ハ北山柴、外ノ方ハ萩ノ柴、イヅレモ二タケナリ、竹ニテ押縁ヲシ、繩ニテ横ニ五所ユフ、四方ノ角ニ皮付ノ松ノ副柱アリ、其柱ヲ柴ニテ太ク包ミ、上ノ方開キ裾細ニ作ル、前日ニ成テハ椎ノ枝ヲ垣一面ニサシ廻ラス、是ヲ椎ノ和惠トイフ、垣ノ四方ニ歷木ノ皮付ノ鳥居ヲ立ツ、但南北ノ鳥居ハ垣ノ中央ニアリ、東西ノ鳥居ハ中央ヨリ少シ南ヘヨスル、鳥居ノ幅ハ四ツ共ニ八尺ヅヽ、高サハ南西東ノ三方ハ一ノ冠木ノ下バヨリ九尺、北ノ方バカリハ二ノ冠木ノ下バヨリ九尺、然ラザレバ渡御ノ時、御菅笠ツカユル故ニ跡ヨリ改メラル、貞觀ノ頃ハ、門ノ高サ一丈二尺、廣サ一丈二尺ナリ、延喜ニ至リテ四ツ共ニ高サ九尺、廣サ八尺トナル、又東西ノ鳥居ノ外一間ホド置テ、南北二間ノ袖垣ヲ立ツ、是ヲ屛籬トイフ、昔ハ長サ二丈五尺ナリ、垣ノ作リ樣ハ、四方ノ垣ニ同ジ、垣ノ南北ノ端ニ副柱アリ、是モ柴ニテ太ク包ム、四方ノ垣ノ角ニ同ジ、又四方ノ鳥居ニ開戶アリ、是モ同ジク柴ニテ作リ、割竹ニテ緣ヲ四方ニ廻シ、表裏ヨリモ筋違ニ綾杉ノ如クニアテ、クワンヌキハ松ノ皮付藤ニテカラクリサシ込、昔ノ屛ハ楉ニテ作ル、イヅレモ外ジメナリ、又柴垣ノ內東西南北ノ中央ニ當リテ、東西ヘクヾルベキ鳥居ヲ一ツ立ル、是モ歷木ニテ作ル、高サ幅共ニ南西東ノ鳥居ニ同ジ、只此鳥居ニハ開戶ナシ、此ノ鳥居ノ南ノ柱ヨリ南ノ方、北ノ柱ヨリ北ノ方ヘ各二間半餘ヅヽ柴垣ヲ立ル、昔ハ此垣長サ南北十丈ノ內、南端ニハ小門ヲ開キ、門ヨリ北ニ九丈、南ニ一丈アリテ、中央ニハ門ナシ、其垣ノ南北ノハヅレニ各一間ホドヅヽノ柴垣ヲ東西ノ行ニ立ル、是モ屛籬トイフ、昔ハ二丈ナリ、其東ノハヅレノ柱ハ柴ニテ包ム、總ジテ垣ノ作リ樣四方ノ柴垣ニ同ジ、而シテ東ノ鳥居ノ內ニ一間退ケテ悠紀ノ御殿ヲ立、此內ニテ天神ヲ祭リ給フ、立テ樣ハ南北五間、東西三間、昔ハ長サ四丈、廣サ一丈六尺、先アツカ草トテ青草ヲ地ニ敷、其上ニ竹簀子ヲカキ、其上ニ近江表ヲ敷、昔大嘗宮ニ用ヰラレシハ、總テ葛野席、小町席、伊勢ノ斑席ナドナリ、今用ヰラルヽハ、總テ近江表ナリ、南北五間ノ內、北ノ方三間ヲ內陣トシ、南方二間ヲ外陣トス、內外ノ陣ノ堺ニハ、東西ヨリ四尺五寸ヅヽノ張出シア

〔大嘗會便蒙上〕

大嘗宮地圖





リ、中ノ一間ガ間ハ、筵ニヌキヲアテタル開戸四枚、二枚ヅヽ、蝶ツガヒニテ兩開キナリ、柱ハイヅレモ松ノ皮付、立テ樣ハ南ノ方北ノ方ハ一間半ヅヽノ間ニテ、兩端ト中央ニ一本ヅヽハシラアリ、西ノ方東ノ方ハ、内陣ハ一間ヅヽノ間ニテ、北ノ端ト外陣ノ堺トノ柱ノ外ニ間柱二本ナリ、外陣ハ一間半ト半間トノ二間ニテ、南ノ端ノ柱ヨリ半間北ニ一本アリ、夫ヨリ内陣ノ堺ノ柱マデ一間半ナリ、此外東西ノ張出シノトマリニ一本ヅヽ、總テ内陣外陣ノ柱數十六本ナリ、而シテ四方ニ竹エンアリ、南ノエンハ幅一間、殘リ三方ハ幅半間ヅヽナリ、南ノエンノ西ノ端ヨリ半間去テ、幅一間半ノ階ヲ付ル、其作リ樣皮付ノ松ノ木ヲ二ツ割ニシテ、皮メノ方ヲ外ヘナシテアテ、其上ニ平ナル板ヲ打付々々シテ三段ナリ、又西ノエンノ南ノ端ヨリ一間半去テ、幅一間半ノ階ヲ付ル、作リ樣ハ南ノ階ニ同ジ、而シテ四方壁ナシ、皆近江表ヲアテ、皮付ノ松ノキニテ、ヌキヲ五本ヅヽ入ル、但南面ハ幅三間ノ内、中央ノ柱ヨリ西ノ方一間半ヲ入口トス、開戸アリ、近江表ニ皮付ノ松ノ木ニテ四方ノ緣トヌキヲ三ツトアツル、如此キ物一間半ガ間ニ四枚アリ、但二枚ヅヽ蝶ツガヒニテ繫ギ、兩開キニス、クワンヌキハ、是モ松ノ皮付藤ニテカラグル、外ジメナリ、此開戸ノ内ニハ葭ノ簾アリ、緣ハ白紙ニテ付ル、簾ノ内ノ方ニ白キ麻ノ總二條下リ、滅金ノ鉤アリ、簾ハ内ノ方ヘ卷上テ鉤ニ懸ル、簾ノ内ニハ白キ布ノ幌ヲ垂ル、幌ノ上ニ白キ布ノ總二條垂ル、華鬘結八段アリ、又中央ノ柱ヨリ東一間半ハ、四方ノ如クニ近江表アテタル上ニ、只葭ノ簾ヲ垂置ク、又西面ハ是モ階ノ付タル一間半ガ間ヲ入口トス、開戸ハ是モ近江表ニテ松ノ木ヲアツル事ナド、總テ南面ノ開戸ニ同ジ、但此開戸ハ一間半ガ間ニ二枚ニテ兩開ナリ、蝶ツガヒナシ、其内ニ葭簾卷上ゲ布幌總ナド南面ニ異ナル事ナシ、入口ヨリ外、内陣外陣合セテ三間半ガ間幷ニ北面ノ分ハ、近江表トヌキトバカリニテ、簾ヲモカケズ、又東面ハ内陣ガ間三間、幷ニ南ノ端半間ガ間ハ北面ニ同ジク、近江表トヌキトバカリナリ、殘リテ一間半ガ間ハ、其上ニ葭ノ簾ヲ垂置ク、南面ノ東ノ間ニ同ジ、而シテ南面ノカモヰヨリ上棟ノ下マデハ、三間共ニ近江表ニヌキヲアテタルバカリナリ、北面モ是ニ同ジ、但北ハ下マデ此通ニテ一ツヾキナリ、（延喜式ニハ、東南西ノ三面皆簾チカケ、但西面ハ簾チ卷ト見エタリ、今ト同ジカラズ、）御殿ノ内天井ハ皆近江表ナリ、而シテ屋根ノ長サ南北七間、但南ノ端ハエンノ端ト等シク、北ノ端ハエンヨリ半間長シ、南北共ニ柴垣ヨリ屋根ノ端マデノ間一間半ヅヽアリ、東西ハコウバイニ下リテ簷口トエンノ端ト等シ、屋根ハ總テ萱葺、棟ハ皮付ノ松ノ木ニテ、南北ノ端ニ片ソギアリ、外ノ方ヲソグ、棟ニ堅魚木ヲ渡ス事三所、南北ノケラバノ下ニ搏風アリ、チギトテ木ノ頭ヲ出ス事、棟ヨリ西ニ四ツ、東ニ四ツ、又萱葺ノ下ニ南北ヘ渡セル木アリ、棟ヨリ西ニ八ツ東ニ八ツ、各其八ツノ内最上ニアルハ白木、其次ハ皮付、是ヨリ白木ト皮付トヲ互ニ置テ、第八本ノ皮付ノ木ハカモヰノ巡ニ當ル、東西合テ十六本、其ニ其端南北ヘ餘リ出ル、其木一本ヅヽニ皆下ニ薄キ小サキ板アリテ之ニ載ス、此十六本ノ木幷ニ載ル板等、搏風ヨリハ一間バカリ奥ノ方屋根裏ニ見ユルナリ、而シテ又柴垣ノ西ノ鳥居ノ内ニ二間退ケテ、主基ノ御殿ヲ立、此内ニテ地祇ヲ祭リタマフ、立テ樣大キサ入口ノ付樣マデ、悠紀ノ御殿ニ少シモ異ナル事ナシ、只片ソギノソギ樣、外ノ方ヲソガズシテ下ノ方ヲソグ、是ヨリ外ニハ替リタル所ナシ、今度〇元文三年營作セラルヽ所右ノ如シ、

〔儀式三〕踐祚大嘗祭儀

木工寮於大嘗院以北、橫作五間廻。立殿。（長四丈、廣一丈六尺、其三間、以ノ席蔀之、東南戸、西構。）以黑木葺以板、掃部寮以苫覆板上、以席爲承塵、主殿寮以斑幔張東西北三間。（自大嘗宮北垣至廻立殿以北。）

〔北山抄五〕大嘗會事

先祭七日、兩國龍尾道前造大嘗宮。（東悠紀、西主基、先十餘日、雜材等運置第二殿前、鎭祭殿地、舉諸工一時起其宮、五日内造畢、其北三許丈、木工寮

造廻立殿、（卯酉爲妻、東南有戸、）東去二許丈、造片庇、爲御釜殿、

〔代始和抄〕大嘗會事

大嘗宮は悠紀主基各別也、大極殿の龍尾道の前にこれを造立す、これはまさしく神膳を供せらるゝ所也、又その北三丈許をさりて廻立殿をたつ、これは御湯をめさるゝ所也、悠紀の神事はてゝ後、この殿へ行幸なりて又御行水あり、故に廻立殿といふ名あるにや、

〔大嘗會儀式具釋　六〕大嘗會卯日次第

戌刻御廻立殿

廻立殿ハ、大嘗宮ニ渡御アラントテ、先此所ニ渡御シテ御湯ヲ召サレ、御裝束ヲ改メサセタマフ所ナリ、此殿ノ建チ所、昔ノ内裏ハ今同日ノ論ニ非ザレバ之ヲ略ス、三箇重事抄ニハ、大嘗宮ノ北三許丈ヲ去テ之ヲ建ルトアリ、貞享幷今度（元文三年）等ハ、紫宸殿ノ東庭、内侍所ノ西ノ方聊北ヘ寄テ之ヲ建ツ、其建テ樣、南北三間、東西五間、（昔ハ長サ四丈、廣サ一丈六尺、）但西ノ方三間ヲ一間トシ、是ニハ其中二間四方ニ疊ヲ敷キ、東ノ方二間ヲ一間トシ、是ハ竹簀子ナリ、其二間ノ堺南北三間ノ内、中ノ一間ハ開戸二枚ニテ、南ト北トノ一間ヅヽノ張出シハ近江表ニシメギヲ入ルヽ事大嘗宮ノ如シ、柱ノ立チヤウハ、皆一間ヅヽノ間ニテ、四面合セテ十六本、二間ノ堺ニ二本、總テ柱數十八本ナリ、四方ニヱンナシ、南面西ヨリ第四ノ柱ト第五ノ柱トノ間一間ニ宮段ヲツケテ、渡御ノ時オリサセタマフ道トス、北面西ヨリ第二ノ柱ト第三ノ柱トノ間一間ハ、御茶湯所トノ堺トナル、同ジク第三ノ柱ト第四ノ柱トノ間一間ニ宮段ヲ付テ、御茶湯所ヘ下ル道トス、西面南第二ノ柱ノ南ヨリ第三ノ柱ノ聊北マデ一丈ガ間ニ、紫宸殿ヨリノ橋廊下ヲ取付ル、而シテ四方壁ナシ、近江表ヲアテ、皮付ノ松ノ木ニテヌキヲ入ルヽ、但南面西ヨリ第二ノ柱ト第三ノ柱トノ間一間ハ二枚ノ開戸ナリ、又第四ノ柱ト第五ノ柱トノ間一間モ二枚ノ開戸ニテ、貫

拔ハ内ジメナリ、又東面幅三間ノ内、中ノ一間ガ間ト、北面西ヨリ第三ノ柱ト第四ノ柱トノ間一間ト、西面三間ノ内、中ノ一間ガ間ト、三所共ニ二枚ノ開戸ニテ、クハンヌキハ外ジメナリ、殿内天井ハ皆近江表ナリ、屋根ハ苫ブキ、桁行東西五門、梁行南北三間ナリ、而シテ其渡御セラルルニ、昔ハ本殿ヨリ鸞輿ニ御シテ、建禮門ヨリ出テ、昭訓門又ハ宣政門ヨリ入タルモ、東樓ノ壇上、又ハ東樓ノ小門ノ前庭、又ハ龍尾道ノ東階ノ上、又ハ含章承光兩道ノ間等ニテ腰輿ニ改メ駕シタマヒ、廻立殿ノ北、幷ニ西ノ幔外ヲ經テ、西方又ハ南門ヨリ入セタマヒテ御セラルヽ由見エタリ、今ハ本殿ヨリ廻立殿マデノ間纔ニシテ、且地上モナケレバ、行幸ノ儀ニ及バズ御歩セラル、アラカジメ紫宸殿ノ東ノヱンノ東南ノ角ノ聊北ヨリ、廻立殿ノ西面中央ヨリ聊南ヘ寄タル所マデニ、スヂカヒニ橋廊下ヲカクル、長サ七間半ハヾ一丈アリ、南北兩方近江表ニテ圍ヒ、竹ト杉ノ皮付ニテ押縁ヲ打、屋根ハ苫ブキ、タルキコマヒハ皆竹ナリ、

〔延喜式　七踐祚大嘗祭〕凡料理御膳幷備小齋人食院者、近宮之地隨便卜定、訖卽鎭祭、其幣五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿麻各一斤、綿二屯、商布四段、鍬五口、米四升、酒一斗、鰒海藻各一斤、祝詞布二端、並用國物、（餘祭不顯幣物色數者、皆准此、）所作盛屋一宇、酒屋一宇、贄屋一宇、器屋一宇、大炊屋一宇、供御膳屋一宇、料理雜魚屋一宇、備食屋一宇、（已上屋數及長廣隨事閑繁增減、）皆以板葺、掘井一處、其院四面各開一門、作訖稻實卜部等於院內爲解除、其料物各當國所輸、

〔延喜式　三十八掃部〕踐祚大嘗會、（中略）十一月上旬、葺蔀大膳職多加須伎、比良須伎屋、及廻立殿、上葺苫、下蔀薦席、（薦入中、席著表裏、木工寮共蔀、）

〔大嘗會儀式具釋　六〕大嘗會卯日次第

神祇官率內膳膳部等、於悠紀膳屋料理神饌、

悠紀膳屋トハ、膳屋ハ膳ヲ調修スル所、古供膳ヲバ必槲葉ニ盛故ニ、膳屋ヲカシハヤト云ヒ、又

ハカシハドノト云ヒ、膳夫ヲカシハデト云フ、其膳屋昔ハ悠紀主基共ニ柴垣ノ内ニアリ、今ハ月花門ノ南ノ廊ヲ近江表ニテ圍廻シテ悠紀膳屋トス、其内ノ東南ノ角ニ、長サ南北二間、幅東西一尺五寸ノ棚ヲ作ル、此棚昔ハ楉ニテ作ル、今ハ割竹ヲ釘ニテ打付ル、棚ノ高サ地上ヨリ二尺餘、其棚ノアル巡ニハ外ノ方筵圍ノ上ニ椎ノ葉ヲアテ、割竹ニテ押縁ヲ二通アツル、西南ノ角ニ西ノ方ヨリ入ベキ開戸アリ、竹ノ折戸ノ西面ヨリ近江表ヲアテタルヲ、繩ニテ結付オクナリ、

子一刻神祇官率内膳膳部等遷主基膳屋、料理神饌、

悠紀ノ所ニ注ガ如シ、其主基膳屋ハ、月花門、今ノ宜陽殿トノ間ノ廊ヲ近江表ニテ圍廻シテ膳屋トス、其開戸ノ體幷ニ付キ所、悠紀膳屋ニ同ジ、只此膳屋ニハ竹棚ナシ、

〔儀式三〕踐祚大嘗祭儀

前祭一日、所司於承光顯章兩堂前、縦立七丈幄各一宇、設小齋人座、天皇御悠紀殿在東幄、御主基殿在西幄、陣章堂前横立五丈幄二宇、東一宇爲五位以上座、其參議以上幄以北二許丈立皇太子輕幄、修式堂前立五丈幄二宇、西一宇設五位已上座、廻立殿北横立五丈幄一宇、設内侍座、

〔北山抄五〕大嘗會事

先一日、所司廻立殿北四許丈立五丈幄、爲女官候所、大嘗宮西七許丈、設御輿宿幄、安和記云、殿上侍臣候此幄、南妻爲造酒司候所、承光顯章兩堂前、縦立七丈幄二宇、西一宇爲參議以上座、東一宇爲五位以上座、西幄北去二許丈設皇太子輕幄、近例不設、依无其人也、修式堂前立五丈幄二宇、東爲親王座、承平以來記云、大忌、王、西爲主基座云々、非也、陣章堂前横立五丈幄二宇、爲小忌座、東悠紀、西主基、廻立殿北四許丈立五丈幄、爲女官候所、大嘗宮西七許丈、設御輿宿幄、安和記云、殿上侍臣候此幄、南妻爲厨家、辨備所、大嘗宮南門外、南去三許丈、設左右近幄、東西相對、安和記云、諸大夫幄東立五丈幄、辨少納言以下行事所召使以上候之、子細在儀式幷指圖、

〔儀式四〕踐祚大嘗祭儀

預下諸司諸國官符宣旨例

太政官符大藏宮内省

大藏省

五色薄絁各三尺、絲二兩、安藝木綿一斤、宮二合直、

已上祭悠紀主基二大殿料

庸布四段、木綿二斤、麻二斤十兩、鎌八口、

已上鎮祭宮地料

宮内省

酒一斗　清二升　濁八升　祭悠紀主基二大殿料　鎮祭悠紀主基二宮地料

机二　前祭悠紀主基二大殿料

右得神祇官解偁、件雜物依例所請如件者、省宜承如、依件行之、

〔儀式四〕踐祚大嘗祭儀

辰日卯一刻宸儀還御廻立殿一如初儀、○略　中祭禮已畢、百官各退、伴佐伯宿禰閉大嘗宮門、二刻神祇官中臣忌部率御巫等鎮祭大嘗宮殿、其幣如初、訖即令兩國人夫壞却大嘗宮、其御服衾單、狹帖、短席、幷廻立殿及供奉浴湯之具、並賜忌部、所須雜經火之類賜宮主卜部、自餘雜物及殿舍屏繩賜中臣、訖各鎮大嘗宮舊地、其料庸布四段、木綿二斤、麻二斤十兩、鍬八口、米濁酒各八升、飯四斤十兩、堅魚海藻各十斤六兩、腊一斗六升、鹽四升、瓶坏各八口、

〔大嘗會儀式具釋七〕辰日悠紀節會次第

中臣鎮祭壞大嘗宮、

其時刻ハ貞觀儀式ニ卯二刻トアリ、今度辰ノ正刻ナリ、鎭祭畢リテ修理職ノ役人大嘗宮ヲ壞ツヽ、昔ハ悠紀主基兩國ノ人夫之ヲ壞ツ、

〔本朝世紀〕治曆四年十一月廿二日辛卯、於官廳有大嘗會事、先是擇告悠紀主基國龍尾道前造大嘗宮、木工寮造廻立殿、

〔兵範記〕仁安三年十一月二日己未、抜穗使入洛、又大嘗宮點地也、略中下官以下起座、於南門外調行列、童女乘輿、依大嘗宮點地參入省院也、八女留齋場所、先六男稱警蹕先行、次供神物等、安次童女、次卜部二人、次行事官、下官以下皆步行、入達智門、南行、自上東門大路末東行、自櫛匣末南行、至應天門前、主基行列入安嘉門、又南行會合應天門前、悠紀方入應天門、著會昌門外東廊座、悠紀東、主基西、卜食國鋪設裝束、其儀敷弘筵、西第一間敷高麗帖一枚爲下官座、東向其東副北壁敷紫緣帖爲五位史以下主典代座、西上南面對座敷所々預等座、西上北面官掌座在東横切西向、其座後引隔斑幔、廊南壇下引同幔、次下官以下著座、口入立明、先例立杜松、今度不立、口懈怠也、一獻畢食汁、次三獻、次居菓子、次牒、主基次兩方相共起座列會昌門、悠紀入東戸、主基入西戸、先是神祇官率國司郡司童女六男等入會昌門東掖門、至于明禮堂西北角著陣、章堂西北角座、次下官等著座、去陣、章堂北二丈當西一間敷下官座、北面其東有五位六位史生座、官掌齋場所主典代座在其東、南上西面

主基座修式堂北去二丈當東一間敷辨座、陣、章堂西北角在童女稻實公六男宮主等座、皆西上北面次取火燧授童女、童女授稻實公、稻實公鑽出火、次薪採者取明松炬之、悠紀主基相向北行、此間行事官不動座、卜部以下立留承光堂面一間邊、次當國書生進大繩、木工寮大工口長任例點地、含章堂乾去西八丈六尺、其西廿一丈四尺、內中分、折南十五丈南、及含章承光兩堂爲悠紀大嘗宮、卽薪採者以明松置六所、神祇官率童女鎭之、立賢木懸木綿、次卜部於南門路東掖兩段再拜、次定御殿所丈尺、立標、卜部率童女稻實公等、取鍬、堀始四角柱穴等、艮坤乾、先神祇官、次童女、每角八度、次稻實公、次六男、此間事依夜陰委不見、次事訖卜部

以下退去、童女稻實公以下歸齋場所、畢下官退出、於朱雀門乘車、時戌刻也、七日甲子、今日大嘗宮棟上也、兼日於行事所勘下日時、入宮送主基、而左少辨依犬死穢不出仕之間、主基方延引了云々、且是寛治天仁悠紀大嘗宮棟上之後、主基經兩三日棟上云々、見記文云々、下官不參入、是又近代如此云々、十五日戊申、著行事所巡檢大嘗宮幷廻立殿作事、入夜退出、廿三日庚辰、早旦參大極殿、〇甲略先是神祇官令國人夫等壞大嘗宮致鎭祭、各二國同官下給了、而主殿寮稱近例欲推取事及狼籍、令檢非違使下部糺斷畢、主殿下部對捍之間、使廳搦捕了、

〔業資王記〕建曆二年十一月十二日甲寅、今日夜巡見大嘗宮幷北野齋場所、十四日丙辰、壞却大嘗宮幷北野內院築垣等了、

〔伏見院御記〕正應元年十一月五日丙戌、家敎卿參、召前談大嘗會事、召左中辨冬季朝臣、仰廻立殿神殿御指圖可召進官之由、六日丁亥、冬季朝臣持參廻立殿指圖、今度指圖未書出、仍文應舊指圖也云々、俊光持參官廳指圖、

〔萬一記〕正安三年九月十一日、廻立殿守護官人事仰大理、

廻立殿守護官人可爲章任章敏、可令下知給者、依院御氣色上啓如件、

兵部少輔宣房　奉

九月十一日

謹上　別當殿

〔大江俊冬記〕天明七年十一月一日乙丑、今日大嘗宮立柱也、造酒司酒兒等參仕、其儀豫立柱於庭上、黑木皮付、其中一二柱上、結茅、與繩懸之、先酒兒一人到悠紀方柱本有事由、次修理職率工長三人進同所、工長直到酒兒所持柱下、以土覆其本、訖修理職已下還本所、酒兒直至主基方、一如悠紀方事訖各退入、

此儀雖全不預其沙汰、任所見略記之而已、

〔季連宿禰記〕貞享四年五月廿六日癸卯、一昨廿四日、予行向大外記許之時、大嘗宮繪圖一枚被取出、

件圖古本以官務所持之圖寫之由有奧書然共予不所持之間令懇望寫之者也　十一月三日戊寅
自今日大嘗宮悠紀主基殿被造始之由風聞其所南殿前庭云々凡悠紀主基殿廻立殿等今度修理
職沙汰立之歟（指圖追而可尋寫）　十六日辛卯今日大嘗會也八省院無其蹤跡仍南殿前庭立悠紀主基二
院長橋南方立廻立殿被行之月華門南腋爲悠紀膳屋宜陽殿南腋爲主基膳屋其外猶見差圖

【壬生家記】貞享四年大嘗會大嘗宮

一悠紀御殿

作樣皮付ノ雜木ニテ作ヤヲハ萱ブキ也天井ハ筵也壁無之萱ヲカベトスル也內外ニ筵ヲハ
ル也地ハ草ヲ敷也其上ニ竹ノ簀ヲ敷其上又筵ヲ敷也三面ニ蘆簾ヲカクル也裏ハ筵ノ障子
也

右御殿四方短キ柴垣也一方ニ口其口ニ皮付ノ鳥居

一主基御殿

作樣以下右同斷

右二ヶ所ノ御殿長サ四丈廣サ一丈六尺也今度御庭セバキ故丈尺被減也

右四方短キ柴垣也一方ニ口其口ニ皮付ノ鳥居

一八神殿

少キホコラ也作樣悠紀ノ御殿ニ同

一膳屋二ツ

作樣右同斷但柴ヲ葺ニスル也內ニ棚一方ニアリ此所ニテ神膳ヲ盛也是亦丈尺右同斷被減
也

一臼屋二宇

作樣右同斷長サ一丈四尺廣サ八尺也柴ヲ葺ニシテ戸二有

一高御倉貳ツ

作樣右同斷是ハ神供米ヲ入藏也

一廻立殿

作樣皮付ノ雜木ニテ作ヤヲハ苫ブキ也天井ハ筵也長サ四丈廣サ一丈六尺此所ハ主上御湯
殿也

右材木竹萱等禁中ノ御領ノ山ヨリ出スベキ也

【文政度大嘗會調進物記】大嘗宮造立始

大嘗宮立柱上棟十月十五日（立柱辰上棟午）

造酒兒參勤如例之事

右之通九月十七日被仰付候造酒兒交名可差出旨九月廿日被仰渡同日交名差出候事

【行厚記】文政元年十一月廿一日大嘗會卯日也主基所行事史參勤ニ付巳刻著小忌參仕

一大嘗宮巡檢之儀

申刻過辨殿ヨリ御沙汰有之悠紀主基行事之輩不殘高遣戸之邊へ參集暫而檢校公卿兩行事
辨等下殿正列參進先大炊御門大納言經久卿次一庭田中納言重能卿次ニ日野西宰相延光卿
次兩行事辨（左右分立悠紀左主基右）次ニ兩行事史（左右大史左右少史）次行事寄人實貞朝臣（左方）常清朝臣（右方）以
下從史後分立參進入自月花門悠紀主基行事之輩殿巡檢了出月花門高遣戸下檢校公卿辨昇殿之後
退下是而已今日行事所役也

【代始和抄】御禊行幸事

大嘗會行れんとての十月に此事あり豐のみそぎと是をいふ世俗には河原の御はらへといふ

解除をば河にのぞみて修する事なれば、二條三條の川原に行幸してこれを行はる、大祀は一月の潔齋中祀は三日、小祀は一日也、大嘗會は大祀たるに依て、十月より御神事あり、川原の御はらへは御神事をはじめらるゝ由也、大嘗會延引あればさらに又御禊の事あり、まづ九月中旬に、大臣陣に著て裝束司次第司の除目を申おこなひ、陰陽寮に仰て御禊の日時を勘申さしむ裝束司といふは、御禊につきて兼日の儀、點地等の事を奉行す、長官一人中納言を用ふ、次官一人中辨をさだむ、判官二人、主典二人あり、又次第司といふは、行幸につきて諸司百官悉く供奉するにより、て、御前の長官次官主典、御後の長官次官判官主典の職をさだむ、御前の長官一人は納言參議の中を用ふ、御後の長官には參議の人を用ふ、これは御輿の前陣後陣の行列を奉行するによりて次第司とは名付るなり、次官たる人兼日に行列の圖を奏す、これをば鹵簿の圖といふ也、十月上旬に、陪從の五位以上八十二人、御前三十六人の歷名、留守の參議ならびに辨各一人をさだめて、裝束司にくだす事あり、裝束司吉日をえらびて官の東廳に著て次第の事どもを行ふ、點地の日は近衞の少將を勅使とさだめて、其所職のともがら河原に行むかふ、長官次官以下おの〳〵幄の座につきて事を行ふ、川原の地を點じて、南北四十五丈、東西四十丈に大綱をひき札をたつる事あり、これより國司撿非違使等に仰て汚穢不淨をいましめ、牛馬の闌入をとゞめしむ、其後幄處分といふ事あり、諸司の著べき輕幄等をうたるゝ也、御禊の地、上古は定れる事なし、平城天皇は葛野河にして御禊あり、嵯峨天皇は松が崎に行幸あり、文德天皇は鴨川にして御禊あり、其後二條三條の末を用らる、近代は大略三條の末を點せらる、陰陽寮吉方を勘申す者也、

〔儀式〕踐祚大嘗祭儀

九月中旬、任御禊裝束司長官一人、次官一人、判官二人、主典二人、卽可給百度之宣旨下宮內省、〔略〕中次大臣仰神祇官及陰陽寮卜定御禊地幷日時奏之訖長官以下率陰陽寮就所占方河頭擇廣邊地

面點定、次喚文武諸司勘申可陪從之人數幷裝束雜物、〔略〕中十月上旬、裝束司喚式部民部二省令進諸司史生幷拔出仕丁二人、次可行幸其地之狀、下符京職及山城國、又仰可掃道路幷禊處之狀、次任前後次第司、御前長官一人、次官一人、判官二人、主典二人、御後長官一人、次官一人、判官二人、主典二人、次裝束司判官主典各一人、率國郡司定辈路、次次第司長官以下、率京職官人及國郡司、撿察道橋幷禊處、次諸衞府靑摺衣、幷左右馬寮騎士居飼等裝束及左右衞門門部、數文武官留守等事、申大臣行之、次賑給使左右京各亮一人、進一人、屬一人、其料物庸綿百屯、錢六貫文、〔用大藏物〕卽使就大藏省受之、次喚大藏木工等省寮、點示幄幕之處、先禊一日、次官以下主典已上向禊處、〔供張幄幕、其御禊座雙〕立五丈紺幄二宇、中置百子張、〔第一第二柱構於中流〕去之三丈懸紺布垣代、其門內外屛懸斑幔、去之四丈立五丈幄、爲皇太子禊處、去之二丈立五丈幄、爲神祇官候處、去之三丈立五丈幄、爲置御輦之處、〔方面各任地形〕其御膳座去禊處五十丈、雙立五丈斑幕二宇、中置輕幄、幄中東南邊立皇太子倚子、去之三丈立七丈幄、爲親王以下侍從已上候處、去之十丈立五丈幄、爲內膳司候處、其前設輕幄、爲進物所、又去御幄二丈立七丈幄二宇、爲女御女孺以上候處、去之四丈立七丈幄、爲皇太子休息處、其大垣以紺布幔爲之、三面開門、一面臨流、去大垣三丈立五丈幄、爲大膳職候處、去之四丈立五丈幄、爲太政官候處、自餘諸幕本司設之、是日次第司判官主典率主禮等、立鹵簿標、騎陳連行相去之間一丈五尺、步陣七尺、卽到禊所亦立標、自後方大門右掖而右去四許丈立節旗標、後去一丈五尺立大臣標、去之一丈五尺立少納言標、去之一丈五尺立鉦標、去之一丈立鼓標、自鉦鼓兩標間左右相去各一丈、立兵庫寮標二、自鼓標去之一丈、更右折二丈立御前次第司長官標、其後去之六尺立次官標、去之六尺立判官標、去之一丈立主典標、去之一丈立主禮標、自節旗標右去四許丈、立左兵衞陣留標、右去十許丈立諸司留標、自左衞門陣標後相去十許丈、立大臣下馬標、去之卄許丈立諸司下馬標二、〔左右各一丈、高三許尺、下同、〕自左衞門陣標右去四許丈立右兵衞

留標、右去四許丈立二右衛門一留標、其後廿許丈立諸司下馬標、

〔延喜式十一太政〕凡踐祚大嘗會、十月下旬天皇臨二川禊一、禊而齋預令二陰陽寮一勘申禊日、前廿許日任御裝束司幷次第司一、御裝束司長官一人、五位辨判官二人、一人主典二人、並六位已下次官一人、三位次官一人、五位判官二人、一人主典二人、並六位已下次第司御前長官一人、三位次官一人、五位判官二人、主典二人、並六位已下御後亦准レ此、前五日大臣及參議已上、定二五位以上應一陪從幷留守一歷名一、奏聞訖下二式部及裝束次第等司一、〔事見二儀式一〕

〔延喜式七踐祚大嘗祭〕凡行幸陪從御巫戶座給二乘馬一、

〔延喜式三十典藥寮〕凡踐祚大嘗御禊行幸陪從、職掌官人一人、侍醫一人、並給二當色一、〔五位六位並從二其色一〕藥生二人、各給二細布衫紅衫一領、白袴一腰、布帶一條、直丁二人、亦各給二調布黃衫一領、白袴一腰、布帶一條、仕丁二人、並申省請二大藏省一、

〔延喜式七踐祚大嘗祭〕凡行幸爲レ禊、路次邊神奉二幣帛一、〔大五尺、小三尺、〕絲一絇、綿一屯、木綿二兩、麻五兩、裹薦夫、〔此二種准レ多少一、〕

〔延喜式七踐祚大嘗祭〕凡天皇、十月下旬臨二幸川上一爲レ禊、料五色薄絁各八尺、五色絹各八尺、御服庸布四段、祝詞幣料庸布二段、安藝木綿八斤、木綿麻各二斤、黃蘗十枚、鍬四口、鍮堅魚各六斤、腊二斗、鮭八隻、鹽八升、雜海菜八斤、酒米各四斗、稻四束、食薦四枚、柏廿把、坏八口、瓮八口、匏二柄、輦籠二腰、夫六人、

〔延喜式三十掃部〕八踐祚大嘗會、十月下旬裝二束八省院頓宮一、其所レ須薦席者、依二辨官宣一下用、

〔延喜式三十掃部〕八凡踐祚大嘗會祓禊儲料、輕幄百子帳軟障大床子屏風帳茵等、貯二納寮家一、臨レ事出用、

〔西宮記臨時四〕御禊

天皇位服、節下大臣前後次第使皆飾馬、〔有二手振一、次官以下同レ之、〕權帶劍、王卿唐鞍、魚袋、五位以上唐倭隨レ有、皆著二杏葉一、諸衛將佐平裝束、自餘在二御禊所一帶二衛府公卿著一螺鈿劍一、〔或記云、著二飾劍一、〕

〔延喜式四左右近衛〕凡供二奉踐祚祓禊少將已上一、並著二皁綾位襖橫刀弓箭靴一、將監深紅衫、將曹柴摺貲衫、

醫師府生黃色柴摺貲衫、並行騰、近衛青摺衫蒲脛巾草鞋、〔騎隊行騰〕並著二皁綾白布帶一橫刀弓箭一、

〔延喜式左右衛門〕凡供二奉行幸官人以下府生以上一、並准二近衛府一、門部皁綾紺布衫白布帶橫刀弓箭行騰麻鞋、〔幸近以二蒲脛巾一代二行騰一、〕衛士皁綾挑染布衫白布帶橫刀弓箭行纏幡二旒、〔其執纏一人、著二末額緋行纏頸袍一、執幡二人、著二博帶騎馬一、執纏二人、黃布衫布帶歩行、並用二兵庫察夫一、他皆准レ此、〕鷹像幡四旒、小幡卅旒、〔少減二於威儀幡一、他亦准レ此、〕鉦鼓各一面、〔其用度雜物及擊鉦鼓人、執纏夫等裝束、並見二兵庫式一、〕

〔延喜式四左右兵衛〕凡供二奉行幸官人以下裝束一、並准二近衛一、〔騎馬二私但踐祚大嘗會祓禊用二虎像纏幡一旒、鷹像隊幡四旒、小幡廿旒、鉦鼓各一面、其用度准二衛門府一、〕

〔江家次第十四踐祚〕大嘗會御禊定

九月中旬、大臣定二裝束司一、

長官一人中納言、次官一人中辨、判官二人、史一人、內記一人、主典二人、內藏屬勘解由主典各一人、

次第司

御前長官一人納言若參議、次官一人式部少輔、判官二人式部中務丞、主典二人式部中務錄、御後長官一人參議、次官一人兵部少輔、判官二人兵部民部丞、主典二人兵部民部錄、

奏聞下二省除目也

元慶八年、天慶九年、於二外記廳一任之、仍先給下名、〔注二裝束鼓打時、列陣鼓打時、進鼓打時、行鼓打時、出御門吉方、御禊吉方、還御時一、〕

太政官式云、預令二勘申一者、天慶例如レ之、清涼抄云、裝束司令二勘申一云云、依二儀式一勅、近例任二裝束司等之日、便令二勘申一、

同點地次第

辰一點、裝束司主典史生官掌率二諸司等一臨二川原、大藏省立二幄三宇、掃部寮鋪設北五丈幄二宇〔子午宇〕東

幄北第一間設長官座（南面）第二間設次官座（對次官座）、同幄第三四間設諸司國司五位已上座（東面北上、對判官座）、西幄北第三四間設諸司六位座（東面北上、絕席）、西幄南妻設主典史生官掌召使等座（北上、各有二席）、南去五丈立七丈幄爲饌所、官厨家奉仕饌五十前（長官以下）、

山城國奉秣廿束芒蕚等、

午剋長官次官到著、各官乘車先點地形、次著幄座、次山城國進諺風土者二人解文、主典以解文覽長官、覽畢仰可下次第司之由返給、判官問諺風土者云、可申村邑名號者、卽稱申其名、次召繪師一人令畫地樣圖、其端以判官史令書付村邑號、次主典令覽長官、覽畢長官付勅使（中將、少將、）此間召陰陽寮令勘無後令勘申件勘文、相副村邑名文奉之、

穢物幷牛馬制止闌入、兼又幄幔處分之日、饌可儲由可仰下、

〔類聚國史八神祇〕弘仁十四年十月甲申、任大嘗會御禊裝束司幷前後次第司、

〔文德實錄三〕仁壽元年十月己亥朔、定大嘗會御禊裝束及鹵簿次第等司、正三位行中納言源朝臣弘爲裝束司長司、從五位上守右少辨兼中宮亮藤原朝臣家宗爲次官、左大史正六位上菅野朝臣高松、大內記高階眞人菅根、並爲判官、主典二人、正三位行中納言橘朝臣峯繼爲前次第司長官、中務少輔從五位下源朝臣包爲次官、中務大丞正六位上藤原朝臣善枝、式部大丞紀朝臣春常、並爲判官、主典二人、參議正四位下行左兵衞督兼伊勢守源朝臣多爲後次第司長官、兵部少輔從五位下源朝臣忠基、兵部少丞正七位下安倍朝臣高貞、並爲判官、主典二人、

〔三代實錄三十二〕元慶元年九月廿六日甲子、任大嘗會御禊裝束及前後次第司、以參議太宰權帥從三位在原朝臣行平爲裝束司長官、從五位上守右少辨兼行中宮亮藤原朝臣遠經爲次官、判官二人、主典二人、參議從三位行左衞門督大江朝臣音人爲御前次第司長官、式部少輔從五位下菅原朝臣道眞爲次官、判官三人、主典二人、參議從三位行右衞門督源朝臣勤爲後次第司長官、中務少輔從五位下大江朝臣公幹爲次官、判官二人、主典二人、

〔三代實錄四十六〕元慶八年十月二日己丑、任大嘗會御禊裝束司幷前後次第司、參議正四位下行左大辨兼播磨守藤原朝臣山蔭爲裝束司長官、左少辨正五位下安倍朝臣清行爲次官、判官二人、主典二人、正三位行中納言兼民部卿在原朝臣行平爲前次第司長官、從五位上行兵部少輔源朝臣遠爲次官、判官二人、中納言從三位兼行左衞門督源朝臣能有爲後次第司長官、從五位上行兵部少輔源朝臣遠爲次官、判官主典各二人、廿二日己酉、差定大嘗會御禊陪從親王已下五位已上八十四人、令所司給朝服、

〔北山抄五〕大嘗會御禊事

貞觀、外祖忠仁公（藤原良房）騎馬供奉、仰大笠宣旨云云、

承平二年、侍從宗城朝臣奉仕右兵衞督代、以兼明朝臣補次侍從（上卿仰中務輔云、源兼明朝臣、於毛止末不千君仁乎佐女給云云、）

天慶九年、右衞門督高明卿雖輕服任次第司長官、仁和四年十月十六日、右大臣多薨、王卿多在服親、而依宣旨供奉、廿五日御禊、

右中將雅信爲左中將代、左中將正明爲大將代、又依無中將也、元慶以右中將業平爲左中將代之例也、

〔日本紀略五冷泉〕安和元年九月廿六日丙午、左大臣（源高明）已下參仗座、被行大嘗會御禊裝束司次第司除目、十月二日壬子、左大臣已下參入、定行召名直物幷御禊裝束司長官替事、五日乙卯、大嘗會大祓、（中略）又被定御禊御前侍從等、廿六日丙子、天皇禊于東河（二條末、復日也）、依大嘗會也、左右大臣（源高明、藤原師尹）參入、

〔日本紀略八花山〕寛和元年九月十四日乙酉、被定大嘗會御禊日時、又有除目、廿一日壬辰、依大嘗會
天皇可禊于東河仍除目、十月十四日甲寅、定大嘗會御禊裝束使次第使出居等、十五日乙卯、今
日大嘗會御禊點地、二條末
〔小右記〕寛弘八年九月九日己卯、良道朝臣傳宣耀殿女御御消息云、可奉仕女御代彼日可出金作檳
榔毛車者、金作車云無世間、又不可忽造、仍答可奉作檳榔車之由了、十六日丙戌、四條大納言告送
云、昨日左相府定奏大嘗會御禊次第司供奉人等者、
〔本朝世紀〕治暦四年九月十三日壬午、內大臣以下參入、有大嘗會御禊次第使裝束司等除目事、給式
部、依可及曉更、御前幷諸衛督代定延引、十月二日辛丑、內大臣以下諸卿參入、被定、申大嘗會御禊
前駈八十二人、卅六人諸衛督代、〇略中又權中納言經長以下留仗座、令勘御禊點地日時、廿五日甲
子、有御禊供奉官等小除目事、廿七日丙寅、有明日御禊召仰事、上卿權中納言俊房、依長元九年例、
以內府被行之、又兵庫頭參入同奉之、
〔經信卿記〕治暦四年十月二日、依有陣儀、午終參內、〇略中內府使官人招頭中將、中將參入、與座上卿被申
云、爲定申御禊供奉人々參仕由可被奏達者、中將還來云早可定申、〇略中次內府被渡外座令鋪膝突、
召大外記爲長、爲長參入被仰云、御禊前駈定文等候哉、爲長申候由、上卿仰云可進爲長稱唯出了、次
少外記敦基入舊定文於筥、經小庭奉之、副二中務省注狀一通四位已下一通夾名、次同外記跪置硯於左大辨前、
退了、次上卿被目左大辨、左大辨取紙染毫、先被定八十二人、依上卿命僕讀中務省注申五位已上歷
名、左大辨書之、但上卿被命云、舊定文親王所注四位之上不注無品字、可依此議歟如何、可奉載當時
無品親王歟、人々被申云、可被問外記歟、上卿召爲長、被問、所申不明、仍使頭中將被奏事旨、仰云、無慥
例者不可入者、次又被奏了、先例不定申服者、而長元定服者等可隨何議乎、此事先被問爲長了、申云、寛平之間有宣旨、服者供奉、此外無所見者、仰云、可依長元例者、仍相加服者書之、八十二人者、親王、大臣、大納言、中納言、參議、非參議、二

位、三位、四位、五位等也、除留守也已上一枚、卅六人者、除大臣幷衞府等被定上一人文諸衞督代、左衞門、右衞兵衞、已上一枚書了、左大臣□□□卿上卿被見之後入筥、三通使頭中將被奏、留御所、
〔本朝世紀〕寛治元年九月十五日甲子、御禊行事所始日、佛事例有尋、不分明由申了、
〔中右記〕天仁元年六月廿三日壬寅、依有召未時許參殿下、五條〇藏原忠實後同被參會、仰云、依法
王河〇白仰、今年大嘗會御禊女御代可出立也、而今日依吉日、件事欲沙汰始、雖相待民部卿、今夜有經
營事、不被來、兩人可相議者、源大納言幷下官、宗〇藤原忠申云、先尋吉例、萬事可被沙汰、候爰殿下被下度
度定文案、披見之處、出車之數甚以不同、但長和五年例尤可爲吉例、是御堂入道殿〇藤原道長之女依令
出立給也者、尤可然、至書定文者猶過此間也、仍內々可沙汰始者、源大納言被退出、八月朔日戊寅、
參東三條殿下、白地渡御也、是依女御代之定也、於東對南面有此事、民部卿、左大將別當源中納言、下
官、治部卿、左宰相中將、忠右宰相中將、家左大辨、藤宰相參仕、殿下御于賓筵、御直衣、公卿直衣、但及兼
燭、其儀始敷圓座一枚於南廣庇、傍立切燈臺一本、依召右大辨時範參著圓座、衣冠任仰旨書定文、寛弘九年例文之定、云々、殿下持、仰下、書了覽定文、公卿一々見了返上之、給時範朝臣、□不勘日時事也、仍不召陰陽
師、但民部卿被申云、召陰陽師萬事可被調始、日次內々可被問事也、其事雖可然、忽依無用意後日可
被問者、殿下先內々被仰合云、女御代出車度々例其數不同也、或十四兩、或十二兩、而近代多十兩也、
仍申合院之處、御氣色云、今度皇后宮女房出車又可有也、仍只付近代說可有十兩者、但寛治之例十
兩、十兩之中糸毛二兩、金作二兩、檳榔毛六兩、此中女房五兩、童女一兩、可用之由所被定也、深更退出、九月五日壬子、今夕
仍糸毛二兩、金作二兩、檳榔毛六兩、此中女房五兩、童女一兩、可用之由所被定也、深更退出、九月五日壬子、今夕
大嘗會御禊裝束司次第司除目可被行也、仍有催、〇略中左大臣命云、今夜式八十二人、陪從卅六人、御
前交名所定申也、或又後日定、之、但今夜依深更、後日可定申也、裝束司除目可下式部省也、八日乙
卯、予任大嘗會御禊裝束司之後、今日依日次宜可沙汰始萬事也、〇略中招陰陽助家榮、次第日時之事

尋問之處事始明日十四日者、予答云、明日早可被始也、十四日遲々之故也、如此大事、一日モ懈怠甚不便也、就中近代作法、諸國之吏以所濫爲宗也、左中辨許諸、明日可始之由可被仰下諸司旨、下知左中辨了、又付何例可申行之事、以消息尋頭爲房之處、返事云、付後一條院長和五年例可行者、此旨同令左中辨了、九日丙辰、未刻許參內著仗座、〇中略予仰曰、大嘗會御禊裝束司雜事可被始日時可令勘申、左中辨起座於陣邊仰判官右大史高橋定政、令勘、持來勘文、予披見之處、令日申二點、若酉二頭光平、助家榮連署、召外記、令進宮入勘文、以左中辨令內覽攝政殿、〇略中予起座出從敷政門、〇略中大夫史以下陣門南行召使二人前行入從太政官東門幷東廳東面北戶著座、次官以下入從中戶、〇略中各著座了、〇略中次諸司居饌大膳大炊等有盃酌而造酒司正不參、先例陰陽頭代官勘盃也、仍陰陽助家榮可勘盃由有議定、爰家榮勘盃酌、巡流及主典座任先例、日時可勘之由下知家榮、乍在座日時二通勘之、次第司著座日時、可開於出兵庫寮器仗日時、或一通勘之、而長和例二通於此座勘之、〇中略次任勘文可行之由仰下、定政稱唯取宮歸本座、左中辨史生二人某丸可令候行事所由申上、予相揖也、記文可請之由下知大夫史、申上云、請記文時、或主典或史生不定也、但長和時依承平例以史生請取之由見舊記如何、予答云、可用長和例旨被仰下了、史生何事之有哉、爰史生一人起座給書生請文、史生行向外記局受取記文一卷則持參、〇略中予披見之處長和五年後一條院記一卷也、自然叶可用之例、外記之中無件記文云云、一覽之後返給了、判官定政以請奏覽次官、次入宮覽、予可奏由下知、稱唯歸座之後、以件請奏奉辨了、此間下諸司諸國召物宣旨兩三通成上奏、次官辨加判也、次立筥、則披了立座、從本路歸參仗座、依有平座也、

九月九日御禊事始例、永承承保二代例也、可云吉例歟、〇略中以朝所可爲行事所之由、與左中辨議定了、

十二日、左中辨以下今日著官朝所萬事沙汰云云、是大嘗會御禊諸國召物、度々例漸及近代、道々細工所申變古議也、仍只任寬治元年例可成宣旨之由、一日頭爲房所示也、依件旨下知左中辨了、十

八日頭下宣旨云、撿非違使二人、尉近實、志行重、可爲御禊行事者、則仰下次官辨了、廿日撿非違使行重、御禊之頓宮地、從今日愷可令守護之由召仰了、二條末以北、大炊御門末以南、先例從點地日雖令守護、猶御禊之前卅日之外可令守也、是爲用心也、下人之中自然穢物有忌之故也、但至河原不可忌穢物之由雖見天曆御記、末代之事能々爲致用心也、廿三日、今日內大臣左府勞替所左大辨參仗座、被定申御禊陪從八十二人幷卅六人交名云々、廿五日、左中辨御禊御輿修理料請奏持來、早可奏下由仰彼辨了、重又不可持來之由含了、其次諸國濟物遲々之由申上、愷可催之旨下知左中辨了、廿七日、未時許參仗座、是大嘗會御禊點地日時爲令勘申也、移著端座、召次官左中辨長忠朝臣、可勘日時由下知、而申上云、來月三日伐四日殿下御衰日、猶臨河原點地頗有憚、但伐日如此吉事有其例哉如何、申上云、村上御時大嘗會御禊伐日也、是吉例也、早可用三日由下知、〇中略

今日令左中辨、從清涼殿南至中御門東、至左衛門陣令打丈尺、是河原點地之時爲令愷丈尺也、仍木工寮官人令持丈尺、行事史相共打之、御殿之上藏人沙汰也、至京內者、丈尺顯然也、打定之後、注令沙汰也、長和例點地之日雖打丈尺、尚兼日可打定旨陰陽寮所申也、

十月二日戊寅、今日大嘗會御禊裝束司判官以下行向兵庫寮、實撿節旗云云、晩頭主典俊兼持參件注文、三日己卯、今日御禊點地也、判官史以下行向河原、先令立幄居饌之後、史定政來告事具了由、次官左中辨長忠被來于家中、未刻許、相共連車經二條大路出河原、二條末北邊立幄也、先與次官辨相共乍乘車見廻河原邊、次著幄座、大藏省立五丈幄二宇、行宇長官以下座也、北一間長官座、南面第二間次官座、第三間判官座、第四間諸司國司第三四間諸司國司五位以上座、東面北上、第二間設勅使座、次官座同五位以上座、東北面西上、兩幄南妻在座、主典、史生、官掌、召使等料、北面東上、西幄北第三四間在座、諸司等各有絕席、六位料、東面北上、在五位後、南去五許丈在七丈幄一爲饌所、官厨家奉仕饌、山城國司奉料、次官左中辨長忠朝臣

大夫盛仲加判、官座上、是依行裝束使事也、判官史定政、少内記周衡以下各著座了、陰陽寮主計頭道言朝臣（道言一人第一）著西座（與判官對座）、勅使右少將宗能朝臣來加西座上（與次官對座也）、此間陰陽助家榮依氣色奉勘文、又山城國諮風土者二人解文、主典俊兼覽之、見了後尋例、追可下裝束司之由仰下、件知風土者召前庭問郷名、愛宕郡錦織郷吉田村者（布衣）、次召繪師左近大夫信貞令圖此所地形（付閑所之圖、續紙四、枚許、大略圖之進）、件繪圖端史定政書郡郷村名、勘文幷繪圖主典覽之、予付勅使少將、少將執件勘文繪圖參內（參御政殿、留御所也）、次召行事撿非違使二人尉秀清忠行、重可掃除之由仰下、各布衣冠、次召木工寮官人令打河原丈尺、此間雨脚頻灑、人々指笠於幄中、長和例點地之日雨下、長官用笠之由見記文、天之與善、自叶吉例歟、人々談此旨有感氣也、及晩頭人々歸（強不及盃酌也、又先例也）、八日、召式部錄實行下給文書三通、御禊八十二人卅六人諸衛督代、先例爲行列次第下式部者也、十日、子刻被仰下事、木工寮申、因准前例賜榮爵二人、以其叙料造進大嘗會御禊河原葢屋五宇事、仰任寬治例一人依請、則下左中辨了、十四日庚寅、今日御禊幄所分日也、仍先次官左中辨以下行向河原（其座如點地日）、未時許著束帶行向川原著幄座（山城國司今日可儲饗也、而近代國事不叶仍不儲由申請、頗以奇怪也、但强又不催事不可咽也）、相尋次官以下行事撿非違使等、召木工寮令打丈尺、分配幄所了、先御禊幄御膳幄所丈尺打定了、立札之後他幄等相分、又御井所三所相占神祇官令申御卜、覽長官、三所乙卜合、可用件所之由下知了、返給御卜、神祇官御井祭云々、召繪師左近大夫信貞令施地形風流、此處之體鴨水流相分、西方有小流、塞件流水、可令合流東大河之由仰、撿非違使等了、諸國人夫如員不進不便也、可責催由所下知也、十七日、密々著直衣行向河原見廻御所、左中辨木工頭大夫等來會、諸國人夫不足、事及闕怠、令撿非違使季清奏院、從院人夫等下給、終日沙汰、十八日甲午、午時許著束帶行向川原、依御禊御所裝束始也、而人夫全不叶、以消息申院之處、撿非違使等皆以差遣、各以京條人夫可令掃除者、行事左中辨大夫共騷始御簾鋪御座、木工寮葺屋御所今朝立始、又御井令堀始（御卜之所也）、終日萬事沙汰、入夜歸、前後次第司長

官被奏圖簿圖云々、今日始御覽御馬、右少將宗能候御前、先寮御馬、次又御禊出馬同御覽也、十九日、召外記忠政、明日行事召仰之間、六陣次將佐等、必可參勤之由可催廻之狀召仰了、巳時許、密々著直衣行向河原見御裝束、懈怠事等相催從院撿非違使等皆遣給也、爲掃除也、又雜役車五十兩給也、令運白砂、終日沙汰、臨夜陰歸家、廿日丙申、早旦密々著直衣行向川原、沙汰懈怠事等、大略令御裝束晩頭歸、今夕依可有召仰、參內之次參高陽院、女御代令出立給間事等不審也、從院中將殿（藤原忠通）御物具等被奉誡以華麗也、可爲召仰由申、請殿下了、殿下只今令參院之間、重不可申案內之由有其仰（令藏人可奏也）、亥時許參仗座、諸衛佐多以不參、雖相待及深更俄以申障也、移著端座、令內豎召諸衛左少將忠宗、右少將宗能朝臣、左衛門尉平盛國等、入從日華門、列立軒廊南庭（西上北面）、先問誰等、各稱官名（予北面）、次仰云、明日之午時（昭）依大嘗會御禊可有行事、長和五年之跡之、々々に候へ（此詞不知先例、稱唯今案所仰也）、退出了、

京中行幸六衛府佐、城外召加馬寮也、先例度々此御禊召六府、被仰下也、仍雖相催六府、三府已不參也、

御禊召仰不撰日次、只前之日仰下也、仍今日仰之（是先例也、或雖隔日仰之云云）、

〔續古事談二ノ臣節〕鳥羽院大嘗會ノ御禊ニ、內大臣（藤原雅實）○俄ニ服暇ニ成テ、一大納言俊明節下ヲットムベキヨシ被仰ケルヲ、江帥モリキヽテ、五代太政大臣ノ子孫ナル右大將（藤原家忠）○キテ、受領ヘタル民部卿コノ事ヲツトム、心エズトヒトリゴチケルヲ、白川院キカセ給テ、ゲニトヤ覺シメシケン、右大將ニ改メ仰ラレケリ、江帥ニ、マコトニサヤ云ハレケルカト人問ケレバ、タシカニ覺エズ、藏人辨顯隆物イヒアシキ人ナリトテ、〔台記〕康治元年八月七日丁卯、西刻頭辨資信朝臣來傳執政（藤原忠通）○命云、女御代可出立者、報云、他人不候者非此限、若他可然人候者可被用、件人余養女、公能卿女（藤原○近衛多子）母故俊忠卿女、九日己巳、一

昨日七日以札口執柄云、女御代事、只今度許者無面目、向後如本意（爲女御）可候者、神妙事也、被報云、早可申院（書狀）、法皇仍今日申院有御承諾之氣、向後又仰云、今度他人全無可供奉之人、早可出立也、十三日癸酉、定女御代雜事、（大炊御門高藏宅）親隆（左衛門權佐）書定文、右大將權大納言宗輔、新中納言公能、宰相中將經定來會、讀長元九年定文、依爲吉例也、諸事如長元、但長元女房六十四人、童女八人、庇絲毛二兩、此事甚奢麗、因尋天仁元年之例、庇絲毛一兩、女房二十人、童女四人、今度於此事者依天仁之例、昨日知信朝臣親隆之間、誰人可書定文乎事申院、（今度事萬事可申院之故也、院者法皇）親隆可能之由有仰、今度女御代事仰親隆委令記、余窺見經史之間、無他暇之故也、○中略後日見土御門記、長元九年定已後有議定、檳榔五兩之由所見也、料知女房廿人歟、九月一日庚寅、大嘗會御禊定云々、十月二日辛酉、今日御禊點地云々、少將師仲朝臣爲勅使、八日丁卯、女御代來十四日可被沙汰之由仰親隆、申了用長治二年十二月十四日癸酉、酉刻左衛門權佐親隆、召主計助泰親使、勘申著袴日時、時酉、又申云、今日可有著裳者可勘申乎、待賢門院入內日有著裳被勘日時也、余對曰、如長元九年經賴記者、著裳密儀乎、不可有日時勘文、加之今日同時可著、更不可勘者、廿一日庚辰、藏人來云、先日所召女騎馬廿四日可御覽、早朝可奉也、攝政仰云云、廿五日甲申、（御禊次第作了、但不清書少々可直改所等尙在、

〔本朝世紀〕寬治元年九月七日丙辰、午後左大臣以下參仗座、被定行大嘗會御禊日時裝束司次第使等除目、留守參議以下、（十二月廿二日庚子）十三日壬戌、今日藏人辨爲房仰云、大嘗會御禊、節下大臣一上被奉仕時、尙可被下宣旨歟如何、次大臣及大納言奉仕之時被下宣旨之條、不分明之由申了、十五日甲子、御禊裝束司行事所始也、仍長官以下參八省東廳、廿七日丙子、治部卿伊房參入、被定大嘗會御禊點地日時、（十月十二日）次左大臣以下參入、被定申御禊供奉五位以上（十八人、卅人）諸衞督代等、此間大臣召師平仰云、近代兼衞府督公卿、前後次第司長官之外、猶不載卅六人

御前內、但可用長和五年例之由、前日有仰、彼年定文不候之由可申殿下者、卽以此由申殿下、仰云、長和五年右大將實資、右衞門督賴宗、入御前定文之由、見彼年記、早可依件例者、仍今度左衞門督家忠、左兵衞督宗賢被入了、定文等留御前、追爲下給裝束司也、廿八日丁丑、今日諸卿於攝政殿下被定申主上可遷御大膳職可有方角忌否事、十月十二日庚寅、御禊點地也、（三條末）裝束司長官伊房、辨基綱以下向河原行事、勅使右少將藤有家朝臣也、今日攝政殿下御覽大膳職、主上可遷御之故也、十六日甲午、天皇從堀河院遷幸大膳職、來廿二日依可有大嘗會御禊也、晩頭內大臣參入、先有召仰事、次被奏賢所可渡御日時、（今日亥刻）次右大臣以下諸卿參入、遷御之後被下吉書、亥刻賢所渡御、於御竈神者不渡御有先例、十七日乙未、內大臣已下參入、有臨時除目事、御禊供奉官等也、廿一日己亥、治部卿伊房參入、有明日御禊召仰事、以四府仰節下鈴奏少納言事、（節下公衡、鈴知家、）

〔本朝世紀〕康治元年八月十三日癸酉、是日於內大臣家、（藤原輔長）被定大嘗會御禊女御代事、九月一日庚寅權大納言源雅定卿、（藤原實能卿、同伊通卿、權中納言藤宗能卿、同成通卿、同家成卿、同重通卿、同公能卿、參議正三位同清隆卿、從三位左近中將同忠雅卿等供奉皆用唐鞍、以上總守藤原季兼朝臣爲左衞門督代、以播磨介同忠兼朝臣爲右兵衞守源資賢朝臣爲右衞門督代、以散位藤原經雅朝臣爲左兵衞督代、以越中

督代、皆帶弓箭、但不相具隨身、內大臣息女爲女御代、實權中納言公能卿女也今日供奉五位已上皆倭鞍付杏葉、節下幷次第司之外、帶衞府公卿皆帶弓箭、藏人勘解由次官藤原光房、藏人治部權少輔平範家著緋闕腋、在八藏人之列、未二刻行鼓初動、乘輿出御、（大皇鳳輦、皇太后宮同輿）節下內大臣先出、自御書所門著標、少納言源師教、少外記中原安俊、權少外記清原景兼、相從車駕、行列一如鹵簿圖、但無警蹕、鈴奏等出自待賢門、自宮城東大路南行、至二條大路東行、法皇（鳥羽）幷上皇（崇德）於二條室町御棧敷有御見物（天仁保安二代御覽之時、白河上皇於二皇后宮（崇德聖子）幷暲子內親王、前齋院統子內親王同御見物此所有御見物事、今又如此、已及三代、）事、女房等出紅紬、又宇治入道大相國同被參入、御棧敷東邊設五丈繧繝幄爲殿上人座、侍臣等皆著衣冠、抑兵庫寮節旗渡御棧敷前之間、持旗者所騎馬甚疲極、忽伏地不動、節旗已伏地、兵庫頭藤原成俊招下部等令扶持之、內大臣數刻扣馬、頗奇代之例也、又次第司御後次官兵部少輔高階忠能所著袍色薄紅梅色也、非緋衫色、歟、參議公隆朝臣於二條油小路邊落馬、不遂供奉、攝政前大相國（藤原忠實）乘車自閑路被參頓宮、撿故事、貞觀外祖忠仁公騎馬供奉、爾來連綿不絕、今度事又有先例云云、申刻至河原頓宮、參議已上下馬列立西幔門外、裝束司長官權中納言宗能卿以下列立其南邊、與欲入幔門之間、神祇官奉御麻節下內大臣召外記令打靜陣鉦、先御御膳幄、酉一刻、忽腰輿移御御禊幄、被禊之儀一如式、事了還御、御前、山城獻物卅棒、內大臣問之、各稱物名、其後事皆如代代、

〔兵範記〕仁安元年十月十四日甲申、晩頭參內、御禊裝束司次官假奉行之間、可被勘下點地日時之故也、（略）中今度權右少辨爲親補裝束司之條、希代例云云、古今多正左中辨兼行、保安元年右少辨顯賴奉行之外、無近例云云、十五日乙酉、御禊點地也、辰刻許向河原、先是行事撿非違使源爲經、志中原章貞、臨地頭令掃除二條以北、大藏省立五丈幄二宇（子午妻宇合）東幄北第一間敷長官座半帖（南向）座後引幔立筵、第二間敷次官座（西向）第三間敷判官主典座（兩幄中央第二間敷勅使近將座、西幄第三四間敷諸司五位以上座（北上西面）第五間南妻敷主典辨史生官掌召使等座（東上北面）長官次官判官座、及西第三四間座等居饌、但不居勅使座、南去五許丈、又立七丈幄爲饌所（東西）官厨家備饌、山城國奉薪秣云云、（略）中上卿遲參之間、以判官史令申事具由、此間陰陽頭賀茂在憲朝臣、助安倍泰親朝臣、臨地頭打丈尺奉勘文、寮官引率木工寮、以丈尺杖隨命奉仕之、先打杭引繩、此間使歸來、長官已參給云云、次長官自南方被參來（駕二毛車）先乍車被見廻、是天仁例也、下官依上宣連車扈從、次幄東邊留車下車、長官被著北座、下官著第二間座、（略）中在憲朝臣成勘文付主典、次主典入覽筥覽長官（不被返下如何）次主典以山城國諮土風者交名、又覽長官（入筥不被返下如何）次諮土風者召東庭、（一人布衣、冠著老懸、一人著布衣烏帽子、）判官史問之、語云、愛宕郡錦織鄉吉田村、兩人退入、次召繪師、民部大夫宗茂朝臣參入東庭、仰繪圖事、判官仰之、還入卽圖繪持參、（續紙五枚、於（開所卒爾圖）之、）判官史取之、繪圖端注郡鄉村名、次令文幷繪圖被付勅使、受之退去參內了、（可下進二攝政所一云云）留次陰陽寮臨頓宮跡所打丈尺、立札於四方指榊等、（一度覽之、今主典兩度持參、不可爲二後例一歟、）次長官以勘者、長官被仰大夫史了、又下知饌可儲之由了、次長官以下起座退去、無盃酌事、今日山城國司不參、撿非違使府生奉忠爲拒捍使參入、奉仕雜事也、

陰陽寮

勘申點定大嘗會御禊地事

乙方卯與辰之間（二條大路北邊、鴨川西邊、）

自御在所東行八百卅丈（京內六百九十丈、京外百廿一丈、）

自御在所南行二百六丈

右自待賢門末鴨川西邊至于郁芳門北小路是卯地自郁芳門北小路至于三條大路北小路是乙地內也仍勘申如件

仁安元年十月十五日

陰陽師菅野宗成
少屬大中臣知貞
少允大中臣季倫

二條大路末南北共爲吉方由兼日奏聞其中依天仁吉例被點地於北邊也自二條末以北十九丈限南了御在所可當冷泉末程云云

大舍人頭兼助安部朝臣泰親
主計頭兼備中權介賀茂朝臣在憲

次向行事所開兵庫寮爲檢知器仗也此事去上旬被定御禊雜事之時被勘日時畢於待賢門下車主水司正廳爲行事所也入東門著西壁下座大夫史行事史生三四人官掌爲宗等候座大夫史云兵庫寮顚倒無實以後官裝束司倉宿納彼器杖等運渡此行事所可令檢知者卽仰寮官運寄也

先節旗一流裁縫茜絹差兩面緣但無手有足首上兩面在日形月形其下圖龍形像或文口伴龍口形方向日也月形方背月也云云而今龍兩方共向日月形頗不審雖尋問彼大夫無被陳詞重可訪故人歟首在鉾又付棹長二丈許歟

次鉦鼓一面次行鼓一面各在臺

件物等多以破損可修理云云行事官等仰寮官可令注申損色由下知了

〔兵範記〕仁安三年七月卅日己丑參皇太后宮大夫亭實定來十月大嘗會御禊女御代可被出立事御報承了九月七日乙丑參內官外記五位六位皆祇候此間權大納言定房卿參議宮內卿成賴卿參著仗座次藏人治部少輔兼光仰可令勘申行幸日時由○中略

陰陽寮

擇申大嘗會御禊日時

十月廿一日己酉

裝束鼓打時寅一二點
列陣鼓打時卯二點
進鼓打時巳二點
行鼓打時午二點御出時
御出南門
御禊時申二點
遷御時戌二點

仁安三年九月七日○寮官名略

八日丙寅向御禊所地河原○略申先議定方角在憲朝臣云准寬治例商量今所之間彼年自大膳職計定御禊所今度自大內清涼殿正方角當三條以北程云云仍姉小路末之間東西南北打丈尺引繩議定了但可對御所東西流東小屋十餘家可令壞立又西邊小屋門可令壞立由下知了十五日癸酉晚頭裝束司長官權大納言資長卿參著仗座召次官權右中辨信範被仰云大嘗會御禊裝束司雜事令勘申日時○略中次史生盛康成上宣旨等

一紙　加賀國春米百石可進上事

一紙　宮內食二十口百度每日料

一紙　同省酒二斗同料

一紙　大膳職　廿前

已上下判官加判返下了○略中

大嘗會御禊御裝束司

請雜物事

絹參佰匹

信濃布漆佰段

筵佰枚

紫草佰斤

韓櫃拾貳合

右雜物所請如件

仁安三年九月十五日

廿日戊寅、主殿寮申請御禊頓宮御裝束班幔六十帖用途料請奏、內覽殿下○藤原忠雅又申長官、下大夫史了、仰云、年料率分充給之、內藏寮申請御禊用途米事同寮又申同料兩面三匹、朱漆唐櫃十二合事仰、已上依請、件宣旨三通藏人少輔宣下長官、長官下給次官信範、信範下知官了、廿七日乙酉、參裝束司行事所、大膳職大夫史隆職宿禰判官史廣盛、史生守康以下四五人、官掌爲宗等參著、撿知御禊御裝束具、

御膳幷御禊幄覆七帖、輕幄覆錦骨百支帳、骨幷覆檳榔毛、同帷六帖綾大宋屏風、大床子面地鋪、御倚子覆、如此物猶巨多、不遑記錄、其中古弊破損物者、可調替、尋常物者、或修理、或不可調替之由議定返納了、兵庫寮器仗類幷節旗等同實撿、

件御裝束具、依損否定充用途、下知行事官了、任其色數、載宣旨、可召諸國之故也、廿九日丁亥、兵庫寮申請被宣下御禊行事節下旗持、同綱張以下寮掌十一人裝束、幷鼓鉦各一面駒形二脚、修理用途手作布佰伍拾段

米參佰斛

茜佰伍拾斤

鐵貳佰挺

料以官使令催、十月六日甲午、下官大夫史相議開出兵庫寮器仗節旗一旒、鉦鼓一面、小鼓一面、懸鈞形、件物等依寮庫顛倒、近來宿納官厨家、今日儀任日時勘文、去月廿七日、遣行事官欲令開出之間、寮官存近例持參、仍於此行事所可撿知也、旗以下或加修補可新調、由仰寮官了、任例可注進支度云云、旗以下幷寮官供奉輩裝束、任例可致沙汰、由下知本寮了、○略中裝束司申請御禊行幸御輿修理用途請奏內覽了、下長官藤中納言了、仰依請、卽被返下、又下知官了、兵庫寮要劇田所課山城國司信家功、宛河原禊所反橋幷黑木等、無先例由事同宣下、長官仰令免除、卽被返下、又下知官了、同申請行幸供奉寮官裝束料、募寮納物未濟、宛諸國可被催給由重請奏、仰依請、晩頭退出、十二日庚子、今日藤中納言宣奉勅、下官傳宣、大嘗會御禊行幸供奉諸司諸衞官人等、無故不勤仕輩宜解却見任、卽下大夫史、十七日乙巳、申刻於河原御禊所地幔幄處分也、○略中祭了立木綿榊覆葉薦、次召撿非違使府生友忠可守護御井之由、又掃除山水、畢以諸國人夫殊可令勤仕由被召仰了、次長官以下起座分散、

主水司

注進今月廿一日御禊御井事

一所卜丙合

一所卜乙下合

一所卜不合

右依官宣旨注進如例

仁安三年十月十七日○略中

御禊行幸風雨難御祈、日來有議定被始行事等、廿二社奉幣次被申辭別、又石清水、賀茂、春日爲殿下御沙汰奉幣料被祈申、仰御持僧等殊令祈念申、諸社仁王講申行之、十八日丙午、裝束司有御禊道巡撿事、上卿不被參○略中左少史廣盛以下行事官等引率、閑院內裏二條面、騎馬通之、十九日丁未、

有行幸召仰事藏人少輔宣下、藤中納言令外記召諸衛〇中略兵庫寮相加五衛府各被召仰、件召仰近代前日被仰之、寛治同前日仰之、今度併被准行彼例之處、於此召仰今日宣下、上卿職事父子議定尤不審、今日有女騎料御馬御覽事、藏人少輔申行、清涼殿東庇下簾第三間敷御座如常、圖座左近少將修範朝臣候御前簀子、其儀如常、頭中將不被候尤非也、御馬用途都卅餘匹、其中殿下太政大臣、左大臣、內大臣中召十匹、其殘廿餘匹召左右寮御馬乘等、祇候如常、是御後掌侍以下卅餘人騎用料也、移鞍等皆調儲藏人所了、廿日戊申早旦參院、申明日雜事〇略中次向河原頓宮、木工寮立蔀屋五宇、一宇兼日攝政殿休幕之上幕成功、令造進云云、

南西北三面引廻紺大幔爲大垣、西南角北去十七丈爲西門、廣三丈、同西去三丈立紺幔爲屏、從同坤角東去十一丈爲南門、廣三丈、南去三丈引同幔爲屏、從南大垣北去十七丈、臨河東向立五間蔀屋二宇、爲御禊幄、

合樻子午爲妻、其內板敷東面敷緣二枚、蔀屋半葺檜皮、其上葺苫覆、纐纈斑幔、東幄中央間立百支帳、蓋葺檳榔、以紅梅色絹爲裏、其廻懸麴塵立涌雲綾帷六帖、內敷滿長筵、其上敷紫織物毯代、四文付打裏、其上立平文大床子二脚、其上敷高麗褥二枚、其上敷東京錦茵、大床子前敷赤地錦毯代、四幅小葵文、在錦絲、美麗過差物也、幕被用白川殿、唐綾二色、押銀薄、西面幔門二丈爲屏、宋御屏風六帖、其內百支帳北腋敷兩面緣疊一枚、東西爲攝政御座、西幄同敷滿長筵、其內百支帳坤角南間一立廻御屏風、其中立赤漆小倚子、北設褰器所兩幄、南西北三面、去砌丈許建廻纐纐幔、三面引滿十五帖、西面有屏間件幔借用白川殿、唐綾二色、押銀薄、西面幔門二丈爲屏、御禊幄西去三丈、北去十丈建五間蔀屋二宇、合簀子午妻、如巽幄爲御膳幄、其內敷板、東西有緣覆、表葺等如饌幄、但南北妻懸纐纐蒼垂四面懸御簾、其內敷薦、其上敷長筵、兩幄中央引隔高松軟障五帖、

請藏人所、在圖林坊御倉、以東爲東幄、敷滿兩面地敷一帖、長四丈許、弘一丈□、□南第三間中央立錦輕幄、其中敷赤地唐錦毯代、其上立平文大倚子、其上敷繧繝緣半帖、其上敷白織物褥、以青織物覆御倚子、御倚子前置御承足、裏白織物、其左右立平文置物机、在高麗面、四角輕幄前置采女草墫、輕幄北間敷繧繝緣帖二枚、其上敷東京錦茵爲平敷御座、東面其前居繪火桶、積炭、副火箸、其北敷兩面緣帖一枚爲攝政御座、南妻切二間、北妻切二間簾中、副立屏風各一帖、西幄南第二間當輕幄坤、立御屏風二帖、其內北向立少障子、設褰器所、件幄皆敷滿長筵、南西北三面副簾中、曳纐纐幔五帖、件幔同借用白川殿、敷緣緣帖八枚爲女房候所、兩幄外南西北三面引廻班幔、如御禊幄、又申白川殿、御禊幄南去五丈、西去五丈立五間幄、爲神祇官候所、四面引紺幔、巽角庭中立山城國進黑木案二脚、置路次諸社幣物、又公卿以下祓物設之、御膳幄南去五丈立七間紺幔一宇、爲公卿幄、東要當御所中央、其四面各去五尺立屏風、北面有二門、其南去二丈立七間幄一宇、爲御前陪從座、東要當公卿第四間、四面廻紺幔□□公卿幄西去二丈立二間幄、爲胡瓶幄、御膳幄西去二丈五尺、立七間幄二宇、爲內侍以下女房候所、南北要、四面懸幔、爲御膳幄、北去六丈立七間幄一宇、爲殿上人幄、東西要當御座、所、四面引幔、殿上幄西去二丈、立七間幄、爲御藥陪從幷御厨子所女官幄、西去二丈、立五間幄、爲進物所典藥寮幄、西去七丈、進物所幄去五丈、立七間井、西門內南去五丈、立七間幄、爲大膳候所、

西門內東去十丈南入五丈、立五間幄、爲公卿休息所、當大膳幄東、四面引幔、西門外西去四丈南行五丈、立七間幄爲節下大臣候所、西門外西去四丈北折去五丈、立七間幄、爲女騎休息所、南門內東去五丈、立五間幄、爲裝束司候所、大幔西南角各去五丈、立七間幄、爲次第司候所、大幔北乾角東去十丈、立五間蔀屋、爲攝政休息所、覆班幔、如御在所、諸司諸衙存例、大幔外西門西夾路左右立休幄、諸衙立、幡如例、

〔玉海〕壽永元年七月六日甲戌、藏人兵部權少輔宗長爲院〇後白河御使來、余招簾前謁之、傳仰旨云、大嘗

會御禊〇安德同輿之料、前齋宮〇亮子內親王可有立后院女御而今月難叶、八月近例如何、兼又大嘗會御禊日次廿一日之由注申、一條院二條院等例也、晦日白川院云云如何、又大藏省申云、御禊大嘗會等爲大事、一切無省納物、仍以諸國齋王頓給料三年一請是也欲宛之、雖無例爲省當時煩也云云、余申云、立后月八月雖無例全不可替、御禊日廿一日可宣、被定晦日之間、若有非常之難者後日如何、二條院例强不可被忌、仍一條院已最吉也、大藏省申事左右可在勅定、但諸國難濟納物者可被加譴責歟、近年乘競起、國土不可安堵、而被返付頓給料、定爲諸國之愁歟、省申旨又可有哀憐、只可在聖斷者、其後談雜事、小時退出了、其後基輔語云、大藏省事一日於院所承也、泰經申云、東北兩國納物之分、以不塞之國頓給料可被省之由所申也云云者、而如定長仰詞者已無此狀、只依諸國難濟有此議之由也、不仰其詮之條如何、

〔吉記〕壽永元年九月五日癸酉、今日大嘗會御禊定也、十四日壬午、今日大嘗會御禊侍從代定也、上卿中御門大納言宗參議修理大夫經盛卿書之、始勤如此役歟、甚有興事也、依關如被責催云云、廿日戊子、藏人大輔示送云、御禊料、主上〇安德御帶自蓮華王院寶藏春宮物申御被取出云云、

〔山槐記〕元曆元年九月九日乙未、昨日藏人右衞門權佐定長來語曰、大嘗會御禊、〇後鳥羽院白河御棧敷可造進之由被仰三位入道後盛者、予曰此事恒例也、尤可然、但彼禪門〇藤原後盛有知行三箇國之由、然而於伊賀者武士知行、有名無實云云、常陸調物猶不輸、丹波爲主基國、不可有他事歟、近年天下衰弊、此造營旁不便歟、壞東三條北築垣有爲棧敷事之樣所覺悟也、閑院當時雖爲皇居、御禊之期可幸大內也、閑院副西北築垣爲御棧敷有先跡、無人煩歟、此事內內可被申行歟、先以稱善歟者、今夕送書曰、昨日內內申旨叶法皇叡慮、彼御記可勘給者、注寬和二年例了、十月廿三日御禊也、壞東三條北築垣、宮達見物給云云、是雖非法皇御見物、何不被准據哉、又同日法皇閑院融御棧敷、其所在閑院北築垣下、又立平張等、僧正寬朝權僧正最禪山座主儲在所、分見其僧正等云云、是壞築

垣事雖不慥、以閑院爲御棧敷之例如此圓融法皇令奉見一條院御禊給、其爲無雙之吉例、如昨日申狀有沙汰者、且叶先跡、且叶時務歟之由答了、此旨定奏法皇歟、

後日又引見治曆土御門右府記之處陽明院破却閑院北築垣北面新造孫廂、構軒檻施翠簾、前鋪白砂、傍曳斑幔、女房透出衣裳照耀炫灼、當時男女宮達同於此中見物給云云、

後日相尋右佐之處、如予申旨有沙汰者、予爲世爲君爲人非無忠哉、

〔明月記〕建曆元年九月廿五日、職事宗宣奉行、催御禊行幸〇順德申障了、十月十八日、左大辨宣房奉書云、少將〇定家藤原家可獻七條院策功車、車未調出、力不及由答了、內內語頼資猶勤院御方出車、未聞殿上人車出車之時以事宜車爲策功車之例、縱依新儀、五位殿上人雖獻之、諸大夫之輩尤可勤歟、

十九日、今夜行幸大內云云、又御覽女騎馬、少將爲毛付、廿一日、自院有召馳參、以清範仰云、今度御膳幄御禊幄次將可陣由被仰了、其陣之間爲家進退何樣教訓乎、申云、全所見幷所存不候、如舊記僅所見及、須引陣而次將不候、仍不陣之由小小雖記之、慥引陣儀總不見及之、但如新儀式者、御禊幄陣南北立陣之由有之、就之條條只可候幄南北歟、於御膳幄者、已爲尋常階前大略可模例儀歟、此外所有者、清範申此由、重仰云、此事聊有御所見、但不及被仰委旨、御禊幄左東上南面、右東上北面陣也、於御膳幄可立胡床、仍不可有示、且爲被仰含此由所遣召也、恐悦不知所謝由申之、即退出、少將爲行幸召仰、束帶細大刀合參內〇略、入夜裝束物具等送少將宿所登華殿腋袍巡方螺鈿野劍虎皮靴紫綾平緒鞢菊地紅葉平胡籙青丸緒弓巻青滯標、箭同ヱビゾメ青勾差滯標、幸不可著染裝束之由、古賢當時人人多稱之、然而代代每度禁色人皆著之、（嘉永元年、故殿月輪（藤原兼實令）著給、）仍少年物此半臂表袴又非異染色、不可有難之由所存也、又申左府亞相、廿三日、未時許、清範奉書云、昨日〇御覽當年衞府弓箭有巻色色樺事、於紅梅色者、尋常所用也、白紙幷紅梅紙皆雖爲樺由、紅梅紙如十一月已

後、梅花得境之時殊相應、至于如秋冬者、著青薄樣、尤有其便、當初多用之當時無之由承候之時、若貴賤差別可候哉之由、聊相伺候之處、其條不可依人、只少年者可然之由候キ、此事非一度雖承、猶依不審今度申九條大納言候之處、其事當初同聞之、又見彼御記之由候キ、仍少年者居過分之職候、今度殊依結構之思用此說候之處、今被仰下候之間、殊恐思給歟、得御意、可令披露給歟、又同奉書云、昨日次將多不引陣由聞食、少將在其中云云、何樣事乎、申云、御禊幄引陣候了、至于御膳幄之胡床不足、須令立加候之處、已及河頭之間、不能陣列之由所申候也、今朝歸參內裏候了、仍不尋承委聞、兩條御問尤爲恐、廿五日、參大納言殿、被仰御禊間事、頓宮公卿列事、先例不同、仍於內裏對面之次申合博陸、幔內外代代例不同如何、被答云、內外共有例、但於內者已希歟、外叶其理歟、所存如此由申、又於頓宮示合中納言忠房卿、答云、供奉窮屈、自他無承之間、先入公卿幄休息、入御之間立出幔內、雖得當時便、先例於內者大略一度歟、天仁又雖聞內由、其年記不見之、於外者例多之上、頗爲可然說歟、所存又如此、仍相共立外、定通範朝家衡等同立、者、卽列立、通光卿下馬遙步過不及問答、入內立、定通見之褰幔直入、二人立內了、又雜色事問忠房卿、答云、不可具雜色而馬副六人悉持物、不空手之間、還御及暗者、無可取松明者、仍以雜色可令取、而及暗俄召加雜色者、頗無其謂、仍兼所相具也、馬副有餘分者、不可有此事歟者、於我者本自不具雜色、廿六日、參左大臣殿三條坊門申昨日幔內外列立事、宇治左府御記云、宗輔以下立幔內、問其事、天仁元右府立內、仍存其儀由答之、何依先達之失錯、忘朝廷之禮乎由被難、宗輔閉口、以之思之尤可爲外儀歟者、二年十月十一日、成寶僧正依御禊御祈、率二口僧可參籠賀茂之由蒙綸言、仍可出代官由觸送云云、滿座相儀他人定通口歟、尤可用代官由也、許之、十一月一日、左近大夫清範來臨相逢、依仰來問云云、節下大臣手振不著半臂之由、論義之時所申出也、其間事委可尋問云云、予云、總件問事、論義以前以後共以無沙汰、僅所見出卽申了、所詮小野右府長和元記、載天慶之例、延久土右記、載同例、康治宇治記、注裝束色目、手振裝束無半臂、依之所申也、又云、此御一門之中、慥所被著有其例乎、於其條者分明不覺悟之由陳了、此事依不達申左大臣殿、一日已被著之云云、御返事云、此事驚可驚、彼日懇參入不申出此事、又依遲參不見手振、忩忙之日、每事不可被仰之人尤可申事也、愚鈍之性、爲恥無極、重申此由、又有御返事、略中手振事依經營多、一向示付前內府、其身其裝束偏自彼家出立、不來出立所、去年彼大臣節下、依予敎訓不令著半臂、寧今年可調半臂哉、於建禮門前雖來會、愚眼全不顧見、愚鈍之至也者、

〔玉蘂〕建曆元年十月十五日癸巳、御禊求出了、仍付大納言令進覽院後鳥羽、了、歸來語云、御棧敷ニハ今度太政大臣藤原家實、幷亞相可候之由有仰云云、衣冠可持笏哉否被尋問之、予云、尤可被持笏也、衣冠之時引刷事ニハ必持笏定事也、況於御禊御棧敷哉、不可及異議之由令答了、十九日丁酉、今日參內以前藏人勘解由次官宗宣來、傳院宣云、大嘗會御禊御膳御禊等幄、近衞次將引陣事、儀式、新儀式、西宮、北山舊記等皆有之、而近年自寬治以來無此儀、縱雖無先蹤、如此大禮尤可立陣也、諸節會皆如此、況大儀哉、早可然事也、早兼日可被召仰次將等也者、予申云、尤可被召仰事候、上古例已明鏡候、近代自然懈怠歟、寬治ニモ有沙汰、令見及口御禊御膳幄共可引陣之由、可召仰次將者、此次宗宣談云、此事被仰關白幷大相國之處、殿下令申給云、誠尤可被與行事候、如用途難叶事ハサテモ候、如此禮自然懈怠不可說候、式文顯然之上、舊例如此、御禊御膳共可候事也云云、相國申云、尤可候也、但御膳幄陣事ハ舊記ニ見及候、御禊幄不可然歟、式文ニ候バ不及左右、未見及候也云云、此申狀奇怪也、式文顯然之上、舊記皆有此事、何申御禊幄不然之由哉、雖無例尤可有沙汰事也、可謂奇怪、可謂奇怪、又云、御禊行幸出御刻限午二點ト宗平朝臣勘申之、仰云、近代日短定入夜歟、早可改勘卯辰刻云云、宗平申云、卯刻出御例、清和天皇外一切無例辰時ハ件日非吉時、仍難勘申候、又爲卯刻者、裝束使鼓已下時難叶候、一刻一度之事也、正時打之者不可爲今日時刻故也、仰云、不可然、又可召問在親云云、則

仰合之處、如例候、但次第鼓打了供奉ラル、如法卯刻ニ可參集之由被召仰テ、出御猶爲午二點ハ何及遲遲哉、出御午刻ト令參集バ、定及未申刻歟、御幸寅刻候テ、被責候供奉之者、何令遲參哉云云、仰云、此申狀尤可然乎、可下知云云、如可有御早參也者、申可早參之由了、卽退出了、　二年八月廿一日、大嘗會御禊可供奉、甚早速歟、今日被下御點之間只今申也、又羅織申者在中御門高倉、是諸卿被下人人冠具由、而度度炎上無用途之間、如無、仍諸家冠口訴申院之處、仰關白可被下借件羅織之由被仰下也、申共承了無之、　十月廿三日乙未、來廿八日女騎馬三匹令引獻、内今日可有御覽云云、件馬可獻之由、去月藏人所來告也、仍充召可然之輩令獻也、非廐馬、宗宣送消息於長俊許曰、今日御馬御覽、國近可召進者、依見所勞不能參仕、且今日供奉不召具可被察也、

〇按ズルニ、順德天皇ハ建曆元年ニ御禊アリシカドモ、准母昇子内親王ノ崩ニ由リテ延引シ、翌二年再ビ御禊アリテ大嘗ヲ行ヒ給ヘリ、

〔明月記〕嘉禎元年十月十五日甲辰、午時許金吾(〇藤原爲家)來、(〇中略)次老者頻爲御禊行幸、(〇四條)本隨身童等付花事、有不可然之說、先々如何、又供奉諸司不具、(〇中略)如何、申云、付華事不然之說聞候歟、但壽永後京極殿(〇藤原良經)五位中將之時、御隨身童付菊紅葉、故入道殿(〇藤原俊成定家父)定御存知之間、口多雖付風流、彼御所口可尤爲證據歟、不具雜色事、是本說正歟、具隨身之人尤可然歟、次將之間父子共可具仰遣了、比已前院公事御沙汰之次ニ被仰出此事、前内府通香可然由出詞、殊有不可然御氣色、被閉口了、宇治左府御記、藁沓之由被載云云、承上皇之仰之後、無略儀存候由答申、　十九日戊申、御禊有儲日歟由問金吾、伺申右府更無延引之儀云云、河原之儀洪水如何、(〇中略)入夜金吾來、鞍自入道殿送給、(德大寺、美麗鞍云云、不可借人起請之由類難澁候哉者、非起請限、由口被給了、)飾馬相口無驚氣云云、供奉八粗所傳聞、右大臣、(〇節下)右大將、九條新大納言、高別當、(御前長宮、行粧被盜取、供奉危由頻有其聞、)大宮中納言、平宰相、(秘亥)左兵衞督、皇后宮權大夫、式掌之外只五人云云、棧敷(二條南高倉東角、資雅間地借之、此所前殿御棧敷、隔小路相對、極有恐之由日來雖痛恐、善忠口彼入道等可見物由披露、密密隱入、不可憚由示之、仍慭欲行向、)東洞院東(定高間地用本主次常住院大僧正御棧敷、)禪室、(二條北富小路西、八間准后宜秋門院、後堀河后嫜子、四條生母)渡御云云、右府(本亭南垣壞了、被造富小路東也、)不經程歸了、

〔平戸記〕仁治三年八月廿三日癸酉、今夜仗議可被忩行之由雖有沙汰、光兼朝臣、師朝明法道等勘文依有禁忌、今朝返給、被直之由傳聞之、仍不能忩參、日沒之後著束帶參內、先是人人多參、上卿御遲參、時刻推移、及亥刻右府(〇藤原實經)令參給、其後諸卿著仗座、(〇中略)

官外記幷諸道勘申、大嘗會御禊(〇後嵯峨)當御忌月、如何樣可沙汰哉事、

右大臣定申云云、諸道勘文云、群議之趣大略一同歟、所存之旨又無相違、天武之例雖似規模、國史之文頗以髣髴歟、然而和漢准據之例多相存、至御禊之儀有何憚哉、

大納言源朝臣(〇具實)太宰權帥藤原朝臣(〇資賴)民部卿平朝臣定嗣朝臣等定申云、御忌月無憚之條、諸道博士一同勘申、不有異議、於其先蹤者、天武天皇例式部大輔菅原朝臣(〇爲長)雖有勘申之旨、所見若不詳者暗難被比擬、其外准據之例各見勘文、就中延喜長曆之明時者、繼體守文之勝躅也、彼二代依神今食幸中和院、案彼神嘉殿之儀、相似大嘗宮之記、神膳之薦享、尙以如此、御禊之臨幸何及猶豫、加之如左大辨藤原朝臣勘申、先院聖忌者、御禊以前歟、皇慮之處彌爲疑難、

權大納言藤原朝臣(〇定雅)申云、諸道一同勘申、任彼勘奏之旨、如例被行之條可宜、

權大納言藤原朝臣(〇實雄)定申云、如諸道勘申者、有忌日不樂之文、無忌月可憚之說、仍和漢多存例、准據不可有歟、且天永御元服殊雖有沙汰、猶被行其儀畢、何況踐祚大嘗會者、希代之大祀、嚴重之祭典也、早任式條之旨、宜有御禊之儀哉、

權中納言藤原朝臣(〇爲經)定申云、諸道勘申之旨已以一同、禮經之意言忌日許、他日不憚忌月之條炳焉也、見我朝之例、於宴遊者雖有停止之先規、如神事行幸蹤跡已多、被除凶之禮也、無可避憚之謂歟、其上十月御禊式條有限、輙不可及延綿之沙汰歟、

櫨中納言藤原朝臣定申云、言忌日不言忌月者、經史之元龜、法令之大綱也、況亦我朝准據之例已以炳焉、宜就諸道之勘奏、被行十月之御禊歟、

式部大輔菅原朝臣、左大辨藤原朝臣等定申云、聊課愚管、粗載勘文、畢不能重陳、

侍從藤原朝臣〇資季定申云、臨時神事猶不憚御忌月、御禊臨幸何可有式條、旨如大外記師朝勘文者、

大同三年改三月齋爲一月齋云云、彼以前猶被用十月、今度輙難改他月歟、

仁治三年八月廿三日　　執筆左大辨

九月十九日戊戌、未刻許參殿下、〇藤原實是小男高望、大嘗會御禊次第司次官被譴責之故也、拜任當職之時兼申置了、年少之間不可堪騎馬、可勤仕此役者、不可被任之由申入了、而有沙汰、正少輔不被改依不可勤仕之由經其沙汰被任了、今譴責之條不審也、申入其由了、　十月十八日丁卯、今夜被行除目云云、御禊行幸式爲供奉、或其用途成功云云、

〔伏見院御記〕正應元年十月十二日甲子、今日大嘗會御禊〇見伏點地也、少將源業顯朝臣藏人奏指圖、

十五日　卯、此日爲新御禊日時、丹生貴布禰兩社奉幣使、上卿中宮大夫辨仲兼朝臣、日時幷宣命草入加同筥、賴藤付、內侍奏之、見了返給、又奏宣命清書、今夜行昭儐正參施加持件儐六口、依御禊行幸、祈禱、令修不動法也、又慈助法親王自今夜、令修如意輪法也、　十八日庚午、自院遣使、上院寶藏御禊行幸記文一卷賜之、申加一見、可返進由了、此日內侍所御裝束改之、爲御禊行幸依可有渡御官司也、奉行職事爲兼朝臣藏人說奏、勾當內侍參向、建長以後兩代無沙汰云云、今夕御禊行幸女騎料馬覽之、清涼殿庇御簾垂之、頭中將爲兼朝臣候簀子、左右馬寮各口匹獻之、今夜依遲參五匹先所引也、

〔公敏卿記〕文保二年十月十三日、今夜次第司著座定幷點地定、〇後醍醐御祓又兵庫器仗開撿日也、裝束司長官著陣了、點地定去廿八日也、而日次又被取改之、又次第司著座卽今夜也、仍予參官廳毛車、隨身一人、青侍一人、內內召具之、入東門、著座、委細注畫圖、今夜予有所存、止獻盃、其故者與次第司以下獻盃之條不宜之由存之間、予有所勞氣可早出、可止獻盃之由予密密仰諸司之處饗膳不居之雖不可然强又不啓仰、予著座之後、次官部式少輔行範、兵部少輔永廣、判官不參云云、主典□〔委細見上〕次予依例可行之由可仰次官候處、史生助右卽覽古記文二卷〔前後天仁〕、圖簿圖二卷〔前後文永〕等、入筥候予後、〔西也、自下覽之〕予聊北面助右置筥於予前、予置笏引寄筥、先□取天仁御前記文一卷見之、須臾與見了如元置筥、〔但見了文懸文筥於耳少見□驗也〕又一卷取後見之、見了置推□所、〔此記文各有木軸〕次取前圖簿圖一卷見之、〔其樣如記文〕次見之、見了此一卷如最前入內、〔不懸〕次以前見了文如先入內、聊廻遣取笏、助右取之退、次又助右覽之、定文二通請奏六通、入筥不奏、一位押折入之、予次第開後次官、兵部少輔永廣見了助右取之退、次又助右覽之、見了返給、其儀如先、次自下臈次第起座退出、予起座出、來東門退出、〇略申抑入夜依召大夫殿被參禁裏、被申家君云、節下次第司事父子例不詳、去長和五年閑院大臣與子實成卿被定之歟、而件度聊有議、以中納言中宮大夫經任被改補之由、行成記且被遣見、今度儀可爲沙汰歟、長和又有沙汰被改補之上者、可有沙汰歟、然者一向可相似長和例、其上於今者長官不可出來一向無沙汰モ、件度サシモ經沙汰事、今度一向無沙汰、平旦此由早可申入候者、被申云畏承了、節下次第司事重任候、勤勞難治、當代指所勞之上者、不申子細候條不可、然候間不及引勘先例、蒙催候時申領狀了、爲上無沙汰、爲下不申入先例領狀候條、有若亡候條恐存、然者有御沙汰候條、實不可有子細、又有議而被改補者、一向可相似長和例歟、雖聖代少年繼帝强不應幾歟、此上事所詮可在時宜了、早有治定可被仰下之由被申了、　十五日、次第司長官事、去夜自禁裏仙洞御使令參內里給也、又以頭修理大夫公明朝臣爲勅使、有勅問應司前關白幷關白云云、及深更頭大夫入來、東帶大臣殿被謁給、傳勅命曰、次第司事長和重重沙汰有之歟、而今度一向無沙汰モ有後難歟之間、去夜被仰出了、就其勅問兩關白之處、所存二人大略一同歟、此上者且違長和例且散後難了、此上者如□早可存知之、抑頭大夫爲仙洞御使問兩關白、

應司前關白

節下大臣次第司長官父子可ㇾ有ㇾ憚哉否事、父子勤仕之條無ニ先例一也、兼日尤可ㇾ有ニ沙汰一歟、於ニ長和例者一、次第司行事所始已前被ㇾ改ㇾ之歟、今度期日近候、忽改定候條又有ニ議歟一、長和沙汰行列問依ㇾ被ニ近改一也云云、此條非ニ無ニ准據一、父子勤仕強有ニ何事一哉、

關白

節下大臣次第司長官父子可ㇾ憚哉否事、父子勤仕事、長和五年之例、期日以前改定之由見ニ行成卿記一、行列近近之間有ニ其憚一之故云云、但豐明節會父爲ニ內辨子一小忌之時、著ニ父上一之條有ニ先例一、加之除目筥文之時、父子相列之例同存之、以ニ彼等准據一被ニ著用一、何事有哉、然而猶可ㇾ被ニ改哉否一、宜ㇾ在ニ時宜一候哉、

兩關白如ㇾ此被ニ申候間一、申ニ入仙洞之處一、早申ニ內里一治定樣可ㇾ申之由有ニ院仰一、參申候由公明朝臣申之旨、仍又治定了、後聞今日御禊行幸院御棧敷、今日有ニ上棟一、二條北高倉西北、內藏人菅原永宗宿所前被ㇾ立了、此屋面三間中央間唐棟、其外左右廂各二間、凡東西七間也、南北廂一間唐棟、共同左右一間也、親直入道作ㇾ口所ニ奉行一也、少少造進、十六日抑點地云云、又女騎馬御覽云云、毛付次將少將信隆云云、又文武諸司可ㇾ聽ニ裝束司事一之由資明參奏下之、大臣殿出居了、冠直衣　十九日、後聞、今日頓宮幄分云云、

〔園太曆〕觀應元年九月九日勘修寺前大納言送ニ消息一、御禊行幸女御代已下事勅問也、續左、

供奉女騎人數口、曆應〇光明被ニ減之條不ㇾ可ㇾ有ニ子細一候哉、同可ㇾ被ニ計申一之由被ニ仰下一候、

御禊行幸女御代事、曆應被ニ經ニ御沙汰一被ニ略了一、今度可ㇾ爲ニ同前一候歟、何樣可ㇾ候哉、可ㇾ被ニ計申一之由被ニ仰下一候、〇略中　經顯誠恐謹言、

九月九日　　經顯上

洞院殿

御禊行幸女御代間事、愚意所存載ニ別紙一獻之也、女騎人數事、同注載之候、可ㇾ被ニ得ニ御意一給候哉、謹言、

九月九日　　判

御禊行幸女御代事、召來陪從等幸路資辰臨威儀之條勿論歟、而曆應度無ニ領狀人之上一、又依ニ無差所役一有ニ沙汰一被ニ省略了一、近日諸家窮困猶未ニ復尋常一、扶持之仁定難ニ治歟一、然者今度同無ニ沙汰一、可ㇾ叶ニ當時之宜哉、女騎同被ニ守ニ曆應簡略人數之條有ニ何事哉、

十月五日丁亥〇略中

一昨日貴報畏存候、御禊日數迫來候、實音出立慥雖ㇾ被ニ心懸一候、菜田口分リ候間、雖ニ廻ニ秘計一候、于今無ニ其驗一候、一定臨ニ期御幸關候ヌト歟存候、唐鞍第一未無ニ安堵思一候、一條黃門鞍ハ爲ニ御相傳一、和鞍候云云、兼又內府可ㇾ申トカヤ承候、足下ニ候ヶルヲ不ニ存知一候、後悔無ニ申限一候、

抑兵衛府蠻繪文驚九勿論候歟、左右一同令ニ管領一驚候哉、此事文保御禊之時、實前卿申ニ入先公一候歟、落居之樣不ニ審候一、近衛衛門ハ左右相替候間、兼日兵衛府何無ニ差別一候哉、元弘長光卿參議左兵衛督御後宣、用ニ獅子丸一候、若存ニ近衛衛門等儀一依ㇾ爲ニ左用獅子一候哉、委經沙汰候ヶルヤラン、只今ムサク大樣候ケルヤラン、相尋候之處、其時注置候、撰給候ハントハ申候テ、未ニ注送一候、將又隨身袴、長光卿蘇芳未濃候、是ハ右ニテ候ヘバ、若可ㇾ爲ニ朽葉一候哉、兵衛府令領タル文ハ何ニテ候ヤラン、只衛門同事候哉、裝束師頻雖ㇾ令ニ催促一候、同ハ委致ニ沙汰一可ㇾ進、左存候、是等條可ㇾ仰ニ御處分一候、誠恐謹言、

十月三日　　公秀上〇略中

隨身蠻繪事、文保實前卿所爲、後日相尋公有卿彼家一體之故也、返報續之、

驚九雖ニ勿論一、左右尤不定、凡文不ニ論左右一可ㇾ爲ニ兵衛府文一者、近衛衛門何樣可ㇾ存哉、以ニ獅子一爲ニ近衛文一、以ニ熊爲一衛門文者、右近衛府獅子文、往昔以來不ニ見左衛門熊一、左同前歟、尤不審哉、曆應沙汰相建、先

公御諷諫雖レ不レ可レ然、代々例兵衛熊、又非レ無レ蹤之上、鷲丸武衛不レ分二左右一條猶有レ疑哉、
蠻繪隨身袍文事、左近左衛門熊、兵衛鷲丸、如レ此候、兼兵衛府用二獅子熊等一例候歟、
注二別紙一進入候、文保御後長官實前卿、用二鷲丸一之由記置旨申合候ケル上、定隨二彼御計一候歟、凡用レ鷲
之條、其謂候歟之由存候如何、他事期二後時一候、公茂誠恐謹言、

公茂〇略中

十月八日

十五日丁酉、抑今日自二武家一大夫御禊行幸供奉訪五千匹送之云云、頗輕微歟、然而近俗不レ能二左右一關
白左府一條前關白等同有二此事一、各一萬匹云云、
〔後深心院關白記〕永和元年八月廿六日甲寅、頭辨宣方朝臣爲二勅使一來云、御禊行幸〇後圓融儉約事、先先
每度有二沙汰一歟、今度何樣可レ有二沙汰一哉可二計申一者、余〇前關白近衛道嗣申云、儉約事尤可レ有二其沙汰一歟、宣方朝臣
又云、御後次第司次官可二沙汰進一、大納言〇道嗣子兼嗣供奉事可レ爲二何樣一乎者、次第司次官事加二問答一、器用輩
追可レ申二左右一、大納言供奉事、所勞之間難二供奉之由一申之了、凡攝關之輩不レ兼二大將一、供奉此行幸無二其
例一歟、九月六日癸亥、及二晩被一下二勅書一、次第司次官相構可二沙汰進一、次衞府督代時盛可レ被二勤仕一、舊院御
代望申四品一歟、然者可二勅許一、亦可二召仰之由被仰下一、余申云、次第司次官事者、方々難事行子細候者、藏人
歟不レ然者次將可二沙汰進一候、時盛衞府督代事、亦召仰可レ申二入散狀之由一申入畢　十日丁卯、今夜御
禊日時定幷次第司留守定、上卿德大寺大納言云云、　廿五日壬午、入夜仲光朝臣爲二勅使一來云、衞府
督代時盛領狀先神妙、四品兵部卿近例誰候哉、相尋可レ申者、次御禊行幸、面々可レ構參之由有二其聞一之
處、近日被レ尋二分明之散狀一處、人々更不レ出二請文一之由奉行申之間、俄御仰天候、大納言若可レ令二供奉一哉、攝
關之輩不レ兼二大將一之時供奉、先規不詳云云、然而雲客之時猶以有二供奉之例一歟、就レ關如レ所レ被レ仰也、構參
者殊可レ爲二御本意一者、余申云、四品兵部卿時仲朝臣以二拜任之例一所望申也、次大納言供奉所勞、故障非二
一事之由一申入了、　十月一日戊子、御禊行幸繪〇今日申出見之、是蓮花王院寶藏御繪也、當時被

レ預二御室一、去比被レ召寄云云、　十日丁酉、傳聞、今日御禊點地云云、裝束司長官新藤中納言、勅使顯英
朝臣云云、　十七日甲辰、傳聞、御禊行幸可レ爲二來廿二日一之由有二沙汰一之處、武家料足御禊行幸分三十萬匹云云、僅六萬匹許致二沙汰一云云、
被レ延二引儲日之有一沙汰一云云、武家料足全分未レ到之間、可
〔後法興院記〕文正元年八月廿一日庚申、種光朝臣來申云、御禊行幸〇後土御門仙洞〇後花園可レ有二御見物一、御
車寄之事可レ有二御參之由一被二仰出一云云、條々難事行由有二御故障一、彼朝臣院司也、卅日己巳、種光朝臣
來相語云、御禊行幸御見物也、御幸御車寄之事被レ仰レ久我前右府〇源通尚云云、行幸令レ過二仙洞之御棧敷
前給時、被レ向二鳳輦一云云、其時上皇令レ降二簀子一給、月卿雲客降レ地令二蹲踞一云云、然間攝關人非レ可レ降レ地、堂上
又無二便宜間一、被二前右府云云、先日殿御參事有レ催、御忘却之由有レ仰云云、彼朝臣御幸事沙汰云云、　十
三日辛亥、種光朝臣來相談、今度就二御禊行幸供奉一、被レ任二兵衞佐一云云、凡自二八省卿一任二兵衞佐一事不審事
也、有二遁逅之例一云云、　十五日癸丑、今夜御習禮之行幸云云、內裏仙洞程近間、供奉人步儀如レ恆云云、
明日御逗留云云、　廿七日御幸御供也、座次事口宣次第之由有二沙汰一之處、有二網遲參之間一、今度參次
第之分ニ可レ有二次座一由自二執權令一下知一云云、限有二網參次第事無一其謂之間、此子細申遣執權許處、口宣
次第事無二所見一於二五位一可レ有レ如レ此歟、六位之事參次第候、但口宣次第事御所見候者可レ給之由有二返答一、
此儀太無謂歟、於二殿上六位者參次第勿論歟、判官モ依二本位一列座也、又北面於二五位者一、口宣次第云云、
限二六位參次第一不二意得事也一、此子細可レ尋二外記一也、　十八日丙辰、北面座次事、相尋常忠之處、五位位次
次第、六位參次第、同日參候者可レ依二年齡一云云、抑去廿八日室町殿之局女房入江殿之室町殿妹比丘尼所、セイシャウ上〇圖ニテ、子ヲウミナガシテソノマヽ棄置了云云、人不レ知レ之、今月十三日セイシャウ掃除
之時、人夫見出之云云、件女房去廿八日聊怪子細共アリシ間不審之處、今果如レ此云云、依レ是至二來月
十三日一天下觸穢也、御禊行幸延引之由被レ仰二武家一之處、猶當年中可レ被レ有
行一由被レ申云云、延引次年之例太不快御例也、大嘗會和歌作者臨期輕服、政始延引、今又觸穢出來非

直事、神慮尤難測者歟、今朝拂曉還幸云云、依㆓穢事㆒遂以無㆓御習禮㆒云云、御禊他日例不㆑有㆓先規㆒歟、彼女房則被㆓罪科㆒云云、不便不便、十一月廿六日、是日御禊行幸也、於㆓棧敷令㆒見㆓物、廿七日乙未、早旦殿被㆓參禁裏仙洞室町殿等御禊行幸御禮也、

〔大乘院寺社雜事記〕文正元年十一月五日、來廿六日御禊行幸云云、風雨御祈事、先內內被㆓仰寺務㆒云云、廿五日、今日官司行幸、大納言殿〇養親足利尊供奉、御訪錢百貫文被㆓進之㆒云云、仍御祈禱仁王會、予〇尋行之了、

〔民經卿神事記〕寬正七年〇文元年十月廿七日、大嘗會御禊行幸御祈事、十三日御敎書、十五日祭主下知、今日宮司告狀回覽、廿一日、同夜大嘗會御禊行幸延引、可㆑爲㆓來廿六日㆒、無風雨難樣自㆓十九日㆒七ケ日可㆑奉㆑祈由十七日御敎書、十八日祭主下知、今日宮司告狀同前、

〔季連宿禰記〕貞享四年六月一日丁未、自㆓頭中將基勝朝臣㆒依㆑使者㆑參之、卽令㆓面謁㆒、被㆑命云、大嘗會御禊行幸〇山東裝束司前後次第司長官以下、度度例可㆓勤進㆒云云、申㆓承之由㆒、廿日丙寅、相㆓伴大外記師庸朝臣㆒參㆓頭中將基勝朝臣㆒去一日所㆑被㆓仰出㆒御禊行幸裝束司前後次第司等之例、令㆓勤進㆒、局務勤例自㆓公卿補任之中㆒拔出分一紙幷同記之中撿挍行事、已前勤進之外也、又應永度御禊行幸公卿以下寫歟散狀歟三枚勤進之、予分壽永元年、永和元年、永德三年、三ケ度之例、注㆓折紙㆒進之、十月十四日己未、依㆑使者㆑參㆓頭中將基勝朝臣㆒、被㆑命旨記左、

來廿八日、可㆑有㆓大嘗會御禊㆒、刻限亥云云於㆓清涼殿㆒可㆑被行之由議定、行幸河原之事、今度不及沙汰、調進方官方之方、

行事官重基調進

一贖物主上并執柄料　一大麻

木工寮弘之調進

一案一脚載贖物高坏料　一清涼殿結灯臺二本此結灯臺用意無用之由後日有告

主殿寮伴佐伯

一立明　一庭火　一清涼殿御前掌灯此掌灯同後日無用之由有告除之

右可㆓用意㆒旨可㆓下知㆒、猶向㆓庭田黃門㆒可㆓申談㆒之由有㆑命、

〔壬生家記〕文政元年十月十九日

一御禊〇仁孝之節、殿下御贖物下敷薦一枚、掃部寮より調進仕候樣御下知之事、

一御贖物之下敷者、掃部寮より調進仕候得共、殿下御贖物者無之候ニ付、先例も差掛り掃部寮江入混仕候得共、此度者前以御下知奉願候事、

右之通日野殿江申上、御承知也、

廿七日、今日內內御禊御內見有之候ニ付、御贖物手本非藏人口持參候處、日野殿御落手也、

御料御贖物二基折數高坏在㆓覆緜㆒

一基散米土器一　一基人形解繩土器二

以上

御大麻一

殿下御贖物一基衝重一

盛人形　解繩　散米　土器三　御大麻一

以上

廿九日、今日御禊ニ付、申刻神祇官參勤殿上邊江參候處、六位衆より大宋御屛風三帖許持參之旨御沙汰、仍持參六位衆相渡、御座南方ニ被建候事、

一出御前、御巫祷許ニ而內見有之候事、

一御料御贖物者、南廊出廂之案之上設之、

一殿下御贖物者、西內廊之北端也、

一凡戌刻頃出御之御沙汰、仙花門外北之方迄參、御巫進見、先人形解繩之高坏ヲ取テ御巫江渡、六位衆附加也、又仙花門外江退テ御巫進見、散米之高坏ヲ渡、直ニ仙花門明儀門ヲ經テ、殿下之御贖物青璞門江持、五位藏人江相渡、又仙花門外北之方江扣居、此間暫隙有、宮主大麻ヲ祭主渡、祭主中臣之女渡、中臣女供之後、初之通宮主ニ被返之、宮主解除詞奏畢テ、青璞門より同大麻ヲ五位藏人渡、五位藏人殿下江進、直被返之、

一御料御贖物被撤、請取案上置、又殿下御贖物青璞門參請取、如元薦上置、自夫入御、撤却退出被仰出候事、

一大麻先々宮主江相渡、跡者不返之事、

一殿下御贖物下敷之薦、先日日野殿江掃部寮より調進致候樣御下知相願候得共、掃部寮江者御下知無之旨也、以來者掃部寮調進難相成者、辛櫃ニ入其儘可設旨哉可伺之事、

〔輔世卿記〕嘉永元年十月十七日丁巳、大外記樣御使在之、左之通り、手扣○中略

過日被仰進候貞享度御禊御神事之事、段々取調候得共、御禊者十月廿八日之趣ニ而、御神事邊之義者、一向御書記等無之不相分候間、是亦宜被仰進度事、

十九日己未、非藏人口へ御名代石井監物、○中略來廿七日御禊御裝束設試已下日限、幷參集刻限等、御書付ニ而被告候廉々者、御書付ニ而御返答有之候樣御賴、廿八日戊辰、入來行事官、右者家君御面會、明日御禊○明孝御贖物調進之儀ニ付、天明文政と元文明和頃と次第相違ニ付、傳奏御奉行より御不審御當局へ御相談申上候樣御達ニ付罷出候處、右供進之次第、御當家ニ而者御掌領無之、伯殿へ相伺候樣御返答之處、則伯殿へ相伺候處、伯殿ニ者天明文政度之通可相心得候樣被申候趣ニ付、左候ハヾ其旨傳奏御奉行へ御返答申上候樣御達之處、畏退出候也、

御禊儀

廿九日己巳、今日禁中御禊也、仍而從今日御神事、右ニ付家君猶又御火改御行水、奥御客樣其外御召使之面々御髮切御月水者同席不相成候ニ付、表方下部迄奥へ不通、食事等も明朝より別段表ニ而構候積、尤締仕切奥之面面西之穴門より通行之積、次飯焚先ヅ御客來中當分すゝ御屋表詰也、尤各行水後別隔火改也、雖然家君とは火又別也、御門通用も、服者斷不入候積り、又大外記樣御重服ニ付、清掛り之仕者不苦、其外被召仕候面々御使之節者、御門前より御門內ニ而取次積、尤此御方より何方へ御使ニ而も、重服者へ門外より可達事心得、侍中へ申達候也、

一御神事中忌詞書付御渡、侍中へも達置候、右者萬一家君御目通に而忌詞申上候得者、家君御行水被遊候程之御迷惑に付、各心得申達置候、

一日々役所へ當番之面々朝宅に而行水之上出勤之事、

〔代始和抄〕御禊行幸事

當日は大內より川原へ行幸なる、大內燒て後は兼日太政官の廳へ行幸なりて、それより出御し給ふ也、時刻に王卿仗座に參著す、次第司の次官已下かりに帶劍すべきよし宣下せらる幼主の時は攝政左近の陣の內に行列すべきよし仰らる、節下の大臣といふ事あり、節といふは旗の名なり、世俗には大がしらと名づく、その旗の下に供奉するによりて節下の大臣とはいふなり、供奉の行粧は唐鞍といふ物をきる、銀面尾袋等あり、馬副の瀧口十人褐冠なり、隨身八人蠻繪の袍といふ物をきる、左は獅子の丸、右は熊の文の袍也、手振十二人紫の布の褐を著す、瀧口の調度懸十人狩衣袴なり、舍人居飼各一人、纏の舍人二人、この外雜色その數定らず、攝政は或は騎馬或は乘車なり、車はかならず唐庇を用ふ、上臈の隨身番長はこれも蠻繪の袍を著す、地下の前駈定れる數なし、雜色又その數をさらず、幼主の時は中宮同輿なり、女御代供奉の例あり、おのおの女房の車衣のつまを出す、とりぐ〳〵の物見なり、およそ此行幸に供奉の百官裝束馬鞍已

下よのつねの行幸にかはれり、鞍にも杏葉といふ物を付るなり、兵庫寮その時刻にいたりて列陣の鼓進鼓行鼓などを打しむ、前後の行列をみだらざらむ爲なり、御輿は鳳輦也、河原頓宮にいたりては、まづ御膳幄に御輿をよせて下御ならせ給ふ、これより腰輿にめされて御禊の幄にうつらせ給ふ、主上は百子帳の内の大床子に著御し給ふ、百子帳といふは、檳榔をもて頂をおほひて、四方に帷をかけて、前後をひらきて出入するやうに飾りたり、其中に毯代をゝきて大床子を立たり、この床子につかせ給ふ也、百子の名其説いまだつまびらかならず、一には百子は多きをいふ、此帳をつくる支度のおほき心をいふべし、主上御手水の事あり、主水司これを供ず、其後大床子のまへの平敷の御座にうつらせ給ふ、神祇官御贖物を供ず、宮主解除の詞を奏す、これすなはち御禊の義也、公卿以下おの〳〵禊つ物を前に置て、神祇官大麻をひく、次に腰輿に駕して御膳の幄に歸らしめ給ふ、晴の御膳腋の御膳などを供ず、そののち山城の國司獻物三十棒をとりて庭中に列立す、大臣物名を問て後かしはでに給へと仰す、又今日の見參を奏する事あり、神祇官幣帛を近邊の諸神にわかち奉る事あり、其後還幸あり、さきの如し、大臣外記に仰て解陣の鉦を打玄む、諸卿以下退出す、

〔儀式二〕踐祚大嘗祭儀

其日當日○御禊平旦神祇官奉路次神幣、其料座別五色薄絁各一尺、絁五尺小所三尺絲一絇、綿一屯、木綿二兩、麻五兩、裹薦及擔夫准幣多少、建禮門前南去十餘丈立節旗標、南去一丈立大臣標、去之一丈立少納言標、去之五尺立外記標二、左右相去各一丈自少納言標去之一丈立鉦標、去之一丈立鼓標、自鉦鼓兩標間左右相去一丈立兵庫寮標二、自少納言標左右相去各二丈立前後次第司長官標、去之一丈立次官標、去之一丈立判官主典標、去之一丈五尺立主禮標、御前司在左、御後司在右、訖次第司會集宮城門外、撿挍行立標、次扈從五位已上及諸司諸衞各就標下、次第司判官主典率主禮等至諸司標下、令省掌二人左

右相分唱計陪從六位以下官五位已上及衞府官人等不在唱限、時刻擊動鼓、隔刻擊列陣鼓、訖節旗漸出、就宮城門外標、于時乘輿初出、警蹕如常、其前駈次第也、京職兵士左右各廿人、左京在左、右京在右、次市司官人左右各二人、東西各二人、左右同上、次京職官人左右各六人、五位各一人在此中、次神祇官左右各卜部一人、神部一人、官掌一人、長上一人、官人三人、執幣丁一人在其間、與卜部平頭、次主禮左右各一人、以諸司史生爲之、次第司判官一人在其間、與主禮平頭、從近馬左右各一人、下同、次彈正臺、忠疏在左、巡察在右、次兵部省、次主税寮、次主計寮、次民部省、次治部省、次散位寮、次大學寮、次式部省、次官史、已上相夾在道左右、其人數隨時增減、下不注數者亦同、次隼人司、左右各歩陣五人、騎陣二人、大衣一人、官人一人、次次第司主典一人在道中央、從二人次主禮左右各一人、次第司次官一人在中、與主禮平頭、次左衞門府、左右各衞士百人、門部卅人、其間府生醫師志尉佐纛鉦鼓次之、督次之、內器仗次之、次左右主器仗者、與內器仗平頭、衞府佐已上副馬次之、持親王已下參議已上蓑笠者次之、主禮左右各一人、次第司判官一人從二人在其間、次左右馬寮儲馬左右各四匹、馬部各二人、騎士各二人、史生各二人、馬醫各一人次之、次左兵衞府左右各兵衞卅人、其間府生醫師志尉佐纛鉦鼓次之、督次之、主禮左右各一人、次第司主典一人從二人在其間、主禮左右各一人、次第司長官一人從二人在其間、次陰陽寮左右各三人、陰陽師漏刻博士在此中、漏刻器在其間、次鼓次司、左右各長上一人、官人一人、節旗在其間、鉦鼓次之、少納言一人次之、從四人大臣一人次之、從八人執物、少納言從亦同、少後外記左右各一人、侍醫各一人次之、中務省左右各內舍人十五人、丞一人、侍從十四人次之、左右馬寮左右各六人、屬已上頭已下右威儀御馬一匹在其間、近馬左右各騎士五人、右兵衞一人亦在左右、與馬寮第二官人平頭、左威儀御馬一匹次之、騎士左兵衞並同上、次內記左右各一人、典鑰各一人、主鈴各一人次之、負鑰馬在其間、近馬令左右近衞各一人相夾、與典鑰平頭、負鈴馬次之、近衞相夾亦同上、少納言一人次之、其次東宮前駈、亮在左、學士在右、侍從二人次之、四位爲之、左右相分並在陣內、東宮少後在中、執物者左右各若干人從之、次御劒櫃在中、近櫃令左右近衞各二人前後相夾、將監各一人在其外、諳風土者左右各一人、參議以上親王以下左右相分在中、左右近衞府左右各騎陣廿五人、歩陣卅人、在騎陣內、輿後亦同、少將各一人、大將各一人、左右相分在歩陣內、乘輿次之、中將各

一人少將各一人左右相分在乘輿後輿前兩綱駕丁各六人擎之輿長左近衛各一人在其外其兩綱駕丁各十人左近衛丁十人大舍人左右各一人次之當第四丁左近衛左右各一人次之當第六丁大舍人左右各一人次之當第八丁左兵衛左右各一人次之亦准此其後陣執纛者二人次之左右相夾左右近衛府左右各騎陣十一人纛者相當輿執右各一人在中路輿執相當內侍左右各一人次之在陣末少後東豎子左右各一人次之女藏人各四人次之內藏筥持各一人次之左右近衛府左右各騎陣十八步陣十八腰輿在其間菅蓋紫蓋次之輿左右執翳者各二人相夾次男藏人左右各三人次主殿寮允已上左右各一人次之輿平頭紫蓋腰輿雨革人給蓑笠分在道左右雨蓑在右蓑竪在左覆筥御厠斑幔在其內斑幔在右小幔風爐在左內藏御櫛机在雨革之後次掃部寮官人左右各一人輿騎陣相當胡床水樽分在道左右胡床當於雨革水樽當於蓑笠御茵松明在其內御茵在右松明在左簀輕幄在其內簀在右輕幄在左主殿炭櫃造酒御酒分在道左右炭櫃當於胡床御酒當於水樽次執物內豎左右各十人次左右近衛少將已上副合在中路次膳部酒部分在道左右膳部當於炭櫃酒部當於御酒次執物內豎左右各十人次左右近衛少將已上副馬左右各四匹次撿挍女孺左右各一人次女孺左右各三人次采女左右各八人次御厠人左右各一人次洗人左右各一人次撿挍女左右各一人次采女左右各一人左右各一人坊官在右主藏在左坊儲筥儲漿在其兩間殿守在左雨蓑在右主殿主膳等官人各一人分在道左右主膳在左主殿在右女孺采女次之內藏儲錢次之同寮御韓櫃各四合次之官人各一人次之藏人所御韓櫃各六合次之官人各一人次之圖書駈餉次之右兵衛府左右各兵衛五十五人輿掃部寮相當督佐尉志醫師府生在其兩間次主禮左右各一人次第司長官在其間從二人次主禮左右各一人次第司判官一人在其間從二人東宮儲馬次之衛府佐已上副馬各三匹分在道左右持諸司簑笠者次之捉㆓溺非違㆒者各一人次之以㆓右近衛㆒爲㆑次下同主禮左右各一人次之次第司次官一人從二人在其間次兵部省掌左右各一人次第司主典一人從二人在其間持唱計帳及鹵簿杖直丁各一人唱計帳在左鹵簿在右輿㆓主典㆒相當並在㆓省掌內㆒次大舍人寮官人左右各二人圖書寮官人左右各一人次之縫殿寮官人各一人次之櫃在其間內藥司官人左右各一人御藥儲韓櫃在其間次大藏省官人各一人在道左右宮內省官人各一人次之主殿寮官人各一人次之典藥寮官人左右各一人御藥儲韓櫃在其間進物所膳部各三人在道左右進物所御韓櫃二合在其間內膳司正幷奉膳在道左右正在左奉膳在右典膳左右各一人次之御膳韓櫃十合在其間第一韓櫃輿㆓主水司㆒平頭主水司官人各一人在道左右大膳職官人各一人次之人各一人次之采女司官人各一人次之捉㆓溺非違㆒者各一人次之主禮各一人在道左右次第司判官一人在其間從二人木工寮官人各一人在道左右兵庫寮官人各一人次之雅樂寮官人各一人次之右衛門府左右各一人次之右兵衛督佐尉志醫師府生在其間捉㆓溺非違㆒者左右各一人輿㆓雅樂寮㆒相當主禮左右各一人次之次第司主典一人在其間從二人左右各四匹馬醫左右各一人次之史生各一人次之裝束司長官以下聞㆑警蹕豫出列立路邊異位重行乘輿御㆓禊所㆒之後皇太子步行參詣時刻神祇官奏㆓禊詞㆒訖還㆓御供膳所㆒賜㆓陪從五位以下衣被各有㆑差山城國緣以上御衣訖車駕還宮

〔江家次第十四踐祚〕大嘗會御禊

寅二刻打㆓裝束鼓㆒　平旦奉㆓幣路次諸社㆒

被㆑仰㆓下前後次第司㆒可㆑帶㆑劒由㆓御前次第㆒參入就㆓豐樂院北邊長官暫留㆓便所㆒於㆓彼院北門㆒立㆓胡床㆒北面西上今案件床長官次官東面北上判官主典西面北上主鈴在主典後㆒御後次第司次第司撿挍標杭事

撿非違使佐以下巡㆓撿當路㆒事

御前司巡㆓撿宮外標㆒事　省掌召計事

打進鼓

大臣起仗座、出自宣陽門、經春華門進立節下、外記各立標下、

天皇御紫宸殿（閤門女御代被參由之後出御）

先是掃司昇出大刀契、置西二間簀子、

內侍二人候劒璽於御帳西邊、陰陽師反閉、（陰陽師退下給祿）次立御於正南、內侍立左右、

右近將度階下、向日華門、左右大將夾南階立、

王卿列立櫻樹南庭（北上西面）

少納言率主鈴等出鈴、（無閤司奏鈴奏等）寄御輿、

掃部敷筵道　主殿寮撤御輿軛

次將開輦戸、內侍進、次將傳取劒置之

天皇乘御（無警蹕）

次置璽筥

東豎子取御挿鞋　左右將監昇大刀契等櫃

此間開門（可隨路）　王卿前行

節旗漸出就宮門外標

次乘輿到宮門（五位以上騎馬、六位以下到待賢門乘之、）

打行鼓

大臣仰外記、外記又仰兵庫頭、

次鹵簿次第行列、至京極京職留下馬、

山城率子弟奉迎

此至頓宮節下大臣就標諸司列立、

裝束長官以下迎謁於西門外（南邊、東上、北面、長和西面北上、可隨鹵簿路、）

公卿著休息幕（待駕問）

御輿留西門外、祭主進御麻、（一據吻返給）入門、

次第司以下就標　公卿列立

御（御膳幄、經御殿幄北、寄御輿於東面中央間、若時刻至者、先御御殿幄、）

節下大臣令擊鎮陣鉦、（召外記、令仰兵庫、）

大臣前後長官等入門各著幄（近代不必著、）

主上駕腰輿、幸御殿幄、（入自西方、）公卿列立、

公卿幄東頭（東面北上）大將不著靴進候、他公卿不進歟、主上自百子帳方入御、（近衛次將執置劒、）

開百子帳後置之大床子、近仗退（御輿近幄西邊、）候、

執柄候東面北第一間、（南面）中臣女候南第一間中隔屏風西、次公卿就幄南邊地上座、

裝束次第長官同著此座、裝束次官以下著同後座、

次供御手水

主水官人獻之、頭藏人傳取奉之、開百支帳南間西屏風爲路、

主上御百支帳前平鋪座、次宮主參入候幄東南砌上膝突、神祇官以折敷幷祓物等置幄東庭石疊上

薦上、

祭主進御麻（經幄南幔北邊、候幄東面南第二間、）

中臣女進取之傳進、御吻後返給中臣女、（中臣女返祭主、）

神祇官人取御贖物二本進之、（如祭路、）

御巫取之又傳進（舊記可獻髮高坏、由不見、而近代如此、）

御巫四人可ㇾ獻由見ニ舊記一
五位藏人獻ニ執柄御祓物衝重一
開ニ幄第二間中隔屏風一爲ニ路
次置ニ公卿以下祓物一（神祇官人置ㇾ之、安ニ於結政一）
次宮主奏ニ解除詞一了退出、大炊官人散ニ五穀一、
神祇官引ニ大麻於公卿座一
御巫撒ニ御前御祓物一、次撒ニ關白祓物一、
次又覩ニ腰輿一（自ㇾ此始稱ニ警蹕一、大將進候如ㇾ初、）
還ニ御御膳幄一、公卿以下著ニ幄一、
此間或參ニ入執柄休息幕一
采女供ニ御膳一（陪膳一人、役供六人、入ㇾ自ニ御膳東廂角一供ㇾ之、內膳造酒傳供、）
但不ㇾ可ㇾ供ニ夕膳一
若及ニ暗者一、供ニ御燈一（居ニ於東緣北第二間一、主殿官人五位藏人以下役、）
大臣令ニ奏ニ山城國獻物一、國司員少、近衞等相加使ニ奉仕一（依ㇾ請付ニ辨若頭一申ㇾ之）
次藏人以ニ圓座一枚一、置ニ於東面南第二間東緣一、
次大臣參入著ニ圓座一、山城國司捧ニ籠物一列立（西上北面）
大臣宣、何（曾乃）物曾、（天慶例不ㇾ問）
守以下一々稱ニ物名一、大臣宣、膳部爾給へ、
各稱唯退出、大臣退下、
次大臣奏ニ見參一（二通、候ニ幄東面南第一間一、）

內侍取ㇾ之奏聞返給、
大臣退出（召ニ中務輔於公卿幄一、給ㇾ之、或令ニ外記傳給一、）
縫殿寮給ニ公卿以下祿一
執柄御祿頭若行事辨申ニ其由一、依仰給ニ隨身一、擊ニ行鼓一、次寄ニ御輿一、還ニ御一（警蹕）
雅樂寮奏ニ立樂一、至ニ建禮門一奉ニ御厩一、
還宮儀如ㇾ恒（警蹕、鈴奏、名對面、留守參議、當ニ公卿後一立ニ軒廊南一、最後稱ㇾ名、）
節下大臣者、御輿過間暫立之、
節下大臣幷前後長官立ニ標一
大臣令ニ打ニ靜鉦一如ㇾ恒、外記仰ニ兵庫一令ニ打、諸衞應ㇾ之、
前後長官各進、申ニ諸陣靜了由於大臣一、
大臣宣、縱ヨシ、長官次官復ニ本位一、
大臣仰ニ外記一令ニ打ニ召隊司一鼓、兵庫打訖、又仰ニ外記一令ニ打ニ解陣鉦一、
同儀（皇后同儀）
早旦御沐浴
次公卿以下參陣
次女御代車、列ニ立郁芳門外北掖（以ㇾ南爲ㇾ上）
次皇后出車、立ニ其南一（同上）女御代參入之後有ニ行幸一、
次御乳母等、幷皇后上臈女房拂曉參ニ頓宮一、
次撿非違使佐以下巡撿行幸路一、近代必不ㇾ見、
次被下次第司次官以下可ニ帶劒之由一、幷攝政可ㇾ行ニ列於左近陣內一之由宣旨（依ㇾ可ニ遵行一歟、源ㇾ圖也）

上卿仰大外記

次掃部女官昇大刀契置於南殿南簀子西第二間、留守上卿幷辨兼日被定、仍當日不仰、

次節下大臣出自春華門著於建禮門外標、必用巡方有文玉、兼大將者番長二人、近衛六人相從、又少納言、外記各一人相從、若自建春門出御、節旗在侍從所北拔三丈云、

次前後次第司長官以下各著標、御前次第司著美福門內標、御後次第司著內標、近來無件門、量程可立標歟、

次宸儀渡御南殿內侍取劒置在前後

執柄幷頭藏人等相從如常

次於御帳西陰陽師反閉、先是皇后御於南殿御帳後六尺御屏風內御座、

次右近次將渡東經階下

次出御御帳前內侍立左右

次公卿列立

右大將渡西經階下

次左右近衛引陣

次少納言出鈴印無奏

次寄御輿公卿次將離列就之

次左右近將監舁大刀契下

次上臈次將一人進開輦戶、取內侍之所持劒入輦中、

次乘御不脫絲鞋、仍東廂子不參輿帷垂之、

次入御輦次將退

次次將等下南殿御格子不下二間

次皇后乘御女房幷近習人奉几帳無警蹕、

次次將昇閉輦戶

次開門

次節下大臣令打行鼓

次五位以上皆騎馬

殿上人於春華門騎馬在前陣、宸輿出承明門不仰御輦、依神事也、

次出宮城門、六位騎馬、

大臣召外記仰云、宸輿已近、前陣可催、外記於馬上稱唯催之、行列次第見鹵簿圖、仍更不記騎馬內侍以下女官以上、幷皇后宮女官女房等相從、

次至頓宮

次雅樂寮奏長慶子

依神事不可奏歟、而近代多奏、

次參議以下列立西幔門外、其南裝束司長官以下列立、次車駕欲入西幔門之間、神祇官奉御麻、次王卿入其西節下大臣就其標、其北次第司長官以下北面列立、長官拂曉參頓宮、行事若公卿數少時、有宣旨供奉行幸、仍不迎謁、

後、節下大臣令打靜陣鉦而入、記文云、大臣召外記仰可令打鉦之由、外記仰兵庫寮令打諸陣相應云、

次裝束使、次第使依次入、

次御御膳幄經渡南自東面入御、時刻至時、先御御裳幄而幼主時依不可御皇后此幄、仍建御膳幄大刀契鈴印等置幄北砌、

御西葺屋北第一二三間六尺御屏風內

次王卿侍從各著幄座

次供御厨子所御膳、藏人頭爲陪膳、五位藏人役送（先例自西北供之、然而依皇后御、自西南可供歟、或執柄於此所進衝重、五位藏人爲陪膳、先是皇后出車、女御代出車、列立於頓宮北錦幄内、相對立之、皇后南、女御代北、）

次御御衾幄（自北都屋入御）

大將進候、（靴、）著自餘王卿立幄前、

次御百子帳前平鋪座

次供御手水、頭五位藏人從事、（自西屋取傳供之、經御幄西井南、跪東第三間砌、）

次祭主捧御麻授中臣氏女、（件女本候中隔御屏風西、）

次一吻一摩返給（祭主授、）

次御撫物授御巫、（四人供之、祇官人供之、例頭物、）

執柄被候御座北、五位藏人居被物、居之以衝重、被候御座北、

王卿及裝束司候（衾座、在御幄南右近陣前、辨以下在後座、神祇官置被物、大臣料居葛筥、納言以下居折敷、）

次宮主就御前南東庭膝突奏解除詞、祭畢神祇官引大麻、執柄料五位藏人傳奉、諸卿料神祇官行之、

次御衾了大炊寮散五穀幷米、先是件五穀等置宮主座前、（大炊官人數之、）

次撤御被物、執柄被物又同撤之、

次五穀類流之水、或記云、埋砂石、

次還御御膳幄（於御衾幄間、初稱警蹕、）

次王卿著座

次神祇官須幣帛於近邊諸神

次内膳司昇御臺盤參入、采女傳取、入自東南角、供輕幄前、

次大臣令藏人奏山城國獻物、國司不足、加交近衛官人以下、令奉仕、

次大臣候御前座、（先藏人數圓座於東簀子數南第二間、）

山城國獻物卅棒（目以上幷内豎或近衛府生以下取之、北面東上列立、）

大臣問之、各稱物名、大臣仰云、膳部＝給へ、次國司退付進物所、

次大臣取見參付内侍奏之、（治曆右大臣付内侍奏、承保源右大臣付藏人頭、寛治源左大臣五位藏人付之、治曆大臣參入於御膳幄付内侍、余二代大臣立南幔門内喚藏人付之、）

返給之後下外記、（承平二年、仰平卿自幄南云云、）（方）參入、跪付内侍云云、山城守、介、賀茂兩社禰宜預給祿例、

次縫殿寮立祿辛櫃於幄巽角、

次中務輔唱名

次親王以下進祿所給祿、執柄祿行事辨取之、參御膳幄邊申御祿候之由、依仰給隨身、

公卿祿侍從取之、殿上人料上宮取之、（天慶例、一拜後或取手、或被懸頸云云、）

次時剋擊行鼓

次乘輿

次雅樂寮奏音樂、（還城樂）

還宮（至建禮門、神祇官奉御麻、）

裝束司留河原

御南殿後鈴奏如恒

次下御作法准初、次將同之、

公卿稱名

留守參議當公卿後、立軒廊南、稱名、當宜陽殿南一間、初亦如此、但節下大臣留建禮門外標、

次節下大臣著兀子、（御輿過前之間起座）

次召外記仰云、令打解陣鉦、外記仰兵庫寮令打之、諸陣應之、

次御前次第司長官進申二諸陣靜了之由一、北面進立申レ之、其詞御前整司申久、司司靜奴留事申給へ止申、此事以下近代不レ見

次御後長官又同レ之、大臣云縦志、長官復二本位一、大臣召二外記一仰云、令レ打二止隊一乃司鼓與、謂二諸衛一次官以上兵庫寮打了、又仰二外記一令レ打二解陣鉦一、

〔大嘗會儀式具釋〕御禊次第

禊モハラヘト訓ジテ、祓ト同義ナレドモ、皇帝、三后、東宮、齋王ナドニハ禊ト云ヒ、常ノ人ニハ祓ト云フ、是モ荒見河祓ト同意ニテ、皇帝是ヨリ清淨ニシタマハンガ爲ニ、是マデノ汙穢ヲ祓除シタマハントテ御禊ヲ爲シタマフナリ、十一月朔ヨリ大嘗會ノ散齋ナルガ故ニ、十月ノ末ニ行ハル、今度〔元文三年〕ハ廿九日ナリ、中古マデハ河邊ニ行幸アリテ行ハル、其儀簿儀式廣大ナリキ、後世ハ略セラレテ、清涼殿ノ晝御座ニ出御アリテ行ハル、

刻限出二御晝御座一

晝御座ハ清涼殿ニアリ、東面ナリ、アラカジメ御座ノ前左右ニ菊燈臺ヲ立テオキ、刻限酉刻ニ至リテ御座ニ出御、御座ノ後ノ御簾垂オク、

豫神祇官人居二御贖物於案上一置二庭中一、

此御贖物ハ荒見河祓ノ贖物トハ同ジカラズ、木ヲ以之ヲ作リ、藁ヲ以テ結ブ、必シモ人ノ形ニ模セルトモミエズ、是ハ行事官神祇大祐紀春清行事官和泉守調進ス、アラカジメ清涼殿ノ東庭東階ノ巡ニ當リテ葉薦ヲシキ、其上ニ八脚ノ案ヲオキ、案ノ上ニ土ノ高坏ニ贖物二本ヲ供ジ、其上ニ薄絹ノ掩ヲ懸ク、其葉薦ヨリ掩マデ皆西面、少シ南ヘヒヅミテ斜ニ向フ、正シク御座ノ方ニハ向ハズ、又東階ノ下左右ニ立明アリ、左ハ北主殿權助重威小野常陸介右ハ南主殿少允職秀小野民部丞少丞之ヲ勤ム、如此クニ設クルトイヘドモ、今度雨ニ依テ、皆今少シ南ノ方長橋廊下ノ中間ノ絕間ニ之ヲ移ス、

關白著二孫廂圓座一

今ノ關白ハ一條殿公香ナリ、孫廂トハ凡殿舍ノ中央ヲ母屋トシ、其廻ヲ廂トス、又其外簀子敷トノ間ヲ孫廂ト云、圓座ハ其形今民間ニ用ユル圓座ノ如シ、但絹綾等ニテ作リ、ウラヲモツケル也、關白ノ圓座ハ御座ノ前右ノ方ノ菊燈臺ノ東ニアリ、關白北面ニ之ニ著セラル、其關白ノ東ニモ御座ノ左右ノ巡ニ各掌燈ヲ供ズ、

中臣女候二便所一

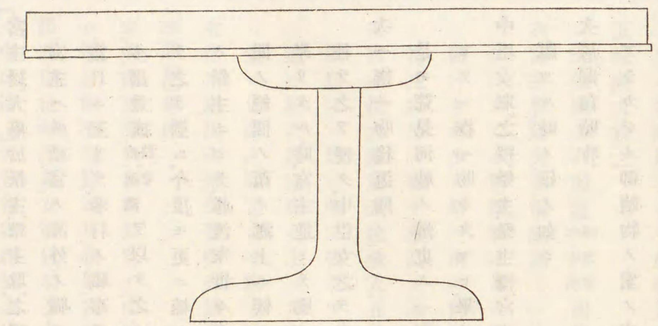
中臣女ハ字ノ如ク、中臣氏ノ女ナリ、中臣ハ神事ニ關リ勤ムル者ナレバ之ヲ用ユ、今度ハ大御乳人之ヲ勤ム、是春日祠官中三位ノ女ニシテ、中臣氏ナレバナリ、便所ハ便宜ノ所ニテ、俗ニイフ勝手ヨキ所ナリ、卽御座ノ左ノ巡北方ノ掌灯ノ東ニ南面シテ候ス、

次供二御贖物一

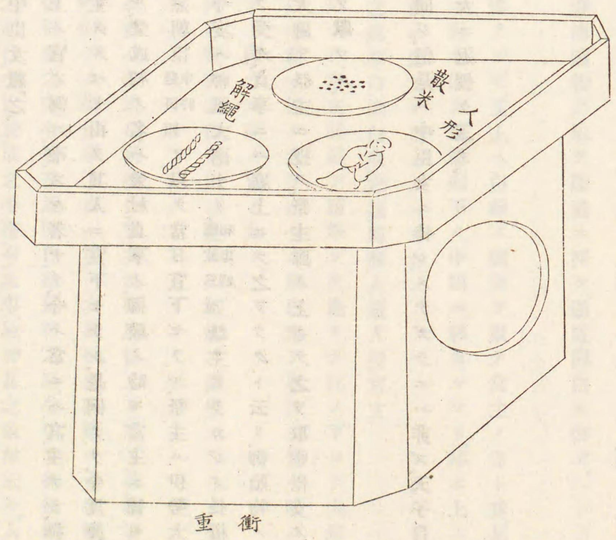
二本共ニ御前ニ供獻ス、其樣左ノ文ニミユ、

神祇官人取之授二御巫一、御巫授二中臣女一、中臣女供之、

神祇官人ハ春清出仕ス、御巫ハ神ヲ齋キ祭ル女ニテ、男ノ祝ニ同ジ、今ノ神子ノ類ニハ非ズ、昔ハ大御巫、生嶋御巫、座摩御巫、御門御巫ナドトテ有テ、各祭ル所ノ神アリ、今ハ御巫絕タルガ故ニ、今度ハ讃岐守利盛朝臣齋藤左衛門大尉ノ女ト、右大史盛行山口中務少丞ノ女トヲ御巫ニ定ム、アラカジメ兩人ノ御巫御座ノ前ノ簀子敷ノ東ノ端東階ノ上リ口ノ所ニ御座ノ左右ノ巡ニ當リテ候ス、利盛朝臣ノ女ハ北方ニ在テ南面、盛行ノ女ハ南方ニ在テ北面、兩人對坐ス、神祇官人案上ノ二本ノ御贖物ヲ取テ、兩人ノ御巫ニ一本ヅヽ之ヲ授ク、御巫之ヲ受テ中臣女ノ前ニ至リ之ヲ授ク、中臣女之ヲ受テ御前ニ至リ之ヲ供獻ス、

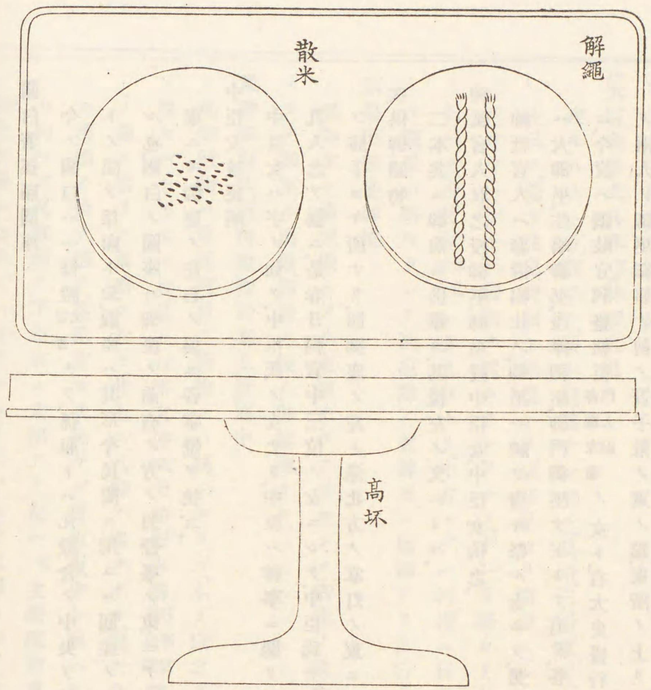


重衡

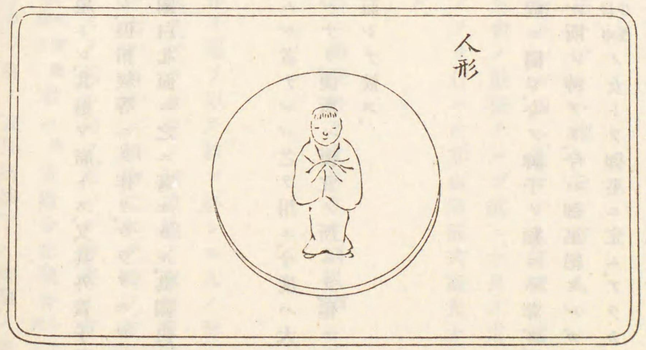


攝政贖

貞享四年大嘗會圖



御禊之御贖



次獻御麻

此御麻モ荒見河祓ノ大麻ニ同ジク、常ノ幣ナリ、其獻ズル樣左ノ文ニミユ、

宮主授大麻於祭主、祭主取之授中臣女、中臣女獻之、

宮主ハ祠祇官ノ流外ノ職ニシテ、長上ノ官ノ例ニ准ズル者ナリ、今ハ常ニハ宮主ナシ、御禊ノ當日ニ至リテ、奉行ノ職事ヲ以テ宮主タルベキ由ヲ其人ニ宣下セラル、是例ナリ、今度神祇權少副兼成吉田淡路守ヲ以テ之ニ補セラル、兼成初ノ名ハ兼村、貞享ノ御禊ノ時モ宮主ニ補セラレテ之ヲ勤ム、今度モ更ニ補セラル、重熙朝臣庭田頭中將ヲ以テ當日宣下セラル、祭主ハ伊勢大神宮ノ祭主ニシテ、藤波家世々之ニ補ス、今度藤波和忠卿三位祭主アラカジメ長橋ノ中間ノ絕間ノ西ノ廊上ニ候シテ大麻ヲ受ク、貞享ニハ庭上ニテ之ヲウクト云リ、御贖物ノ供獻畢リタル時、宮主進ミテ廊ノ下ヨリ大麻ヲ祭主ニ授ク、祭主廊ノ上ニテ之ヲ取、中臣女ノ前ニ往テ之ヲ授ク、中臣女之ヲウケテ之ヲ獻ツル、

次一撫一吻後返賜

是モ荒見河祓ノ辨史ノ一撫一吻ニ同ジ、但是ハ中臣女ニ持シメナガラニハ非ズ、天子自取玉ヒテ一撫一吻シタマヒ、畢リテ中臣女ニ返授ケ玉フ、

中臣女取之授祭主、祭主授宮主、

獻ツル時ノ儀ノ如シ

次居關白贖物

アラカジメ御贖物ノ案ノ東南ニ小サキ薄薦ヲシキ、其上ニ八脚ノ小案ヲオキ、案ノ上ニ衝重ニ贖物ヲ供ジ、其上ニ薄絹ノ掩ヲカク、其薄薦ヨリ掩マデ皆西面ニシテ少シ斜ニ南ニ向フコト御贖物ノ案ノ如シ、是モ雨ニ依テ長橋廊下ノ中間ニ移セルコト亦上ニ同ジ、御贖物御麻等

供獻ノコト畢リテ關白ニモ供ズ、其樣左ノ如シ、又江次第ナドニミエタル河原ノ御禊ニハ、此次ニ公卿以下ニモ祓物大麻ヲ引ク、晝御座ノ御禊ニハ略セラレテ關白ノミナル歟、

五位藏人役之

五位藏人ハ顯道勤修寺右中辨出仕ス、是モ春清贖物ヲ取テ顯道ニ授ケ、顯道關白ニ供ズ、

次宮主就膝突奏解除詞

アラカジメ御贖物ノ案ノ東北ニ葉薦ヲシキ、其上ニ白縁ノ膝突ヲ敷テ宮主ノ座ト爲、是モ西面ニシテ少シ斜ニ南ニ向フコト、幷ニ雨ニ依テ長橋廊下ノ中間ニ移セルコト、幷ニ上ノ如シ、宮主此座ニ就テ祓詞ヲヨヲムナリ、御前ニ參リテ奏スルニハ非ズ、

次宮主授大麻於五位藏人、五位藏人取之進關白、關白取之返賜藏人、藏人授宮主、

關白ノ一撫一吻ヲ書カザルハ文ノ略ナリ、宮主祓詞ヲ讀畢リテ、進ミテ廊ノ下ヨリ大麻ヲ顯道ニ授ク、顯道廊ノ上ニテ之ヲ取關白ノ前ニ往テ之ヲ進ツル、關白之ヲ取テ一撫一吻シテ顯道ニ返賜フ、顯道之ヲ宮主ニ授クルコト、獻ツル時ノ儀ノ如シ、

次宮主退出、次撤御贖物、次撤關白贖物、次入御、次關白退出、是ニテ御禊ノ儀畢

【季繼記】御禊

定前後次第司、御前長官ハ參議也、前後長官共爲衞府督、人ヲ定、不帶衞府之人ハ、當日前後次第司可帶劒宣旨ヲ被下、當日許事也女御代事、上古ハ第一女御被參、而第一女御懷妊之間、其以後每度爲女御代、幼主之時關白御供奉之時、分列左近陣內、給長君之時、分供奉御後給、

【三中口傳四】大嘗會御禊於大床子被行之、而自中比於前之平座有此事、敬神甚之故歟云々、人以褒美歟、

【類聚國史八神祇】大同二年十月壬午、車駕〇平城於葛野川緣大嘗事也、山城國奉獻、賜五位已上衣被、

〔日本後紀十七平城〕大同三年十月乙亥、行幸近江國大津、修祓、以御大嘗也、

〔一代要記平城〕大同二年十月乙亥、御禊、但依中務卿伊豫親王事、停十一月大嘗會、三年十月、又御禊大津、

〔日本後紀二嵯峨〕弘仁元年十月甲午、禊於松崎川、緣大嘗會事也、

〔類聚國史八神祇〕弘仁十四年十月甲辰、幸佐比河、〇淳和修禊事也、有勅、振贍京中窮乏之輩、被除了御頓宮、陪從五位已上依例賜衣被、

〔續日本後紀二仁明〕天長十年十月辛丑、爲大嘗會、將修禊事、行幸賀茂河、鹵簿之儀具如式文、皇太子先在禊處、及聞鞞聲出幄而立、迎謁天皇、禊事畢、御直相幄、賜扈從五位已上大官饌、焉、三四盃後、賜五位及神祇官長上以上、山城國司、幷非侍從著當色者祿各有差、

〔續日本後紀七仁明〕承和五年三月乙丑、散位從四位下池田朝臣春野卒、春野者、天應以往之人也、〇中略春野宿禰能說故事、或可採容、此十年〇天長冬、將有大嘗會事、天皇欲修禊祓、幸賀茂河、春野以掃部頭奉鹵簿陳看、諸大夫所著當色、其裾離地差高、而袴襴露見矣、諸大夫皆驚云、古之儀制、應與唐同、後代當效之、春野衣冠古樣、身長六尺餘、稠人之中、揭焉而立、會集衆人莫不駐眼、嘖々國老、如此者今則不見也、

〔文德實錄三〕仁壽元年十月甲子、帝幸鴨川、大修禊事、爲大嘗祭豫除邪穢也、大臣常

〔大嘗會御禊日例〕文德天皇節下大臣常

仁壽元年辛未十月廿六日甲子御禊、廣幡社與下宮少社間、巳四刻出自陽明門、指東至京極、折指北上御座云云、

〔三代實錄清和〕貞觀元年十月廿一日癸卯、爲來月將奉大嘗會、行幸鴨水、修禊事例也

〔大嘗會御禊日例〕清和天皇

貞觀元年己卯十月廿一日、御禊四條末、東宮爲內裏、辰四點自西門出南行、自美福門出、到四條大路東折、

〔三代實錄陽成三十二〕元慶元年十月廿九日丙申、天皇備法駕、幸鴨水修禊事、爲十一月將行大嘗會也、

〔三代實錄光孝四十六〕元慶八年十月廿八日乙卯、行幸鴨河、大修禊事、天皇踐祚之年十一月修大嘗會祭、先一月、修法駕建旗鼓、行臨水盟禊之例也、是日聽京城萬民會聚縱觀、山城國獻物、親王已下五位已上賜祿有差、日暮鑾輿還宮、

〔大嘗會御禊日例〕光孝天皇

元慶八年甲辰十月廿八日、三條末、巳四刻經建禮門、美福門等、自二條東行、自三條東行、午三刻著頓宮、午四點御禊、午時雖當魁惡時、而遁甲吉時也、還御申四點、方辰方也、

〔西宮記臨時四〕御禊

寬平九年十月二十五日、幸三條末東河而御禊、〇醍了賜祿親王以下五位以上各有差、同供奉妃內親王陪從、賜殿上四位內舍人各一人、今侍從其侍從者被行給祿之事、

〔日本紀略二朱雀〕承平二年十月廿五日癸酉、依大嘗會、天皇行幸鴨河有御禊、皇太后〇穆子母后同輿、

〔大嘗會御禊日例〕朱雀天皇節下大納言仲平

承平二年十月廿五日、二條末南邊寅二點打裝束鼓、同四點打列陣鼓、巳一點打進鼓、同二點御出自建春門南行至美福門、自二條大路東行幸頓宮、四點御禊、申二點還御、

〔大嘗會御禊日例〕村上天皇節下右大臣實賴

天慶九年十月廿八日、三條末北邊出建禮門、美福門、自二條東至京極南行、自三條東行御頓宮、日記也、

〔日本紀略八花山〕寬和元年十月廿五日乙丑、大嘗會御禊、午刻御出、左大臣〇源雅信以下參入、右大臣〇藤原兼

家

爲節下、太政大臣息女〇藤原頼忠女諟子爲女御、

〔榮花物語三様々の悦〕かくて十月〇寛和二年になりぬれば、御禊大嘗會とて世のゝしりたり、みかど〇一條なゝつにおはしませば、御こしにはみや〇母后詮子もろともにたてまつるべければ、みやのおほんかたの女ばうなど、さま〴〵いみじう世のゝしりたり、女御代の御ことなど、すべてよのいみじき大事なり、かくて御禊になりぬれば、東三條のきたおもてのついひぢくづして、おほんさじきせさせ給てみやたちも御らんずそのほどのぎしきありさまえもいはずめでたきに、ひとつ御こしにてみやおはします、みやの女ばうがたのくるま二十、又内の女ばうのくるま十、女御代の御くるまなどそへて、えもいはぬことゞもはまねびつくすべくもあらず、つねのことなればおしはかるべし、ことゞもはつるほどに、攝政どの〇藤原兼家おはします、御隨身どもいはんかたなくつき〴〵しきさまにてうちいでたるに、又御前の人々などやむごとなくきらゝかなるかぎりをえらせ給へり、おなめでたとみえさせ給に、東三條の御さじきのみすのかたはしおしあけさせ給て、四のみや〇冷泉皇子敦道いろ〳〵の御ぞどもに、こき御ぞなどのうへにおりものゝ御なをしを奉りて、みすのかたそばよりさしいでさせ給て、やおとゞこそと申させ給へば、攝政どのあなまさなと申させ給て、いとうつくしうみたてまつらせたまひて、うちゑませ給へるほど、すゞろにみたてまつる人いとゑましうおもひたてまつるべし、さてその日もくれぬれば、大嘗會の御いそぎぞあるべき、

〔大嘗會御禊日例〕三條院節下内大臣公季

寛弘九年〇長和元年壬子閏十月廿七日二條末、寅二點打装束鼓、卯二點打列陣鼓、午二點打進鼓、同二點打行鼓、御出南門、御禊申二點、還御戌二點

〔大鏡八〕いにしへのいみじき事どもの侍りけんはえしらず、なにがしものおぼえて後ふしぎなり

しことは、三條院の大嘗會の御禊のいだしぐるま、大宮〇一條后彰子皇太后宮〇三條后妍子よりたてまつらせ給へりしぞありしや、大宮の一の車のくちのまゆに香嚢かけられて、そらだき物たかれたりしかば、二條のおほぢのつゆとけぶりみちたりしさまこそめでたく、いまにさばかりのみものまたなしといへば、よつぎがしか〴〵、いかばかり御心にいれていどみさせ給へりしかば、それに女房の御心のおほけなさは、さばかりの事をすだれおろしてわたり給ひにしはとよ、あさましかりし事ぞかしな、ものけ給はるくちにのるべしとおもはれけるが、しりにおしくだされ給へりけるとこそうけ給はりしか、げに女房のからきことにせらるなれども、しうのおぼしめさんところもしらずをとこはえしかあるまじくこそ侍れ、

〔榮花物語十二玉の村菊〕御禊になりぬれば、〇長和五年十月いみじうつねにもわかず、これはなにはのことにもあらためさせ給へり、とのばらきんだちの御むまくらゆみやなぐひのかざりまでいみじ、にようごだいにはたかまつどのゝひめぎみ〇藤原道長女寛子、後爲小一條院女御、いでさせ給へり、そのくるまのそでぐちかずしらずおほくかさなりかゞやけり、みかど〇後一條わらべにおはしませば、おほみや〇母后彰子御こしにたてまつりたれば、そのほどまねびやらんかたなくめでたし、おほとの〇道長の御ありさまなどきこえさせんにこだいなり、たび〳〵としごろの御けしきにこよなうたちまさらせ給へり、〇中略みや〇彰子のにようばうのくるま、内方のなど、にようごだいの御ともなど、えもいはぬくるま四五十りやうひきつゞきておしこりたり、左大臣にてはおほとの〇道長おはしまず、右大臣にてはかんゐんのおとゞ〇公季おはします、いづれのとのばらもみなむまにてつかうまつらせ給へれど、大とのはよろづはてゝ、わたらせ給ぬるきはに、又さらに御まへなどえりすぐりて、きずなくきらゝかなるかぎりをえらせ給て、三四十人ばかりつかうまつりたるに、御隨身十二人こどねりの御隨身などむまにのりて、みさきえもいはずまゐりのゝしりて、われはか